

ジェンダー論 (SA)

12725

担当者名 / Instructor 堀江 有里

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、社会的に構築された「性別」(ジェンダー)という視点から社会の構造を解読することである。社会は、性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している。また、このような「性別二元論」は、二分された「男」と「女」をつがうものとして認識する社会規範もあわせて持っている(「異性愛主義」)。わたしたちの生活に、多くの場合、無意識に存在する、これらの価値観を、いくつかの事例からひとまずは「問うてみる」作業を行ないたい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会のなかに、「性別二元論」や「異性愛主義」という価値観が、どのように表れているのかを考えること。そして、日常生活のさまざまな場面で立ち止まり、考える契機を生み出すこと。これらの姿勢を身に付けることが本講義の到達目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学の基礎的な知識を身に付けていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
01	授業の概要と導入 / ジェンダー論とは何か	授業の到達目標、進め方、成績評価の方法等 / ジェンダー概念の射程
02	ジェンダーとセクシュアリティを考える(1):その多様性	ジェンダー、性自認、性的指向
03	ジェンダーとセクシュアリティを考える(2):クィア研究の可能性	クィア、カミングアウト、クローゼット
04	同性愛者解放運動の歴史(1):前史 病理化 / 犯罪化の歴史	ソドミー法、精神医学
05	同性愛者解放運動の歴史(2) 欧米を中心に	同性間パートナーシップ、同性愛者解放運動
06	同性愛者解放運動の歴史(3) 日本を中心に	グローバリゼーション、アイデンティティの政治、文化運動
07	日本社会における同性愛者の人権(1) 現状(ビデオ視聴)	LGBT、コミュニティ活動、社会運動
08	日本社会における同性愛者の人権(2) 前史	ゲイ・バー、ブルーボーイ事件
09	日本社会における同性愛者の人権(3) 司法 / 政策	東京都「府中青年の家」裁判、ピア・サポート
10	日本社会における同性愛者の人権(4) 文化活動をととして	映画祭、プライド・パレード、コミュニティ活動
11	同性間パートナーシップの諸問題(1) 欧米の法的保障	婚姻、シビル・ユニオン、社会運動
12	同性間パートナーシップの諸問題(2) 日本社会と当事者の現状	当事者ニーズ、モノガミー / ポリガミー
13	同性間パートナーシップの諸問題(3) 日本社会と法制度	戸籍制度、異性愛主義、天皇制
14	同性間パートナーシップの諸問題(4) DV、暴力	同性間暴力、ドメスティック・バイオレンス、DV防止法
15	ジェンダー / セクシュアリティをめぐる現状と課題	日本社会、尊厳の回復、差別 / 被差別の横断性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

疑問に思った点や、わからない部分は、積極的に、図書館やインターネットなどを使って、調べる習慣をつけてください。また、「単位だけ必要」出席していれば通る、という考え方をもちの学生さんは歓迎いたしません

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述試験を実施します。授業内容の理解度と受講生自身の意見を総合して判断します。
平常点評価	20 %	授業開始後30分以上の遅刻は認めません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

大教室での講義では、受講生の方々とのコミュニケーションには限界があるとは思いますが、できる限り、レスポンスを求め、それを講義に反映させるようにしたいと思います。そのために、適宜、コミュニケーション・カードを書いていただきます。

なお、映像学部・産業社会学部双方の混合クラスになってからあまりにも授業態度に問題が見られるため、改善の試みとして今学期より授業開始後30分経過してからの入退室を制限します。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「レズビアン」という生き方	堀江有里 / 新教出版社 / /
クエア・スタディーズ	河口和也 / 岩波書店 / /
フェミニズム	竹村和子 / 岩波書店 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

非常勤講師のため、授業時間前後にしか出講しません。その場でアポイントメントをとっていただくことを求めます。

その他 / Others

ジェンダー論 (SB)

15421

担当者名 / Instructor 高橋 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会学的な見地からジェンダー概念について解説をした後、私たち自身の日常的なジェンダー感覚とはいかなるものなのかを様々な角度から取り上げる。

私たち自身が社会的・文化的な「思い込み」の産物であるジェンダーから隔絶した時空に生きることができないからこそ、それが「他者との出会い」の場面＝相互行為場面でどのように作用し、いかなる帰結をもたらすのかを考察することもまた必要だろうと思われる。自明視するがあまり、あまり意識することのないジェンダー実践を相対化する試みに是非とも参加して欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

高校で「ジェンダー」という言葉を聞いたことのある学生は、ジェンダー論を「男女平等」について学ぶ科目だと思われるかもしれないが、そうではなく、私たちが内面化したジェンダー感覚そのものを検証し、ジェンダー実践の意味を問い直したい。そういった意味で、「男女平等」先にありきの発想からの脱却はいまでもなく、「女の人権」や「子どもの人権」、あるいは「性の自己決定権」という言葉を、社会学的視座から相対化し、そのうえで自分なりの考えを組み立てられるようになって欲しい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学概論」など、社会学系の基礎科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	総括的導入講義	講義の進め方、成績評価方法、約束事の確認 + 授業内容の提示
第2回	生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー概念	男女の分類図式
第3回	生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー	男女の分類図式
第4回	母親へのまなざし	性別役割分業
第5回	母親へのまなざし	母子カプセル
第6回	ビデオ: 生殖医療の現場で(ディスコース分析)	「幸せ」な家族像
第7回	ジェンダー・アイデンティティの実践	「男らしさ」・「女らしさ」
第8回	ジェンダー・アイデンティティの実践	「男らしさ」・「女らしさ」
第9回	ビデオに身体技法を学ぶ	身体技法
第10回	性同一性障害とは	相互行為論
第11回	性同一性障害とは	相互行為論
第12回	性の自己決定権はどこまで認められるのか?	制度的再帰性
第13回	「アクション」を起こせ	戦略
第14回	ジェンダー・フリーの射程	「私」らしさ
第15回	総括 + 最終講義日試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義期間中にレポート課題を与える

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義のはじめにレジュメを配布しますが、後日再配布することはありませんので、遅刻した学生は講義後にレジュメを受け取るようにしてください。

レポート課題については講義内に説明しますが、体裁・提出期限・提出先・提出方法が守られていないものに関しては全て未提出扱い(0点)にし、最終講義日試験の受験資格を認めません。(また課題に関する説明を聞いていなかったという理由は、疾病など診断書がある場合を除いて原則的に例外を認めません。)

レポート課題に不正行為が認められた場合も 同様に扱います。

講義を妨げるような私語を繰り返す学生には退室を求め、成績評価から5点マイナスします。

携帯電話の使用はメールを含め禁止し 同様に扱います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	/ / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

『性同一性障害 性転換の朝』 吉永みち子 / 集英社新書 / ISBN4-08-720020-5 /

『性同一性障害と性のあり方 性転換手術は許されるのか』 山内俊雄 / 明石書店 / ISBN4-7503-1210-X /

『中絶論争とアメリカ社会 身体をめぐる戦争』 山内俊雄 / 岩波書店 / ISBN4-00-023807-8 /

『21世紀家族へ(新版)』 落合恵美子 / ゆうひかく選書 / ISBN4-641-18294-9 /

その他の参考文献は講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

受講登録をしている学生のみ、Web コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

メンタルヘルス (GA)

12802

担当者名 / Instructor 徳田 完二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業ではメンタルヘルスについて、さまざまな側面からとりあげる。ストレスなどについての基本的知識を身につけることだけでなく、受講者自身の自己理解(心理的特性の理解、自分が抱えている問題に対しての心理的構えの理解など)も重要なテーマとなる。また、ストレスへの対処法を実習的に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

1. メンタルヘルスに関する基本的な知識を理解する。
2. 自分自身のメンタルヘルスクア能力を向上させる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	メンタルヘルスとは	メンタルヘルス
第2回	こころのメカニズム(不安・葛藤・防衛)	意識と無意識、コンプレックス、防衛機制
第3回	青年期の心理	心の発達、青年期、イニシエーション、自我同一性
第4回	対人関係の心理	大学生のメンタルヘルス、対人恐怖
第5回	「適応する」ということ	内的適応、外的適応
第6回	さまざまな「こころの病」	神経症、精神病、心身症、人格障害
第7回	心理測定	質問紙法と投影法
第8回	心理療法	カウンセリング、ロジャーズ
第9回	心理療法	行動療法、認知行動療法、イメージ療法
第10回	「症状」に繋がるこころの動き	症状の意味
第11回	「症状」の変化・治療におけるこころの動き	心理療法のプロセス
第12回	コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキル
第13回	ストレスとコーピング	ストレス、コーピング、リラクゼーション
第14回	病気とパーソナリティ	病前性格
第15回	振り返りと総括	総括課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業の中で、授業内容の理解を深めるのに役立つと思われる図書(主として一般読者向けに書かれた啓蒙書・教養書)を適宜紹介する。それらを中心に自主的、自発的に関連図書を読むよう薦める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業時間内に、授業で取り上げたテーマに関わる小課題を課し、自主的学習態度を評価する。また、最終授業日の一部を使い、自分の学びの総括を文章化させ、授業で取り上げたテーマについての理解度を測る。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分を振り返るきっかけになることを期待する。

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

授業の進度にあわせて適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ktokuda@hs.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

メンタルヘルス (GB)

15370

担当者名 / Instructor 徳田 完二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業ではメンタルヘルスについて、さまざまな側面からとりあげる。ストレスなどについての基本的知識を身につけることだけでなく、受講者自身の自己理解(心理的特性の理解、自分が抱えている問題に対しての心理的構えの理解など)も重要なテーマとなる。また、ストレスへの対処法を実習的に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

1. メンタルヘルスに関する基本的な知識を理解する。
2. 自分自身のメンタルヘルスクア能力を向上させる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	メンタルヘルスとは	メンタルヘルス
第2回	こころのメカニズム(不安・葛藤・防衛)	意識と無意識、コンプレックス、防衛機制
第3回	青年期の心理	心の発達、青年期、イニシエーション、自我同一性
第4回	対人関係の心理	大学生のメンタルヘルス、対人恐怖
第5回	「適応する」ということ	内的適応、外的適応
第6回	さまざまな「こころの病」	神経症、精神病、心身症、人格障害
第7回	心理測定	質問紙法と投影法
第8回	心理療法	カウンセリング、ロジャーズ
第9回	心理療法	行動療法、認知行動療法、イメージ療法
第10回	「症状」に繋がるこころの動き	症状の意味
第11回	「症状」の変化・治療におけるこころの動き	心理療法のプロセス
第12回	コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキル
第13回	ストレスとコーピング	ストレス、コーピング、リラクゼーション
第14回	病気とパーソナリティ	病前性格
第15回	振り返りと総括	総括課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業の中で、授業内容の理解を深めるのに役立つと思われる図書(主として一般読者向けに書かれた啓蒙書・教養書)を適宜紹介する。それらを中心に自主的、自発的に関連図書を読むよう薦める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業時間内に、授業で取り上げたテーマに関わる小課題を課し、自主的学習態度を評価する。また、最終授業日の一部を使い、自分の学びの総括を文章化させ、授業で取り上げたテーマについての理解度を測る。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分を振り返るきっかけになることを期待する。

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

授業の進度にあわせて適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ktokuda@hs.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

科学技術と倫理 (S)

12890

担当者名 / Instructor 鶴田 尚美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

20世紀になって、科学研究はそれまでの小規模で個人的な研究から大学などで大規模に行われるものへと変化した。科学者たちの新たな発見や結果、人々の日常生活も急激に変化した。それらの発見の大部分は、一方では人々の生活を便利にするものであり、われわれの生活は豊かになったが、他方で新たな問題が生まれた。

この授業では、20世紀半ば以降の科学的発展によって生じた倫理的諸問題を取り上げ考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 問題を考えるにあたって必要な知識を習得すること。
2. 倫理的諸問題について自分で考える態度を身につけること。
3. 自分の考えを小論文の形式で適切に述べるができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要説明	
2	倫理学の基本的な原理(1)	功利主義、カントの倫理学
3	倫理学の基本的な原理(2)	カントの倫理学、徳倫理学
4	科学的知識の価値	知識の価値の外在説と内在説
5	科学的発見・発明の先取権争い	科学的業績、知的所有権の正当化
6	科学者の盗作、捏造(1)	発表倫理、ピア・レビュー
7	科学者の盗作、捏造(2)	オーサーシップ、インパクトファクター
8	医学実験(1)動物実験	動物実験の3R
9	医学実験(2)人を被験者とする実験	ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、インフォームド・コンセント
10	医学実験(3)人を被験者とする実験	治験、二重盲検法、プラセボ
11	科学者の社会的責任(1)	マンハッタン計画
12	科学者の社会的責任(2)	ラッセル-アインシュタイン宣言、フランク・レポート、バグウォッシュ会議
13	科学者の社会的責任(3)	ビデオ
14	科学者の社会的責任(4)	核開発、軍拡、責任の概念
15	科学の倫理の今後	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	90 %	期末に2000字程度のレポートを課す。講義で取り上げたテーマの中から自由に選択し、それについて自分の考えとその根拠を論理的に述べる。論理性・整合性と、小論文として適切な形式で書かれていることを重視する。
平常点評価	10 %	授業期間中、数回記述してもらうコミュニケーションペーパーの提出を平常点に含める。
レポート作成にあたっての不正行為には厳しく対処する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業時に配布するレジュメに参考文献・ウェブサイトを記載するが、各自関心のある問題については積極的に調べてほしい。質問などある場合は、授業終了後に受け付ける。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	///
	///

教科書は使用せず、毎回レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

科学の倫理学 内井惣七 / 丸善株式会社 / 4-621-07054-1 /

背信の科学者たち ウィリアム・ブロード / ニコラス・ウェイド / 講談社 / 4-06-257535-3 /

パブリッシュ・オア・ベリッシュ 山崎茂明 / みすず書房 / 4-622-07334-5 /

オープンハイマー 中沢志保 / 中公新書 / 4-12-101256-9 /

他に参考文献がある場合は、レジユメに記載する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

宗教と社会 (GA)

16068

担当者名 / Instructor 渡辺 和之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

宗教そのものを対象とするのではなく、あくまで社会の側から宗教を捉えることにある。分野としては、人類学の講義に属する。したがって、宗教学的の視点から、特定宗教の成立や歴史、教義や実践を解説するものではない。むしろ、21世紀を迎え、変化する社会のなかで、多様な人々が多様に価値観を認めつつ、いかに共存してゆくのか、宗教の変化に注目することで、考えることを目的とする。今期は南アジアを対象とする。おもにネパール社会を対象とし、現在グローバル化のなかで新たに拡大しつつある宗教現象を読み解いてゆく。

到達目標 / Attainment Objectives

現代社会における宗教のあり方を考えること。
ナショナリズムや民族運動のなかで宗教が果たす役割を考えること。
現代社会において、なぜ原理主義や宗教復興運動が起きているのか考えること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文化人類学、社会構造と文化、民族誌の諸問題など。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	序論: 宗教現象をどのように見るのか。ヒンドゥー教国ネパールの世俗化と多民族文化の行方。	ヒンドゥー教、カースト制度、王権と民主化、復興する仏教と民族文化
第2回	カースト制度とその変容	カースト制度の歴史と現在、ジャジマニ=システム、婚姻連帯、食物授受、浄=不浄のイデオロギー
第3回	カースト制度とその変容	カトマンズ盆地のネワール密教と都市国家の王権祭祀
第4回	カースト社会とその変容	パタンのコスモロジーは変化するのか?
第5回	観光はカースト社会を変えるのか?	ヒマラヤ登山とシェルパの20世紀
第6回	観光はカースト社会を変えるのか?	カトマンズのシェルパ協会
第7回	観光はカースト社会を変えるのか?	カトマンズの都市化と観光サイトの形成
第8回	観光はカースト社会を変えるのか?	遊行からミュージシャンへ: 楽師カーストガンダルバ
第9回	グローバル化する民族文化	グルカ兵とヒンドゥー教
第10回	グローバル化する民族文化	グルカ兵の越境空間
第11回	グローバル化する民族文化	マガールの仏教化宣言
第12回	グローバル化する民族文化	シャーマニズムからキリスト教に改宗したチェパン
第13回	マオイスト問題と世俗国家ネパールの行方	民主化から内戦へ、政党政治の行き詰まり、王宮事件と新国王の強硬政治、王権の終焉
第14回	マオイスト問題と世俗国家ネパールの行方	内戦のあとで、グローバル化の進行と変化する山地の社会
第15回	マオイスト問題と世俗国家ネパールの行方	内戦の犠牲者をどう弔うか?

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	定期試験重視です。
平常点評価	10 %	授業中に関係するテーマについて小作文を書いてもらうことがあります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定しない。毎回レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『流動するネパール』	石井溥ほか / 東京大学出版会 / /
『ネパール王政解体』	小倉清子 / NHKブックス / /
『ヒマラヤの「正倉院」』	石井溥 / 山川出版社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

watanabe.kazuyuki@gmail.com

その他 / Others

人間性と倫理 (S)

15399

担当者名 / Instructor 門屋 秀一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「どのようにすれば人間は善く生きることができるのか」ということを永遠の根本問題にする倫理学について、その基礎的な知識と考え方を初学者・入門者向けになるべく平易に説明し、学生諸君の教養豊かな人格の形成に資するつもりである。そのさい各テーマに関連のある西洋美術の名作を多数補足的に用いることにする。というのも西欧の美術と思想は密接に関連していると思われるからである。ところで、倫理学には新しい分野として応用倫理学もあるけれども、本講義ではその根底、あるいはむしろ人間性そのものの根底を研究した、いわゆる伝統的古典的な倫理学(ソクラテス、プラトン、アリストテレス、カント、ヘーゲル)を軸にしなが、哲学者たちの思想に向かっている。彼らの論証方法を検討することによって人間にとって根本的な思考のあり方とはいかなるものが、理論の構築術とはどうあるべきか、を概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

善悪の区別にもとづいた実践としての倫理は大学生諸君にとってもうすでに習得済みの事柄であるから、大学教育であらためて德育を行おうとは思わない。これに対して、学問としての倫理学とはこれまで諸君が体得している道徳的事実を整理し、秩序付け、体系化することである。自分の過去の経験を踏まえて、卓越した倫理学者たちの学説を学ぶことによって、揺るぎない自己の人格を確立すれば、将来の実社会において倫理的、道義的にさほど間違った轍を踏むことは決してないであろう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	自然哲学から道徳哲学へ	ソクラテス、自然哲学から決別した道徳哲学、快楽と名誉と富の否定、概念の発見と洗練、無知の知
2	社会的正義と道徳的正義	ソクラテスの公訴、正義と復讐、正義の象徴、道徳的正義と復讐
3	倫理学の原理	アリストテレス、倫理学の原理、理論・実践・制作、善と幸福
4	倫理と幸福	アリストテレス、幸福、中庸の徳
5	善と芸術(1)	芸術と美術、「人生は短く、芸術は長い」、自由学芸(技術)と機械的技術、シラーの美的教育論
6	善と芸術(2)	フィヒテの芸術優位論、ショーペンハウアーの芸術救済論、ヘーゲルの芸術真理論、ハイデッガーの芸術論、芸術と哲学、芸術と真理、芸術美と自然美
7	善と芸術(3)	プラトン、絵画の起源、芸術模倣論、アリストテレス、カタルシス理論
8	善と美(1)	東洋の言語における善美、カロカガティア
9	善と美(2)	プラトン『饗宴』、神聖愛と世俗愛、美から善へ
10	善と真理	ソフィスト、相対主義、懐疑論、絶対主義、万物の尺度は人間である
11	善と快楽	エピクロス、ゼノン、ストア派、本性に従って生きる、快楽主義、厳粛主義
12	善と崇高(1)	ヘーゲル、法律か倫理か、崇高の感情、無限への感情
13	善と崇高(2)	カント、快適、美、善、崇高
14	善と善意志	定言命法、モーセの十戒
15	善と信仰	愛と徳、神への愛、隣人愛、美德と悪徳の体系、アウグスティヌス、トマス・アクィナス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

疑問が生じたときに勉強の機会。私に直接質問してくれてもよいが、大学図書館に直行して自ら調べることが一番だと思う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	記述式。持ち込みは不可。試験前における程度情報は開示。
平常点評価	10 %	出席要件を満たした上で、毎回時間内に書いて提出する日常的な小レポートを提出した場合のみ成績評価の対象とし、単に出席の痕跡を残しただけの、所謂「出席点」の場合、加点は一切行わないので注意するように。二次元バーコード(QRコード)持参のこと。

試験点、平常点の割合は調整する可能性がある。追加点希望者は講義最終日までに、講義に関連したテーマで小レポート(約2000字)を提出のこと。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

専門分野の知識の習得だけに偏らず、大学生として幅広い教養を身につけていただきたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
絵画で綴る哲学と倫理学	門屋秀一 / 晃洋書房 / 9784771020788 / なるべく購入
エチカとは何か	有福孝岳編、門屋秀一他 / ナカニシヤ出版 / 4888485208 / 購入必須ではない
形而上学の克服	シュヴァイドラー著・門屋他訳 / 晃洋書房 / 4771016585 / 購入必須ではない
カント第三批判と反省的主観性	門屋秀一 / 京都大学学術出版会 / 487698428X / 購入必須ではない

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

緊急を要し確実に返事が必要な場合は授業終了後、直接伝達しに来ること。それ以外はコミュニケーションペーパーに書くこと。

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

哲学と他者

現在、自己と他者の関係は表層的なものとなり、それに於じて自己のあり方も、自己中心的でありつつもひよわなところがあるといわれます。そこでこの講義では、哲学ではいかに他者という問題が考察されてきたかをたどりつつ、自己と他者の関係の可能性を探りたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・哲学ではいかに他者の問題が考察されていたかを学ぶ。
- ・自己と他者の関係の新たな可能性について考える。
- ・哲学の基礎的な知識を身につける。
- ・抽象的、論理的に考える力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

西洋思想史に関連した科目(政治、法、社会思想史など)を履修しておくとう理解が深まります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	概観 1、哲学とは何か? 形而上学と自 - 他の問題	人間はメタフィジカルな=形而上学的な存在である
第2回目	2、現在、他者の問題はどのように現われているか? ボードリヤールの消費社会論などから	「個性化する」差異はもはや諸個人を対立させることなく、ある無限定な階序の上に階序化していくつかのモデルの内に収斂していく」(ボードリヤール)
第3回目	、古代 1、ソフィスト ノモスとピュシスの対立	十分な素質をもった男が我々の主人として現われてくるそのときにこそ、「自然の正義」は燦然と輝き出すことになるのだ」(カリクレス)
第4回目	2、ソクラテス 善く生きることと正しく生きること 『クリトン』(プラトン)を読む	「善く生きることと美しく生きることと正しく生きることとは同じだということ」
第5回目	3、プラトン 理想の人間と国家 『国家』を読む	「国家というものは、その内に三つある種族[政治家・軍人・生産者]のそれぞれが自分の仕事をすることによって、正しい」
第6回目	4、アリストテレス a、徳の問題 中庸としての倫理的徳	「人間というものの善とは、人間の卓越性に即しての、またもしその卓越性がいくつかあるときは最も善き最も究極的な卓越性に即しての魂の活動である」
第7回目	同 b、正義の問題 配分的正義と矯正的正義 『ニコマコス倫理学』を読む	矯正的正義においては、「法は彼らをいずれも均等な人々として取り扱う」
第8回目	、近代 1、ホッブズ a、欲望存在としての人間と自然権	「すべての人における力へのやむことなき意欲」
第9回目	同 b、自然状態=戦争状態と社会契約による国家の設立 『リヴァイアサン』を読む (参)ロックとルソーの社会契約説	「社会状態の外ではつねに各人対各人の戦争が存在する」
第10回目	2、ヘーゲル 自由と共同の統一が実現される近代的民族国家	国家は「家族の原理と市民社会の原理との統一である」
第11回目	3、マルクス 私有財産の止揚としての共産主義	「人間の自己疎外としての私有財産の積極的止揚としての共産主義」
第12回目	、現代 1、ニーチェ 他者を搾取するものとしての生 『力への意志』などを読む	「搾取は生の意志そのものにほかならぬ本来の力への意志の一つの帰結である」
第13回目	2、サルトル 他者のまなざしによって他有化される主体	「地獄とは他者だ」
第14回目	3、フロイトとラカン 性と言語	自我にとって「三人の暴君とは外界・超自我およびエスであります」(フロイト)
第15回目	、総括 コミュニケーション的理性の可能性 ハーバースの観点から	「生活世界から発せられるインパルスが機能システムの自己制御に流れ込むようにしなければならない」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

哲学にはさまざまな角度から入ることができます。それぞれの関心に応じて哲学に関連した書物を読むように心がけて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義をいかに理解しているか、そしてそれをいかに文章化しているかを中心に評価します。
平常点評価	20 %	講義に関連して2度小レポートを書いてもらいます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の展開の基本線を押さえるようにして下さい。講義は共同作業です。予習・復習を心がけて下さい。3回に1回質問用紙を配布します。質問の方も心がけて下さい

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません、原典その他のプリントをその代わりとします。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ヨーロッパ社会思想史	山脇直司 / 東京大学出版会 / / 社会思想の観点からも哲学を学ぶことができます。
はじめての哲学史	竹田青嗣・西研編 / 有斐閣 / / 現代的観点からの分かりやすい哲学の入門書です。
西洋哲学史	岩崎武雄 / 有斐閣 / / 定評ある哲学の解説書です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff****その他 / Others**

論理と思考 (S)

12734

担当者名 / Instructor 高木 敏美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

論理とは、ことばや記号を媒介とする思考の根底にある構造である。この構造に支えられて、推理や論証という活動が可能になる。ことばや記号による表現の検討を通じ、論理のしくみを客観的に考えることによって、論理や論証の実践的技能の基礎作りを試みる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・命題の真偽、論証の妥当性、必然性と可能性、論理的真理と矛盾など、論理的な概念を理解し活用することができる。
- ・命題や論証の論理的性質を検討し、また論理的な推論を行うために、図、表、記号などを場合に応じて柔軟に用いることができる。
- ・具体的状況に於いて推理、判断能力を試す問題に対処することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義への導入と概要	論証の学、反証の学
第2回	日常言語での論証-1	論証の妥当性
第3回	日常言語での論証-2	論証の妥当性
第4回	日本語と論理	記号化
第5回	真理関数的論理・・・命題論理-1	真理値
第6回	真理関数的論理・・・命題論理-2	トートロジー
第7回	意味論と構文論(公理系)	記号、意味、世界
第8回	公理系・・・その導入	規則に従う
第9回	一般性・・・述語論理-1	全て、～が在る
第10回	一般性・・・述語論理-2	ヴェン図
第11回	関係	多重量化
第12回	複雑な関係	同一性
第13回	様々な問題-1	過去問
第14回	様々な問題-2	実践へ
第15回	総括講義	目標到達の確認

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	各回で取り上げた基本問題や概念についてきちんと理解できているかどうかを評価する。
平常点評価	30 %	毎回の授業終了後に、授業内容の理解度を確認する小テストを実施する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリントを使用する。

参考書 / Reference Books

適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 内藤 みちよ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人間の心理学的理解への導入となるべく、心理学の様々な領域を紹介し、心理学的アプローチという方法に関心と理解につなぐ

到達目標 / Attainment Objectives

心理学的アプローチを学ぶことで、より科学的で実践的な人間理解、また自己理解が深められること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	心理学の諸領域・歴史と現在
2	人間の心理学的理解	感覚・知覚と生理学的基礎～脳がわかれば心がわかる？
3	人間の心理学的理解	記憶と忘却～さまざまな記憶の形
4	人間の心理学的理解	条件づけと学習～行動の形成と変容
5	人間の心理学的理解	欲求・動機づけ・感情～人を動かすものは何か？
6	人間の心理学的理解	知能
7	人間の心理学的理解	人格～パーソナリティ理論
8	人間の心理学的理解	社会的行動～さまざまな集団の形と集団力動
9	人間の成長・発達とライフサイクル	乳幼児期・児童期
10	人間の成長・発達とライフサイクル	青年期・成人・老年期
11	心理学的援助の方法	適応とは？～障害の心理学的理解
12	心理学的援助の方法	さまざまな心理検査とアセスメント
13	心理学的援助の方法	さまざまな心理療法
14	心理学的援助の方法	コミュニティ心理学的アプローチと危機介入
15	まとめ	学んだことの振り返り

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	講義の中からテーマを選択し、理解した内容をまとめ見解を述べることで、講義全体から学んだことを通して、どのように自分を心理学的に理解したかを述べることから理解度を評価する。
平常点評価	50 %	毎回、授業の終わりにアンケートを実施し、理解度と参加度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるだけ、参加的な要素も取り入れたり、アンケートを実施したいと考えるので、能動的な参加と協力的な参加態度で臨んで下さい。

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff****その他 / Others**

スポーツと現代社会 (SA)

12736

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツをめぐる状況は、世界的規模で急変している。グローバルな市場経済に翻弄される一方で、健康づくり・地域コミュニケーション・自己実現などの価値に向かって、生活の文化として定着しつつある。「スポーツの価値観の多様化」といわれる現状を分析し、問題点を抽出しながら、「体育・スポーツ国際憲章」でしめされたスポーツ権の実現の方途を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツは社会と切り離されて存在はしない。社会構造のさまざまな要素から影響を受け、同時に「人間」の理想像の探求として、社会に影響を与えてきた。こうした関係を理解しながら、現代日本スポーツが持つ問題点を理解し、それを打開していく方向性を考察することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツの発展と歴史」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序章 スポーツ観の狭隘さと貧しさ	スポーツのグローバル化とサッカー市場 DVD放映「売買されるサッカー少年」
2	序章 スポーツ観の狭隘さと貧しさ	「習わなかった体育理論」DVD放映「柔術を考える」スポーツの文明化
3	第1章 近代社会と近代スポーツ 第一節 「身分制の中のスポーツ潮流」	領主・騎士階級の「軍事訓練としてのスポーツ」、農・民庶民の素朴な運動遊びとしてのスポーツ
4	第1章 近代社会と近代スポーツ 第二節 「近代市民社会の成立とスポーツの自由」	「ギャンブルスポーツ」の市場 スポーツの組織化
5	第1章 近代社会と近代スポーツ 第三節 「スポーツ・クラブの原則とアマチュアリズム」	「スポーツの私事性と個人責任性」「スポーツの自由と自治」「アマチュアスポーツマンの規範」「プロ＝労働者の排除」
6	第2章 アマチュアリズムの崩壊 第一節 「競技スポーツの自立」	「競技の高度化と専門化」「スポーツ専門家の処遇」「多様なプロ・スポーツ形態」
7	第2章 アマチュアリズムの崩壊 第二節 「ビッグ・イベント・ビジネス」への変容	「ユベロス商法」「サマランチ革命」
8	第2章 アマチュアリズムの崩壊 第二節 「ビッグ・イベント・ビジネス」への変容	「スポーツ・イベントのグローバル化」=「スポーツ・メディア・コンプレックス」の行方・DVD放映「ヨーロッパサッカー市場」
9	第3章 現代日本のスポーツ事情 第一節「スポーツの社会構造」	「増大するノン・アマチュア」=「スポーツ産業の需要基盤」
10	第3章 現代日本のスポーツ事情 第二節 「スポーツビジネスの多角化」	「スポーツ・グッズ」「エリア・スクール」
11	第3章 現代日本のスポーツ事情 第二節 「スポーツビジネスの多角化」	「スポーツ・イベントとメディア資本」「スポーツ・タレントと肖像権」
12	第3章 現代日本のスポーツ事情 第三節 「分断的スポーツ政策」	「21世紀日本のスポーツ施策」「競技力の向上」とナショナリズム。地域振興と「総合型地域スポーツクラブ」
13	第3章 現代日本のスポーツ事情 第四節 「地域スポーツの振興」	「総合型地域スポーツクラブ」の理念と現状 「スポーツマネジメントと財務」
14	第3章 現代日本のスポーツ事情 第四節 「地域スポーツの振興」	「スポーツNPO」「指定管理者制度の導入」「寄生的スポーツ組織」
15	終章 揺れ動くスポーツと「変えるスポーツ」	「創るスポーツの時代に」「手をつなぐスポーツマン」「エリートとマスの統一」「スポーツの自由と自律」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

スポーツ報道を批判的に摂取すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的な概念の理解、錯綜する構造の総合的分析力

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストは指定しない。講義は章または節ごとにまとめたレジюмеに沿って展開する。レジюмеは教室でのみ配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

スポーツを考える

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

多木浩二 / ちくま新書 / / 問題提起が多角的で鋭意であるが、低回生には少し難しい。

スポーツ・ボランティアへの招待

山口泰雄編 / 世界思想社 / /

参考文献・資料は章ごとのレジюмеに明記する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.sportsnetwork.co.jp/cgi-bin/index.html>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール・アドレス: nkt01650@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

【スポーツ】のゲームだけを考える時代は終わった。さまざまな教養科目・専門科目の知見と照らし合わせて、スポーツ問題を捉えるように期待する。

スポーツと現代社会 (SB)

15387

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

スポーツをめぐる状況は、世界的規模で急変している。グローバルな市場経済に翻弄される一方で、健康づくり・地域コミュニケーション・自己実現などの価値に向かって、生活の文化として定着しつつある。「スポーツの価値観の多様化」といわれる現状を分析し、問題点を抽出しながら、「体育・スポーツ国際憲章」でしめされたスポーツ権の実現の方途を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツは社会と切り離されて存在はしない。社会構造のさまざまな要素から影響を受け、同時に「人間」の理想像の探求として、社会に影響を与えてきた。こうした関係を理解しながら、現代日本スポーツが持つ問題点を理解し、それを打開していく方向性を考察することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツの発展と歴史」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序章 スポーツ観の狭隘さと貧しさ	スポーツのグローバル化とサッカー市場 DVD放映「売買されるサッカー少年」
2	序章 スポーツ観の狭隘さと貧しさ	「習わなかった体育理論」DVD放映「柔術を考える」スポーツの文明化
3	第1章 近代社会と近代スポーツ第一節 「身分制の中のスポーツ潮流」	領主・騎士階級の「軍事訓練としてのスポーツ」、農・民庶民の素朴な運動遊びとしてのスポーツ
4	第1章 近代社会と近代スポーツ 第二節 「近代市民社会の成立とスポーツの自由」	「ギャンブルスポーツ」の市場 スポーツの組織化
5	第1章 近代社会と近代スポーツ 第三節 「スポーツ・クラブの原則とアマチュアリズム」	「スポーツの私事性と個人責任性」「スポーツの自由と自治」「アマチュアスポーツマンの規範」「プロ＝労働者の排除」
6	第2章 アマチュアリズムの崩壊 第一節 「競技スポーツの自立」	「競技の高度化と専門化」「スポーツ専門家の処遇」「多様なプロ・スポーツ形態」
7	第2章 アマチュアリズムの崩壊 第二節 「ビッグ・イベント・ビジネス」への変容	「ユベロス商法」「サマランチ革命」
8	第2章 アマチュアリズムの崩壊 第二節 「ビッグ・イベント・ビジネス」への変容	「スポーツ・イベントのグローバル化」=「スポーツ・メディア・コンプレックス」の行方・DVD放映「ヨーロッパサッカー市場」
9	第3章 現代日本のスポーツ事情 第一節「スポーツの社会構造」	「増大するノン・アマチュア」=「スポーツ産業の需要基盤」
10	第3章 現代日本のスポーツ事情 第二節 「スポーツビジネスの多角化」	「スポーツ・グッズ」「エリア・スクール」
11	第3章 現代日本のスポーツ事情 第二節 「スポーツビジネスの多角化」	「スポーツ・イベントとメディア資本」「スポーツ・タレントと肖像権」
12	第3章 現代日本のスポーツ事情 第三節 「分断的スポーツ政策」	「21世紀日本のスポーツ施策」「競技力の向上」とナショナリズム。地域振興と「総合型地域スポーツクラブ」
13	第3章 現代日本のスポーツ事情 第四節 「地域スポーツの振興」	「総合型地域スポーツクラブ」の理念と現状 「スポーツマネジメントと財務」
14	第3章 現代日本のスポーツ事情 第四節 「地域スポーツの振興」	「スポーツNPO」「指定管理者制度の導入」「寄生的スポーツ組織」
15	終章 揺れ動くスポーツと「変えるスポーツ」	「創るスポーツの時代に」「手をつなぐスポーツマン」「エリートとマスの統一」「スポーツの自由と自律」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

スポーツ報道を批判的に摂取すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的な概念の理解、錯綜する構造の総合的分析力

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストは指定しない。講義は章または節ごとにまとめたレジюмеに沿って展開する。レジюмеは教室でのみ配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツを考える	多木浩二 / ちくま新書 / 問題提起が多角的で鋭意であるが、低回生には少し難しい。
スポーツ・ボランティアへの招待	山口泰雄編 / 世界思想社 / /
参考文献・資料は章ごとのレジюмеに明記する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.sportsnetwork.co.jp/cgi-bin/index.html>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール・アドレス: nkt01650@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

【スポーツ】のゲームだけを考える時代は終わった。さまざまな教養科目・専門科目の知見と照らし合わせて、スポーツ問題を捉えるように期待する。

スポーツの歴史と発展 (SA)

12756

担当者名 / Instructor 西原 茂樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義ではスポーツを広い意味での身体運動文化ととらえ、その社会的歴史的存在としての個性を、古代から中世、近代を経て現代に至るまで、主としてヨーロッパを中心にスポーツ文化の諸相とその発展の経緯から概観していく。講義では文献資料の紹介が中心となるが、受講生の理解を促進するために、できる限り映像資料なども用いて進めていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義を通じて、それぞれの時代におけるスポーツ文化が当該社会の中でいかなる意味を持っていたのか、また私たちが日頃親しんでいる野球、サッカーなどの「近代スポーツ」が、19世紀のヨーロッパの社会状況からの影響をいかに強く受けて生まれてきたのかといったことを理解してもらい、そのことによって受講者のスポーツ観が一層深まることを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「スポーツ」とは何か？なぜ「歴史」なのか？	「スポーツ」の語源および語義の変遷
第2回	古代の身体運動文化(1)	未開社会のスポーツ、古代文明のスポーツ
第3回	古代の身体運動文化(2)	古代オリンピック
第4回	古代の身体運動文化(3)	古代ローマのショー・スポーツ
第5回	中世の身体運動文化(1)	貴族のスポーツ、農民のスポーツ、都市民のスポーツ
第6回	中世の身体運動文化(2)	(ビデオ鑑賞)イギリス・アシュボーンの民俗フットボール
第7回	中世の身体運動文化(3)	民俗フットボール、中世日本のスポーツ
第8回	近代スポーツの誕生(1)	近代スポーツ誕生の社会的基盤、ルールの統一と組織化
第9回	近代スポーツの誕生(2)	イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化
第10回	近代スポーツの誕生(3)	アマチュアリズムの確立、近代スポーツへの女性の参入
第11回	近代スポーツの誕生(4)	(ビデオ鑑賞)映画「炎のランナー」に見るアマチュアリズムと勝利至上主義
第12回	近代スポーツの誕生(5)	近代オリンピックの創設
第13回	近代スポーツの伝播と受容(1)	イギリススポーツの伝播過程
第14回	近代スポーツの伝播と受容(2)	アメリカスポーツの伝播過程
第15回	日本における近代スポーツの受容と展開	近代スポーツの大衆化、在来スポーツの近代化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	選択問題および論述問題。授業内容全体の理解度を重視する。
平常点評価	30 %	数回に一度の割合で、授業の感想・質問・要望等を授業後に書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

古代や中世の運動文化は近代スポーツとは大きくかけ離れているように見えるので、興味が沸きにくいこともあるかも知れない。しかし、私たちが日頃親しんでいる近代スポーツは、多かれ少なかれそうした近代以前の運動文化を基盤として成立したものであることは間違いなく、何かのほずみで古い時代の痕跡が顔を覗かせることもあるだろう。であるならば、近代以前の運動文化を知ることには近代スポーツそのものへの理解も深めることにもつながるのであり、そのような広い視野を持って古代以来のスポーツ文化の歩みを確認してもらいたい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考となり得る文献をその都度紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説スポーツ史	寒川恒夫 / 朝倉書店 / 4-254-69023-1 / 講義全体を通じて参照
古代オリンピック	桜井万里子、橋場弦 / 岩波書店 / 4-00-430901-8 / 古代オリンピックに関する最新の研究成果

近代スポーツの誕生

松井良明 / 講談社 / 4-06-149512-7 / イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化に関する文献

スポーツの歴史

レイモン・トマ / 白水社 / 4-560-05750-8 / 寒川恒夫「付論 日本のスポーツ」が参考となる

スポーツと帝国

アレン・ゲットマン / 昭和堂 / 4-560-05750-8 / 近代スポーツの伝播と受容に関する文献

上記以外の参考文献については、配布レジュメに記載する。また、事典としては岸野雄三編集代表『最新スポーツ大事典』(大修館書店)が参考になる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツの歴史と発展 (SB)

15384

担当者名 / Instructor 西原 茂樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義ではスポーツを広い意味での身体運動文化ととらえ、その社会的歴史的存在としての個性を、古代から中世、近代を経て現代に至るまで、主としてヨーロッパを中心にスポーツ文化の諸相とその発展の経緯から概観していく。講義では文献資料の紹介が中心となるが、受講生の理解を促進するために、できる限り映像資料なども用いて進めていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義を通じて、それぞれの時代におけるスポーツ文化が当該社会の中でいかなる意味を持っていたのか、また私たちが日頃親しんでいる野球、サッカーなどの「近代スポーツ」が、19世紀のヨーロッパの社会状況からの影響をいかに強く受けて生まれてきたのかといったことを理解してもらい、そのことによって受講者のスポーツ観が一層深まることを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「スポーツ」とは何か？なぜ「歴史」なのか？	「スポーツ」の語源および語義の変遷
第2回	古代の身体運動文化(1)	未開社会のスポーツ、古代文明のスポーツ
第3回	古代の身体運動文化(2)	古代オリンピック
第4回	古代の身体運動文化(3)	古代ローマのショー・スポーツ
第5回	中世の身体運動文化(1)	貴族のスポーツ、農民のスポーツ、都市民のスポーツ
第6回	中世の身体運動文化(2)	(ビデオ鑑賞)イギリス・アシュボーンの民俗フットボール
第7回	中世の身体運動文化(3)	民俗フットボール、中世日本のスポーツ
第8回	近代スポーツの誕生(1)	近代スポーツ誕生の社会的基盤、ルールの統一と組織化
第9回	近代スポーツの誕生(2)	イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化
第10回	近代スポーツの誕生(3)	アマチュアリズムの確立、近代スポーツへの女性の参入
第11回	近代スポーツの誕生(4)	(ビデオ鑑賞)映画「炎のランナー」に見るアマチュアリズムと勝利至上主義
第12回	近代スポーツの誕生(5)	近代オリンピックの創設
第13回	近代スポーツの伝播と受容(1)	イギリススポーツの伝播過程
第14回	近代スポーツの伝播と受容(2)	アメリカスポーツの伝播過程
第15回	日本における近代スポーツの受容と展開	近代スポーツの大衆化、在来スポーツの近代化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	選択問題および論述問題。授業内容全体の理解度を重視する。
平常点評価	30 %	数回に一度の割合で、授業の感想・質問・要望等を授業後に書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

古代や中世の運動文化は近代スポーツとは大きくかけ離れているように見えるので、興味が沸きにくいこともあるかも知れない。しかし、私たちが日頃親しんでいる近代スポーツは、多かれ少なかれそうした近代以前の運動文化を基盤として成立したものであることは間違いなく、何かのほずみで古い時代の痕跡が顔を覗かせることもあるだろう。であるならば、近代以前の運動文化を知ることは近代スポーツそのものへの理解も深めることにもつながるのであり、そのような広い視野を持って古代以来のスポーツ文化の歩みを確認してもらいたい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考となり得る文献をその都度紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説スポーツ史	寒川恒夫 / 朝倉書店 / 4-254-69023-1 / 講義全体を通じて参照
古代オリンピック	桜井万里子、橋場弦 / 岩波書店 / 4-00-430901-8 / 古代オリンピックに関する最新の研究成果

近代スポーツの誕生

松井良明 / 講談社 / 4-06-149512-7 / イギリスにおける伝統的民衆娯楽の淘汰と近代化に関する文献

スポーツの歴史

レイモン・トマ / 白水社 / 4-560-05750-8 / 寒川恒夫「付論 日本のスポーツ」が参考となる

スポーツと帝国

アレン・ゲットマン / 昭和堂 / 4-560-05750-8 / 近代スポーツの伝播と受容に関する文献

上記以外の参考文献については、配布レジュメに記載する。また、事典としては岸野雄三編集代表『最新スポーツ大事典』(大修館書店)が参考になる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

映像と表現 (S)

15560

担当者名 / Instructor 篠木 涼

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

映像は何かを説明するときにはわかりやすい手段となるし、楽しみで観る物語映画やテレビドラマもたいていわかりやすい。気楽な気分楽しむにはわかりやすいものがあるかもしれない。映画の歴史を振り返ってみることで、そのようなわかりやすさもまた作られてきたものだと知ることができる。そして映画なり映像なりをわかる、わからせるということにもいろいろ仕方があるのだということを知ることができる。同時代の状況と真摯に向かい合うための、あるいは積極的に介入していくための映画のわかり方、わからせ方もあった。本講義では、映画を中心に据えながら、映像文化の諸相を歴史的理論的に整理しながら解説することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

映画を中心に映像文化について、その表現形態上の特徴、歴史的な背景、映画についてめぐられてきた過去の思考についての理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	イントロダクション	コース全体の流れと成績評価についての説明 「映像とは何か、映像表現とはどのような行為か」
第二回	映画の登場	初期映画、アトラクション
第三回	サイレント物語映画(1)	グリフィス
第四回	サイレント物語映画(2)	ハリウッド
第五回	古典的芸術映画(1) フランス印象派とシュルレアリスム	ルイ・デリュック、フォトジェニー、ルイス・ブニュエル、『アンダルシアの犬』
第六回	古典的芸術映画(2) ドイツ表現主義	『カリガリ博士』『メトロポリス』
第七回	古典的芸術映画(3) ロシア・アヴァンギャルドとエイゼンシュテイン	エイゼンシュテイン、『戦艦ポチョムキン』
第八回	戦争と映画	プロパガンダ、ゲッベルス
第九回	古典的ハリウッド映画の臨界	ヒッチコック、オーソン・ウェルズ
第十回	戦後の映画美学(1)	イタリアン・ネオレアリズモ
第十一回	戦後の映画美学(2)	フランス・ヌーヴェルヴァーグ
第十二回	1960年代と反抗の映画	アメリカン・ニューシネマ
第十三回	1970年代とハリウッドの再生	ノスタルジー、『JAWS』
第十四回	1980年代とポストモダン	『ブレードランナー』
第十五回	1990年代以降とグローバリゼーション	多様化するメディアと映画

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	映像と表現についての代表的な形式の基礎的理解の到達度
平常点評価	30 %	小レポート

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ハリウッド100年史講義	北野圭介 / 平凡社 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
入門・現代ハリウッド映画講義	藤井 仁子 / 人文書院 / /
アメリカ映画の文化史	ロバート・スクラー / 講談社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コースツールによる。

その他 / Others

観光学 (GA)

16317

担当者名 / Instructor 麻生 憲一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、観光に関する歴史的・理論的・政策的・実証的側面の基本的な知識を体系的に理解し、習得していくことを目的とする。観光の語源、概念、歴史の変遷、そして現在の観光にかかわるさまざまな現象を概観していく。特に、観光と地域づくり、グリーンツーリズム、新しい観光形態などについて論じていく予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

観光に関する基本的概念、体系的知識を習得すること。
国際観光の動向、日本の観光政策に関する理解を深めること。
地域振興やまちづくりに対する観光の役割を理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ツーリズム学概論、 、ツーリズム学実習、
地理・地域科学にかかわる科目
サービス産業に関する科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	講義概要の説明	講義方式、成績評価
2回	観光の概念と語源	観光概念の定義、観光の3原則
3回	観光財・サービスの特性	自由財と経済財、サービス財としての特性(無形性、非貯蔵性、非自存性、多様性、一過性)
4回	観光の歴史の変遷(1)	西欧の観光史(古代、中世、近代、現代)産業革命、トマスコック、モータリゼーション
5回	観光の歴史の変遷(2)	日本の観光史(古代、中世、近代、現代)
6回	国内観光の動向	国土開発計画、リゾート法、マストツーリズム
7回	国際観光の動向	観光ピックバン、アウトバウンド、インバウンド
8回	日本の観光政策	観光立国推進基本法、外客誘致法、ビジットジャパンキャンペーン
9回	観光資源の活用とまちづくり	重要文化財、世界遺産、十津川村
10回	観光産業(1)	旅行業、宿泊業
11回	観光産業(2)	テーマパーク、ホスピタリティ産業
12回	滞在型観光	グリーンツーリズム、クラインガルテン、農村民泊、農家民宿
13回	ホスピタリティと観光	もてなし、ホスピタリティ・マインド、サービスとの相違
14回	新たな観光	マストツーリズム、ソフトツーリズム、エコツーリズム
15回	観光開発と持続可能性	観光開発、環境保全、 commonsの悲劇、外部不経済

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

観光資源を活かしてまちづくりを進めている地域へのフィールドワークを奨励します。日頃から観光に関する新聞記事やインターネット上の観光情報について関心を向けて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で扱ったいくつかのテーマの中から、受講生の関心に基づいてひとつのテーマを選び、それについての考えを問うもの。
平常点評価	40 %	授業内容の理解度を確かめるために不定期にレポートを課す。Web-CTを使って提出を受け付ける。1回の提出ポイントを10とし、成績評価に加算する。提出レポート内容が著しく優れた者、または著しく劣る者には別途加点、減点がありうる。

Web-CTが利用できない環境にある受講生は講義後に相談に来てください。別の提出方法を説明します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義中の説明でわからなかったことはそのままにせず、質問に来てください。メール等での質問も受け付けます。

教科書 / Textbooks

授業では教科書を指定しない。配布レジュメに基づいて授業を進める。授業の資料は全てWeb-CTを利用して配布する。事前に各自がプリントアウトしたものを持参すること。Web-CTを利用できない環境にある受講生に対しては別の方法により配布する予定である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
総合的現象としての観光	江口信清 / 晃洋書房 / 4-7710-1641-0 / 定価2,000円(税別)
現代社会とツーリズム	多方一成・田淵幸親 / 東海大学出版会 / 978-4486015642 / 定価2,625円(税込)
地域からみる観光学	小松原尚 / 大学教育出版 / 4887307780 / 定価1,890円(税込)
グローバル化とアジアの観光 - 他者理解の旅 -	江口信清・藤巻正己編著 / ナカニシヤ出版 / 978-4-7795-0350-4 / 定価2,625円(税込)

その都度、授業中に指示をする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

観光庁 <http://www.mlit.go.jp/kankocho/>
 日本旅行業協会 <http://www.jata-net.or.jp/>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

講義中の私語は厳禁です。騒がしい場合は退出を命じることがあります。

京都学 (GA)

13605

担当者名 / Instructor 加藤 政洋、河角 龍典、河原 典史、佐古 愛己、友田 義行、奈良 勝司、花岡 和聖、藤村 健一、三枝 暁子、村田 裕和、村中 亮夫 単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本科目は京都をテキストとして、歴史・地理・文学を中心に社会・経済・建築などさまざまな側面から学際的にアプローチし、京都の個性や地域性を総合的に理解する。講義は各専門分野の立場からリレー方式で行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・「京都」を多面的重層的にとらえ、他者に語る事ができる。
- ・自ら「京都」をフィールドワークし、そのフィールド経験を通じて、自身にとっての「京都」を他者に語る事ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回: 4月13日	「立命館京都学」の創成 (河原典史)	立命館京都学、新たな京都学
第2回: 4月20日	平安京の環境と景観 (河角龍典)	平安京、情報技術、環境考古学、古地形、古気候
第3回: 4月27日	平安京の都市化と文化 - 平安前・中期の京都の姿 - (佐古愛己)	平安京、人口集中、疫病の蔓延、治安の悪化、穢れ意識、怨霊、物の怪
第4回: 5月11日	京都(みやこ)の武士と平安貴族 - 平安京における武と文 - (佐古愛己)	平安京、武士、平安貴族・武と文
第5回: 5月15日 (土曜日)	宗教都市京都(1) (藤村健一)	宗教都市
第6回: 5月18日	宗教都市京都(2) (藤村健一)	宗教都市
第7回: 5月25日	立命館草創の地・異聞 (加藤政洋)	立命館大学、京都法政学校、中川小十郎、場所の来歴、歴史=物語の地理学
第8回: 6月1日	幕末維新と京都民衆 (奈良勝司)	幕末維新、中川祿左衛門、京都民衆
第9回: 6月8日	岩倉具視にみる近代化と伝統 (奈良勝司)	幕末維新、岩倉具視、改革派公家、「古都」再生、近代化と伝統
第10回: 6月15日	京都ツーリズム: 旅する文学者と創出された「京都」イメージ (村田裕和)	ツーリズム、旅、夏目漱石・谷崎潤一郎・川端康成・志賀直哉から『さゆり』まで、イメージの生産と消費
第11回: 6月22日	映画都市・京都 (友田義行)	大將軍・太秦・等持院、撮影所、映画と文学、ジャポニズム
第12回: 6月29日	金閣炎上をめぐる歴史と文学 (三枝暁子)	三島由紀夫『金閣寺』、水上勉『五番町夕霧楼』、京都文化
第13回: 7月6日	京都における歴史的景観保全と経済的価値 (村中亮夫)	歴史的景観、歴史遺産、景観保全、経済価値(便益)
第14回: 7月13日	京町家の取壊しと保全(花岡和聖)	京町家、歴史的景観保全
第15回: 7月19日	もう一つの京都学・補説(河原典史)	もう一つの京都学

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

「京都」をフィールドワークすることを大いに推奨します。フィールドを歩き・観察し・写真やメモをとり、時には関係施設を訪れ、地元の方々へのさやかなインタビューを通じて、現場での身体的学びを追求してみてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	所定のテーマ・方法によるレポート。 詳細については備考欄参照。
平常点評価	30 %	コミュニケーションペーパーの提出。

- ・最も興味をいだいた授業内容の要旨を簡潔にまとめ(本文800字以上)、さらにそれをふまえて自身のテーマを設定しテーマにかかわる「場所」を訪れて得られた知見や参考文献を活用した自身の研究レポートを執筆(本文2200字以上)。合計3000字以上。
- ・その際、自身が訪れ、自身が撮影した風景(景観)写真を3点以上添付し、それらの写真についても概説を加える。
- ・写真をどこで撮影したのか、撮影箇所を明示した地図を添付。
- ・書式などについては、所定の時期に指示する。またコースツールを参照。
- ・インターネットや文献からのカット/ペースト的記述は「不可」となるので要注意。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・日頃から、自身でテーマを設け、大いに「京都」をフィールドワークすることを奨励します。
- ・日頃のフィールドワーク経験を通して、授業内容に関連づけ、自身で「京都研究」を試みてください

教科書 / Textbooks

共通の教科書は使用しません。
担当者毎に、レジユメを配布します。

参考書 / Reference Books

担当者毎に、適宜、紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者毎に、適宜、紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代の教育 (S)

15392

担当者名 / Instructor 沖 裕貴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

講義は、現代の教育の諸相と題して、学校内外の教育の諸問題について解説する。現在の子どもたちの実態、学力低下論争や情報化社会の影の問題、大学教育の課題、教育現場の様子などを解説し、各自の問題意識を高めたい。
大規模授業ながら、一方的に聴くのではなく、積極的に質問をし、授業に参画してほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現代の教育の諸問題について、その背景や原因、検討すべき課題を指摘できる。(知識・理解)
2. 現代の教育の諸問題について、教育的な視点に基づき、解決策や対処すべき課題に関して自らの意見を述べる事ができる。(思考・判断)
3. 教育に関して興味関心を持ち、自ら調べ、考える態度を持つ。(関心・意欲・態度)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	自己紹介、授業の到達目標・授業の進め方・成績評価方法等の説明、各回の授業概要の説明
2	現代の教育の諸相1 / 学力低下論争	学習指導要領、学力低下論の類型、データに見る学力の変遷、ゆとり教育の検証
3	現代の教育の諸相2 / 立命館小学校の実践	立命館小学校、百マス計算、モジュールタイム、学習者中心主義
4	現代の教育の諸相3 / 現代の若者像	データに見る現代の若者像、若者像に関する識者の意見、若者像の変貌はゆとり教育が原因か？
5	現代の教育の諸相4 / 情報社会の影(1)	情報社会で子どもたちを待ち受ける罅、コンピュータ・ゲーム、観察学習理論・脱感作理論、認知的発達への阻
6	現代の教育の諸相5 / 情報社会の影(2)	コミュニケーションの在り方を巡る罅、情報モラルや情報犯罪に関わる罅、親や教師の知らない世界 - ホームペ、ネットいじめ -
7	現代の教育の諸相6 / 命の教育を考える(1)	豚のPちゃんと32人の小学生、総合的な学習の時間、構成主義の授業設計
8	現代の教育の諸相7 / 命の教育を考える(2)	久留米筑豊高校の「ニワトリからの贈りもの」の記録ビデオをもとに命の授業のあり方の再考。豚ではなく、ニワトリならいいのか。ペットでなければいいのか。短期間の飼育ならいいのか。
9	現代の教育の諸相8 / 現代の大学事情(1)	立命館大学の沿革、歴史、特色
10	現代の教育の諸相9 / 現代の大学事情(2)	現代の大学を巡る国内外の状況、高等教育の質の保証、学生にとって望ましい授業とは
11	現代の教育の諸相10 / 格差問題を考える(1)	階層化や格差の進行は本当か、ニートは本当に増えているか、教育の格差問題の原因
12	現代の教育の諸相11 / 格差問題を考える(2)	子どもの貧困率、教育社会学から見た階層化の意味
13	現代の教育の諸相12 / 教育の現状と課題(1)	要求する親・問われる教師、モンスターペアレント、学校と教師の対応
14	現代の教育の諸相13 / 教育の現状と課題(2)	それでも教師はやり甲斐のある職業、現場の先生の生の声(ゲストスピーカ)
15	まとめ	これまでの講義を振り返り、受講生の小レポートを紹介しながらまとめを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	44 %	現代の教育の諸相1～14に関して、一つもしくは複合的なテーマについて、複数の文献に当たり、多角的に考察し、自らの意見を述べる。 (注意) 自らの意見と引用、参考にした意見とが区別できるよう、引用・参考部分にアンダーラインを引き、文末に出典を必ず明記すること。 小レポートよりも深く多面的に考察したものを求めるので、かなり厳しい採点を行う。

平常点評価 56 % 毎回の授業の終わりにその日のテーマに関して小レポートを提出(A4一枚、4点×14回 = 56%)。

レポート試験を1回実施する(44点満点)。また、小レポート(各4点満点×14回 = 56点)の書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業で指示した設問に対する回答や、毎回の授業の到達目標の達成度など、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とする。この点については第1回目の授業で詳しく説明する。なお、小レポートにはQRコードを必ず添付すること。添付していない小レポートは1点減点とする。

毎回の小レポートの結果は、翌週までにコースツールで確認できるようにする。また、授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにするので、毎時確認していただきたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

下記参考書及び毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書、参考URLを紹介する。興味ある内容に関してそれらを参考に深めてほしい。特にレポート試験には、毎回の小レポートと日々の文献研究で深めたテーマに関してより多角的、発展的な論述を求め、付け焼き刃では間に合わないので、毎回の授業を真剣に聴くとともに、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習を進めてほしい。

なお、本授業は(教)教育方法論 の内容と一部重複するところがあるので、教育方法論をとる予定の人は別の教員の教育方法論をとることをお勧めする。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。必要な資料は適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携! 相互理解を深めるコミュニケーション実践学	沖裕貴・林徳治 / ギョウセイ / 978-4-324-09005-3 /
仮想現実と子どもたちの心	沖裕貴 / 久美株式会社 / 4-907757-53-0 C3037 /
テレビゲームと子どもの心	坂元章 / メモタル出版 / 4-89595-463-3 C0077 /
脳内汚染	岡田尊司 / 文藝春秋 / 4-16-367840-9 C0095 /
ゲーム脳の恐怖	森昭雄 / 生活人新書 / 4-14-088036-8 C0237 /
メディアと暴力	佐々木輝美 / 勁草書房 / 4-326-60110-8 C3036 /
階層化日本と教育危機	苅谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /
大衆教育社会のゆくえ	苅谷剛彦 / 中公新書 / 4-12-101249-6 C1237 /
不平等社会日本	佐藤俊樹 / 中公新書 / 4-12-101537-1 C1236 /
下流社会	三浦展 / 光文社新書 / 4-334-03321-0 C0236 /
就職がこわい	香山リカ / 講談社 / 4-06-212269 C0095 /
オレ様化する子どもたち	諏訪哲二 / 中公新書 / 4-12-150171-3 C1236 /
学校のモンスター	諏訪哲二 / 中公新書 / 4-12-150258-2 C1237 /
他人を見下す若者たち	速水敏彦 / 講談社現代新書 / 4-06-149827-4 C0211 /
「学び」から逃走する子どもたち	佐藤学 / 岩波ブックレットNo.524 / 4-00-009224-3 C0336 /
豚のPちゃんと32人の小学生	黒田恭史 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03833-5 C3037 /
「学力低下」の実態	苅谷剛彦・志水宏吉他 / 岩波ブックレットNo.578 / 4-00-009278-2 C0336 /
公立小学校の挑戦「力のある学校」とはなにか	志水宏吉 / 岩波ブックレットNo.611 / 4-00-009311-8 C0336 /
なぜフィンランドの子どもたちは「学力」が高いか	教育科学研究会編 / 国土社 / 4-337-46025 C3037 /
フィンランドに学ぶ教育と学力	庄井良信・中嶋博 / 明石書店 / 978-4-7503-2164-6 C0337 /
ゆとり教育が日本を滅ぼす	櫻井よしこ・宮川俊彦 / ワック出版 / 4-89831-528-3 C0234 /
学力低下を克服する本	陰山英男・小河勝 / 文春文庫 / 4-16-771716-6 C0195 /
立命館小学校メソッド	深谷圭助 / 宝島社 / 4-7966-5521-2 C0041 /
格差時代を生き抜く教育	寺脇研 / KTC中央出版 / 4-87758-506-0 C0037 /
学校文化の比較社会学 - 日本とイギリスの中等教育 -	志水宏吉 / 東京大学出版会 / 4-13-056205-3 C3037 /
格差社会 何が問題なのか	橘木俊詔 / 岩波新書 / 4-00-431033-4 C0233 /
学力を育てる	志水宏吉 / 岩波新書 / 4-00-430978-6 C0237 /
コンピュータが子どもの心を変える	ジェーン・ハリー / 大修館書店 / 4-469-21242-3 C3037 /
学力の社会学	苅谷剛彦・志水宏吉 / 岩波書店 / 4-00-022443-3 C0037 /
再生産	ブルデュー & パスロン / 藤原書店 / 4-938661-24-1 C1030 /
殺意をえがく子どもたち	三沢直子 / 学陽書房 / 4-313-63036-8 C0036 /

情報モラル	宮田仁 / 一橋出版 / 4-8348-2114-5 C3004 /
学力論争とはなんだったのか	山内乾史・原清治 / ミネルヴァ書房 / 4-623-04244-8 C3037 /
学力があぶない	大野晋・上野健爾 / 岩波新書 / 4-00-430712-0 C0237 /
教育改革の幻想	苅谷剛彦 / ちくま書房 / 4-480-05929-6 C0237 /
論争 格差社会	文春新書編集部編 / 文春新書 / 4-16-660522-4 C0295 /
「ニート」って言うな	本田由紀他 / 光文社新書 / 4-334-03337-7 C0236 /
「ゆとり教育」が国を滅ぼす	小堀桂一郎 / 小学館文庫 / 4-09-402636-3 C0137 /
ワーキングプア	門倉貴史 / 宝島社新書 / 4-7966-5533-6 C0236 /
若者はなぜ3年で辞めるのか	城繁幸 / 光文社新書 / 4-334-03370-9 C0234 /
現代社会と教育	堀尾輝久 / 岩波新書 / 4-00-430521-7 C0237 /
ケータイ世界の子どもたち	藤川大祐 / 講談社現代新書 / 4-06-287944-6 C0237 /
となりのクレマー	関根眞一 / 中央公論新書 / 4-12-150244-5 C1236 /
若者はなぜ正社員になれないのか	川崎昌平 / ちくま新書 / 4-480-06434-9 C0236 /
「格差」の戦後史	橋本健二 / 河出ブックス / 4-309-62403-7 C0336 /
大学淘汰の時代	喜多村和之 / 中公新書 / 4-12-100965-7 C1237 /
大学の教育力	金子元久 / ちくま新書 / 978-4-480-06384-7 C0237 /
大学改革その先を読む	寺崎昌男 / 東信堂 / 978-4-88713-788-2 C3037 /
世界の大学 ハーバード	シャロン・ゾウ編著 / 成文堂 / 4-7923-9062-1 C3037 /
大学教授職とFD	有本章 / 東信堂 / 4-88713-597-1 C3037 /
二十歳の原点	高野悦子 / 新潮社 / /

上記以外にも、毎回の授業で、その分野に関する参考書を紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)
 各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)
 学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

研究室は、尚学館 846 号室。
 075-466-3152
oki@fc.ritsumeai.ac.jp
 相談に随時応じます。事前に上記電話もしくはメールで問い合わせてください。

その他 / Others

遅刻はやめてください。また、特別な事情のない限り早退も認めません。私も気分が悪いですし、授業の雰囲気は壊れます。
 また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。
 授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

世界の言語と文化 (S)

12720

担当者名 / Instructor 文 楚雄、久津内 一雄、高橋 憲、仲井 邦佳、南 裕恵

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

言語習得(学習)に関わる基本的な課題と論点を整理した上で、異文化理解と多文化共生の観点から、産業社会学部で開設される初修外国語学習の動機付けをも踏まえて、言語と文化をテーマにして、講義を行います。この講義ではドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語とそれらの言語を話す国の文化について、それぞれリレー方式で講義を行います。外国語、特に初修外国語を学習する意義や目的、または、国際化の観点から、異文化理解、多言語・多文化共生、平和と民族共存などについての教養を深めて欲しいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

平和と民族共存に不可欠な異文化理解・多言語・多文化共生の可能性を探ります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総論	
2	総論	
3	総論、フランス語	
4	中国語	
5	中国語	
6	中国語	
7	スペイン語	
8	スペイン語	
9	スペイン語	
10	ドイツ語	
11	ドイツ語	
12	ドイツ語	
13	朝鮮語	
14	朝鮮語	
15	朝鮮語	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

* 定期試験として実施します。

* 筆記試験による評価で、配点は、講義内容(各論 = 各国語)の基礎知識の確認が六割、講義内容(総論 = 第一回 ~ 第三回講義)と関連した論述が四割となります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

講義時随時レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『言語学とは何か』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-430303-6 /
『ことばと国家』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-420175-6 /
『多文化主義社会の到来』	関根政美 / 朝日新聞社 / 4-02-259750-X /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageInsdowebct>

その他 / Others

美と芸術の論理 (S)

12730

担当者名 / Instructor 竹中 悠美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

美や芸術という、普段もっばら感性的にとらえ、享受しているものを学問の対象として考察し、論ずるなら、どのような論理的アプローチが可能であろうか？

当科目は、まず古代ギリシアを起源とする西洋美術を研究対象とした美学や美術史学の基本的な問題意識と概念、および方法論から始める。次に19世紀半ばから20世紀半ばまでの芸術を論じたモダニズム理論を検証し、さらに私たちと同じこの時代に生み出されている現代アートが置かれている状況や、現代アートがなにをどのように表現しているのかを考察していく。

また、芸術 / 非芸術の区分を超えた視覚文化という広い視野のもとで「美」や「芸術」という概念をとらえなおしたり、「イメージを見る」ということが文化や社会の中でどのように機能しているかを問う視点にも議論を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

美術の歴史と様々な芸術論の基礎的知識を習得し、それを足がかりとして美や芸術について自分で考え、言葉にしていく力を身につけることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業内容と進行の予定、および成績評価方法についての説明
2	様式論(1)	中世キリスト教美術、ルネサンス
3	様式論(2)	古代ギリシア、ロココとロマン主義
4	様式論(3)	ルネサンスとバロック
5	意味論(1)	イコノグラフィーとイコノロジー
6	意味論(2)	マニエリスムとネーデルラント絵画
7	モダニズム論(1)	印象主義と表現主義
8	モダニズム論(2)	抽象芸術とフォーマリズム
9	モダニズム論(3)	アヴァンギャルドと反芸術
10	視覚論(1)	近代の視覚性
11	視覚論(2)	写真の視覚性
12	視覚論(3)	視線の政治学
13	視覚文化論(1)	身体論
14	視覚文化論(2)	現代アートとサブカルチャー
15	視覚文化論(3)	アートのグローバリゼーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で提示する作品の多くはインターネット上で検索して見ることができるので、参考文献と併せて授業の復習に役立てましょう。授業内容に関連した展覧会があれば紹介し、自主的な美術展見学や作品鑑賞を推奨します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	選択問題と記述問題によって、授業内容の理解度と論述における合理性及び独自性を見る。試験時の持込みは一切不可。

出席は取りません。授業は全授業出席している受講生を念頭に置いて進めていきます。よって、公欠届けを提出できるような正当な理由がある場合を除いて、欠席・遅刻・途中退出によって、授業の進行についていけなくなったり、連絡事項や試験問題についてのヒントを聞き逃したりしても、フォローはないことを理解しておいてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参考文献や参考ウェブサイトおよび配付資料は、下の参考になるホームページ欄でリンクしている授業用ホームページでも公開しています。授業中に提示する画像は毎回50点以上あり、画質やサーバーの容量や著作権等々の理由により、配付資料やホームページでの公開は行っていません。よって、授業中は作品画像を見ながら素速くメモを取っていく集中力が必要となります。

教科書 / Textbooks

教科書はありません

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
美学と現代美術の距離	金悠美 / 東信堂 / /
アートを学ぼう	大森淳史, 岡林洋, 川田都樹子編 / ランダムハウス講談社 / /
カラー版 西洋美術史	高階秀爾監修 / 美術出版社 / /
カラー版 20世紀美術史	末永照和監修 / 美術出版社 / /
ヴィジュアル・カルチャー入門	ジョン・A・ウォーカー / サラ・チャップリン / 晃洋書房 / /
その他、授業中に随時、紹介します。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業用ホームページ <http://www001.upp.so-net.ne.jp/artichoke/>

(立命館大学のWebCTではありません)

「Class」のページに配付資料、「Links」のページに参考URLのリンク、「News」のページに連絡事項などを掲示します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

連絡は教室で直接行ってください。

その他 / Others

以上、シラバスをよく読み、授業の方針や評価方法を納得した上で受講登録してください。

文化人類学入門 (SA)

12881

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

文化人類学の基本的考え方をその学説史を中心にして講義するとともに、文化人類学によって始められたフィールドワークの実践を、具体的な調査を基にして検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

目標は三本柱である。

- (1) 初期導入教育として、大学での学問の取り組み方についての理解とそのスキルへの自覚。
- (2) 文化人類学を中心とした社会科学の考え方の基礎を獲得すること。
- (3) フィールドワーク実践の動機づけとその方法についての理解獲得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本授業は一回生前期の授業なので、あらかじめとっておくべき授業はない。

しかしながら、「文化人類学入門」を履修した後、(あるいは履修する前でも可能であるが)文化人類学に関心のある学生ならば、「文化人類学」、「比較文化論」、及び「エスニシティ論」を履修することをすすめる。以上、四つの授業科目を履修することで、文化人類学についての知識・考え方を修得できる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	現代社会が必要とする人間と大学の役割	コミュニケーション力、フィールドワーク、学問
2	フィールドワークとは何か	コミュニケーション力、主観と客観そして観、
3	フィールドワークの方法	民族誌、マリノフスキー、異文化理解
4・5	フィールドワーク教育の事例	フィールドワークの実践とその効果、自己理解と他者理解、社会性の獲得
6	文化人類学の世界	文化人類学、最先端研究、異文化理解
7	人種主義との対決	単系進化、多系進化、人種
8	イギリス社会人類学	比較社会学、社会構造、フィールドワーク
9	アメリカ文化人類学	文化相対主義、ポアズ、全体的アプローチ
10	構造主義以前の文化人類学	政治性、実証主義、経験主義
11	教育人類学と心理人類学	文化化、異文化間教育
12・13	構造主義の考え方とその系譜	関係性、全体性、交換性
14	構造主義以後の文化人類学	ハビトゥス、生態心理学、グローバリゼーション
15	文化人類学の学問的役割	他者理解、倫理、実践

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書の読書を基本として、その延長上に参考書等の読書がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	教科書の内容理解と講義内容理解を尺度とした客観テストと論述テスト
平常点評価	40 %	教科書の内容理解と講義内容理解を尺度とした客観テスト(日付は学生に通知する) 出席点(日付等を決めずに、時折実施する)

この授業で、大学の学問に目覚められるようになります。質問は、メールでも、そして個別でも受け付けます。

「求めよさらば与えられん」です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
フィールドワーク教育入門	原尻英樹 / 玉川大学出版部 / 4-472-40329-3 /
文化人類学の方法と歴史	原尻英樹 / 新幹社 / ISBN978-4-88400-009-7 /

参考書 / Reference Books

参考書については授業時に、随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Eメール及び個人面談(オフィスアワーについては授業中に指示する)

その他 / Others

「文化人類学入門」を履修した後、(あるいは履修する前でも可能であるが)文化人類学に関心のある学生ならば、「文化人類学」、「比較文化論」、及び「エスニシティ論」を履修することをすすめる。以上、四つの授業科目を履修することで、文化人類学についての知識・考え方を修得できる。

文化人類学入門 (SB)

12803

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

文化人類学の基本的考え方をその学説史を中心にして講義するとともに、文化人類学によって始められたフィールドワークの実践を、具体的な調査を基にして検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

目標は三本柱である。

- (1) 初期導入教育として、大学での学問の取り組み方についての理解とそのスキルへの自覚。
- (2) 文化人類学を中心とした社会科学の考え方の基礎を獲得すること。
- (3) フィールドワーク実践の動機づけとその方法についての理解獲得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本授業は一回生前期の授業なので、あらかじめしておくべき授業はない。

しかしながら、「文化人類学入門」を履修した後、(あるいは履修する前でも可能であるが)文化人類学に関心のある学生ならば、「文化人類学」、「比較文化論」、及び「エスニシティ論」を履修することをすすめる。以上、四つの授業科目を履修することで、文化人類学についての知識・考え方を修得できる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	現代社会が必要とする人間と大学の役割	コミュニケーション力、フィールドワーク、学問
2	フィールドワークとは何か	コミュニケーション力、主観と客観そして観
3	フィールドワークの方法	民族誌、マリノフスキー、異文化理解
4・5	フィールドワーク教育の事例	フィールドワークの実践とその効果、自己理解と他者理解、社会性の獲得
6	文化人類学の世界	文化人類学、最先端研究、異文化理解
7	人種主義との対決	単系進化、多系進化、人種
8	イギリス社会人類学	比較社会学、社会構造、フィールドワーク
9	アメリカ文化人類学	文化相対主義、ポアズ、全体的アプローチ
10	構造主義以前の文化人類学	政治性、実証主義、経験主義
11	教育人類学と心理人類学	文化化、異文化間教育
12・13	構造主義の考え方とその系譜	関係性、全体性、交換性
14	構造主義以後の文化人類学	ハビトゥス、生態心理学、グローバリゼーション
15	文化人類学の学問的役割	他者理解、倫理、実践

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教科書の読書を基本として、その延長上に参考書等の読書がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	教科書の内容理解と講義内容理解を尺度とした客観テストと論述テスト
平常点評価	40 %	教科書の内容理解と講義内容理解を尺度とした客観テスト(日付は学生に通知する) 出席点(日付等を決めずに、時折実施する)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業で、大学の学問に目覚められるようにします。質問は、メールでも、そして個別でも受け付けます。

「求めよさらば与えられん」です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
フィールドワーク教育入門	原尻英樹 / 玉川大学出版部 / 4-472-40329-3 /
文化人類学の方法と歴史	原尻英樹 / 新幹社 / ISBN978-4-88400-009-7 /

参考書 / Reference Books

参考書については授業時に、随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Eメール及び個人面談(オフィスアワーについては授業中に指示する)

その他 / Others

「文化人類学入門」を履修した後、(あるいは履修する前でも可能であるが)文化人類学に関心のある学生ならば、「文化人類学」、「比較文化論」、及び「エスニシティ論」を履修することをすすめる。以上、四つの授業科目を履修することで、文化人類学についての知識・考え方を修得できる。

文学と社会 (S)

15435

担当者名 / Instructor 楠井 清文

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

文学作品は、ただ単に個人の心の動きや感情だけを描いているように見えるが、実際にはそれらを通して、社会の中の見えない矛盾・葛藤・固定観念などを明るみに出す効果を持っている。普段、私達が当たり前だと考えている事柄も、文学というフィクションの世界に置き直され、現実世界とは異なった見方をされることで、批判的に考えられるようになるかも知れない。

このように文学は、社会に対するものの見方を変え、そこでの支配的な考えから私達を自由にする力を持っている。

この講義では様々な社会的テーマを扱った13篇の小説を取り上げる。そしてその作品が書かれた時代背景を知り、作者がどのような意図でそのテーマを取り上げたのかを理解していきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

作品の主題を読み取り、背景に関する歴史的知識を得ることで、作品を時代や社会の中で位置づけて理解できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	講義全体の流れ・進め方・評価方法についての説明
第2回	夏目漱石「文学論」を読む	漱石のロンドン留学と文学観
第3回	文学と戦争(1)	森鷗外「鼠坂」と日露戦争
第4回	文学と都市(1)	佐藤春夫「美しい町」とユートピア
第5回	文学と都市(2)	川端康成「浅草紅団」と浅草
第6回	文学と物語	谷崎潤一郎「吉野葛」と古典文学
第7回	文学と戦争(2)	火野葦平「麦と兵隊」と兵士の視点
第8回	文学と「外地」	金史良「光の中に」と植民地朝鮮
第9回	文学と「南洋」	中島敦「マリヤン」とミクロネシア
第10回	文学と言語	井伏鱒二「逢洋隊長」と軍隊用語
第11回	文学と歴史記録	松本清張「黒地の絵」と占領下日本
第12回	文学と宗教	遠藤周作「沈黙」とカトリズム
第13回	文学と大衆社会	古井由吉「先導獣の話」とサラリーマン
第14回	文学とアイデンティティ	笹野頼子「皇帝」と匿名性
第15回	文学と身体	松浦理英子「親指Pの修業時代」とセクシュアリティ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

毎回取り上げる作品は前もって配布しますので、事前に作品を読んで受講して下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	持ち込み不可・記述式
平常点評価	20 %	毎回出欠に代わるアンケートを配布

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
文学論・上	夏目漱石 / 岩波書店 / / 岩波文庫
文学論・下	夏目漱石 / 岩波書店 / / 岩波文庫
美しき町・西班牙犬の家 他六篇	佐藤春夫 / 岩波書店 / / 岩波文庫
浅草紅団・浅草祭	川端康成 / 講談社 / / 講談社文芸文庫
吉野葛・蘆刈 改版	谷崎潤一郎 / 岩波書店 / / 岩波文庫
沈黙	遠藤周作 / 新潮社 / / 新潮文庫
極楽・大祭・皇帝	笹野頼子 / 講談社 / / 講談社文芸文庫
親指Pの修業時代・上	松浦理英子 / 河出書房新社 / / 河出文庫
親指Pの修業時代・下	松浦理英子 / 河出書房新社 / / 河出文庫

上記以外のテキストは講義時に配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

二十世紀の日本文学

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

喜多川恒男・鈴木貞美・平林一・山崎國紀・山田博光編 / 白地社 / / 背景となる文学史を知るために。

その他の参考書は講義中に指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

企業と社会 (S)

12776

担当者名 / Instructor 宇都宮 浩一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、私たちが暮らす社会の構成要素の一つである企業について学習する。本講義の第一の目標は、企業に関する基礎的知識を習得することである。また、企業間関係や企業のグローバル化、環境、社会的責任など、現代企業が直面している課題についての理解を深め、これについて受講生が自ら検討していくための知識の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1、企業に関する基礎的知識の習得。
- 2、現代企業を取り巻く環境、課題について理解し、自ら考えること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	企業とは何か	企業概念、会社と社会
第2回	企業形態と会社法	株式会社、合資会社、合名会社、合同会社
第3回	株式会社の特質	株主総会、株主構造、所有と経営の分離
第4回	株式会社の特質	経営機関と専門経営者
第5回	現代日本の株式会社	法人所有、相互持合い、M&A、組織再編
第6回	企業間格差	企業の成長、大企業と中小企業、ベンチャー企業
第7回	企業とは何か	市場と企業組織
第8回	企業間関係	企業グループ、下請け、系列
第9回	企業間関係	財閥と企業集団
第10回	企業家とは何か	アントレプレナーシップ、イノベーション
第11回	企業のグローバル化	多国籍企業、直接投資、国際分業、グローバル企業の類型、グローバル統合、ローカル適応
第12回	現代日本企業の直面している諸問題	企業の社会的責任、環境問題、経済危機
第13回	現代日本企業の直面している諸問題	大企業病、雇用システム、過労死
第14回	会社以外の事業組織	協同組合、公企業
第15回	新しい企業	非営利組織、社会的企業、コミュニティ・ビジネス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	定期試験を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日本経済新聞など、経済関係の新聞に目を通すようにしてください。経済新聞は難しいという印象がありますが、理解することで、社会を見るための新たな視点を形成することができます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ベシク経営学Q&A』第3版	総合基礎経営学委員会 / ミネルヴァ書房 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

現代の経営 (SA)

12894

担当者名 / Instructor 善本 哲夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義は、多様な「現実」から企業経営の具体的なありようを学んでいきます。受講生のみなさんには、現代の経営の課題を発見する目を養ってほしい。講義では具体的なケースを取り上げながら進めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)現代の経営のありようを理解する。
- (2)企業経営の「現実」を読み解く力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	現実を見る目とは	
2回	見える手	
3回	「かに風味かまぼこ」から学ぶ	
4～5回	日本企業のありよう	
6～7回	アジアで起きている現実	
8回	講義の中間総括	何が見えてきたか
9～12回	ビジネス・トピックス	ケースから学ぶ経営
13～14回	現代企業の課題	
15回	経済社会と企業経営	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

新聞記事の企業・経済欄を読み、「何が起きているのか」を自分なりに整理してみましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

常に、「今起きている現実」に注目してみよう。

教科書 / Textbooks

固定テキストはありません。参考書を講義中に指示します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代の経営 (SB)

15368

担当者名 / Instructor 上田 智久

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この講義は、現代の経営の仕組み、およびそれを取りまく社会・経済についてのごく基礎的な知識を獲得すること、それを通じて「現代の経営」に社会的に何が求められているのか学ぶことを主たる目的としています。このため、講義では基礎的な知識の内容そのものも、もちろん展開されますが、あわせて「現代の経営を学ぶ上で何を知っておかなければならないのか」を理解することが重視されます。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)現代の経営の仕組みについての基礎的な知識を獲得する。
- (2)現代の経営に関わる経済・社会の仕組み及びその社会的課題や問題点について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「企業と社会」などの経営学 (= 特に企業統治、人事・労務、経営戦略など) 系の科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	大学でどう学ぶか～イントロダクション	
第2回	どんな会社があるのか	業種 業界 製造業 サービス業 法人企業 個人企業 非営利組織 営利企業 公企業 寡占 独占
第3回	会社は誰のものか	株券 株価 株式市場 所有と経営の分離
第4回	会社の一生:ベンチャーから大企業への成長プロセスと、倒産・清算	ベンチャー 大企業・中小企業 株式公開 合併・買収
第5回	会社で働くとはどういうことか	マネジメント・サイクル 日本的経営 ライン・スタッフ
第6回	会社で働くとはどういうことか	マネジメント・サイクル 日本的経営 ライン・スタッフ
第7回	前半7回の中間総括	
第8回	労働組合ってなに?	労働組合 労使関係 団体交渉
第9回	会社は何に基づいて活動しているのか	経営環境 経営理念 経営戦略
第10回	会社の動かし方としての「経営戦略」	アンゾフ ポーター SWOT分析
第11回	ものが売れる仕組み	ニーズ ウォンツ コンセプト マーケティング
第12回	経済社会の動きと企業経営	高度成長 石油ショック バブル
第13回	企業の社会的責任と社会的企業の成長	社会的責任 企業倫理 過労死 サービス残業
第14回	国際化時代の企業	グローバル化 多国籍企業
第15回	まとめ・定期試験について	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述形式(持ち込み不可)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- (1)授業中の私語は厳禁。
- (2)毎回出席をとり、出席回数数が3分の2に満たない場合には単位認定の条件を失うものとする。
*ただし、出席は単位認定と定期試験の受験の必要条件にすぎず、成績評価には加味されない。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめの一步経営学	守屋貴司ほか / ミネルヴァ書房 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代の国際関係と日本 (S)

15391

担当者名 / Instructor 篠原 美江

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマは『世界経済のグローバル化と日本』。現代の国際関係と日本について、主に経済的側面から学ぶ講義です。グローバル化の進展によって表面化した現代の世界経済における様々な諸問題について、日本との関連性を視野に含めながら総合的に把握し、それらの解決へ向けていったいどのような第一歩を踏み出すべきか、議論を通じて理解を深めていくことが本講義の目的です。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は、次の3点です。

- 1) 現代の世界経済における現状とその特徴について理解し、説明することができる。
- 2) 現代の世界経済を取り巻く諸問題について理解し、その要因について述べるすることができる。
- 3) 現代の世界経済における諸問題に対して、積極的に関わっていくための対応力、構想力、想像力を身に付けることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標、進め方、成績評価方法、教科書、参考文献などについての説明
第2回	世界経済におけるグローバル化の進展	現代における世界経済の動向、戦後の世界経済体制の確立、ブレトンウッズ体制
第3回	世界貿易と自由貿易協定	GATTからWTOへの移行、貿易自由化の拡大、世界貿易における地域主義の台頭
第4回	多国籍企業と海外投資	国際投資の進展、企業の海外進出、多国籍企業の活動と諸問題
第5回	国際通貨体制	IMF体制の成立と変容、固定為替相場制、変動為替相場制、ドル体制の再編
第6回	人口問題と国際労働力移動	世界人口の動向、国際労働力移動の背景と問題点(ブレイン・ドレイン)
第7回	食糧問題	世界の栄養不良の現状とその要因、飢餓、多国籍アグリビジネスの活動
第8回	ディスカッション	第2回～第7回の講義内容について1つテーマを決めて行う
第9回	地球環境問題 その1	資源問題の本質と論点、枯渇性天然資源と非枯渇性天然資源、資源問題の将来
第10回	地球環境問題 その2	資源問題に関する具体的事例の検証
第11回	発展途上国と累積債務問題	南北問題の登場と国際金融、累積債務問題の背景、多国籍銀行、累積債務危機以後の途上国向け資金フロー
第12回	冷戦体制崩壊後における世界の軍事化	冷戦崩壊後における軍事化進展の背景、民間軍事会社(PMC)の台頭
第13回	ディスカッション その2	第9回～第12回の講義内容について1つテーマを決めて行う
第14回	日本による国際協力のあゆみ	世界におけるODAの現状、日本のODAの原点とその後の変遷
第15回	講義のまとめ	全体の概観と到達目標の確認、コミュニケーションペーパーの質問と解説

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業に出てくる語句についてわからないものがあれば、授業後に必ず各自で調べるようにしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述形式の問題。授業中に取り上げた基本概念や重要語句の理解をもとに、出題された問題に対して論理的に説明できるかどうかを中心に評価する。

平常点評価 20 % ディスカッション(第8回、第13回)の問題提起に対する論述回答(授業の内容を問う試験ではありません。ただし、与えられたテーマに対して自分の意見がきちんと論理的に述べられているかどうかを重視します。

成績評価は、定期試験を中心に平常点評価(ディスカッション2回分)を加味して行います。

ただし、コミュニケーションペーパーの提出については、あくまでも「定期試験+ディスカッション2回分」の評価に対する補完的な評価として扱うこととします。そのため、ただコミュニケーションペーパーを書いて提出すればよいというのではなく、それらの内容に応じて加点を行うのでくれぐれも注意すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講にあたって、経済に関する特別な知識は必要ありません。

ただし、新聞やテレビ、インターネット等を通じて国際関係や世界経済などに関する情報と日常的に接し、関心を高めておくことが、講義をさらに理解するための手助けになります。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル資本主義 危機か繁栄か	ロバート・ギルピン / 東洋経済新報社 / /
世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す	ジョセフ・E・スティグリッツ / 徳間書店 / /

その他の参考文献については、授業で説明します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国連貿易開発会議 (UNCTAD)のHP www.unctad.org

経済協力開発会議 (OECD)のHP www.oecd.org

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

平常点評価(ディスカッションとコミュニケーションペーパー)について、QRコードシールで全て管理するので、提出の際には必ずQRコードシールを持参すること。忘れた場合については、成績評価の対象として一切対応しないので、十分に注意すること。

レジュメを配布します。ただし、各回講義終了後におけるレジュメの配布には一切対応しないので注意すること(公欠は除く)。

現代の世界経済 (S)

15436

担当者名 / Instructor 朝日 稔

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

グローバル化が進んでいる現代の国際社会においては、世界経済を舞台にした様々なドラマが繰り広げられています。こうしたドラマを読み解くために、本講義では政治、経済、社会、文化のそれぞれの相互関係や歴史的背景を基礎から把握することで、現代世界経済の諸問題に対する理解を深めたいと思います。本講義は経済学の知識を特別に必要としませんが、共通科目として現代世界経済について広範に学び、考えたという学生を対象にしています。

到達目標 / Attainment Objectives

現代の世界経済をグローバルな視点から捉え、世界経済に関するニュースや新聞記事に対して関心を高め、自分なりの考えをもてるようにすること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定する科目はないが、政治や社会や経営にもあわせて関心を持つことが大事です。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	現代世界経済を概観する:構造と課題	
第2回	グローバル化とはどのようなことか:ヒト、モノ、マネー、情報の越境化	
第3回	グローバル化:グローバル化はどのように進んできたか	
第4回	グローバル化:グローバル化の進め方としてのパクスアメリカニズムの意味と内容	
第5回	アンチグローバル化:下からの多様なグローバル化の進め方としてのグローバリズムの姿	
第6回	多国籍企業 :基本的特質	
第7回	多国籍企業 :活動と形態	
第8回	消費社会の成長過程:欲望の増大、大衆化、消費拡大	
第9回	ブランドの確立と普及:個性化、多様化、ブランド愛好	
第10回	サービス経済化の進展:知財化とイメージ重視	
第11回	ハリウッド映画産業の興隆とグローバル化:「ハリウッドビジネスモデル」の検討	
第12回	アメリカ単極世界の虚実:「帝国」への野望とその挫折	
第13回	「世界の工場」中国の台頭:社会主義体制の崩壊とグローバル原蓄	
第14回	「マルチチユード」:グローバル資本への対抗と新しい主体の勃興	
第15回	21世界の行方:講義のまとめと最終テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義は課題の一部であり、大切なことは大いに問題関心を深めて、自ら学習していくことである。この授業を基に現代世界についての認識を高め、いっそう学習が進むことを期待しています。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点評価	20 %	

評価は最終テストを基本にして、授業中に1~2度レポートを課して提出してもらい、それを評価に加味するので、注意しておいて欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の妨げになるので、授業中の私語は厳禁です。守ってください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際政治経済学の新機軸—スーパーキャピタリズムの世界	関下稔 / 晃洋書房 / 978 - 4 - 7710 - 2028 - 3 - /

講義はテキストに沿って行うので、テキストをよく読んで講義の復習をしておくことが、テストにパスするための最善の策です。具体的な講義は

板書を基にして行い、テキストの該当箇所を明示する。また必要に応じて、資料を配布することもある。

参考書 / Reference Books

講義中に適宜、参考資料を案内する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義終了後に教室で直接に質問するか、インターネットを通じてメールでコンタクトとることができる。積極的に質問して欲しい。質問することで、理解が確実に深まる。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 三本 卓也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、現代社会において法がどのような役割を果たしているのかを論じる。現代社会における重要な側面の1つとして、科学技術の驚異的な発展を指摘できる。科学技術の発展によってわれわれは物質的な豊かさを享受しているが、法学の観点から重要なのは、この発展がまさに法によって可能となっている点である。たとえば、所有権や契約について定める民法・商法、会社について定める会社法などがなければ、このような発展は不可能のはずである。また近年では著作権法・特許法を代表とする知的財産法の役割が飛躍的に増大している。

しかし他方で、科学技術の発展により、公害・環境問題・生命倫理問題などさまざまな難問を抱え込むことにもなっている。そしてこれらの難問を解決するためにも、法(特に行政法や環境法)への期待がますます高まっている。

現代社会における法の役割を考えると、科学技術と法との間の、このような二面的な関係を見逃すわけにはいかない。このような視点から、本講義では、民法・行政法・会社法・著作権法・特許法などの分野から代表的な事例をいくつか取り上げて論じる。講義の際には、まず各分野の基礎知識を解説した上で、取り上げる事例(いわゆるハードケースに相当する)がなぜ現代社会において重要なのかをわかりやすく説明したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・法的な思考方法の特徴を知る
- ・民法・行政法・会社法・著作権法・特許法などの法律が、現代社会での日常生活とどのように関係しているのかを学ぶ
- ・科学技術と法の関係についての基本的な視点を修得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。法学の初学者をはじめ、科学技術・知的財産・環境・公害など、前述した講義内容に関心を持つ者を広く対象とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要	授業の位置づけ、基本方針、注意事項、成績評価、いわゆる六法の概要、法律の基本分類、本講義で取り上げる対象
第2回	法学の基礎知識	条文のしくみ、法律要件と法律効果、条文を読む際のさまざまな問題、さまざまな法解釈手法
第3回	民法・契約法(1): 契約とクーリングオフ制度	契約のしくみ、錯誤・詐欺・強迫、悪質商法とクーリングオフ
第4回	民法・契約法(2): キャッシュカード、クレジットカード	キャッシュカードを利用した取引、預金者保護法、クレジットカードを利用した取引、破産
第5回	民法・不法行為法(1): 民法709条の要件と効果	民法709条のしくみ、「故意・過失」要件、「損害」要件について
第6回	民法・不法行為法(2): 「因果関係」要件と公害・環境問題	特に「因果関係」要件について、門前理論、疫学的因果関係、現代型訴訟
第7回	環境法と行政法	行政法の概観、行政事件訴訟法9条の「当事者適格」要件、判例の動向と学説の批判、改正までの経緯とその後の展開、アマミノクロウサギ訴訟、アメリカの自然の権利訴訟
第8回	会社法	有限責任と無限責任、新会社法の要点、株式会社と持分会社、会社の設立手順
第9回	著作権法(1): 知的財産法の概観	著作権法・特許法・商標法などの概要、本講義で取り上げる対象、著作権法のしくみ
第10回	著作権法(2): 著作物とは・その1	著作権法2条1号のしくみ、「アイデア」と「表現」の区別
第11回	著作権法(3): 著作物とは・その2	「創作性」の2要件である、依拠性と類似性について、著作権の制限規定、私的使用のための複製と現代社会
第12回	著作権法(4): パロディと著作権	引用とパロディ、日本とアメリカでの代表的な判例、フェア・ユース
第13回	特許法(1): 特許法の概要	特許出願のプロセス、特許法29条のしくみ、特許法2条1項のしくみ
第14回	特許法(2): 特許法の概要(続き)	発明の「新規性」、「進歩性」、均等論、特許権の消滅
第15回	まとめと補足: 関連する最近の事例	ライセンス・ビジネス、職務発明、商標法の基礎、いわゆる「地域ブランド」、偽ブランド品、講義中にふれた論点と関連する最近の事例

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

理解を助けるために、講義はレジュメに記した簡単な問題をもとに、それを説明する形で進めている。解答のための指針も合わせて詳しく記載しているので、それを利用すれば要点をつかみやすいと思う(わからない点がある場合は積極的に質問に来てほしい)。

その他、レジュメに記載する参考文献のほか、オンライン・データベースなどを予習・復習にぜひ活用してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業内容の理解

成績評価は定期試験の成績のみによる。授業への出席の有無は成績にはいっさい関係しない。ただし講義中に扱う論点は多岐にわたり、また配布するレジュメの分量も多いため、継続的に出席しないかぎりは単位取得は不可能と思う。

本講義を履修したいが、どうしても出席困難あるいは学習困難な事情がある場合は、早い時期に必ず担当者に相談すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

特に使用しない。講義中に配布するレジュメと資料を主として用いる。レジュメは、初回講義時に全15回分を一括して配布する。必ず出席して受け取ること。

資料は必要に応じて、各回ごとに配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ライフステージと法[第5版]	副田隆重ほか / 有斐閣アルマ / /
プレップ民法[第4版、増補版]	米倉明 / 弘文堂 / /
著作権とは何か	福井健策 / 集英社新書 / /
特許がわかる12章[第6版]	竹田和彦 / ダイアモンド社 / /

関連する法律の条文についてはレジュメ中に記載する。その他、各論点ごとの参考文献は授業中に随時述べるとともに、毎回のレジュメにも詳しく記載する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

毎回のレジュメに記載する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業終了後に質問を随時受け付ける。

その他 / Others

現代日本の政治 (S)

12762

担当者名 / Instructor 長澤 高明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代日本の政治の基礎について講義します。テキストに沿って基本的な概念や仮説を説明しますが、その際、新聞・雑誌から関連記事を取り上げ、一層理解を深められるよう工夫しています。「こんなものが見方があったのか」「それは間違っているのではないか」と考えてもらう講義にしたいと思っています。こちらが一方的にしゃべるといったスタイルではなく、諸君にも参加してもらいながら、驚きと発見に満ちた講義にできればと思っています。テキストは必携です。

到達目標 / Attainment Objectives

現代日本の政治の理解に必要な基礎的思考を習得する。新聞の政治欄が読めるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要/講義への導入:日本人の政治文化について考える	講義の進め方、成績評価/政治文化・同調・競争
2	戦後日本政治の歴史(1):憲法9条解釈の変遷を中心に	解釈改憲・明文改憲
3	戦後日本政治の歴史(2):安保条約の変容を中心に	安保条約、安保再定義、テロ特措法、イラク特別措置法
4	戦後内閣史	55年体制、一党優位体制、ポスト55年体制、新自由主義、新保守主義
5	衆議院の選挙制度と投票分析	小選挙区、拘束名簿式比例代表制、強制的分割投票
6	参議院の選挙制度と投票分析	選挙区、非拘束名簿式比例代表制
7	無党派時代の選挙	無党派、政治的無関心、ポピュリズム
8	政党システムと諸政党	穏健な多党制・二大政党制
9	圧力政治	圧力団体、公共圧力団体、NPO、社会運動
10	議会主義の歴史	議会主義、議会制民主主義、間接民主制、直接民主制
11	中央・地方関係と地方自治	住民自治、団体自治、直接請求権、常設型住民投票
12	ジェンダー重視時代の新しい政治(1):身の回りの民主主義	ジェンダー、役割期待、役割認知
13	ジェンダー重視時代の新しい政治(2):代議制度とジェンダー	アフターマティブ・アクション、クォータ制度
14	グローバル化のなかの市民たち	グローバリズム、ナショナリズム
15	まとめ:現代の日本政治の特徴と民主党政権	政権交代、政治主導

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義形式で行う。必ず、教科書、ノートを持参すること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	講義の基本的内容に関する論述試験。現代日本の政治を具体的にどう分析できるかを評価基準とする。持ち込み不可。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

必ず新聞に目を通してほしい。テキストをよく読んで、つねに疑問を持って講義に臨んでほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・実践の政治学	畑山敏夫・平井一臣 / 法律文化社 / 4-589-03012-2 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめて出会う政治学:フリー・ライダーを超えて 〔新版〕	北山俊哉・真淵勝・久米郁男 / 有斐閣 / 4-641-12165-6 /
現代政治学(第3版)	加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦 / 有斐閣 / 978-4-641-12331-1 /

[参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference](#)

[教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff](#)

[その他 / Others](#)

授業の概要 / Course Outline

この講義では、法の視点から国際社会の動きを学習します。具体的には最近問題になることが多い「死刑」を一つの素材にして、国際社会を規律する国際法の基礎を学びます。

日本でも2009年5月から裁判員制度が始まりました。凶悪犯罪が増加していると日々報道されて、裁判所の判断に対する疑問も投げかけられているなか、みなさんも近い将来に裁判員に選ばれ、死刑という判断を下す局面に立たされるかもしれません。

この死刑の問題は日本国内にとどまるものではありません。世界にはすでに死刑を廃止している国もあります。国連総会は2007年12月と2008年12月に、すべての死刑存置国に死刑執行を一時停止するように求めることを決議しました。自由権規約委員会も日本の死刑に懸念を示しています。国際問題にもなるのです。

そこで、みなさんが法、犯罪、刑罰、死刑といった問題を広く考えるきっかけとなるように、国際法の視点から死刑を考察し、同時に国際法の基礎知識も獲得して、最終的には「国とは何か」、「法とは何か」といった問いを思考する講義をめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 国際社会を規律する国際法の基礎知識を獲得する。
- (2) 実際に生じた事例の内容を正確に把握して、論理的に検討することができる。
- (3) 法的な視点から国際社会を俯瞰し、国そのものや法そのものを思考することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「法」は社会のあらゆる事象と関わっているため、文系理系を問わず、さまざまな科目を履修しておくことが間接的に役立つ。なお、この講義では「法」の問題を扱うが、大多数の受講生が「法」を初めて学習することを前提に講義を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	死刑を考える意義	この講義にはどのような目的と背景があるのか、日本における死刑の現実(執行方法、情報の欠如など)、死刑存続論と死刑廃止論の内容
第2回	死刑は国際問題なのか	死刑廃止は世界的な動向ではないのか、死刑を廃止する義務の不存在、国際社会の法構造
第3回	自国領域内における管轄権行使	犯罪処罰の方法は各国の裁量ではないのか、属地主義、属人主義、保護主義、普遍主義
第4回	自国領域内における管轄権行使	自国領域内でも管轄権を行使できない場合があるのか、駐留軍隊兵士、外交特権免除、主権免除
第5回	自国領域内における管轄権行使	犯罪者を海外でも逮捕することができるのか、法執行の限界、犯罪捜査の国際協力、犯罪人引渡
第6回	自国領域内における管轄権行使	自国領域はどのように決まるのか、空間秩序、領土紛争、海の境界
第7回	国際人権における死刑問題	なぜ国際人権条約が結ばれるようになったのか、国籍、外国人の権利国連における人権問題、国際人権規約、欧州人権条約
第8回	国際人権における死刑問題	人権条約は死刑をどう扱うのか、国連における人権問題、国際人権規約、欧州人権条約
第9回	国際人権における死刑問題	死刑存置国への犯罪人引渡は拒否されるのか、自由権規約委員会、欧州人権裁判所、死刑存置国である日本への引渡
第10回	国際人権における死刑問題	自国民に対する死刑執行を止められるか、国家間紛争の平和的解決、国際司法裁判所の仕組み、自国民の権利保護
第11回	戦後処理における死刑	戦争犯罪人に死刑を執行できるのか、戦後処理として執行される死刑、第二次大戦後の戦争犯罪処罰
第12回	戦後処理における死刑	武力行使の違法化、集団安全保障、軍縮問題、戦争犯罪の処罰方法
第13回	戦後処理における死刑	国際刑事裁判でも死刑判決が下されるのか、重大な人権侵害の処罰、国際刑事裁判の種類
第14回	死刑の今後	国連総会決議にはどのような意味があるのか、国連決議の方法と拘束力、日本への影響
第15回	死刑の今後	日本は結局どうするのか、国際社会の動向と日本、終身刑の可能性、裁判員制度との関係

この講義では教科書を使用する。講義中に教科書をすべて読解することはないが、国際法の視点から死刑問題を考えるために必要な知識が教科書にある。講義の予習、復習に教科書を熟読することを強く推奨する。また、参考書として提示している書籍のうち、『13階段』、『死刑はこうして執行される』のどちらか1冊をできるだけ早い段階(第5回くらいまで)に一読しておく、講義内容を理解しやすくなるであろう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	国際法の基礎知識をどれくらい習得しているか、死刑の現状をどの程度理解しているかを試す。基本概念や語句の理解を確認する問題と、死刑を論理的に洞察する力を問う問題を出す。
平常点評価	20 %	「講義メモ」の提出を少なくとも2回求める。受講者が数回提出した「講義メモ」のうち、評価が優れたメモ(2回分)を最終評価に加える。この「講義メモ」の提出は強制ではないので、提出するかどうかは受講者の判断に任せる。

講義中に提出を求める「講義メモ」の詳細は初回講義で説明する。「講義メモ」の提出は少なくとも2回実施し、評価が優れている2回分を最終評価に加える。なお、氏名や学生証番号しか書いていないメモを提出しても一切加点しない。実施回数などは講義の進捗具合によるので、適宜、受講者と相談するが、3回程度を予定している。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- (1) 出席確認を行わない。いわゆる「出席点」は一切ない。
- (2) 受講者が他の受講者の学習を妨げること(私語をする、騒音を出すなど)を禁じる。
- (3) 受講者が講義中に入退室するのは自由であるが、他の受講者の学習を妨げてはならない。
- (4) 他の受講者の学習を妨げる者には受講を認めない。その者には定期試験の結果にかかわらず単位を与えない。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
テキストブック 法と国際社会	徳川信治・西村智朗 編 / 法律文化社 / 2010年9月までに出版予定。教養として国際法を学ぶ者を対象とした教科書である。

講義では教科書を適宜参照するので、必携すること。
また、レジュメと資料を紙媒体で配布する。配布するのは講義中のみである。WebCTにも掲載するので、紙媒体のレジュメや資料を入手できないときは、自らダウンロード、印刷すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
13階段	高野和明 / 講談社文庫 / 4-062-74838-X / 死刑囚、刑期を終えた者、犯罪被害者の遺族など、犯罪に関係した者たちの懊悩を描いた小説。日本の死刑制度、犯罪処罰の現状を問う一冊。
死刑はこうして執行される	村野薫 / 講談社文庫 / 4-062-75304-9 / 死刑の是非を議論するために必要な情報(死刑執行の現状など)を詳細な取材をもとにまとめている
国際法(Sシリーズ)(第5版)	松井芳郎 他 / 有斐閣 / 4-641-15927-3 / 講義で扱う国際法全般を見渡すのに適している。
判例国際法(第2版)	松井芳郎 編集代表 / 東信堂 / 4-88713-675-7 / 国際法に関する事例を調べるのに適している。

参考になる文献は他にも多くある。講義のなかでも紹介したい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国際連合 <http://www.un.org>
 外務省 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>
 国際司法裁判所 <http://www.icj-cij.org>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

教員は非常勤であるため、メールでの連絡が簡便である。
 matsui@ip.oit.ac.jp

その他 / Others

市民と政治 (S)

15383

担当者名 / Instructor 中谷 義和

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

国際政治を含む政治現象について、また、「日本国憲法」の基本原則について理解を得るために、民主政治とその理念の歴史的展開をたどりつつ、政治の基礎概念について説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

日本国憲法の基本理念と結び付けて、現代政治の基本的枠組み、および、その理念の生成と展開の歴史的な理解を期す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学、歴史学、経済学など、社会科学関連学科目の履修ないし併行履修

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論	課題と方向
2	日本国憲法「前文」の政治理念	国民主権、平和主義、基本的人権
3	同上	
4	同上	
5	政治体制の編成	英米の政治体制、民主政治の思想家たち
6	同上	
7	同上	
8	政治体制の現代的再編	行政国家、圧力団体、政党と政党制の比較、民主政の諸モデル
9	同上	
10	同上	
11	戦後世界と日本	戦後世界の政治、日本の政治
12	同上	
13	同上	
14	グローバル化とは何か	国民国家、国際化、民主政の課題
15	全体の概括と到達目標の確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

欧米の歴史書や新聞を読むこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	設問にたいする論理的説明を重視する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

必要に応じてアドバイスする。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
政治学入門 歴史と概念	中谷義和 / 法律文化社 / /

参考書 / Reference Books

参考書については、その都度に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ynt00147@law.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

持続可能な開発 (GA)

12591

担当者名 / Instructor 高尾 克樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

地球温暖化の影響が顕在化しつつある21世紀の現在、化石燃料に依存してきた経済社会のあり方は曲がり角に差しかかっている。この講義では、われわれ人間社会の活動と自然環境とのかかわりについて見たうえで、長期的な環境保護と経済発展の調和について考えていきたい。具体的には、物質循環と代謝、地球環境変化のさまざまなメカニズム、経済社会の汚染排出構造、汚染者負担原則と外部費用、持続可能な開発をめぐる国際的な議論、先進国と途上国、などの論点について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1.環境汚染のメカニズムを物質循環とエネルギー循環の視点から説明できる。
- 2.汚染者負担の原則を説明できる。
- 3.国際的な環境保護への歩みを説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション:熱力学の二つの法則	
2	地球温暖化	
3	自然エネルギー	
4	環境税	
5	排出権取引	
6	水	
7	廃棄物とリサイクル	
8	生態濃縮と有害化学物質	
9	環境災害(公害の輸出)	
10	砂漠化	
11	生物多様性、野生生物保護	
12	持続可能な開発とは	
13	枯渇性資源の利用	
14	国際的な環境保護政策	
15	環境保護と市民	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	75 %	
平常点評価	25 %	折にふれて小テストを実施する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境経済学入門	ターナー、ピアス、バートマン / 東洋経済新報社 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
キャップ・アンド・トレード	高尾克樹 / 有斐閣 / /
不都合な真実	A.ゴア / ランダムハウス講談社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ktakao@sps.ritsume.ac.jp

その他 / Others

日本経済概説 (S)

15398

担当者名 / Instructor 松川 周二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ - 日本経済の諸問題を学ぶ。

日本経済は、戦後1950年から60年代にかけて、高度成長を実現し、国民の生活水準も向上し、先進国の仲間入りをした。しかし、70年代に入ると、日本経済は2度のオイル・ショックや円の対外価値の変動(繰り返される円高と円安)を経験するものの、それらを克服、経済大国への道を突き進む。そして、80年代後半、日本経済は絶頂期を迎えるが、それはバブルの形成を促し、90年代、バブル崩壊と共に日本は不況とゼロ成長の時代となる。本講義では、90年代以降の日本経済の諸問題を、理論的、現実的、政策論的に概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

日本経済の現実的な諸問題についての理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

新聞・テレビ・雑誌などで、現実の経済の動きに関心をもってほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	日本経済をめぐる問題を4つの大きなテーマに分け、それぞれについて、3・4回の講義を行う。	毎回の講義で、2～3のキーワードが示され、その経済的意味を理解する形で、授業を進めていく。たとえば、[1] - デフレ・スパイラル、[2] - ワーク・シェアリング、[3] - 循環型社会、[4] - WTOやFTAなど
1-4	[1]デフレ・不況とマクロ経済	デフレ・不況の経済学的意味を明らかにし、不況対策の効果を検討する。
5-9	[2]雇用・生活・家庭と労働	不況下で進行する雇用形態の多様化を生活者の視点から説明する。
10-12	[3]環境・資源・エネルギー問題	これは21世紀の世界の課題であり、企業や政府の積極的な試みやわれわれの生活スタイルの変革などをとりあげる。
13-15	[4]日本経済の国際化	日本企業の海外進出やFTA、ODAなどについて説明する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	
主に定期試験で評価する		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

毎回、講義に用いるプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業で配布する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

質問のある学生、講義終了後、直接私に質問して下さい。

日本国憲法 (S)

15408

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

我々の生活を規律しながら、その実態を把握することが難しい法。その中でも最も基本的な法である憲法が、どのような考えの下に作られ、どのように働きをしているのかを学んでいく。現実社会で起こる様々な問題に対処できるよう、出来る限り具体的な例を挙げながら、基礎知識と法的な思考を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

法についての基本的知識の習得。
憲法についての基本的知識の習得。
憲法的な思考方法の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	法の基本的知識	法、公法、私法、憲法、法と私たちの生活、通説・判例、多数説、少数説、解釈
2	憲法の基本的知識	大日本帝国憲法と日本国憲法、憲法の構造、憲法の三大原理、基本的人権、統治機構、前文、違憲審査制
3	天皇	天皇、象徴天皇制、国事行為、内閣の助言と承認
4	戦争の放棄	第9条、平和主義、自衛権、自衛隊、国際紛争を解決するための戦争
5	人権1(人権総則)	個人の尊厳、基本的人権、幸福追求権、公共の福祉、権利・自由と義務
6	人権2(平等)	法の下での平等、差別の禁止、人種差別
7	人権3(思想・良心の自由と信教の自由)	思想・良心と信教、「国家からの自由」と「国家による自由」、多数者と少数者
8	人権4(表現の自由1)	表現の自由の優越的地位と二重の基準論
9	人権5(表現の自由2)	表現の自由と違憲審査制、違憲審査基準、コミュニケーション技術の発達と表現の自由
10	人権6(経済的自由と生存権)	経済的自由と福祉国家、封建制、居住移転の自由、財産権、損失補償、生存権
11	人権7(法の適正手続き)	デュー・プロセス・オブ・ロー
12	統治機構1(三権分立)	三権分立と民主主義、人権
13	統治機構2(国会・内閣・裁判所)	国会、衆議院の優越、内閣、議院内閣制、裁判所、違憲審査制
14	統治機構3(国会・内閣・裁判所)	裁判所の役割
15	まとめ	民主主義と人権、多数者と少数者、憲法と私たちの生活

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基本的な知識の習得及び基本的な考え方、思考能力を問う。
平常点評価	30 %	基本的な知識の修得を問う小テストなど。 講義中の応答など。

小テストの回数などは、講義の進行速度により調整を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

資格試験などを旨とする受講生は、この講義で基本的な考え方を身につけ、詳細な知識を学習し、問題演習を行うことを薦める。

教科書 / Textbooks

[2010/09/13 修正]

.....

!! 注意!! 教科書は指定しません。 !! 注意!!

.....
 他学部においては、教科書を指定する講義もありますが、産業社会学部では指定しません。
 また、キーワード集などをコースツールを通じて(オンラインで)配布する予定である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
いちばんやさしい憲法入門	初宿 正典 ほか / 有斐閣アルマ / 4641120870 / 基本的な論点、基本的な考え方を見る、もっともやさしい入門書。
いま日本国憲法は 原点からの検証(第4版)	小林 武 ほか編集 / 法律文化社 / 4589028212 / 上記よりも詳しく、基礎を網羅的に勉強できる。

[2010/09/13 修正]

『いま日本国憲法は』の第1部が分かりやすく良い。

参考書の他、より詳しく憲法を学ぶためには、基本書と呼ばれる書籍を読むと良い。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義中に直接か、ティーチング・アシスタントを利用すること。

その他 / Others

アメリカの歴史 (S)

15442

担当者名 / Instructor 宮下 敬志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

昨年の大統領選挙が良い例ですが、アメリカ合衆国の「現在」に関する情報は、日本のメディアから簡単に手に入ります。また、アメリカが生み出した文化—「スタバ」だったり、「ピザ・ハット」だったり、「アメカジ」だったり—に関する情報も、もはやそのルーツを意識しないほどに日本の生活に浸透しています。

一方、アメリカ合衆国の「過去」に関する情報は、幕末以来、様々な局面でこの国の歴史や文化に影響を与えたのにもかかわらず、日本ではあまり流通していないようです。「現在」のアメリカ合衆国の政治や文化が、そこに住む人々のどのような考えの上で生み出されてきたものなのかについて、皆さんもこれまで関心がなかったのではないのでしょうか。

そこで、この授業では、我々に馴染みのないアメリカの「過去」についての情報を、下で説明するような3つのトピックに分けて説明していきます。そうすることで、最終的に、「現在」のアメリカや日本のことを自分の頭で深く考えていくことができるようになることを目標にします。

「超大国アメリカの光と影」

この単元では、アメリカ史の流れを理解するため、アメリカの歴史と地理についての基本知識を学びます。アメリカを超大国にした経済発展や、発展の裏返しとして生じた労働問題や環境問題に結びつけながら、これらを解説していくつもりです。アメリカ史を始めて学ぶ人のための単元です。

「我々のアメリカ、我々のアメリカ史」

この単元では、アメリカに住んでいる多様な人々の歴史を学びます。北アメリカは、「先住民」がアジアから移動してきて以来、ヨーロッパ・アフリカ・アジアなどからきた人々を加えながら人口を増やしてきました。これらの人々は、それぞれの母国文化を持ち込んで、アメリカ文化を多様なものにしてきました。しかし、力のなかった一部の人々（マイノリティ集団）はアメリカの支配的な人々が作った文化を受け入れることを強いられていました。授業では、いくつかのマイノリティ集団を取りあげながら、彼らにとってアメリカ、彼らにとってのアメリカ史とは何だったのかについて解説していくつもりです。

「国民国家としてのアメリカ」

この単元では、多様な背景を持つ人々を合衆国がどのように国民として統合してきたのかについて学びます。はじめに、自由や民主主義という政治理念が合衆国の統合に果たしてきた役割について解説します。その上で、キリスト教や、女性運動、大衆文化が統合に与えた影響について説明していきます。これらをふまえて、合衆国の国民統合をめぐる論理が、自由や民主主義を世界に強要する「帝国」主義に変質するまでの経緯について最後に解説していくつもりです。

到達目標 / Attainment Objectives

アメリカ史の要点を理解し、それを自分の知識として扱えるようになることが最終目標です。したがって、期末試験は、アメリカ史で争点とされている様々な問題を、論理的にアウトプットできるかどうかを各人に問うものです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	「超大国アメリカの光と影(1)」: アメリカにおける経済発展の歴史	アメリカ史を学ぶ上での基礎知識、アメリカの経済発展、国土の開発(第2章)
第02回	「超大国アメリカの光と影(2)」: アメリカにおける環境保護の歴史	イエローストーン国立公園、環境保護と環境保全、20世紀のエコロジー運動(第1章)
第03回	「超大国アメリカの光と影(3)」: アメリカにおける労働問題の歴史	大農場とアフリカ人、大企業と労働者の戦争、大量生産時代の働き手たち(第3章)
第04回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(1)」: 先住アメリカ人(インディアン)の歴史	白人と先住民の戦争、寄宿学校での「文明化」教育、先住民の団結と抵抗(第4章)
第05回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(2)」: アフリカ系アメリカ人の歴史	アフリカ系とヨーロッパ系の結婚、「混血」を禁止する法律、現代の状況(第6章)
第06回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(3)」: ラティーノ/ヒスパニックの歴史	アメリカ・メキシコ戦争、ブラセロ移民、チカノ運動、「不法」移民(第7章)
第07回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(4)」: アジア系移民の歴史	クーリー労働、ゴールドラッシュ、移民排斥運動、中国系アメリカ人(第8章)

第08回	「我々のアメリカ、我々のアメリカ史(5) : ヨーロッパ系移民の歴史	アイルランドのジャガイモ飢饉、ワスプ、イタリア系アメリカ人、新移民(第5章)
第09回	「国民国家としてのアメリカ(1) : アメリカの政治思想と社会改革	奴隷解放運動、アフリカ系国外移住とリンカーン、移民のアメリカ化(第10章)
第10回	「国民国家としてのアメリカ(2) : 大統領制度と国民統合	大統領の弾劾裁判、ニューディール政策、帝王的大統領制度(第11章)
第11回	「国民国家としてのアメリカ(3) : 星条旗と国民統合	星条旗と独立戦争、南北戦争と星条旗の神聖化、星条旗崇拜儀礼の確立(第12章)
第12回	「国民国家としてのアメリカ(4) : 宗教と国民統合	アメリカ憲法と政教分離、カトリック教会の歴史、モルモン教の歴史(第13章)
第13回	「国民国家としてのアメリカ(5) : スポーツと国民統合	大リーグの成立、野球神話の創造と国民統合、アスリートの公民権運動(第14章)
第14回	「国民国家としてのアメリカ(6) : アメリカにおける女性 / 男性の歴史	女性とうわさ話、中産階級の女性らしさ、現代世界と「ダディ・ロール」(第9章)
第15回	「国民国家としてのアメリカ(7) : 帝国と国民統合	アメリカ人が「戦う」理由、南北戦争、米西戦争、冷戦、イラク戦争(終章)

(第 章)は「アメリカの歴史」の各章に対応しています

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で配布するレジメをもとに、毎回復習してください

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	85点満点ですが、優秀な答案には加点する場合があります
平常点評価	15 %	ほぼ毎回の授業で、課題に沿ったコミュニケーションペーパーを書いてもらいます。ただし、QRコードを忘れた人は欠席になります。計15点満点ですが、次講義で配るコミュニケーションペーパーのまとめ(回答)で取り上げた優秀な答案については限度を超えた加点しますし、不真面目な回答の場合は平常点をつけません。授業中に私語・睡眠・無断で途中退出を繰り返す学生は、教室からの退出を求めます。妨害が著しい場合は、定期試験の成績を減点することもあります。

学生証とQRコードは毎回持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では毎回簡単なレジメを配布します。しかし、ノート・メモを取ることを重要視します。プレゼンテーションソフト(プラズマディスプレイ)を多用しますので、授業では見やすい位置に座ってください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実	有賀 夏紀(編集), 油井 大(編集) / 有斐閣アルマ / 978-4641121621 /

高校の時のように、教科書に沿って読み上げるような授業ではありません。教科書は主に、授業の予復習に使ってもらいます。(毎回レジメに教科書の参照ページを載せています)

教科書は、前もって生協などで購入して持参してください。もちろん、教科書交換会を利用したりインターネットなどを経由して古本を買ってもよいです。

<http://www.kosho.or.jp/servlet/top>
<http://www.amazon.co.jp/gp/offer-listing/4641121621>
<http://www.bookoffonline.co.jp/display/001,iscd=0012643715>

参考書 / Reference Books

授業中に紹介していきます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

イスラーム世界の多様性 (S)

12732

担当者名 / Instructor 矢島 洋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イスラーム世界に関する基礎知識を体系的に学ぶ。まず宗教としてのイスラームについて、教義や宗派などいくつかのトピックを取り上げて解説し、その後イスラーム世界のいくつかの国家の歴史と現状について概観する。

到達目標 / Attainment Objectives

イスラームに関する正確な基礎知識を修得する。その際特に、(1)イスラーム世界の多様性を認識し、多様なイスラームを多様なまま理解すること、(2)イスラーム世界の現状を理解するために必要な歴史的知識を得ること、の二点を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論	授業の方針、用語
2	イスラームの基本教義	六信五行
3	神とムハンマド	イスラーム神学
4	クルアーンとハディース	啓典、伝承
5	宗派	スンナ派、シーア派
6	美術	偶像崇拜
7	イスラーム法(1)	シャリーア、政教分離
8	イスラーム法(2)	一夫多妻、利子の禁止
9	トルコ	世俗主義
10	イラン	イスラーム主義
11	ウズベキスタン	旧ソ連
12	湾岸諸国	王制
13	アフガニスタン	9.11テロ
14	日本と中東・イスラーム世界(1)	
15	日本と中東・イスラーム世界(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	すべて講義の内容から出題し、知識の修得度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者は継続して出席すること。また、必ずノートをとること。

教科書 / Textbooks

必要に応じて何度かプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
岩波イスラーム辞典	大塚和夫ほか(編) / 岩波書店 / 4-00-080201-1 / イスラーム関係の用語を調べるのに便利である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

エリアスタディ入門 (S)

15329

担当者名 / Instructor 藤巻 正己

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

授業テーマ:「旅の経験から人文学的地域研究へ」

本講義では、政治経済社会文化的に総合的現象ともいえるツーリズム(観光)を切り口にして、自身の世界観[再]構築のための方法ともいえる「地域研究」(エリアスタディ)の有用性について考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) エリアスタディとは何かを他者に対して適確に説明できる。
- (2) ツーリズムという観点からのエリアスタディの有意義さを具体例をあげて説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「旅の経験」から「人文学的地域研究」へ	旅の経験、地域研究(エリアスタディ)
第2回	エリアスタディとは何か(1)	エリアスタディ
第3回	エリアスタディとは何か(2)	エリアスタディ
第4回	ツーリズムとエリアスタディ	ツーリズム
第5回	東南アジアのツーリズムの動向	ツーリズム空間の生産、多様なツーリズム
第6回	ツーリズムの政治経済社会文化的意味(1)	貧困克服のためのツーリズム、国民統合政策
第7回	ツーリズムの政治経済社会文化的意味(2)	貧困克服のためのツーリズム、国民統合政策
第8回	周縁的社会集団とツーリズム(1):概説	周縁的社会集団、ツーリズム
第9回	周縁的社会集団とツーリズム(2):マレーシアの場合	多民族国家マレーシア、ツーリズム
第10回	周縁的社会集団とツーリズム(3):マレーシアの場合	オランアスリ、ツーリズム
第11回	周縁的社会集団とツーリズム(4):マレーシアの場合	ポルトガル人、ツーリズム
第12回	周縁的社会集団とツーリズム(5):台湾の場合	多民族社会台湾、台湾原住民族
第13回	周縁的社会集団とツーリズム(6):台湾の場合	台湾原住民族観光、自立と自律、エンパワメント
第14回	区切られるツーリズム空間と地元住民:フィリピン・インドネシアの事例	ツーリズム空間、世界遺産、地元住民、フィリピン、インドネシア
第15回	ツーリズムとエリアスタディ「再考」	ツーリズム、エリアスタディ、ホスト-ゲスト論、よりよきツーリスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	授業内容にかかわる論題について、教科書の事例をを参照しながら、自身が設定したテーマで執筆。 分量:本文のみ3000字以上。 写真・図・表の添付を推奨する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各授業時において、シラバスや授業中の指示に従い、あらかじめ教科書および参考書をよく読み、理解の上、授業に出席すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル化とアジアの観光 他者理解の旅へ	藤巻正己・江口信清 編著 / ナカニシヤ出版 / 78-4-7795-0350-4 / 授業内容は教科書に拠る。

授業内容は教科書にもとづきます。また教科書をレポート執筆の参考文献と位置づけます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代東南アジア入門(改訂版)	藤巻正己・瀬川真平 編著 / 古今書院 / 978-4-7722-3123-7 /
社会的弱者と観光	江口信清・藤巻正己 編著 / 明石書店 / / 印刷中。2010年3月刊行予定
朝倉世界地理講座 大地と人間の物語3 東南アジア	春山成子・藤巻正己・野間晴雄 / 朝倉書店 / 978-4-254-16793-1 /

「書名」をクリックすると図書館の所蔵状況を確認できます。
検索方法等ご不明な点がありましたら、図書館にお尋ねください。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

とくになし。自身の関心ある事象にかかわる検索語によって広く、深く探求してほしい。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。
<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

ヨーロッパの歴史 (S)

12879

担当者名 / Instructor 佐藤 専次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今日ヨーロッパは統合へと向かって進んでいる。二回の世界大戦ののち、フランス・ドイツ・イギリスといった国民国家がせめぎ合う時代は終わりを告げ、ヨーロッパは国家を越えて、より広域な経済・政治体制のもとに統合されつつある。このようなヨーロッパという文化的政治的なまとまりがどのように形成され、発展していくのかを概観する。

到達目標 / Attainment Objectives

ヨーロッパ世界の形成・発展を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ヨーロッパの風土・民族・宗教	ロマンス語, ゲルマン語, スラヴ語, カトリック, 東方正教, プロテスタント
2	後期帝政のローマとキリスト教の発展	3世紀の危機, ディオクレティアヌス, 西ローマの滅亡, キリスト教の発展
3	ケルト人とゲルマン人	ドルイド, タキトゥス, ヴォーダン, 供犠祭
4	ゲルマン人の移動と部族王国	西ゴート, ガイセルリク, テオドリク
5	イスラームと地中海世界の分裂	ウマイヤ朝, ビレンヌ=テーゼ, 交易の活発化
6	東ローマ帝国からビザンツ帝国へ	ユスティニアヌス, テマ制, マケドニア朝
7	フランク王国の成立	サリ族, クローヴィス, ピピン, カロリング朝
8	カール大帝とフランク王国	ザクセン族, カールの戴冠, カロリング=ルネサンス
9	ノルマン人とイングランド王国の成立	ノルマンディー公領, デーン人, アルフレッド大王, ノルマン=コンクエスト
10	技術革新と人口の増大	水車, カルッカ, 三圃制, 収穫率
11	修道院改革とグレゴリウス改革	聖遺物崇拜, クリュニー修道院, レオ9世, 叙任権闘争
12	十字軍とラテン=キリスト教世界の膨張	クレルモン宗教会議, 民衆十字軍, 東方植民, レコンキスタ
13	中世都市の誕生	キヴィタス, 商人定住地, 商人ギルド, コミューン運動
14	たそがれる中世世界	黒死病, 廃村, 領主経済の危機
15	近代世界へ向けて	大航海時代の到来, 主権国家の出現

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
平常点評価	10 %	出席状況

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『教養のための西洋史入門』	中井義明ほか / ミネルヴァ書房 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

新しい日本史像 (S)

15378

担当者名 / Instructor 佐古 愛己

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ: 平安時代の京都

概要: 古代から中世への移行期である平安時代の京都に関する諸問題を、近年の研究成果をふまえて紹介し、様々な角度から、日本における古代から中世への移行過程の特質を考えてみたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・歴史学の研究方法を習得するとともに、歴史と文学の関係や歴史的「事実」とはどのようなものなのかを理解する。
- ・異なる世界(この授業では日本古代・中世社会)の人々の生活環境、思考方法、価値観に接し、現在の日本社会に生きる私たちのものの見方・思考方法、社会環境を相対化した上で、現代社会の様々な出来事に問題意識をもつことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに - 大学で「歴史」を学ぶとは？	授業計画 概要 目的
第2回	都市と住人 - 平安京の成立と庶民の暮らし -	桓武天皇 市 祭礼 怨霊
第3回	都市と住人 - 平安京の成立と庶民の暮らし -	桓武天皇 市 祭礼 怨霊
第4回	古代・中世の対外意識	華夷思想 蝦夷戦争 穢れ 唐物
第5回	古代・中世の対外意識	華夷思想 蝦夷戦争 穢れ 唐物
第6回	平安貴族社会と政治	摂関政治 政務 儀式 古記録「イエ」
第7回	平安貴族社会と政治	摂関政治 政務 儀式 古記録「イエ」
第8回	王朝文化と貴族の暮らし	後宮 女官 紫式部 女房装束
第9回	王朝文化と貴族の暮らし	後宮 女官 紫式部 女房装束
第10回	みやこと地方	国司 受領 都鄙間交通
第11回	みやこと地方	国司 受領 都鄙間交通
第12回	武士の成立と院政	源氏 平氏 武士論 承平・天慶の乱
第13回	武士の成立と院政	院政 強訴 保元・平治の乱
第14回	武士の成立と院政	院政 平氏政権 鎌倉幕府
第15回	おわりに - 授業のまとめ	「平安時代」とは

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	論述式の問題。 基本的な語彙や概念を正しく理解し、授業で取り上げた内容について、適切に論じることができるかを評価する。
平常点評価	30 %	授業中に提出してもらった感想ペーパーや小レポートを日常点として加味する。小レポートは、講義のテーマに関わる各自の関心点について、調査・考察したことをまとめ、最終講義日までに提出すること。

第1回の講義日に詳細を説明します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

古代・中世に関する概説書や古典文学作品などを積極的に読んでほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。随時、レジュメと資料を配付する。

参考書 / Reference Books

参考文献は授業中に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

戦争の歴史と現在 (GA)

12579

担当者名 / Instructor 池尾 靖志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

戦争の歴史を振り返ってみると、「形の上では」主権平等の国家間の戦争から、「非対称的な」戦争へと変化している。すなわち、特に同時多発テロ以降、テロ組織に対する「戦争」が議論されるようになってきているのである。いずれにせよ、国際関係論の枠組みの中で、主権国家システムの変容と結びつけられて、戦争形態の変化が論じられている。そこで今年は、特にアメリカの視点(覇権国、あるいは、「帝国」)から、戦争形態の変化について論じてみたい。当然ながら、アメリカと安全保障条約を結んでいる日本は、特に、沖縄をはじめとする「米軍再編」の流れの中で、同時に議論されなければならないだろう。この点にも目配りをしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 自ら、進んで新聞やニュースの政治欄や国際欄などを読み、自分なりの意見を形成できるように、また、他者に、自らの主張を、感情論ではなく、論理的かつ説得的に説明できるようになること。
- 2) 戦争形態の変化がなぜ起こってきたのか、国際情勢の変化に敏感になること。
- 3) 翻って、日本国内の状況、特に、若者の「真剣な話」をけむたがる風潮はなぜなのかを、自分自身の問題と絡めて考えられるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本政治史や欧米政治史、日本史や世界史に関する教養科目など。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 権力とは？	キーワード アナーキーとヒエラルキー、国家主権
第2回	テーマ 権力の暴走は「暴力」になる？	キーワード プロパガンダ、メディア宣伝
第3回	テーマ 戦争の違法化	キーワード 正戦論、無差別戦争観、国際組織の形成、集団安全保障
第4回	テーマ 戦後国際秩序の形成(1)	キーワード ヤルタ会談、冷戦の始まり
第5回	テーマ 戦後国際秩序の形成(2)	キーワード (古典的)リアリズムとネオリアリズム、
第6回	テーマ 冷戦秩序(1)	キーワード 核による平和、抑止力、集団的自衛権
第7回	テーマ 冷戦秩序(2)	キーワード ゲームの理論、囚人のジレンマ、チキンゲーム
第8回	テーマ 冷戦秩序の崩壊:なぜ、ネオリアリズムは、冷戦の崩壊を予測できなかったのか	キーワード トランスナショナルな動き
第9回	テーマ 大量破壊兵器の拡散	キーワード 不拡散、NPTレジーム
第10回	テーマ ポスト冷戦期の国際秩序の維持	キーワード PKO
第11回	テーマ エスニック・コンフリクト(紛争)の事例	キーワード コソボ紛争
第12回	テーマ 「新しい戦争」	キーワード 軍事におけるグローバリゼーション、小型武器
第13回	テーマ アメリカによる単独行動主義(1)	キーワード 有志連合
第14回	テーマ アメリカによる単独行動主義(2)	キーワード 日本の軍事化
第15回	テーマ 日米同盟のゆくえ	キーワード 米軍再編と日本の動き

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義に関する必要な連絡は、すべてWebCTを通じて行うので、毎週1回はWebCTをみること。また、積極的な、ディスカッション・ボードへの書き込みを期待する。(話題提供として)

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義を通して、どの程度、自分なりにニュースや新聞を読み、自分の頭で考えたのかを問う論述2問。単に知識を問う問題は出題しないので、持ち込みは自由にする。
平常点評価	20 %	WebCTを通じて3回課す。そのうち、最低2回以上提出すること。(3回提出した場合には、110点満点で計算し、100点を超えた場合には、100点とする)

レポートは、小論文形式の文体を求め、参考文献リストを明記すること。レポートを課す最初の講義のときに説明する。字数は、いずれも2000字程度。(長くても、論理的であればかまわないが、分量不足は減点する。)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞やニュースの政治欄や国際欄に目を通しておくこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
平和学をつくる	池尾靖志編 / 晃洋書房 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際紛争	ジョセフ・ナイ / 有斐閣 / / * 原著がかなりの頻度で改訂され、それに応じて翻訳版も新しく出版されているので、できるだけ、新しい版を参照すること。また、大学院を志望する人は、原著はさほど分厚くないので、原著(英書)で読むことをおすすめする。
戦争の記憶と和解	池尾靖志編 / 晃洋書房 / / 特に1章を、講義開始前に読んでおくこと。図書館にあるはずです。
「帝国」の国際政治学	山本吉宣 / 東信堂 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者のホームページ(<http://www.yikeo.com>)を参照のこと。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

WebCTを活用すること。
また、個人的な相談については、講義終了後に連絡してくること。

その他 / Others

中国の国家と社会 (S)

12774

担当者名 / Instructor 増井 寛也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「中国」が日本の最も重要な隣国のひとつであることは、時代により程度の差こそあれ、古来不変の事実であった。ところが、この「中国」という存在は、長大な歴史と地域的多様性により、総合的・全体的に把握することが著しく困難である。この講義では、「中国」理解の一環として、支配権力の保持者/組織を基準とした時代区分(授業スケジュール参照)を立て、そうした権力を支える国家と社会の通時的説明を試みる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・「中国」史の全体的な流れを大きく理解する。
- ・中華帝国の成立から現代中国に至るまでの各時代の政治社会的特徴を把握する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校世界史の授業の履修漏れは、もはや存在しないものとして講義を進める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	地理的中国と歴史的中国の相違	大中国と小中国、外中国と内中国、「華」と「夷」
第2回	前期中華帝国 古代帝国の成立と展開 秦から後漢まで	皇帝制度と官僚制、郡県制
第3回	前期中華帝国 古代帝国の成立と展開 秦から後漢まで	儒教の正統教学化、豪族と「名士」
第4回	前期中華帝国 中世の分裂と再統一 三国時代から隋唐帝国まで	貴族制の成立、五胡と拓跋国家群
第5回	前期中華帝国 中世の分裂と再統一 三国時代から隋唐帝国まで	律令制と科挙制、律令制国家から財政国家へ
第6回	後期中華帝国 近世的社会の成立 五代・宋	皇帝権力の強化、科挙制度の整備
第7回	後期中華帝国 近世的社会の成立 五代・宋	都市の発展と社会の変貌
第8回	征服王朝 北方民族の中国征服 大元ウルス	北方民族社会と漢民族社会の並存
第9回	後期中華帝国 近世社会の成熟と満洲族の中国征服 明と清	明の「固い」体制、皇帝権力の極大化とその病理
第10回	後期中華帝国 近世社会の成熟と満洲族の中国征服 明と清	清の版図拡大と大中国の成立
第11回	清末・中華民国 アヘン戦争・辛亥革命から中華民国まで	改革(洋務・变法)と革命、北洋軍閥
第12回	清末・中華民国 アヘン戦争・辛亥革命から中華民国まで	国民党と共産党、国共合作と分裂
第13回	中華人民共和国 毛沢東から鄧小平まで	社会主義建設と「大躍進」
第14回	中華人民共和国 毛沢東から鄧小平まで	文化大革命の波乱
第15回	中華人民共和国 毛沢東から鄧小平まで	改革と開放

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

高校等で世界史の科目を履修していない(いまやあり得ないはず)か、していても知識が不十分との自覚のある学生は、内容理解にハンデを負うことになりかねないので、授業に先立ってあらかじめ、もしくは授業と平行して、概説書(第1回目に紹介する)を読むなり等の自助努力をしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に直結する特定ないし任意のテーマに関して期末レポート(2400字以上)を課す。

平常点評価 50 % 受講者数にもよるが、ほぼ毎回、コメントの提出を求める(翌週の授業開始前に教員に直接提出)。これは出席を兼ねる。また、3分の2以上の出席をもって成績評価の対象とする。それ以下は対象外。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目の授業で講義内容、参考書等に関する説明を行うので、必ず出席すること。

教科書 / Textbooks

教科書は原則として使用しない。それに代えて、レジユメを配布する。

参考書 / Reference Books

参考書は第1回目に配布するレジユメに掲載しておく。また、それらに関する簡単な説明も行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

東アジアと朝鮮半島 (S)

12877

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

東アジアは英語でEast Asiaであり、欧米人がつくった言葉である。つまり、当事者である東アジアと呼ばれる場所に生活する人々がつくった言葉ではない。つまり、当事者ではない外部の人間が何らかの都合でつくったことばが東アジアということになる。しかしながら、今日の東アジア(国家レベルでは、中国、朝鮮民主主義人民共和国、韓国、日本など)は、政治上の問題があったとしても、一衣帯水の関係にあるといえる。これは、前近代において中国を中心とした冊封関係のときから連続していると考えられることである。

本講義においては、東アジアというマクロなレベルで朝鮮半島をとらえ、まず、前近代における朝鮮半島の歴史状況、次に、近代から現代までの朝鮮半島の歴史、社会状況について考察する。前近代においては中国との関係、近代から現代においてはそれに加えて日本との関係を重点的に考えることにする。これを通して、東アジアにおける朝鮮半島と日本列島についての基本的理解が達成できると考えられる。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 東アジアとは何かについて歴史的に理解すること
- (2) 東アジアのなかの朝鮮半島の意味について理解すること
- (3) 近現代における朝鮮半島と日本との関係について理解すること
- (4) マスコミ報道に流されない基本的教養を身につけること
- (5) 東アジアについて語れるようになること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎教養としては、歴史学関連科目、特に、日本史、中国史、朝鮮史などのアジアの歴史についての科目。また、授業内容には社会史が含まれているので、研究方法としては「文化人類学入門」を履修しておくことが望ましいが、この科目の履修後でも構わない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	東アジアとはどこなのか？	オリエンタリズム、地政学的位置、冊封関係、アジアと太平洋
2	朝鮮王朝時代の国家と政治	王権、儒教、冊封関係
3	近世の日本と朝鮮	侵略、和解、善隣
4	豊臣秀吉の朝鮮侵略その1	オリエンとオクシデント、世界史のなかの日本史
5	豊臣秀吉の朝鮮侵略その2	オリエンとオクシデント、世界史のなかの日本史
6	近代世界における朝鮮半島からの移動	前近代、近代、大量移民
7	1945年以前の在日朝鮮人社会	サバイバル、適応、差別
8	戦時下朝鮮の労務動員	強制連行、陸軍慰安婦
9	植民地朝鮮に暮らした日本人	外地と内地、日本人町
10	日本での定着過程・故郷の離れ方と異国での適応	文化の流用、適応力
11	サッカーの大衆化過程からみる韓国の「民族」「国民」形成	国民国家、スポーツの政治性
12	嫌韓流からみる日本社会	朝鮮蔑視観、他者排除の論理
13	多文化的状況の韓国と日本その1	多文化主義、多文化共生、ネットワーク
14	多文化的状況の韓国と日本その2	多文化主義、多文化共生、ネットワーク
15	まとめ	朝鮮半島、理解

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

基本的には教科書を読むことで授業理解を深めることができる。これに加えて、授業中に紹介する参考書を読むと、理解は更に深まる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60%	授業内容の理解度とそれに基づいた論理的な個人的見解
平常点評価	40%	中間試験をする(30%)。また、抜き打ちのリアクション・ペーパーを数度して、出席点とする(10%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日朝関係・交流史近現代篇(仮題)	原尻・六反田・外村編 / / /

上記の教科書は2010年9月までに出版される予定なので、その折に、出版社等の情報を提示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

< hharajiri@yahoo.co.jp > までにメールで連絡。

その他 / Others

歴史観の形成 (S)

15401

担当者名 / Instructor 李 豪潤

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、主に日韓の高等学校で使用されている歴史教科書を用いて、各テーマについて両国の記述内容を比較検討する。そして、歴史学研究において、同じ「事件」について自国史には如何に記述され、位置づけられてきたのかを概説し、考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

日本史・韓国史という「自国史」が如何に記述されてきたのかを両国の教科書を検討し、歴史観の持つ意味について考えていきたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	歴史観とは何か	国民・一国史
第2回	古代史記述の諸問題1	先史時代・初期国家・古朝鮮
第3回	古代史記述の諸問題2	大和政権・飛鳥朝廷・三国時代
第4回	古代史記述の諸問題3	摂関政治・国風文化・統一新羅・渤海
第5回	中世史記述の諸問題1	鎌倉幕府・高麗王朝の後三国統一
第6回	中世史記述の諸問題2	高麗対蒙抗戦・蒙古襲来
第7回	中世史記述の諸問題3	室町幕府成立・朝鮮王朝建国
第8回	前半のまとめ	中間テスト、質疑応答
第9回	近世史記述の諸問題1	戦国時代・秀吉の朝鮮侵略(壬辰倭乱)
第10回	近世史記述の諸問題2	幕藩体制の確立・清の朝鮮侵略と西人派の執権
第11回	近世史記述の諸問題3	幕藩体制の展開・朝鮮王朝後期
第12回	近代史記述の諸問題	開国と幕末・明治維新・朝鮮の開国・日清戦争・日露戦争・朝鮮の植民地化
第13回	近代史記述の諸問題	近代産業の発展・近代文化の発達・武断統治期の朝鮮
第14回	現代史記述の諸問題	敗戦・光復・朝鮮戦争・高度成長・ベトナム戦争
第15回	後半のまとめ	最終確認テスト、総合討議

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席 30 % 中間テスト 35 % 最終確認テスト 35 %

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業では、日本の歴史教科書の叙述内容と韓国史及び歴史教科書の基礎知識が重要である。パワーポイントを用いるなど、できるだけわかりやすく解説するが、下記の参考書を読むなど、予習・復習に努めてほしい。

教科書 / Textbooks

教科書は用いない(史料等はプリントして配布する)。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『歴史教科書問題』	三谷博編著 / 日本図書センター / / 2007年(リーディングス日本の教育と社会)。
『戦争のうしろ姿 : 教科書問題と東アジア諸国民との歴史対話』	阪東宏著 / 彩流社 / / 2006年
『歴史研究の現在と教科書問題 : 「つくる会」教科書を問う』	歴史学研究会編集 / 青木書店 / / 2005年
『高校教科書検定と今日の教科書問題の焦点』	依義文、石山久男著 / 学習の友社 / / 1995年
『概説韓国の歴史』	宋謙燮、洪淳権著、藤井正昭訳 / 世界の教科書シリーズ / / 2004年
『詳説日本史』B	石井進・五味文彦・笹山晴生・高埜利彦 / 山川出版社 / / 2004年

その他、韓国の文献については、教室で解説する。参考書は、できるだけ読んでおくことが望ましい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIn.s.dowebct>

その他 / Others

スポーツのサイエンス (S)

12727

担当者名 / Instructor 漆原 良

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

近年、プロスポーツ選手のプレーをスローで再生しながら解説するテレビ番組など、多くの人にとってスポーツや運動のサイエンスに触れる機会は増えている。しかし、実際にそれらの情報を正しく理解し、自分たちの健康維持や競技力向上に十分利用できている人はそう多くはない。

そこで、本講義では、受講者が自身の日常生活で経験する運動、スポーツに科学的な取り組みを応用できるようになることを目的として、運動やスポーツのサイエンスを理解するための基礎的な知識や実際のトレーニング方法について解説するとともに、いくつかの身近なテーマについて、実際の科学的な観察を通して考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

日常生活の中で経験する運動やスポーツに対してサイエンスとしての視点をもって観察し、取り組むための基礎的な知識について理解し、自身で応用するための基盤を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入、講義内容の概説	到達目標、授業概要
2	運動を行うための仕組み1 - 筋収縮 -	生理的限界、心理的限界、超回復、滑走説
3	筋力トレーニング1 - フォーム、部位による違い -	等尺性収縮・短縮性収縮・伸張性収縮、筋の起始・停止・作用、屈筋・伸筋
4	筋力トレーニング2 - 負荷による違い -	速筋線維・遅筋線維、運動単位
5	身体組成とウエイトコントロール	体脂肪、BMI、肥満、生活習慣病
6	スポーツ選手とウエイトコントロール	減量、痩せ、無月経
7	運動を行うための仕組み2 - エネルギー供給機構 -	ATP-PCr系、解糖系、有酸素系、有酸素運動
8	最大酸素摂取量	最大酸素摂取量、心拍
9	みんなで測定してみよう - 運動に伴う脈拍の変化 -	脈拍、スポーツ心臓
10	個人に応じた運動強度設定	HRreserve, LT, インターバルトレーニング
11	身近なデータを用いて考える	得点、比較、統計
12	運動を調整する仕組み	神経、脳、反射、随意運動
13	技術トレーニング	反復練習、フォーム、合目的性
14	トレーニング計画	トレーニングの原則
15	まとめ	復習、質疑応答

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本講義では、自分の身体の機能を自分で測定したり、実際のトレーニング方法を体験してもらうことを予定している(受講者数によっては変更になる可能性がある)ため、常に積極的な姿勢でのぞんでもらいたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	運動生理学の基礎知識を踏まえ、スポーツを科学的な視点で観察し、自らの言葉で論理的な記述ができる。
平常点評価	30 %	毎回講義中に課題を課し、それについて答えることにより出席を評価する

出席回数が全講義回数の2/3未満の者には出席点を与えない。ただし、試合参加や就職活動等の事情によっては配慮を行うので、申し出る事。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・私語や遅刻、授業中の座席移動など他の受講生に迷惑のかかる行為には厳しく対応する
- ・原則として講義はスライドのみを用いて行い、レジュメは配布しない。ただし、講義終了後にスライドをコースツール上に掲示するので、それを利用して復習に努めてもらいたい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
運動生理学	P.O.オストランド, K.ラダール / 大修館書店 / 4-469-26037-1 /

必要に応じて講義内で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

uru@ss.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

宇宙科学 (S)

15437

担当者名 / Instructor 吉村 幸雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

宇宙は私たちが観測でき、その上考えられるすべての天体の大集団とそれを含む全空間を含んでいる。しかもこれを宇宙誕生のはるか昔から無限の未来にわたって考えた場合、時間と空間の一切全部が宇宙と考える。そこで、最初に宇宙科学の基礎的な事柄として、素粒子、原子核、原子と分子、相転移と超伝導、量子と実在、エントロピーを学んだ後、宇宙の進化に沿って、宇宙誕生から始めて、銀河、恒星、太陽、地球の順序で講義を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、宇宙をテーマに科学するため、先ずその基本法則である物理学の概念を学習した後、宇宙の進化について理解を深め、宇宙の誕生から我々の地球誕生までを知ること目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業概要、序論;宇宙物理学を学ぶ意義、宇宙の観測、宇宙からの情報(可視光線、電磁波、距離、時間)	宇宙、電磁、波離、時間
第2回	基礎的な事柄、素粒子;物理量のスケール、基本定数、素粒子の仲間たち、素粒子に働く力、クオーク	自然の基本定数、素粒子、クオーク
第3回	素粒子、原子核;本当の基本粒子、素粒子の生成、素粒子物理学、原子核の構成、結合エネルギー	基本粒子、原子核、結合エネルギー
第4回	原子核、原子と分子;結合エネルギー、核融合、核分裂、核反応、放射能、原子の構造、水素原子の場合	核融合、核分裂、核反応、原子の構造
第5回	原子と分子、相転移と超伝導;元素の周期律、原子から分子、原子の物理学の課題、相転移、超伝導	分子、相転移、元素の周期律
第6回	相転移と超伝導、量子と実在;超伝導の機構、完全反磁性、電子の粒子性と波動性、粒子と波、光	粒子と波、電子の粒子性と波動性、光
第7回	エントロピー;自由エネルギー、エントロピー、熱力学第二法則、揺らぎ、	エントロピー、熱力学法則、自由エネルギー
第8回	宇宙の進化;宇宙の誕生、銀河の運動、ドップラー効果、ハッブルの法則、ガモフの夢	宇宙の誕生、銀河、ドップラー効果、ハッブルの法則
第9回	宇宙の進化;宇宙マイクロ波放射、定常宇宙論、宇宙の未来、宇宙の暗黒物質、可能な未来、インフレーション宇宙、宇宙の大規模構造。	マイクロ波、定常宇宙、暗黒物質、インフレーション宇宙
第10回	恒星;素粒子の大統一理論、漂う雲、星の誕生、水素燃料への点火、主系列星、太陽、赤い巨星	恒星、星の誕生、主系列星、太陽、赤い巨星
第11回	恒星;終末、宇宙の素材、取り残された芯、新たな誕生、バルサーの発見	恒星終末、新たな誕生
第12回	恒星;中性子星、ブラックホール	中性子星、ブラックホール
第13回	太陽系、惑星;太陽系の形成、太陽系の安定性、惑星の素顔、惑星の誕生、誕生の時刻、	太陽、惑星の誕生、誕生の時刻
第14回	地球、惑星;惑星を作るもの、惑星の位置、重要な問題	内惑星、外惑星、惑星形成
第15回	地球;宇宙の中の地球、大気形成、海洋形成と大気、光合成生物の誕生、地球の内部構造、月の起源	地球、大気、海洋、地球の内部構造

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

宇宙と言う広大な自然に眼を向けることにより私たちが持っている感覚(五感)を敏感にし、総合的な観点から自然を見る事の重要性を学んでほしい。そのために教科書並びに参考書を読むことを勧める。また、日常報道される科学ニュースに眼を向けていただきたい。科学の考え方や分析の進め方を私たちの身近な現象に適用し、これからをどのように生きるかを考えるきっかけにしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	定期試験で評価する。問題は講義の内容を全て含む話題としたい。教科書、自室ノートを使って解答してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
宇宙・物質・生命 進化への物理的アプローチ	高橋光一 / 吉岡書店 / / 価格:2400円

学生諸君は教科書を読むに止まらず、ここから科学のより広い世界へ眼を向けていって欲しい。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
宇宙の物理学	日本物理学会編 / 丸善株式会社 / /
新しい物質観	日本物理学会編 / 丸善株式会社 / /
現代の太陽系科学 太陽系の起源と進化	長谷川博一・大林辰蔵 著 / 東京大学出版会 / /
宇宙論のすべて	池内 了 著 / 新書館 / /
宇宙をあやつるダークマター	池内 了 著 / 岩波書店 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義で使ったパワーポイントはWebノートとしておく。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

吉村幸雄・E-mail: yukio@pl.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

科学・技術と社会 (SA)

15357

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今日科学はよりマクロな宇宙へ、よりミクロなクォークへ、そして生命の神秘へと発展を続けている。また技術に応用され、今日のわれわれの暮らしをますます豊かで便利なものになっている。しかしその一方で、化学物質過敏症やBSE問題、人間の卵子売買など科学や技術に関わる社会問題も頻発している。では、われわれにとって、現代社会にとって科学とは何か、技術とは何か？ 本科目は、それを主として科学や技術に関わる社会問題をとらえて考究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)今日の科学や技術に関わる社会問題に関心と問題意識を持つこと
- (2)授業で取り上げる科学や技術に関わる社会問題の代表的な例について、自然科学・技術的、および社会的理解を深めること
- (3)それを通して、科学・技術と社会の関わりについて、科学論・技術論、あるいは科学社会学的に理論的に考えることができるにすること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科学・技術と社会 世紀をこえて	20世紀とは、人工化学物質の時代、科学技術文明とわれわれ
2	人工化学物質と人体 21世紀病	シックハウス、化学物質過敏症、アレルギー
3	環境ホルモン問題の登場	内分泌攪乱物質、動物に現れた予兆、ヒトの精子数の激減？
4	環境ホルモン問題を考える	T.コルボーン、「奪われし未来」
5	環境の世紀へ	R.カーソン、「沈黙の春」
6	環境ホルモン問題の今 不確実のカード	本当に「思い過ごし」か、失速するSPEED98
7	脳とプリオン 動物からヒトへ、ヒトからヒトへ	狂牛病(BSE)、クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)、その他のプリオン病
8	BSE問題と対策をめぐって	食の安全、「リスク管理」について考える
9	ヒトゲノム解読 生命の世紀へ	ヒトゲノム、DNA
10	生命の世紀はどこへ、生殖工学の行方	ドリー、クローン人間、iPS細胞
11	医学と医学者、医の倫理	ヒポクラテスの誓い、インフォームド・コンセント、医療事故、病院改革
12	チェルノブイリでは何が起きたか	チェルノブイリ原発事故、人々と暮らしへの影響、原発事故と産業社会
13	原発事故はなぜくりかえすか、地震と原発	中越沖地震と柏崎刈羽原発、関電美浜事故、あいつぐトラブル隠し、原発被爆(東海村臨界事故)
14	マンハッタン計画(その1)	20世紀物理学、原爆構想、原爆工学、原爆開発
15	マンハッタン計画(その2)	原爆開発、製造と投下、科学者の社会的責任をめぐって

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点評価	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目では、今日の人類の課題を自らみつけ、問題意識を深め、自分の頭で考えるという姿勢が、とくに大事だと思います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
奪われし未来	T.コルボーンら / 翔泳社 / 88135-985-1 /
沈黙の春	R.カーソン / 新潮社 / 10-207401-5 c0161 /
狂牛病 人類への警告	中村靖彦 / 岩波書店 / 00-430759-7 /
優生学と人間社会	米本昇平 / 講談社 / 06-149511-9 c0245 /

原発事故はなぜくりかえすか

高木仁三郎 / 岩波書店 / 00-430703-1 /

必要最低限(授業中取り上げる部分)は、講義資料としてプリントし配付する

参考書 / Reference Books

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

科学・技術と社会 (SB)

15364

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今日科学はよりマクロな宇宙へ、よりミクロなクォークへ、そして生命の神秘へと発展を続けている。また技術に应用され、今日のわれわれの暮らしをますます豊かで便利なものになっている。しかしその一方で、化学物質過敏症やBSE問題、人間の卵子売買など科学や技術に関わる社会問題も頻発している。では、われわれにとって、現代社会にとって科学とは何か、技術とは何か？ 本科目は、それを主として科学や技術に関わる社会問題をとおして考究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)今日の科学や技術に関わる社会問題に関心と問題意識を持つこと
- (2)授業で取り上げる科学や技術に関わる社会問題の代表的な例について、自然科学・技術的、および社会的理解を深めること
- (3)それを通して、科学・技術と社会の関わりについて、科学論・技術論、あるいは科学社会学的に理論的に考えることができるにすること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科学・技術と社会 世紀をこえて	20世紀とは、人工化学物質の時代、科学技術文明とわれわれ
2	人工化学物質と人体 21世紀病	シックハウス、化学物質過敏症、アレルギー
3	環境ホルモン問題の登場	内分泌攪乱物質、動物に現れた予兆、ヒトの精子数の激減？
4	環境ホルモン問題を考える	T.コルボーン、「奪われし未来」
5	環境の世紀へ	R.カーソン、「沈黙の春」
6	環境ホルモン問題の今 不確実のカード	本当に「思い過ごし」か、失速するSPEED98
7	脳とプリオン 動物からヒトへ、ヒトからヒトへ	狂牛病(BSE)、クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)、その他のプリオン病
8	BSE問題と対策をめぐって	食の安全、「リスク管理」について考える
9	ヒトゲノム解読 生命の世紀へ	ヒトゲノム、DNA
10	生命の世紀はどこへ、生殖工学の行方	ドリー、クローン人間、iPS細胞
11	医学と医学者、医の倫理	ヒポクラテスの誓い、インフォームド・コンセント、医療事故、病院改革
12	チェルノブイリでは何が起きたか	チェルノブイリ原発事故、人々と暮らしへの影響、原発事故と産業社会
13	原発事故はなぜくりかえすか、地震と原発	中越沖地震と柏崎刈羽原発、関電美浜事故、あいつぐトラブル隠し、原発被爆(東海村臨界事故)
14	マンハッタン計画(その1)	20世紀物理学、原爆構想、原爆工学、原爆開発
15	マンハッタン計画(その2)	原爆開発、製造と投下、科学者の社会的責任をめぐって

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

配付資料をよく読み、その回に取り上げた科学・技術に関わる社会問題について、まとめ、考察を加えておくこと。小テスト、コミュニケーションペーパーなどで、随時チェックする予定。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点評価	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目では、今日の人類の課題を自らみつけ、問題意識を深め、自分の頭で考えるという姿勢が、とくに大事だと思います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
奪われし未来	T.コルボーンら / 翔泳社 / 88135-985-1 /
沈黙の春	R.カーソン / 新潮社 / 10-207401-5 c0161 /

狂牛病 人類への警告 中村靖彦 / 岩波書店 / 00-430759-7 /

優生学と人間社会 米本昇平 / 講談社 / 06-149511-9 c0245 /

原発事故はなぜくりかえすか 高木仁三郎 / 岩波書店 / 00-430703-1 /

必要最低限(授業中取り上げる部分)は、講義資料としてプリントし配付する

参考書 / Reference Books

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜指示する

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

科学と技術の歴史 (S)

12889

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人類は、周囲の環境をつくりかえながら、しだいに人口と生産力をまし、技術やそして科学をも発達させ、豊かだが地球規模の環境問題も激化させるに至ってきた。それではこのような人類の歴史において、生産力の発展に大きな役割を果たした技術や科学(自然科学)とは、いったい何か、それを歴史的に、科学史、技術史、および科学と技術の社会史にもとづいて考察することが、この科目の主な目的である。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)地球規模の環境問題の要因とも関連して、人類史においてとくに近代技術による生産力の拡大が果たした役割について、問題意識を持つこと。
- (2)石器の発達、機械の誕生、産業革命など技術史の大きな転換点(イノベーション)について理解を深めること。
- (3)あわせて科学の誕生や近代科学の成立など科学史の基本的な流れについて、理解すること。
- (4)とくに19世紀ドイツにおいて科学と技術の現代的な社会的ありよう(企業研究所と国立研究所など)が成立するプロセスを系統的に学び、企業や国家と科学技術の関わり、その問題点について考察すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	いま歴史から学ぶこと、人類と環境、科学と技術	イースター島の教訓、「緑の世界史」
2	石器づくりの歴史的進歩 古人類学にみる人間と技術	ミッシングリンク、古人類学の進歩、R.リーキー、石器発達史
3	ギルガメッシュ叙事詩	メソポタミア文明、環境破壊と古代文明の崩壊、
4	科学の誕生	ギリシャ科学、アリストテレス、自然学、運動理論と四元素説
5	道具と機械	すきから5つの単一機械まで、道具、機械、機械の誕生
6	「デ・レ・メタリカ」の世界	アグリコラ、マニファクチュア、機械、ヨアヒムシュタールの鉱山、鉱山学
7	もののけ姫の世界	映画「もののけ姫」を読み解く、近代と非近代、タタラ製鉄
8	近代科学の誕生	ガリレオ、ベネチアの造兵廠、斜面の実験、S.ドレイク
9	近代科学の成立	ニュートン、プリンキピア、デカルト、機械論的自然観
10	産業革命とイノベーション	紡錘、紡錘車、ジェニー紡績機、紡績機の三大発明、道具論と機械論
11	イノベーションとファクトリー	アークライト、クロンフォード工場、機械体系、近代的工場制度
12	科学の社会史	D.S.L.カードウェル、経験的発明と科学に基礎づけられた発明、「科学の組織化」、応用科学、イギリス科学の衰退の原因
13	科学と技術の社会史(その1): 模倣	ドイツ産業革命と技術導入、P.C.W.ボイト、産業助成協会、科学技術助成の起源
14	科学と技術の社会史(その2): 転回点	F.リューローと「フィラデルフィアからの手紙」、品質問題としての「鉄と鋼の等級分け」問題、試験と試験研究所、国立研究所の誕生
15	科学と技術の社会史(その3): 「科学大国」への道	企業と研究所、E.アッペとカールツァイス社、ガラス技術研究所、標準・度量衡検定委員会、帝国物理技術研究所、国家・企業と科学技術

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回の授業後、レジュメや配付資料を読み直し、内容と自分の問題意識をよくまとめておくこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基礎的な知識を確認し、とくに教科書と講義の内容を理解したうえで重要な論点について自分の考えを説明できるかを評価する。
平常点評価	30 %	上記に準じて中間の小テストを1回、質問、感想、意見などを含めて日常の授業の理解度を把握するためコミュニケーションペーパーを3回程度実施する。また宿題を不定期に課すことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
模倣から「科学大国」へ 科学と技術の社会史	宮下晋吉 / 世界思想社 / 978-4-7907-1328-9 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
緑の世界史	C.ボンティング / 朝日新聞社 / 02-25963-1 /
技術と労働	大沼正則 / 岩波書店 / 4-00-003662-9 /
科学の社会史 イギリスにおける科学の組織化	D.S.L.カードウェル / 昭和堂 / 3040-058916-3474 /

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜指示する

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

できるだけ教室で、授業の後質問等どんどん来てください。

その他 / Others

科学的な見方・考え方 (S)

12726

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人間の歴史の中で、産業革命以後の科学技術の発達は著しく、当初は「科学技術の発達は人間や社会を豊かにする」と信じられていた。しかし、20世紀後半から、この科学技術の急激な発達をもたらす負の側面がさまざまなところで顕在化し、科学技術と人間や社会のあり方を見直す必要が高まった。この授業では、科学技術の発達と現代の環境問題をテーマに、科学的な見方・考え方および科学技術のあり方を考えたい。

この授業では、グループ学習を取り入れている。自分たちで調べ、考えたことをクラスのみみんなの前で発表し、それに対してみんなでディスカッションすることにより、大学生としての学習の仕方を身につけるとともに、自分の頭で考える力を培ってほしい。

授業の詳しい進め方については第1回目の授業で説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・科学的な見方・考え方を身につける。
- ・自分で問題を調べ、考える力をつける。
- ・グループ研究の仕方を身につける。
- ・ディスカッションができるようになる
- ・授業を受け身ではなく、自ら学んだという実感を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	科学的な見方・考え方とは何か、グループ研究の進め方、グループ分けの希望調査	【キーワード】科学的な見方・考え方、人間、環境、社会、グループ研究
第2回	課題研究とは何か、グループ分け、チーム・ミーティング(1回目):研究テーマの相談	【キーワード】課題研究、グループ研究
第3回	課題研究の方法、チーム・ミーティング(2回目):グループ研究の打ち合わせ	【キーワード】課題研究、研究方法、チーム・ミーティング
第4回	研究発表の方法、チーム・ミーティング(3回目):グループ研究の中間報告、発表日程の確定	【キーワード】研究発表、チーム・ミーティング
第5回	講義(公害)、グループ研究発表(1, 2)	【キーワード】公害、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第6回	講義(労災職業病)、グループ研究発表(3, 4)	【キーワード】労災職業病、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第7回	講義(炭じん爆発)、グループ研究発表(5, 6)	【キーワード】炭じん爆発、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第8回	講義(環境行政)、グループ研究発表(7, 8)	【キーワード】環境行政、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第9回	講義(薬害)、グループ研究発表(9, 10)	【キーワード】薬害、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第10回	講義(内部告発)、グループ研究発表(11, 12)	【キーワード】内部告発、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第11回	講義(原子力)7グループ研究発表(13, 14)	【キーワード】原子力、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第12回	講義(エネルギー)、グループ研究発表(15, 16)	【キーワード】エネルギー、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第13回	講義(差別)、グループ研究発表(17, 18)	【キーワード】差別、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第14回	講義(専門家の責任)、グループ研究発表(19, 20)	【キーワード】専門家の責任、グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第15回	講義(今期の授業の総括)、グループ研究発表を振り返って	【キーワード】科学的な見方・考え方、人間

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

グループ研究ではチームワークが重要なので、チーム内では携帯メール等で連絡を取り合いながら進めることが必要である。この授業ではコースツールを活用する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	グループ研究の振り返り。(自分が寄与した役割と、グループ発表の総括)
平常点評価	80 %	グループ発表の評価(50%)、教室およびコースツールでのディスカッション等への参加度(30%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

私は自分の授業を「双方向型の授業」と名付けているが、その意味は、教員と学生の間、さらに同じ授業を受けている受講生同士の間でのコミュニケーションを大切にすることを指している。それはまた同時に、お互いに学びあう関係を作ることであり、自ら主体的に授業に参加することでもある。この授業ではそれをグループ研究を通して達成したいと思う。

発表の授業では受講生に司会進行をやってもらい、Q&Aを活発にしてみんなで作る授業を体得してほしいと願っている。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 環境と人間 公害に学ぶ	木野茂編 / 東京教学社 / 8082-5013-6 / 第6刷(2009.4刊)を使用する。

参考書 / Reference Books

教科書の各章に参考文献を記している。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

skino@fc.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

科学的な見方・考え方 (Z)

54959

担当者名 / Instructor 安岡 高志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

情報化の時代にあっては、知識が豊富であることの価値は徐々に減少し、それに代わって、情報を選択する能力や情報をもとに新しいことを構築する能力が価値を持つようになる。この情報を選択する能力や新しいことを構築する能力は主に次の能力を鍛えることで開発される。第一は自分が何をしたいのか自分を明確に把握する能力である。第二は自分の持っている知識をもとに科学的に判断する能力である。第三は情報を総合する能力である。第一の能力を開発するよい方法は自分の考えていることを文章にしてみることである。第二の能力は疑問を持つことにより、第三の能力は法則性を発見することにより開発される。この授業では科学の歴史的事例を題材として、科学者がどのような疑問を持ち、どのような発想をしたかを紹介する。受講生は日常生活において、疑問に思ったことや発見したことを電子掲示板(BBS)に毎週報告していれば、疑問を持ったり、発見する癖が自然と身に着く。

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式+スクーリング(1回)で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができる。受講にあたっては、ADSL以上のインターネット接続ができるPC環境が必要である。

スクーリングに出席できない場合の課題については別途連絡する。

なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な疑問・発見の書き込みを期待する。他の学生の疑問・発見に積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待する。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は考える習慣が身に付き、無意識の内に何故だろう、こんな法則が潜んでいるのではないかと考えながら生活するようになることである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンスおよび私の発見・発明の紹介	気がついたことは発見、工夫したことは発明、酸素を磁石にくっつける方法
第2回	科学的な見方・考え方とは	再現性、価値観
第3回	質量保存の法則の発見	ラボアジエ、天秤、化学反応
第4回	電子・原子の発見	X線、油滴、イオン、クーロン力
第5回	スクーリング	
第6回	くらしの中の発見・発明	鉛筆、消しゴム、マッチ
第7回	食べ物の発見・発明	チーズ、アイスクリーム、インスタントラーメン
第8回	有機化学の発見・発明	コールタール、染料、プラスチック、ビニール
第9回	医学・薬学の発見・発明	ワクチン、抗生物質
第10回	化学工業の発見・発明	硫酸、織物産業、ダイナマイト
第11回	電気の発見・発明	摩擦電気、電池、発電機
第12回	原子力の発見・発明	核分裂、核融合、ウラン
第13回	エジソン	真空管、蓄音機
第14回	ドクター・中松	フロッピーディスク、CD、DVD
第15回	日常に生かす科学的な見方・考え方	能力開発、癖、習慣、見方・考え方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この授業の目的は授業外(オンデマンド授業)で疑問を抱く習慣をつけることです。したがって、疑問を抱いたことを投稿する(メモを取る)ことが非常に大切です。積極的に受講生同士のディスカッションに参加してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートの評価
平常点評価	50 %	日常的な授業への取り組み状況(特に電子掲示板(BBS)への参加状況)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義自身は科学的な見方や考え方を身につけたり、考える習慣をつけるための刺激であり、自主的に参加しなければあまり意味がありません。

大切なことは意識的に教室外で探したり、考えたりして、いつの間にかそれが習慣づくことです。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発見・発明の大常識	板倉 聖宣 監修 / ポプラ社 / /
化学工業の発明発見物語	大沼 正則 編 / 国土社 / /
エジソン	ニール・ホルドグイン、椿正春訳 / 三田出版会 / /
ドクター・中松の発明ノート	ドクター・中松 / PHP研究所 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 山田 喬彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今や日常の必須生活道具となった携帯電話とインターネット。これらの基本となる技術を入門レベルで講義します。担当者は通信技術に関してNTTで25年間研究・実用化を経験し、また本学で15年間研究を行ってきました。皆さんが当たり前のように使っている携帯電話やインターネットはこの期間に発展を遂げたものです。昨年はボトムアップで基盤技術の解説から始めたことで急に物理現象の説明が入り、文系には難しすぎるのとの意見があったので今年は基本を少し述べ、後は応用からトップダウンで講義を進めます。

到達目標 / Attainment Objectives

インターネットや携帯電話などの現代の通信技術について、その動作原理を入門レベルで理解する。各技術に関して感覚的でなく、数量で理解する。例えば、光(電波)の速度はどれだけで、では高速の通信では情報1ビット(情報の単位)を送り出す時間に光は何mm進めるのか。意外と光は遅いなどと数値で理解するようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

入門的な科目であり、特にないが、科学啓蒙書にも興味を持つようにしてほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コンピュータやデジタル通信で用いる2進数	十進数と2進数、2進数の正負、2進数の加減乗除、大きな数の表し方、2進数の利用(アドレス/データ、論理)、論理回路
2	コンピュータの動作	命令とデータ、命令語、演算回路と制御回路、ジャンプ命令と実行順序、演算結果判定と条件付きジャンプ
3	デジタルとは	アナログとデジタル、アナログ情報のデジタル化、時間的なデジタル化(標本化)、大きさのデジタル化(量子化)、大きさの数値化(符号化)、デジタル情報のアナログ化
4	ネットワークの基礎知識 1	プロトコル、ネットワークの基本構成機能、IPアドレス、MACアドレス、放送型と個別型転送、DNSサービス
5	ネットワークの基礎知識 2	インターネットの通信、サーバ/クライアントモデル、ユーザのインターネット接続法
6	TCP/IPの基本	階層モデル、インターネット層、トランスポート層、TCP通信手順、アプリケーション層
7	TCP/IPの利用	実行対象プログラムを識別するポート番号、IPアドレスいろいろ、サブネットマスク、IPアドレスとMACアドレスの連携、マルチキャストとブロードキャスト、
8	LANとインターネット	LAN内の通信、インターネットの通信、LANとゲートウェイ、ルーティング、NAT、VPN
9	ネットワークサービス1	Webサービス、Webページ、Webサーバとブラウザ、プロキシサービス
10	ネットワークサービス2 メールサービス	日本語文字コード、メール転送の仕掛け、メールを届けるSMTPサービス、メールを受け取るPOPサービス
11	ネットワークセキュリティ	セキュリティとは、ウイルス、ファイアウォール、情報漏洩防止、暗号化技術
12	ネットワークの構築と管理	ネットワーク構成装置、ネットワーク構成図、様々な機器、LANケーブル、冗長化
13	低位レイヤ転送技術、パケット・PCM同期転送	時分割多重、パケット多重、メモリを使った時間交換、同期、メタリックファイバと光ファイバ
14	デジタル変調の基本	変調とは、振幅変調、周波数変調、位相変調、位相変調と+1/-1乗算、復調、周波数分割多重、時分割多重
15	携帯電話(移動通信)システム	ネットワーク構成、セル構成、デジタルとアナログ、マルチパス、通信用チャンネル、基本的な接続手順、ハンドオーバー、位置登録、呼び出し、第2世代、第3世代、CDMAさわり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	毎回のマークシートテストの補充。定期試験も平常点と同様のマークシートテストを行う。

平常点評価テストと同等の問題を全範囲から出す。
平常点が十分でないと考えた人は受験しても良い。

平常点評価 100 % 授業終了前にマークシートで理解度テストを行う。各回100点満点。各回の平均点をとる。本テストを受けた人は定期試験を受ける必要はない。

各回テストと定期試験を行う。片方だけ、または両方を受けても良い。両方受験した場合は良い方を取る。点数はマークシート読み取りで数値化された値である。問題は正誤問題と4択程度の選択問題である。昨年は「授業でやっていない」というクレームがあったが、ある程度の応用問題を含んでいる。授業そのまま、全員が直ちに答えられような問題で、全員をA+とするわけにはいかない。考えて答える必要がある問題が必要なことも理解して頂きたい。答はコースツールに掲示する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

昨年の例では分からない用語が出てくる ということであった。極力気をつけるが、分からない用語はWeb検索で調べることも行ってほしい。また、本授業は実践教育ではない。本授業によってホームページが書けるようになったり、ネットワークの設定ができるようになる訳ではない。なんだ、こういう仕掛けか と手品の種明かしのように通信技術の裏が分かってくるとうれしい。たぶん、ネットワーク知識は最初の敷居が高いだけだと思う。(もちろん専門家にとって、作り出すという段階では遙かに難しいが、..)

教科書 / Textbooks

授業に使うスライドは事前にコースツールにあげておく。ダウンロードして利用してほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ネットワーク基本の知識	増田若奈 / 技術評論社 / 9784774138800 /
とことんやさしいTCP/IPネットワーク	小林峰子 / ソフトバンク / 4797327049 /
ネットワークはなぜつながるのか	戸根勤 / 日経BP社 / 9784822283117 /
新・ネットワーク超入門	日経NETWORK編 / 日経BP社 / 9784822212643 /

4冊どれも入門書である。後の参考書ほど細かい話が出てくる。4-12の授業は1番目の参考書に従って進める。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

分からない言葉はgoo, google, yahooなどの検索システムで自分で検索する習慣を身につけること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

tyamada@se.ritsume.ac.jp

その他 / Others

現代環境論 (SA)

12729

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業革命以降の科学・技術の急速な発達による社会の生産力の発展と人間の経済活動の拡大は、地域的な産業公害から地球規模に至るまでの深刻な環境汚染を引き起こし、人類の生存さえも脅かしつつある。公害・環境問題の解決は、21世紀の現代社会が抱える緊急かつ最重要の課題の1つであり、とりわけ地球温暖化の危機はもはや一刻の猶予も許されず、環境保全型社会への転換が強く求められている。

本講義では、地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態を概説し、その原因・発生メカニズム・影響などを、自然科学と社会科学の両側面から考察する。具体的には、オゾン層破壊、地球温暖化、大気汚染、化学物質汚染、産業公害、廃棄物問題、自然破壊、放射能汚染などの問題について、現代社会や人間活動と関係づけながら論じたい。これらを通して、今日の地球環境問題の克服への課題について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態、その原因・発生メカニズム・影響などを幅広く理解できる。
- ・現代の公害・環境問題が抱えている課題について、自分の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回目)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに - 20世紀の公害・環境問題	本講義の課題、公害問題、環境問題
第2回目	地球と生命の歴史	地球と生命の誕生、超大陸の形成、生物と自然環境の相互作用と進化
第3回目	オゾン層破壊とフロンガス	成層圏オゾン層、南極オゾンホール、紫外線、モントリオール議定書
第4回目	地球温暖化問題(1)	地球温暖化のメカニズム・影響予測・原因、温室効果ガス
第5回目	地球温暖化問題(2)	気候変動枠組条約、京都議定書、気候政策、排出量取引
第6回目	大気汚染と酸性雨	硫酸酸化物、窒素酸化物、環境の酸性化、光化学スモッグ
第7回目	化学物質汚染と環境ホルモン	内分泌攪乱化学物質、ダイオキシン汚染、有機塩素化合物
第8回目	公害問題(1)水俣病	塩化メチル水銀、カーバイド・アセチレン系有機合成工業、石油化政策、水銀による魚介類汚染
第9回目	公害問題(2)イタイイタイ病	カドミウム、発生源対策、まきかえし、未認定患者、カドミウム汚染米
第10回目	廃棄物問題とリサイクル	一般廃棄物、産業廃棄物、廃棄物処理法、豊島産業廃棄物不法投棄事件
第11回目	アスベスト問題とストック公害	中皮腫、クボタ・ショック、複合型ストック公害
第12回目	森林破壊と生物多様性	熱帯林破壊、生物種の絶滅、自然・生物保護
第13回目	放射能汚染と原子力(1)	原子爆弾、放射性物質、核実験、第五福竜丸事件
第14回目	放射能汚染と原子力(2)	原子炉、原子力発電、原発事故、チェルノブイリ
第15回目	まとめ - 21世紀の持続可能な社会への展望	物質代謝、大量生産・大量消費・大量廃棄、環境保全型社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ、ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように努力してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	90 %	講義の理解度、論旨の明瞭度などを評価。
平常点評価	10 %	講義中に随時実施する小レポート(感想・意見・質問)などを評価。いわゆる出席点はなし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

予備知識は特に必要としないが、高校の教科書(物理・化学・生物・地学など)をよく復習しておくこと。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
地球白書(各年版)	クリストファー・フレイヴィン / ワールドウォッチジャパン / /
アジア環境白書(各年版)	日本環境会議 / 東洋経済新報社 / /
環境展望(Vol.1~5)	日本科学者会議公害環境問題研究委員会 / 実教出版 / /
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 / 4422400177 /
日本公害論	加藤邦興 / 青木書店 / 4250770257 /

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

sugimot@ss.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

現代環境論 (SB)

12733

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業革命以降の科学・技術の急速な発達による社会の生産力の発展と人間の経済活動の拡大は、地域的な産業公害から地球規模に至るまでの深刻な環境汚染を引き起こし、人類の生存さえも脅かしつつある。公害・環境問題の解決は、21世紀の現代社会が抱える緊急かつ最重要の課題の1つであり、とりわけ地球温暖化の危機はもはや一刻の猶予も許されず、環境保全型社会への転換が強く求められている。

本講義では、地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態を概説し、その原因・発生メカニズム・影響などを、自然科学と社会科学の両側面から考察する。具体的には、オゾン層破壊、地球温暖化、大気汚染、化学物質汚染、産業公害、廃棄物問題、自然破壊、放射能汚染などの問題について、現代社会や人間活動と関係づけながら論じたい。これらを通して、今日の地球環境問題の克服への課題について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態、その原因・発生メカニズム・影響などを幅広く理解できる。
- ・現代の公害・環境問題が抱えている課題について、自分の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回目)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに - 20世紀の公害・環境問題	本講義の課題、公害問題、環境問題
第2回目	地球と生命の歴史	地球と生命の誕生、超大陸の形成、生物と自然環境の相互作用と進化
第3回目	オゾン層破壊とフロンガス	成層圏オゾン層、南極オゾンホール、紫外線、モントリオール議定書
第4回目	地球温暖化問題(1)	地球温暖化のメカニズム・影響予測・原因、温室効果ガス
第5回目	地球温暖化問題(2)	気候変動枠組条約、京都議定書、気候政策、排出量取引
第6回目	大気汚染と酸性雨	硫酸酸化物、窒素酸化物、環境の酸性化、光化学スモッグ
第7回目	化学物質汚染と環境ホルモン	内分泌攪乱化学物質、ダイオキシン汚染、有機塩素化合物
第8回目	公害問題(1)水俣病	塩化メチル水銀、カーバイド・アセチレン系有機合成工業、石油化政策、水銀による魚介類汚染
第9回目	公害問題(2)イタイイタイ病	カドミウム、発生源対策、まきかえし、未認定患者、カドミウム汚染米
第10回目	廃棄物問題とリサイクル	一般廃棄物、産業廃棄物、廃棄物処理法、豊島産業廃棄物不法投棄事件
第11回目	アスベスト問題とストック公害	中皮腫、クボタ・ショック、複合型ストック公害
第12回目	森林破壊と生物多様性	熱帯林破壊、生物種の絶滅、自然・生物保護
第13回目	放射能汚染と原子力(1)	原子爆弾、放射性物質、核実験、第五福竜丸事件
第14回目	放射能汚染と原子力(2)	原子炉、原子力発電、原発事故、チェルノブイリ
第15回目	まとめ - 21世紀の持続可能な社会への展望	物質代謝、大量生産・大量消費・大量廃棄、環境保全型社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ、ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように努力してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	90 %	講義の理解度、論旨の明瞭度などを評価。
平常点評価	10 %	講義中に随時実施する小レポート(感想・意見・質問)などを評価。いわゆる出席点はなし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

予備知識は特に必要としないが、高校の教科書(物理・化学・生物・地学など)をよく復習しておくこと。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
地球白書(各年版)	クリストファー・フレイヴィン / ワールドウォッチジャパン / /
アジア環境白書(各年版)	日本環境会議 / 東洋経済新報社 / /
環境展望(Vol.1~5)	日本科学者会議公害環境問題研究委員会 / 実教出版 / /
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 / 4422400177 /
日本公害論	加藤邦興 / 青木書店 / 4250770257 /

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

sugimot@ss.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

2005年にアスベスト・パニックともいべき社会問題が突然起こった。2006年は水俣病公式発見から50年目の年であったが、いまだに水俣病問題は終わっていない。有害物質による環境汚染の問題はかつて「公害」として世に知られたが、今や地球環境問題にまで広がっている。

この授業では具体的な事例として、アスベスト、水俣病、薬害エイズ、原子力問題などを取り上げ、それらのトピックスを通して環境問題の中に潜む本質とは何かを考える。

さらに私たちが今後環境問題にどう対応すればよいのかを考えるため、環境問題と日々取り組んでおられる被害者や専門家の当事者の方々にゲストに招き、直接話をさせていただく機会を設ける。

この授業では環境問題の知識を得るだけでなく、環境問題を通して自分で考える能力を磨くことが目的である。講義はそのためのヒントであり、あなた方への問いかけであり、問題提起である。講義を聞いて終わりではなく、始まりであると捉えてほしい。BBS(電子掲示板)でのディスカッションや、レポートもそのつもりで取り組んでほしい。

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式とスクーリング(1回)で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができるが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進める必要がある。

受講にあたっては、ADSL以上のインターネット接続ができるPC環境が必要である。

オンデマンド授業については下記ページを参照すること。ページからはガイダンス動画を見ることもできる。登録前に必ず視聴すること。

URL: <http://www.ritsumei.ac.jp/ondemand/2010/pre-guide-2010gendai.html>

授業スケジュールは下記ページで確認すること。

URL: <http://www.ritsumei.ac.jp/ondemand/2010/2010gendaisch.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ 環境問題とは何かを理解する。
- ・ 自分で問題を見つけ、自分で調べる力をつける。
- ・ 調べたことの受け売りではなく、自分で考える力をつける。
- ・ レポートをまとめる力をつける。
- ・ 授業を受け身ではなく、自ら学んだという実感を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。大学生なら、わからないことはちょっと自分で調べれば大体は理解できるはずである。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス、水俣病事件から学ぶ (公害認定までの長い道のり)	環境汚染、メチル水銀、食物連鎖、水俣病、公害認定
第2回	水俣病事件から学ぶ (被害者の救済と公害の責任)	見舞金契約、被害者救済、加害責任、認定制度、解決策
第3回	公害と労災職業病 (ある町工場のマンガン中毒事件から)	町工場、マンガン中毒、公害と労働者、労働安全衛生、不作為
第4回	公害と労災職業病 (アスベスト・パニックから)	アスベスト、粉じん、潜伏期間、補償と救済
第5回	スクーリング 日程はスケジュールで確認してください。	オンデマンド授業、公害、環境問題、現代環境論
第6回	薬害から学ぶ (薬害エイズは今…被害者の花井十伍さんに聞く)	薬害、血友病、血液製剤、薬害エイズ、告知、エイズパニック、HIV訴訟
第7回	薬害から学ぶ (薬害を未然に防いだ製薬労働者:北野静雄さんに聞く)	新薬、薬害、大鵬薬品、ダニロン、マイルーラ、データ不正、労働組合
第8回	原子力とエネルギー (原子力の光と影 - 原子力は夢のエネルギーだったか)	原子力、原水爆、原子力発電、事故、被曝、原発労働者
第9回	原子力とエネルギー (プルトニウムと私たち:アイリーン・スミスさんに聞く)	プルトニウム、高速増殖炉、もんじゅ、プルサーマル、エネルギー政策、核拡散
第10回	原子力とエネルギー (エネルギーと人間:京大原子炉の小出裕章さんに聞く)	石油、原発、核廃物、エネルギー浪費、不平等、差別
第11回	公害環境問題と差別(公害や環境問題でも差別の問題は避けて通れない)	公害患者への差別、ニセ患者問題、胎児障害、公害と障害、障害者差別、優生思想
第12回	公害環境問題と行政(自治体の現場から:高槻市議員の二木洋子さんに聞く)	環境行政、環境アセスメント、バイオハザード、住民、環境自治体
第13回	公害環境問題と専門家(水俣病と三池炭じん爆発から:熊本学園大の原田正純さんに聞く)	三池炭鉱、炭じん爆発、CO中毒、後遺症、水俣病、胎児性、専門家の責任

第14回	公害環境問題と私たち(さまざまな専門家の役割を問う。では私たちは?)	原因究明、被害者救済、専門家、良心、責任、私たち
第15回	現代環境論とは?	現代環境論、大学教育

**学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods**

- ・第1～第2回目:教科書のはしがき、あとがき、第1章を読んでくる。
- ・第3回目:教科書の第2章を読んでくる。
- ・第4回目:アスベストに関する記事やWebを読んでくる。
- ・第5回目:教科書の第5章を読んでくる。
- ・第7回目:教科書の第6章を読んでくる。
- ・第8回目:教科書の第7章を読んでくる。
- ・第9回目:教科書の第8章を読んでくる。
- ・第10回目:教科書の第9章を読んでくる。
- ・第11回目:教科書の第10章を読んでくる。
- ・第12回目:教科書の第4章を読んでくる。
- ・第13回目:教科書の第3章を読んでくる。
- ・第14回目:教科書の第11章を読んでくる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	定期試験は行わない。
レポート試験	50 %	最終レポート(50%)は「環境と人間」の範疇に入るものであれば、テーマは自由。調べたことをまとめるだけでなく、自分で何かをつかんだと認められるものを高く評価する。分量は2000字以上。ただし、多ければよいというものではなく、内容がともなっていることが必要である。
平常点評価	50 %	最終レポート以外に、授業コンテンツの視聴確認テスト(5%)、理解度確認小テスト(15%)、指定課題の小レポート(2回、各500字程度、各5%)の日常学習の評価が計30%である。さらに、オンデマンド授業ならではの電子掲示板(BBS)への読み書き参加状況への評価が20%である。この授業では講義を聞くだけで終わらず、講義を題材に自分の頭で考え、それをみんなと意見交換することを重視している。講義を聞いて考えたことをスレッドに立て、それに対してみんなで意見を交換し合うのであるが、これによって同じ講義を聞いても人によって受け止め方がいかに違うかを知ることができる。お互いの違いを知った上で、自分の考えをまとめる力をつけてもらうことが目的である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業外学習で記したように、該当する章を講義の前に読んでくること。教科書を読んでいることを前提にして講義を行う。
また、この授業ではBBSを使って受講生の授業への積極的な参加を求める。同じ講義を聞いても人によって受け止め方がいかに違うかを知ることが自分で考えるための第一歩である。BBSの書き込みに対しては主として教育コーチ(山中由紀氏)が対応する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 環境と人間 公害に学ぶ	木野茂編 / 東京教学社 / 8082-5013-6 / 第6刷(2009.4刊)を使用する。

参考書 / Reference Books

教科書の各章に参考文献を記している。
必要に応じて授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

現代人とヘルスケア (SA)

12731

担当者名 / Instructor 空閑 佐智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

様々な健康情報・健康問題が取り巻く現代で、「健康に生きる」ということはどういうことなのか、また、これからますます進む高齢化社会とどのように向き合っていくのか、などについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な健康情報・健康問題を知り、「健康」について自分の考えを持つ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	健康ってなんだろう？	平均寿命・死亡率
2	食べることについて(栄養素)	栄養・三大栄養素
3	食べることについて(栄養素)	ビタミン・ミネラル・食物繊維
4	食べることについて(食生活)	食事摂取基準・食事評価・外食
5	運動について	運動の効果・身体活動量
6	メタボリックシンドローム	診断基準
7	肥満	体脂肪・減量
8	生活習慣病	高血圧
9	生活習慣病	糖尿病
10	生活習慣病	骨粗しょう症
11	タバコ	有害物質・依存症・禁煙
12	アルコール	代謝・パッチテスト
13	健康食品	保健機能食品
14	食品表示	強調表示
15	これからの高齢社会	高齢化率・認知症

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代人とヘルスケア (SB)

15388

担当者名 / Instructor 空閑 佐智子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

様々な健康情報・健康問題が取り巻く現代で、「健康に生きる」ということはどういうことなのか、また、これからますます進む高齢化社会とどのように向き合っていくのか、などについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な健康情報・健康問題を知り、「健康」について自分の考えを持つ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	健康ってなんだろう？	平均寿命・死亡率
2	食べることについて(栄養素)	栄養・三大栄養素
3	食べることについて(栄養素)	ビタミン・ミネラル・食物繊維
4	食べることについて(食生活)	食事摂取基準・食事評価・外食
5	運動について	運動の効果・身体活動量
6	メタボリックシンドローム	診断基準
7	肥満	体脂肪・減量
8	生活習慣病	高血圧
9	生活習慣病	糖尿病
10	生活習慣病	骨粗しょう症
11	タバコ	有害物質・依存症・禁煙
12	アルコール	代謝・パッチテスト
13	健康食品	保健機能食品
14	食品表示	強調表示
15	これからの高齢社会	高齢化率・認知症

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

自然と進化 (S)

15385

担当者名 / Instructor 本郷 儀人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目標は、生物進化つまり自然淘汰の基本的な仕組みの理解。さらに動物にみられる様々な不思議かつ多様な行動や形態を、自然淘汰の観点から説明することができるということを理解することである。

到達目標 / Attainment Objectives

生物進化の基本的なしくみ、自然淘汰によるプロセスを学ぶ
動物の行動や形態などを、進化的にとらえ、いかによくなっているのかを理解してもらいたい

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業内容、進め方、ダーウィンについてなど
2	自然淘汰と進化1	ダーウィン、進化の基本プロセス、行動生態学、適応度
3	自然淘汰と進化2 -進化は観察できる！なぜそんな行動が進化するのか？進化の実例-	アノールトカゲ、ライオン、子殺し
4	自然淘汰と進化3 -「種の利益のために」はあり得るか？-	ライオン、ハヌマンラングール
5	群れ生活の進化 -群れていることは有利、不利？-	警戒性、うすめの効果、防衛効果
6	最適戦略 -あまりにも良くできている動物たち-	最適採餌戦略
7	性淘汰 -どんな雄がもてる？どんな雄が強い？-	同性内淘汰、異性間淘汰
8	性淘汰2 -多様で面白い雄の求愛-	求愛行動、配偶者選択
9	代替戦略 -弱い雄はどうするか？-	行動の多型、形態の多型
10	信号の進化 -様々なコミュニケーション-	化学的、触覚的、聴覚的、視覚的信号
11	共進化と軍拡競争	捕食者、餌生物、隠ぺい色、警告色、托卵
12	動物の闘争	儀式的闘争、ゲーム理論
13	血縁淘汰	包括適応度、社会性、利他行動、血縁度
14	まとめ1 質問回答編	鋭い質問や面白い質問をとりあげる
15	まとめ2	全体の復習、総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

あなたの身近にいる動物の不思議な現象をみてみよう！
面白い行動や形態をしている動物がたくさんいるはず。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
レポート試験	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義内容を覚えるのではなく、理解することを心がけて下さい。
当然、理解できていないと試験で良い点はとれません。

教科書 / Textbooks

特に指定しない

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
進化とはなんだろうか	長谷川真理子 / 岩波ジュニア新書 / ISBN4-00-500323-0 /
動物の社会	伊藤嘉昭 / 東海大学出版 / 4-486-01259-3 C3045 /
クジャクの雄はなぜ美しい？	長谷川真理子 / 紀伊国屋書店 / 4-314-00574-2 C0340 /

全て強制ではない(買う必要はない)
が、とても面白いので一読の価値アリ！

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

なし

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

本郷儀人

yoshihon@ethol.zool.kyoto-u.ac.jp

その他 / Others

自然人類学 (S)

12728

担当者名 / Instructor 足立 薫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

私たち人間が生物としてどのような特徴をもち、同種や他種の生物との間にどのような関係を結びつつ生きているのかを考える。人間に近縁な霊長類の行動や生態への理解から、人類進化を解明する方法を紹介し、さまざまな人間らしさの起源を探ることを目標とする。

到達目標 / Attainment Objectives

進化論の基本を知り、進化のしくみを理解する。人間の特徴を他の動物と比較して論じることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	人類学 動物 環境 「人間とは何か」
2	霊長類とは何か	生物の分類 分布 社会構造
3	サルと類人猿	近縁種 分岐分類 動物の権利
4, 5	進化論とは何か	自然選択 ダーウィン 総合説 進化心理学
6, 7	人類の起源と進化(1)	直立二足歩行 アウストラロピテクス 脳の進化
8	人類の起源と進化(2)	ホモ・エレクトス アウト・オブ・アフリカ 更新世
9	人類の起源と進化(3)	現代人の起源 ネアンデルタール
10	行動学と進化	行動の機能 血縁度 包括適応度
11	繁殖と性	性淘汰 配偶者選択 性差 家族の起源
12	道具使用と文化	行動の社会的伝達 類人猿の道具使用 伝統
13	言語の起源	霊長類の音声 類人猿の言語研究
14	コミュニケーションと進化	社会構造 システム理論 ニッチ構築
15	人間の社会	狩猟採集民 文化 宗教

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	論述形式
平常点評価	50 %	レポート、小テスト、レスポンスペーパーなど
定期試験に日常点を加味して、総合的に評価する		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生物学の予備知識は特に必要としないが、講義で示されるトピックをもとに、「人間とは何か」について、論理的に深く考えることが求められる。講義に関する諸注意の伝達にWebCTを使用するので、各自でアクセスできるようにしておくこと。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。講義中に資料プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

講義中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都大学理学部人類進化論研究室 <http://jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp/>
 京都大学霊長類研究所 <http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageInns.dowebct>

その他 / Others

講義の進展状況によって授業内容・スケジュールは変更の可能性があるので、WebCTなどのお知らせをチェックすること

生物の多様性 (S)

12789

担当者名 / Instructor 佐藤 路子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

地球上には海洋、森林、高山、砂漠など様々な環境が存在し、それぞれに適応した様々な生物が生息している。そして、同じ環境に生息している生物であっても、生活を営む方法は種それぞれで違っている。本講義では様々な生物やその営みを紹介し、なぜたくさんの種類の生物がいるのか、どうやって様々な生活の営みが作り上げられてきたのか、その多様性はどのように維持されているのかについて、進化的な側面を交えながら、環境と生物の関係および生物間関係に着目して解説する。また近年の生物多様性の危機や環境保全についても解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・動物や植物の生態や進化のメカニズムについて説明ができる
- ・環境保全についての基礎を修得する
- ・生物に関連する社会問題の情報を得て、対策を考える

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理解を深めるために「自然と進化」を合わせて受講されることをおすすめします。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業内容の紹介・受講のルール・評価方法について	
第2回	生物多様性の概念と階層性	個体、個体群、群集、形質、変異、多型
第3回	種多様性と種の形成 その1	種概念、分類、種の表記法
第4回	種多様性と種の形成 その2	進化、自然淘汰
第5回	種多様性と種の形成 その3	進化、性淘汰
第6回	種多様性と種の形成 その4	種分化のしくみ、生殖隔離機構、適応放散
第7回	環境と生物の関係・生物間関係 その1	生態系のしくみ、無機的環境と生物の関係
第8回	環境と生物の関係・生物間関係 その2	生物間相互作用、食う・食われるの関係、軍拡競争
第9回	環境と生物の関係・生物間 その3	相利共生、寄生、共進化、競争
第10回	生物多様性の重要性和現状	絶滅のパターン、生物多様性の価値、生態系サービス
第11回	生物多様性の保全 その1	生息地の破壊、分断化
第12回	生物多様性の保全 その2	環境汚染、環境ホルモン、地球温暖化
第13回	生物多様性の保全 その3	移入種、外来種、交雑
第14回	生物多様性の保全 その4	乱獲、病気、遺伝的変異の減少
第15回	各講義テーマのおさらい、練習問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的な語句や概念を理解しているか、現象の原理が説明できるかを評価する。応用力も問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・普段から新聞の科学欄を読んだり、自然科学系のテレビ番組(NHK「ダーウィンが来た」等)を見たりして、生き物に対する意識を高めておくとよいでしょう。
- ・講義にて配布済みのレジュメはWebCTでダウンロードできます。

教科書 / Textbooks

購入する教科書は特にありません。毎回プリントやビデオなどで解説します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生態学入門	日本生態学会 / 東京化学同人 / 4807905988 / 第1-9回に関連
生き物の進化ゲーム	酒井聡樹・高田壮則・近雅博 / 共立出版 / 4320055225 / 第4-5回に関連
保全生物学のすすめ	リチャードB.プリマック・小堀洋美 / 文一総合出版 / 4829921161 / 第10-14回に関連

他に参考になる図書があれば、授業で適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で適宜紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレス : mst23395@pl.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

生命科学と倫理 (S)

12882

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

生命科学と先端医療の急激な発達により、「生・老・病・死」の諸相は大きく変容しようとしている。本講座では、生命倫理の問題群の倫理的・法的・社会的な問題を考えるが、とくに先端医療の発達と「生命のはじまり」をめぐる生命倫理問題に焦点を当て、そこから考察を進展させる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・生命科学と倫理をめぐる現代的課題を検討し、初歩的な調査ができる。
- ・一市民としてどのように問題を理解し対処すべきか、判断するための基盤を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション / 授業の概要と解説	
2	近未来における生と死～映画『ガタカ』視聴	
3	近未来における生と死～映画『ガタカ』より論点抽出	
4	遺伝子決定時代の到来?～ポスト・ゲノム時代の「生・老・病・死」	
5	人工生殖技術の現在(1) 生殖技術の歴史	
6	人工生殖技術の現在(2) 生殖技術の現状	
7	ベビーM事件	
8	代理出産契約の是非 / 親権・養育権	
9	代理母契約の背景	
10	分裂する父性・分裂する母性	
11	出生前診断の波紋	
12	優生学と新優生学	
13	再生医療と人体の資源化	
14	治療を超える?	
15	まとめ: 生殖技術が問いかけるもの	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

生命科学と生命倫理に関連する問題は、ドキュメンタリーや新聞などで日常的に話題になる。また、医療問題をとりあげた映画やTVドラマも多い。複眼的な視点で活用し、自らの問題意識を深める機会にしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点評価	50 %	出席の他、授業終了後に、毎回、コミュニケーション・ペーパーの提出を求める。
一定以上の出席が無い場合、評価対象としない		
授業中の私語、途中入退中は厳禁します		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	///

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生命倫理とは何か	市野川容孝編 / 平凡社 / /
テーマ30 生命倫理	生命倫理教育研究協議会 / 教育出版 / /
他に、参考となる文献や情報については、授業中に適宜プリントほかで配布、紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

地球科学 (S)

12765

担当者名 / Instructor 桂 郁雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

地球変動学

地球表層で生起しているさまざまな変動についてプレートテクトニクスを基礎として理解することを目指す。
はじめに地球についての全体像を解説するほか、現在の地球表層の自然環境がどのように変化して出来上がってきたかを概観する。その後、プレート同士の相互運動により、プレート境界周辺で集中的にさまざまな変動が起きることを学ぶ。
とくに日本列島とその周辺は、世界的に見てもプレート境界で起こる諸現象、すなわち変動がとくに集中しているところである。そこで日本列島の形成と現在生起している変動の特徴についても学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

地球の全体像と共に、地球の各部分が相互に関連して全体が成り立っていることを理解し、説明できる。
地球科学の特殊性を理解すると共に、物理や化学といった面から地球を理解し、説明できる。
地球科学全般にわたる基本的な知識、考え方を習得し、説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに - 地球システムについて	岩石圏、地殻、マントル、核、プレート、水圏、大気圏、磁気圏、生物圏
2	地球と太陽系の誕生と進化	原始太陽系星雲、微惑星、衝突クレーター、潮汐力、成層構造
3	地球表層環境の進化	海、生命の起源、生物進化、酸化的大気、光合成、太陽定数、熱平衡、温室効果、気候変動
4	地球のかたちと重力場	回転楕円体、水平、ジオイド、重力
5	地震波でわかってきた地球の内部構造	地震波、P波、S波、地震波の反射と屈折、走時曲線、地殻、マントル、中心核
6	地球の構成物質 - 元素・鉱物・岩石	元素、鉱物、岩石
7	地震と火山の発生するところ	地震活動、火山活動、大地形、海底地形
8	プレートの概念と球面を動くプレートの運動	大陸移動、海底拡大、海底更新、球面プレート、プレート境界、プレュームテクトニクス
9	地球の磁場 - 現在と過去	地磁気、偏角、伏角、地心磁気双極子、古地磁気、岩石磁気、地磁気の逆転
10	プレート運動の推定 - 岩石・地層に記された昔の地球磁場の記録	古地磁気、地磁気の逆転、見かけの古地磁気極の移動
11	岩石・地層の年代測定	相対年代、古生物の進化、生層序による年代区分、放射性元素、放射崩壊、放射年代決定
12	プレート境界に働く力 - 地震の発生メカニズム	応力分布、プレート運動、地震波初動、地震発生のメカニズム、断層の型
13	プレート境界で起こる変動	発散境界、収束境界、すれ違い境界、地震活動、火山活動、マグマの発生
14	日本列島のテクトニクス	沈み込み、島弧、圧縮場、活断層、地震活動、海溝型巨大地震、内陸直下型地震、火山活動
15	日本列島の形成	沈み込み、島弧、付加体、背弧海盆

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

参考書等による復習が必要。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的な事項の理解とその応用を問う。原則として論述問題を主に課す。
授業では時間の都合で扱いきれなかったトピック的なテーマについてショートレポートを課すことがある。原則として定期試験だけで成績評価をするが、もしレポートを課した場合は、20%を目安としてレポート点とし、定期試験との合計で100%とする。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

高校地学の知識は要しない。数学・物理・化学等の知識があったほうが多少は有利であるが、必須ではない。
授業の理解には毎回の積み上げが大事である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
使用しない。	/ / /

次の2つ(部分)は便利な参考書である。
 ニューステージ新訂地学図表 浜島書店編集部編著 浜島書店 4-8343-4007-4 役に立つ図表集。
 理科年表 平成22年版 国立天文台編 丸善 978-4-621-08190-7 データブック。一部が参考になる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説地球科学	杉村新・他編 / 岩波書店 / 4-00-005669-7 / 講義内容全般に関連する基本事項を調べるのに便利な参考書
地球科学入門 - プレートテクトニクス	河野長 / 岩波書店 / 4-00-005667-0 / 講義内容全般に関連する教科書風の参考書
グローバルテクトニクス	杉村新 / 東京大学出版会 / 4-13-062116-5 / 講義内容全般に関連するやや高度な教科書風の参考書
地球学入門 惑星地球と大気・海洋のシステム	酒井治孝 / 東海大学出版会 / 4-486-01615-7 / 講義内容全般に関連する教科書風の参考書
惑星科学入門	松井孝典 / 講談社学術文庫 / 4-06-159222-X / 講義内容の一部に関連する参考書

その他、講義内容の一部に関連する参考書

安藤雅孝・吉井敏尅「地震 - 理科年表読本」(丸善, 1993)4-621-03831-1
 藤田和夫「変動する日本列島」(岩波新書, 1985)4-00-420306-6(絶版?)
 松田時彦「活断層」(岩波新書, 1995)4-00-430423-7
 平朝彦「日本列島の誕生」(岩波新書, 1990)4-00-430148-3
 Kenneth J. Hsu 高柳洋吉訳「地球科学に革命を起こした船 - グローマーチャレンジャー号」(東海大学出版会, 1999)4-486-01460-X
 土木学会関西支部編「地盤の科学 地面の下をのぞいてみると・・・」(講談社ブルーバックス, 1995)4-06-257088-2
 池田安隆・他「活断層とは何か」(東京大学出版会, 1996)4-13-063309-0
 寒川旭「地震考古学 遺跡が語る地震の歴史」(中公新書, 1992)4-12-101096-5
 上田誠也「プレートテクトニクス」(岩波書店, 1989)4-00-005929-7
 瀬野徹三「プレートテクトニクスの基礎」(朝倉書店, 1995)4-254-16029-1
 寒川旭「地震の日本史 大地は何を語るのか」(中公新書, 2007)978-4-12-101922-6

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国土地理院、気象庁、産業技術総合研究所地質調査総合センター、防災科学技術研究所、USGSなどのホームページ

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することができます。
<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

情報の数理 (GA)

15409

担当者名 / Instructor 福本 善洋

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ものの集まりである集合の表記法から始め、ものとの間の関係や対応付けをグラフで表現するための基礎を学ぶ。さらに、道路交通網、通信ネットワークをはじめとしたネットワークを数学的にモデル化したグラフ・ネットワークを対象とし、グラフの連結性、最短路問題、最大流量問題の解析の基礎を扱う。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークにまつわる具体的な問題を抽象的なグラフの問題として表現し、最適な解を求めるための基礎を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校における数学 , , A, Bを理解していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	グラフ・ネットワークの話	一筆書きの問題、最短路問題
2-3	集合	要素、集合、集合の演算
4-5	関係とグラフ	順序対、直積、関係、グラフ、逆関係、関係の演算
6-7	関係の性質	反射性、対称性、推移性、順序関係、同値関係
8-9	対応付けと関数	対応付け、関数、逆関数、合成関数
10-11	オイラー・グラフ	グラフ、接続関係、頂点の次数、連結性、オイラー小道
12-13	最短路問題	路の長さ、最短路問題、最適性の原理、ダイクストラ法、最短路木
14-15	最大流量問題	流れ、容量、流量、最大流量問題、カット、増大路法、残余回路網

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

板書、および配付資料による。授業後は、ノートや配付資料をみて、できるだけ自分で手を動かして理解するように。わからないときは、参考書で調べたり、質問をするようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	具体的な問題に対し、諸概念を正しく用いて解くことができるかを評価する。
平常点評価	40 %	諸概念を体系的に捉え、具体的な問題の解法を正しく説明できるかを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

概念を理解し記号を正しく用いるようにしましょう。そして、具体的な問題を抽象化し、実際に応用できるようになることが大切です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
コンピュータサイエンスのための離散数学入門	C.L.Liu (成嶋弘, 秋山仁 共訳) / オーム社出版局 / 4-274-13007-X /
岩波講座インターネット第5巻 ネットワーク設計理論	滝根哲哉, 伊藤大雄, 西尾章治郎 / 岩波書店 / 4-00-011055-1 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

車のCMを見ていて、車のホイールが、進行方向とは逆に回転しているのを見たことはないだろうか。これは、アナログからデジタルに変換する過程で起こる、情報の欠落によるのであるが、おわかりだろうか。

また、人間の未来は、多くの可能性を秘めており、不確実であるが故に、可能性を過大に評価していないだろうか。我々人類が得ることのできる知識の限界や、量をはかり、提示することはできるのであるか。

コンピュータを利用した技術は、日進月歩の進展を見せており、人工知能や人工生命あるいはロボットなど、情報に関わる技術は、映画「2001年宇宙の旅」や「マトリックス」のように、人類を脅かすものとなっていくのだろうか。コンピュータの能力は人間の能力に匹敵するものなのだろうか。このような答えの一端をこの授業で明らかにしていく。

到達目標 / Attainment Objectives

情報化とはどのようなことか。また、情報化の進んでいく方向を見極める目を養うことを目的とし、情報処理のメカニズムについて理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	情報科学で扱うこと	情報 表現 処理 アナログとデジタル 連続と離散
2	情報概念出現の歴史的背景と科学的背景	物質 エネルギー 情報 汎用化
3	情報とネット社会の現状	世界的盗聴システム エシロン 情報の表現と人類の限界 情報公開とプライバシー保護
4	情報の表現をどのようにするか	符号化と復号化 暗号 個人認証
5	最適な情報の表現について考える	コンパクト符号 ハフマンの符号化法 情報の圧縮
6	情報の価値を科学的に量るために	情報量 エントロピー 生起確率
7	情報量を求めてみる	TV 光の三原色 DVD CD サイコロ
8	機械的情報処理のメカニズム	人工生命 複雑系 オートマン セルオートマン
9	オートマンによる情報処理の表現	状態図 オートマンによる認識 形式言語
10	生物の情報処理のメカニズムを真似て	脳 マカロックとピッツ 神経回路網 人工知能 生物知能 自動機械
11	コンピュータの原理を考える	チューリングマシン コンピュータ
12	人間と計算機の情報処理能力の比較	チューリングテスト ゲーデル
13	人間とコンピュータの情報処理能力を比較する2	人間の能力 計算機の能力
14	人間とコンピュータの情報処理能力を比較する3	クリーニーの定理
15	授業で扱った内容の関係について整理	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

積み上げ式なので、授業を遅れたり休んだりすると理解しにくい。また、問題には積極的にチャレンジして欲しい。授業を毎回まじめに聞くことが重要。教科書に沿って授業を行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	
平常点評価	0 %	随時、問題を解いてもらう。正解は加点をする。
授業の進行に従って、問題を出題し、正解が出れば加点する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報学概論・Prologプログラミング	吉田要 / 八千代出版 / 4-8429-0874-2 / 生協書籍部にて

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

情報技術と社会 (S)

12764

担当者名 / Instructor 杉本 英昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会は急速に情報化社会に移行している。すなわち、大量生産による効率向上を目指した社会から、個性化重視の情報化社会に移りつつある。

本科目では、情報化社会を支える情報技術について学ぶとともに、情報技術によって人々の社会生活がどのように変わってきているのかを、具体的な例をあげて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1.情報社会を支えるコンピュータおよびネットワークの基本的な仕組みを理解し、説明できる。
- 2.情報技術を活用した製品やサービスが社会に与える影響について理解し、説明できる。
- 3.情報社会の進展にともなう課題とその対策について理解し、説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報処理、情報リテラシーの技術を身につけているとより理解が深まるが、本科目を履修する上においては必須ではない。レポートの提出に利用する予定であるWebCT等の詳細な使い方は授業の中で説明する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入(授業の進め方、評価方法、WebCTについて)、情報技術とは	IT、ICT
第2回	ハードウェアの基礎	コンピュータの歴史、コンピュータの5大装置
第3回	ソフトウェアの基礎	基本ソフトウェア、応用ソフトウェア
第4回	ネットワークの基礎とその活用(1)	インターネット、World Wide Web、プロトコル、TCP/IP
第5回	ネットワークの基礎とその活用(2)	パケット、IPアドレス、ドメイン、DNS、ルーティング
第6回	ネットワークの基礎とその活用(3)	ソーシャルメディア、CGM
第7回	ネットワークの基礎とその活用(4)	ソーシャルメディア、CGM
第8回	中間のまとめ	これまでのまとめと、レポート課題の出題
第9回	情報技術とセキュリティ	個人情報保護、コンピュータウイルス
第10回	ICタグ	RFID、ICタグ、ICカード
第11回	広告分野における情報技術の活用	インターネット広告、デジタルサイネージ
第12回	行政における情報技術の活用	電子政府、電子自治体、電子投票
第13回	医療分野における情報技術の活用	CTスキャナ、MRI、病院情報システム、電子カルテ
第14回	情報技術と倫理	情報倫理、著作権、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス
第15回	最新の技術動向とまとめ	授業で取り上げたテーマのまとめと最新の技術動向について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業を受講する前に閲覧・利用が望まれるWebサイト等がある場合は、事前に指示する。

授業の内容を復習するとともに、授業で紹介したWebサイトやサービスを、マルチメディアルーム等で可能な限り実際に利用して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	75 %	(1)授業で説明した情報技術やそれらを用いた製品・サービスの基本的な知識を問う。 (2)授業で説明した情報技術を用いた製品・サービスが社会に与える影響(長所、短所、問題点など)について説明できるかを問う。
平常点評価	25 %	(1)与えたテーマ(課題)について実際のWebサービス等を利用し、その長所・短所や問題点の指摘および改善のための提言ができていくかを問うレポートを課す。(課題内容は第8回の授業中に説明する。WebCTを使って提出を受け付ける予定である)[15%] (2)授業中の発表等、授業への参加を考慮する[10%]

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「参考になるWWWページ」で紹介している情報技術に関するニュースサイトを閲覧するなどして、日頃から情報技術に関するニュースに関心を持って欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

授業中に適宜プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報科学概論 第3版	小松原 実 / ムイスリ出版 / 978-4896411577 / 情報技術の基礎から応用まで、わかりやすく丁寧に説明されている。
自分のペースでゆったり学ぶ TCP/IP 改訂新版	網野 衛二 / 技術評論社 / 978-4774140254 / ネットワークの基礎について物語形式でわかりやすく解説している。
ソーシャル・ウェブ入門 Google, mixi, ブログ 新しいWeb世界の歩き方	滑川 海彦 / 技術評論社 / 978-4774130811 / ソーシャルメディア(ブログ, Wiki, SNSなど)に関する参考書。単なるサービスとしてではなく、人と人をつなぐメディアという面からアプローチしている。(2007年5月発行であり、当時のサービスを例として挙げて説明しているが、その内容は現在主流のサービスにも通ずる点が多い)

上記のほかにも、授業中に適宜、参考文献を紹介する予定である。
授業で取り扱う各テーマについて、さらに詳しく知りたい人はぜひ読んでほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日経BP記事検索サービス : <http://bizboard.nikkeibp.co.jp/daigaku/>
(日経BP社発行雑誌のバックナンバーの全文記事検索サービス。授業内容に関連した記事を紹介するので利用して欲しい)

[情報技術に関するニュースサイト]

IT media ニュース : <http://www.itmedia.co.jp/news/>

CNET Japan : <http://japan.cnet.com/>

ITpro : <http://itpro.nikkeibp.co.jp/>

[情報技術の用語辞典サイト]

IT用語辞典 e-Words : <http://e-words.jp/>

上記サイトの他にも、参考になるWebサイトやWebページ(記事)を授業の中で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業終了後教室にて。また、WebCTの電子掲示板にて質問を受け付ける。

その他 / Others

数理の世界 (GA)

15153

担当者名 / Instructor 福本 善洋

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

物事の定量的な考察に必要な数学の基礎を身近な具体例から学んでいく。0の発見にはじまり、円錐曲線と惑星の軌道、情報と計算機の発熱、結晶群とエッシャーの絵など、真理の探求と応用において発展してきた数学の世界と社会や芸術との接点を調べてみる。

到達目標 / Attainment Objectives

定規やコンパスを用いた作図や多面体の作成など、実際に手を動かしながら、結論よりもそれまで過程を丁寧に考えていくことにより、様々な問題に対する応用力を身に付けることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高校における数学 , , A, Bを理解していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	0の発見	自然数、0、負の数
2回	単位と測定	有理数、測定、誤差
3回	定規とコンパスによる作図	公理、公準、命題、ユークリッド幾何学
4回	自然界や芸術に潜む黄金比	黄金比、フィボナッチ数列、無理数
5回	つるかめ算	変数と方程式、関数とグラフ
6回	三角測量	三角比、円周率、三角関数
7回	惑星の軌道と円錐	デカルト座標系、平面二次曲線、座標変換、円錐曲線
8回	丁半で一儲け	事象と確率、確率変数、期待値と分散
9回	バクテリアの増殖と年代測定	指数関数、対数関数
10回	気圧の高度変化	微分方程式、ネピアの数
11回	自乗すると負になる数	複素数、オイラーの公式、代数学の基本定理
12回	情報駆動エンジン	メッセージ、自由エネルギー、計算の熱力学
13回	多面体とあそぼう	多面体、展開図、オイラー標数、オイラーの多面体定理
14回	エッシャーの絵とペンローズ・タイリング	運動群、基本領域、結晶と準結晶
15回	てまりの宇宙	球面上の幾何学、正多面体群

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

パワーポイント、板書、および配付資料による。授業後は、ノートや配付資料をみて、できるだけ自分で手を動かして理解するように。わからないときは、参考書で調べたり、質問をするようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	具体的な問題に対して、諸概念を正しく用いて解くことができるかを評価する。
平常点評価	40 %	現実的な課題の実践を通じて、概念や手法を筋道を立てて説明できるかを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

数学は、自分自身で絵を描いたり計算したりして実感することが大切です。そして、学んだことが身近な問題にどのように応用できるかを考えるようにしましょう。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
直観幾何学	D.ヒルベルト, S.コーンフォッセン(芹沢正三 訳) / みすず書房 / 4-622-02451-9 /
ファインマン計算機科学	A.ヘイ, R.アレン編(原康夫, 中山健, 松田和典訳) / 岩波書店 / 4-00-005941-6 /
黄金分割 ピラミッドからル・コルビュジェまで	柳 亮 / 美術出版社 / 4-568-30024-X /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ウェスト・ウィング6階の研究室を訪ねてください。

統計学 (G)

16748

担当者名 / Instructor 小池 行弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

統計学は、多数の資料を整理しその傾向を探るための方法であり、社会調査などから得た標本をもとに母集団のありさまを推測するために活用されています。この講義では統計学の基礎的な手法を学ぶことを目的としています。ほとんどの学生にとっては、これまでに統計学を学ぶ機会は少なかったと思われるので、受講にあたり特別な予備知識は必要としていません。

到達目標 / Attainment Objectives

資料の整理と統計的な分析を、社会科学において運用できる能力を習得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	種々の平均値	平均値 中央値
第2回目	代表値	平均 分散 標準偏差
第3回目	度数分布表	加重平均
第4回目	標準化	Zスコア 偏差値
第5回目	順位	四分位数 百分位数 ローレンツ曲線 ジニ係数
第6回目	相関	正の相関 負の相関 相関係数
第7回目	回帰分析(1)	単回帰 最小2乗法
第8回目	回帰分析(2)	重回帰 決定係数
第9回目	確率変数	確率変数の期待値
第10回目	二項分布	二項係数
第11回目	正規分布	二項分布の正規近似
第12回目	母集団と標本	母平均・母分散の推定
第13回目	区間推定	大数の法則
第14回目	仮説検定	帰無仮説 対立仮説 有意水準
第15回目	復習と試験の概要	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内で行った演習問題と同程度のもの
平常点評価	30 %	毎回授業の後半に演習問題を課します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

毎時授業ごとにテキストを配布します

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

演習の時間を設けていますので質問等は演習時に受け付けます

その他 / Others

教養ゼミナール(1)

53000

担当者名 / Instructor 保坂 芳男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【英語名人の学習法研究】

昨年2008年は日本人が英語を始めてちょうど200年の記念すべき年であった。このゼミでは、この200年間に日本人がいかにして英語を学んできたかを学習する。ゼミの前半では、英語教育・学習の歴史の概論を学ぶ。次に、明治から現代までの英語名人(ジョン万次郎や津田梅子ら)のうち、1人を取り上げ、業績や英語学習法を紹介してもらう。最終的には、自分の英語学習法の見直しにつなげて欲しい。取り上げる英語名人に関しては、前半の歴史概論を学習する過程で決定したい。また、学生の出身地(郷土)の偉人(英語名人)を取り上げても構わない。他にはTOEFLやTOEIC対策をまとめてくれてもいい。

概論のまとめ、英語名人の研究など基本的には学生のプレゼンを中心とした授業である。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

まずは、約200年間の英語教育・学習の歴史を学び、その時代背景とともに全体的な流れをつかんで欲しい。次に、明治以来の英語名人を取り上げ、その個人の業績・業績学習歴を報告してもらう。最後に、自分の英語学習歴を見直し、英語力向上につなげて欲しい。最終的には、主体的に英語が学べる自律した学習者を目指して欲しい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	オリエンテーション、英語教育史概論(1)日本人にとっての英文法	講義
2回目	英語教育史概論(2)英語教授法の歴史	講義
3回目	英語教育史概論(3)英語教科書の歴史、NSの採用の歴史、英語教育行政の歴史	講義
4回目	英語教育史概論(4)英語教授法の歴史1	グループ討論
5回目	英語教育史概論(5)英語教授法の歴史2	グループ討論
6回目	学生のプレゼン(1)	質疑応答
7回目	学生のプレゼン(2)	質疑応答
8回目	学生のプレゼン(3)	質疑応答
9回目	学生のプレゼン(4)	質疑応答
10回目	学生のプレゼン(5)	質疑応答
11回目	ゲストスピーカー講演	聴講
12回目	学生のプレゼン(6)	質疑応答
13回目	学生のプレゼン(7)	質疑応答
14回目	学生のプレゼン(8)	質疑応答
15回目	検証テスト、総括	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	約6割を授業内でのプレゼンで評価する。残り4割は検証テストで評価する。詳しくは、受講人数が決まってから授業の中で指示する。

このクラスは教養ゼミなので、授業は基本的には学生の発表を中心とする。履修の人数によって、その後の授業内容(プレゼンの計画など)が変わる可能性が高いので、最初の授業には必ず出席すること。ゼミの性格上、4回以上欠席した場合やプレゼンを行わなかった場合などは、原則単位を認定しません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学問に王道なしとはよく言ったものです。だからこそこれだけ文明が発達した現代でも絶対的な外国語習得法は見つかっていません。重要なことは、このゼミを通じてさまざまな学習法を知り、自分の英語学習に生かすことです。多くの学習法から自分にあった学習法を見つけて実践することです。

学生には2回プレゼンを行ってまいります。プレゼンはパワーポイントを使ってまいります。また、できれば2回目は英語でお願いします。プレゼンに関し

ては院生が丁寧に指導してくれるのでそんなに心配する必要はありません。要は、やる気です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本の英語教育200年	伊村元道 / 大修館 / 4-469-2448-4 /
英語達人塾	斉藤兆史 / 中公新書 / 4-12-101701-3 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
間違いだらけの英語学習	近江誠 / 小学館 / 4-09-387567-7 /
日本人に一番合った英語習法	斉藤兆史 / 祥伝社 / 4-396-50073-4 /
英語達人列伝	斉藤兆史 / 中公新書 / 4-12-101533-9 /
よりよい外国語学習を求めて	竹内理 / 松柏社 / 4-7754-0052-5 /
英語学習7つの誤解	大津由紀雄 / 生活人新書 / 978-4-088229-0 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナルHP
<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業中指示する

その他 / Others

教養ゼミナール (10)

53016

担当者名 / Instructor 伊藤 武夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:現代の景気変動を考える 不況からの脱出を求めて

2008年秋に深刻の度を増した世界同時不況と、そのもとで発生した社会不安の諸相を確認しつつ、この大不況を引き起こした諸原因を探る。また、新聞記事や雑誌記事などを読み解きながら、若者の視点から、この不況脱出に向けて、どのようなことが考えられるか、大いに議論したい。ゼミの進め方を方向づけるため、1冊、教科書をもつ。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeit.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

現代資本主義と景気変動に関する基礎的な知識を習得する。

各自が現代社会の諸問題について、視野を広げ、一定の分析視点が持てるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	今の不況をどのように読み解くか	諸資料を提示して概略を解説、このゼミナールの進め方を確認
第2回	なぜ世界金融危機が起きたのか(その1)	金融破綻のメカニズム、など
第3回	なぜ世界金融危機が起きたのか(その2)	リーマン・ショックから1年半、アメリカとEU諸国の高い失業率、など
第4回	日本の貿易収支	経常収支の経済学、など
第5回	台頭する中国、変貌する中国	経済危機がチャンスに、など
第6回	東アジア共同体構想	東アジアについて学ぶ(ゼミ生の調べたことを報告し議論する)
第7回	米国の一極体制は終焉するか	先進国としての米国の課題、など
第8回	欧州通貨統合の功罪	拡大EU、欧州を襲う東欧のバブル崩壊、など
第9回	為替レートに振り回される日本経済	物価の動きを見落とす過ち、など
第10回	日本経済の強みとは何か	日本の主要産業の動向(ゼミ生の調べたことを報告し議論する)
第11回	東南アジアとの絆をどう強めるのか	FTAの実情、アジアでの通貨統合への道筋、など
第12回	グローバル経済、次のチャレンジ(その1)	地球環境問題、など
第13回	グローバル経済、次のチャレンジ(その2)	労働環境、貧困問題、など
第14回	グローバル経済、次のチャレンジ(その3)	文化、スポーツ、教育の問題
第15回	全体の概観と到達目標の確認	最後の質問と応答、課題レポートについての諸確認

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	2400字程度の課題レポートを課す。
平常点評価	50 %	出席し議論に参加することを重視する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

このゼミナールのレジメをはじめ、諸資料をストックする独自のファイルを用意しておくこと

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
経済危機は世界に何をもたらしたか	伊藤元重 / 東洋経済新報社 / 978-4-492-39522-6 / 必携

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
問いかける資本主義	相沢幸悦 / 新日本出版社 / 978-4-406-05290-0 C0033 /
新型ドル恐慌	米倉 茂 / 彩流社 / 978-4-7791-1060-3 C0033 /

グローバリゼーションと労働世界の変容

田端博邦 / 旬報社 / 978-4-8451-1051-3 C0036 /

誰も切らない、分けない経済

共生型経済推進フォーラム / 同時代社 / 978-4-88683-657-1 /

参考文献は授業の中で、適宜、紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の中で、適宜、紹介する。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

WebCTを、事前連絡、質疑応答などに活用するように努めたい。

その他 / Others

教養ゼミナール (11)

53005

担当者名 / Instructor 加藤 直樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

1. 21世紀に人間と人間、人間と自然が共生していくことができるためにどんなことが必要か、課題を集め、整理する(世界全体において及び日本において)。
2. 21世紀の課題に因應して主人公として社会を担っていくことができる人間のあり方、必要な能力・人格とは何かについて検討する。
3. 以上を通じて、現代社会における青年の自立のための課題、人格形成の課題を検討する。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

21世紀の担い手に求められる課題を探り、自立の課題を学ぶ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	
2	発表1 - 1 21世紀の課題1	
3	発表1 - 2 21世紀の課題2	
4	発表1 - 3 21世紀の課題3	
5	中間総括1	
6	発表2 - 1 期待される人格像1	
7	発表2 - 1 期待される人格像2	
8	発表2 - 1 期待される人格像3	
9	中間総括2	
10	講義1 現代社会の自立論(1)	
11	講義2 現代社会の自立論(2)	
12	発表3 - 1 私たちの課題1	
13	発表3 - 2 私たちの課題2	
14	発表3 - 3 私たちの課題3	
15	全体の概観と到達目標の確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	ゼミへの積極的参加度(発表やディスカッションへの参加)を総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

使用しない

参考書 / Reference Books

授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール利用(アドレスは授業で)

その他 / Others

できたらフィールドワーク、あるいは調査などをしたい。
ゼミ合宿ができたら最高。

教養ゼミナール (12)

53015

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

市民メディアが拓く世界

「組織された利害団体の広報活動と消費的公共圏」に占有されてしまったマスメディア公共圏に対し、近年「市民メディア」が欧米にもアジアにも制度化され、多様な芽を出しはじめた。コミュニティラジオやケーブルテレビ、インターネットを活用した市民メディアは、地域住民どうしのつながりを創り出し、地域課題の解決やまちづくりに役立つなどの公共圏機能を果たし始め、過疎地域、障害者や在日外国人のコミュニティ形成にも欠かさないツールとなってきた。

このゼミでは、参加者それぞれが、さまざまな市民参加型メディアをフィールドに、市民メディアの発信内容、経済基盤、担っている人々の意識や課題などの実態を調査・検証することによって、「市民メディア公共圏」が拓く新しい社会のメディア・情報システムの展望と課題をさぐる。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

- ・市民参加型メディアでのフィールドワークや調査によって、市民メディアの具体的な実態・課題を知る。
- ・市民メディアの効果や影響を観察・評価し、今後の社会におけるメディア公共圏のありかたを考える。
- ・マスメディア中心のメディア・情報の価値体系を再考する。

メディア関係就職希望者には、進路問題もあわせて再考していきたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	授業の概要、ねらい、メンバー自己紹介
2	市民メディアとは何か	ゲスト・スピーカー(京都コミュニティ放送町田寿二局長・予定)
3	基礎研究1・関西の市民メディア	ラジオ・カフェ、FMわいわい、目で聴くテレビ、Scrap、奈良どっとFM.....
4	基礎研究2・市民メディアのネットワーク	『メディア・ルネサンス』(風媒社)、市民メディア全国交流集会
5	基礎研究3・メディア資源と分配	「メディアは誰のものか」(『現代思想』34巻4号)
6~8	市民メディアでのフィールドワーク	
9	班ごとのまとめ	
10~14	各班による研究発表	
15	市民メディアとは何か 現況と課題の整理、報告書作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	ゼミへの積極的参加度(発表やディスカッションへの参加)を総合的に評価します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

市民社会形成やマスメディアの改革に興味・関心がない人は、継続した学習は難しいでしょう。身の回りのメディアを観察・研究してください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 パブリック・アクセスを学ぶ人のために	津田正夫ほか / 世界思想社 / /
市民メディア論	松野良一ほか / ナカニシヤ / /
非営利放送とは何か	松浦さと子ほか / ミネルヴァ書房 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

別途連絡

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

tsudam@ss.ritsumei.ac.jp

tsudam@ccn.aitai.ne.jp

その他 / Others

教養ゼミナール (13)

53014

担当者名 / Instructor 池内 靖子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

家庭や学校、職場、その他さまざまな組織や制度を含め、私たちの日常生活や社会には、男女性別2元論のジェンダー秩序がある。ジェンダー・アプローチとは、この社会秩序のなかで無意識のうちに私たちが従っている性別規範を対象化することである。この教養ゼミでは、性別役割分業や、男らしさ・女らしさという典型化された性の特性が、歴史的、文化的、人為的に形成されたものであることを明らかにし、人間の多様な在り方を模索するために、現代の性差別を克服する課題について多面的に検討する。最近のジェンダー論では、2元論的な異性愛主義の性規範に基づくジェンダー・アイデンティティが問い直されつつある。こうした新しいジェンダーの視点から私たちを取り巻く社会をとらえ直し、個人の多様な在り方を尊重する、より多様で開放的な人間関係と社会を展望する。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

- * 日常的な生活から男女間の不平等や差別の問題を考える。
- * 性別役割分業や、家族、母性などの歴史的な性格について考察し、説明できる。
- * 男女2元論の枠組みや性規範、それに基づく制度や法の現状を把握し、性の多様性、各個人の違いを尊重する社会を展望する。
- * 国内だけでなく国際社会におけるジェンダー公正を目指す法制度・政策について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ジェンダーとはなにか	セックス、ジェンダー、セクシュアリティ
2	性の2分法	ジェンダー・アイデンティティ、女らしさ、男らしさの規範
3	性の多様性	ゲイ、レズビアン、インターセックス、トランス・ジェンダー、トランス・セクシュアル
4	結婚と家族	制度と現実、多様化する家族
5	家事労働と賃労働	性別分業と賃金差別、雇用均等法
6	母性	子育て、介護、ケア
7	性と生殖	優生思想とリプロダクティブ・ライツ
8	グループ・プレゼンテーションI	
9	性の商品化I	広告、ファッション、整形・化粧品、ダイエット
10	性の商品化II	ポルノ産業、セックスワーク
11	性暴力I	セクシュアル・ハラスメント
12	性暴力II	DV防止法
13	性暴力III	軍事化とジェンダー、「従軍慰安婦」制度
14	ジェンダー公正に向けて	貧困の女性化、国連女性差別撤廃条約の提言・勧告、男女共同参画基本法
15	プレゼンテーションII	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ジェンダーにかかわるトピックについて基本的なデータ、資料、事例を調査・収集し、分析・考察する。各トピックにかかわってグループディスカッションを深め、データや資料、事例に基づいて考察した結果について発表する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	試験に代わる最終レポートを提出する。
平常点評価	70 %	トピックごとに、調査・収集した関連データ、資料、事例について分析・考察し、グループディスカッションを深め、プレゼンテーションをする。 関連データ、資料、事例の調査・収拾(20%) グループディスカッション(20%) プレゼンテーション(30%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

一般教育の大講義で「ジェンダー論」を受講するのとは違い、少人数のゼミナールで、ゼミ生一人一人が自分の関心にそって問いを立て、関連する事例の資料やデータを調査し、結果をまとめて報告する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
21世紀のジェンダー論	池内靖子、二宮周平、姫岡とし子編 / 晃洋書房 / 4771015651 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめて学ぶジェンダー論	伊田広行 / 大月書店 / /
ジェンダーの社会学	江原由美子 / 新曜社 / /
男女共同参画社会をつくる	大沢真理 / 日本放送出版協会・NHKブックス / /
結婚と家族	福島瑞穂 / 岩波新書 / /
家父長制と資本制	上野千鶴子 / 岩波書店 / /
生殖の政治学	荻野美穂 / 山川出版社 / /
クエア・スタディーズ	河口和也 / 岩波書店 / /
「レズビアン」である、ということ	掛札悠子 / 河出書房新社 / /
多様な性がわかる本	伊藤悟、虎井まさ衛 / 高文研 / /
その他の参考図書については、適宜ゼミで紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

WAN(Women's Action Network)のホームページ

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

教養ゼミナール (14)

53013

担当者名 / Instructor 伊東 寿泰

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「一神教思想と現代社会」

私達が直面している現代社会の諸問題に対して、これまでも様々な角度から多くの調査・研究・提案がなされてきた。しかし、唯物論的思想が優勢で、たとえ宗教的思想が取り上げられても、多神教が優勢と一般的に言われる日本においては、一神教の思想や文化がこれらの諸問題とどのように関わっているのかという考察が比較的少ない。それは、本学の学生も含めて日本の学生には、そのような考察や情報に触れる機会が少ないということでもある。そこで本ゼミナールでは、「主にユダヤ教思想とキリスト教思想に関連したり、影響を受けている現象や諸問題を調査・研究し、その討議や発表を通して主体的な学びを实践する」。このような学びを通して、異文化や他の異なる世界を見る目を養い、現代社会の諸問題や変化に柔軟に対応できる見識を身に付けることを目標とする。今まで世界を動かしてきた思想の一つと現代社会との関係を教養として学ぶことは、今後日本のみならず国際社会で活躍を目指す日本の若者にとって有益で、新たな知的刺激となりうる。(指摘するまでもないが、その影響は、政治・経済・哲学・教育・医療・福祉・文学・音楽・絵画・メディア・スポーツ等、現代社会のあらゆる分野に見ることができる。)

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

上記のような授業を通して、学生は主体的な学びを实践していくが、その過程で主に次のような力量を獲得することが期待される。 問題観察力・課題設定力 調査・研究力 文献読解力 問題解決力 発表力 コミュニケーション力 議論する力 レポート作成による文章作成力 異文化理解力 チームワーク

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

宗教と社会、基礎演習Ⅰ、情報リテラシーⅠ、プロジェクトスタディ等(と同様)の科目を履修しておくことが望ましいが、必須ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション(本ゼミの目標・手順・研究範囲の理解)、ブレイン・ストーミング 1、プレ調査 1	
第2回	ブレイン・ストーミング 2、プレ調査 2、課題と研究グループの設定	
第3回	調査・研究手法の確認	
第4～5回	事例研究 1～2	
第6～9回	中間発表と討議 1～4	
第10回	中間発表の小括、最終発表の準備	
第11～14回	最終発表と討議 1～4	
第15回	総括 - 本ゼミを通して何を学んだか。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

本授業では課題の調査・研究、及びその発表や討議を通して主体的な学びを实践していくので、調査・研究・発表・レポート作成に関わる授業外学習が期待される。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	本ゼミナールへの出席・参加・貢献度、発表、レポート等を基に評価する。
開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となる。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- 1) 受講態度: 受講にあたっては、出席は勿論、課題実行も含めゼミナールへの高い参加度が期待される。
- 2) 欠席した場合の対処: 欠席した場合は、クラスメートから欠席中に行われた授業の内容や出された課題について聞き出し、遅れを取り戻すこと。
- 3) 剽窃(ひょうせつ): 引用という形式を取らずに他人の知的財産を盗用すること(剽窃)は厳に慎むこと。レポートや発表において剽窃が発覚した場合は、その課題の評価は零となる。場合によっては、単位を失うこともあるので注意すること。
- 4) 学部から配布される学習用『(さんしゃ)ハンドブック』等を事前に読んでおくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
原理主義から世界の動きが見える:キリスト教・イスラーム・ユダヤ教の真実と虚像	小原克博・他著 / PHP研究所 / 4-569-65577-7 /
一神教とは何か:公共哲学からの問い	大貫隆・他著 / 東京大学出版会 / 4-13-003205-4 /
ユダヤ・キリスト・イスラム集中講座	井沢元彦著 / 徳間書店 / 4-19-861946-8 /
ユダヤ教・キリスト教・イスラームは共存できるか	森孝一編 / 明石書店 / 978-4-7503-2903-1 /
宗教学入門	棚次正和・山中弘編 / ミネルヴァ書房 / 978-4-623-04146-6 /
よくわかる宗教社会学	櫻井義秀・三木英編 / ミネルヴァ書房 / 978-4-623-04996-7 /
いま、宗教を問う!	読売新聞大阪本社編 / 法蔵館 / 4-8318-5638-X C1315 /
ヨハネ福音書 文学的解剖	A・カルペッパー著 (伊東寿泰訳) / 日本キリスト教団出版局 / 978-4818405660 /
聖書(新共同訳)	/ 日本聖書協会 / /
さんしゃハンドブック(入門編)	産業社会学部編 / / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP
<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

教養ゼミナール (15)

53012

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ゼミのタイトルは「ことばの世界」です。どんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。ことばとは、人間のコミュニケーションの単なるツールではなく、誕生から死に至るまで人間は、ことばによる分節化を繰り返しながら、フランスの思想家のラカンが言う「想像界」と「象徴界」という虚構化された世界を絶えず生成しているという点です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、人間の外部に客観的に存在するものではなく、人間が存在して初めて姿を見せる後驗的な世界なのです。そしてこうした世界は、人間の身体＝欲望との相関性によって絶え間なく構造化されていく、いわゆる生成の世界だという点です。従って、ハイデガーとともに現代思想の双壁をなすヴィトゲンシュタインが言う「言語ゲーム」とは、人間の欲望の展開であり、その意味では、円環的な人間の生そのものです。こうした人間の生の根幹に関わることばの世界を考えていきたいのです。具体的には、久津内一雄『ことばの世界』をテキストにして、班単位で報告し合い、それに基づいて、議論を深めていきたいと考えています。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と言語と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

別にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～6	近代言語学の成立とその背景 ソシュール	
7～9	言語相対主義の潮流 フンボルトに始まる言語相対論、サビア・ウォーフ仮説、ドイツ意味論学派	
10	言語理論の記号学的展開 レヴィ＝ストロース	
11～12	言語理論の記号学的展開 ラカンの欲望論	
13～14	言語理論の言語使用論的展開 ヴィトゲンシュタイン言語ゲーム論	
15	言語と現代思想の問題 まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートを課します。
平常点評価	50 %	授業への出席と班活動への取り組みを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

久津内一雄『ことばの世界』をテキストとして配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

教養ゼミナール (18)

54985

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【アクティブ・ラーニングの探究】

アクティブ・ラーニングとは学生の活動を中心に組み立てられた授業のことで、伝統的な旧来の講義形式に対して1980年代のアメリカで始まった授業方法で、大学授業のパラダイムの転換とも言われています。

かつて、ブラジルの教育学者のパウロ・フレイレは旧来の授業を学生の口座に知識を貯め込んで必要なときに引き出す教育法だとして銀行型学習と呼びました。

しかし、そのような学習法は現代のように膨大な情報の中で何が正しいのか、何をどうすればよいのかを考えるときには役に立たないということから、学生が自ら知識や情報を整理し、分析し、解決法を考えるような、学生の主体的・能動的な学習法が提案され、アメリカを始め各国で実践されてきました。

ところが日本では皆さんが受けている授業でもわかる通り、いまだに知識伝授型、一方通行型、銀行型の学習法が主流です。

この教養ゼミでは、自分たちの受けている授業を振り返りながら、銀行型学習とアクティブ・ラーニングについて考えた上で、学生の視点から授業改善プランを作ってもらいます。

このゼミに来る学生には、学生にとって「役に立つ授業」「ためになる授業」「おもしろい授業」を考えることを通して、「生徒と学生の違い」を理解し、大学生らしい学生生活を送ってほしいと願っています。

教養ゼミは学部・回生を超えた知の交流ができる貴重な機会です。ゼミ生が主役のそれこそアクティブ・ラーニングで楽しくやりたいと思います。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

- ・自分で考える力をつける。
- ・自分の意見を持つことができるようになる。
- ・自分の意見を他の人に理解できるように伝える力をつける。
- ・他の人の意見を理解する力をつける。
- ・コミュニケーションに関する力をつける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	・ゼミの進め方 ・自己紹介 ・大学授業序論	
第2～4回	・アクティブ・ラーニング序論 ・自分たちの受けた授業を振り返る	
第5～8回	・アクティブ・ラーニングの事例について(調査と発表)	
第9～12回	・授業改善プランの作成(個人学習とグループ学習を組み合わせる)	
第13～14回	・授業改善プランの発表と討論	
第15回	・レポートについて ・ゼミを振り返って	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・図書館やインターネットを利用して、ゼミに必要な情報を積極的に収集してください。
- ・収集した情報をゼミで発表するために、レジュメや図表を作成するのに慣れてください。
- ・グループワークの際はメンバーの間でよく連絡を取り合いながら進めてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	最終レポートを、独創性、調査力、まとめ方、考察力で総合的に評価します。
平常点評価	70 %	ゼミへの積極的参加度(単なる出席ではなく、発表やディスカッションへの参加)を総合的に評価します。

- ・ゼミ生と相談の上ですが、ゼミ論集を作ることも考えたいと思います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・おもしろい授業を探している人、今の授業に不満を持っている人、大学で何をすべきか迷っている人などは、ぜひどうぞ。
- ・教養ゼミは学部・回生を超えたクラス編成が特徴です。専門や回生の異なる視点から学ぶことも貴重ですが、何より学部・回生を超えた交流を楽しんでください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

必要に応じてゼミで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

skino@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

履修者数の上限は20名とします。

教養ゼミナール(2)

53022

担当者名 / Instructor 森 利博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

先ず金融に関する基本的な知識や金融システムについて学び、それを踏まえて、今回の世界金融危機の発生原因について考える。また、今後金融危機の再発防止策として何が有効か、についても議論する。主要なテーマについてレクチャーを行った上で、それらに関して新聞や雑誌などに掲載された記事をマテリアルとして用い、それらについて用意された質問に答えるべく、グループワークを行う。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

現代の世界金融市場についての認識を深め、それが直面する諸問題に関して自分の意見・見解を述べられるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、マクロ経済学に関する基礎知識を持っていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	金融の仕組み(レクチャー)	間接金融、直接金融、貨幣、信用創造
第2回	金融の仕組み(グループワークとディスカッション)	間接金融、直接金融、貨幣、信用創造
第3回	金融政策(レクチャー)	中央銀行、金融政策の目的、政策金利、市場操作、ゼロ金利政策、非伝統的金融政策
第4回	金融政策(グループワークとディスカッション)	中央銀行、金融政策の目的、政策金利、市場操作、ゼロ金利政策、非伝統的金融政策
第5回	金融行政(レクチャー)	垣根政策、護送船団方式、金融ビッグバン、ペイオフ解禁
第6回	金融行政(グループワークとディスカッション)	垣根政策、護送船団方式、金融ビッグバン、ペイオフ解禁
第7回	銀行業(レクチャー)	BIS規制、自己資本、貸し渋りと貸しはがし、預貸率と預証率、預金保険
第8回	銀行業(グループワークとディスカッション)	BIS規制、自己資本、貸し渋りと貸しはがし、預貸率と預証率、預金保険
第9回	証券業とシャドウバンク(レクチャー)	グラス・スティーガル法、ユニバーサル・バンキング、株式売買委託手数料の自由化、資産管理ビジネス、対顧客ビジネスと自己勘定取引、ヘッジファンド、レバレッジ
第10回	証券業とシャドウバンク(グループワークとディスカッション)	グラス・スティーガル法、ユニバーサル・バンキング、株式売買委託手数料の自由化、資産管理ビジネス、対顧客ビジネスと自己勘定取引、ヘッジファンド、レバレッジ
第11回	証券化(レクチャー)	オフBS、オリジネーター、裏付け資産、SPV、真正売買、優先劣後構造、サブプライムローン
第12回	証券化(グループワークとディスカッション)	オフBS、オリジネーター、裏付け資産、SPV、真正売買、優先劣後構造、サブプライムローン
第13回	デリバティブ(レクチャー)	先物、スワップ、カウンターパーティー・リスク、CDS、オプション
第14回	デリバティブ(グループワークとディスカッション)	先物、スワップ、カウンターパーティー・リスク、CDS、オプション
第15回	金融危機再発防止策(レクチャー)	TARP、ボルカー・ルール

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で取り上げたトピックに関する新聞・雑誌記事などを探し出し、積極的に学習するよう心がけて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	内訳は、出席点15%、グループワークへの貢献度及びプレゼンテーション55%、検証テスト30%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日ごろから、新聞の経済・金融欄の記事に目を通すように心がけて欲しい。

教科書 / Textbooks

市販の書籍などは特に用意しない。
授業で取り上げるトピックに関するクエスチョン・リスト、及びそれに答えるための参考となる新聞・雑誌記事のコピーを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
金融入門 第6版	日本経済新聞社編 / 日本経済新聞出版社 / 978-4-532-11815-0 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

英文のサイトであるが、日々の金融市場情報が入手できるものとして、www.bloomberg.comを推薦する

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業の中で教員のメールアドレスを受講者に伝える。

その他 / Others

教養ゼミナール (20)

54983

担当者名 / Instructor 土居 靖範

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テ - マは「京都のまちづくりと持続可能な交通(ワークショップ方式による)」である。クルマ社会偏重の現状を変え、ひとと環境にやさしいまちづくりを行うにあたって、京都の交通をどのように変えていったらよいかワークショップ形式で具体的に取り上げたい。ゲストスピーカーの講義もおこなう。

世界の都市交通とまちづくりの現状と解決方向、カーシェアリングの動向、公共レンタサイクルシステムのヨーロッパの動向を等、講義の中で学びつつ、サステイナブル・コミュニティ(いつまでも住みつづけられるまち)づくりの実現に交通をどのようにしていくかを、ワークショップ方式を取り入れて考える。班に分かれてアイデアをブレン・ストーミングで出し、KJ法を使って整理し、プレゼンテーションしあう。

教養ゼミナールHP

http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/semi.htm

到達目標 / Attainment Objectives

問題点を発見する能力と解決する能力を 集団のなかで討議し発表することで切磋琢磨し身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業ガイダンス 自己紹介 衣笠キャンパスまでの通学手段とその問題点の紹介	
2	交通でどこが問題か ウォッチングに出かける	
3	京都の交通の問題点と改善について発表	
4	駐輪問題、市バス問題 等 いくつか更に取り上げ、討論する	
5	「交通改善策のプレゼンテーション」	
6	「交通改善策のプレゼンテーション」(続き)	
7	ゲストスピーカー講義「カーシェアリング」	
8	ゲストスピーカー講義「自治体の交通政策」	
9	ゲストスピーカー講義「新規バス路線の導入」	
10	ゲストスピーカー講義「嵐電」	
11	「まちづくり会社を作って、『LRTを導入する』、『公共レンタサイクルシステムを作る』、『カーシェアリングシステムを作る』	
12	「まちづくり会社を作って、『LRTを導入する』、『公共レンタサイクルシステムを作る』、『カーシェアリングシステムを作る』(作業続き)	
13	まちづくり会社を作って、『公共レンタサイクルシステムを作る』、『カーシェアリングシステムを作る』(作業続き)	
14	事業企画書の発表会	
15	事業企画書の発表会(続き)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出欠状況、プレゼンテーション および 日常レポートで評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『交通政策の未来戦略 まちづくりと交通確保』	土居 靖範 / 文理閣 / 978-4-89259-536-3 /

障とで脱「クルマ社会」の実現を - 』

LRTが京都を救う

土居靖範・近藤宏一・榎田基明 / つむぎ出版 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール・アドレスはdoi@ba.ritsumei.ac.jp です。

その他 / Others

教養ゼミナール (23)

54980

担当者名 / Instructor 中川 順子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

このゼミでのテーマは、個人・家族を支える地域社会をどうつくるか、である。

家族の福祉機能も弱まるなかで、地方行政も住民の生活サポートから撤退しようとしている。個々人の生活をささえる家族や地域をどう作り直すのか、それを「生活の共同」をキーワードに考えていく。多様な学部からの参加を生かし、各自の経験を生かした多様な角度からの議論を期待する

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeit.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

家族や地域は身近かすぎで見えないものである。家族や地域の作り直しにとつてのキーワードは「生活の共同」と設定した。なぜ今「生活の共同」なのか、その内容について理解を深めてほしい。地域社会にどのような「生活の共同」必要か、意見・提案がまとまることを期待する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

家族、地域・自治体、協同組合や住民組織に関連する科目を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション: 講義のテーマについて、講義のすすめかたについて	関係の希薄化 家族の変化 地域の再生
2-3	最最近のヨーロッパの家族の状況について—アンソニー・ギデンズ『暴走する世界』第4章を読む	ギデンズの考え方に関する論点の確認と質疑、想交換 ヨーロッパにおける家族制度の解体、純粋な関係と民主主義
4-5	1970年代から現在への日本家族の変化をどうみるか—落合恵美子『近代家族の終焉?』を読む	落合の論点確認と質疑、意見交換 近代家族は変化したのか、制度と現実とのギャップ
6-7	現代の個人—家族—社会の関係をどう考えるか その1) 湯浅誠『反貧困』を読む	湯浅の論点の確認と貧困に陥らないセーフティネットとは何かを議論 滑り台社会、雇用のセーフティネット、個人責任、
8-9	家族と女性労働の現在—本田一成『主婦パート 最大の非正規雇用』を読む	主婦パートとはなにか、企業と家族の支え 論点確認と質疑、意見交換
10-11	週間東洋経済「子どもの貧困」、安倍彩「子どもの貧困」を読む フィンランドとの比較	貧困の世代的再生産、子どもへの投資と未来、論点確認、質疑と意見交換
12-13	宮本太郎『生活保障』を読む	排除しない社会 スウェーデン型社会保障 アクティベーション
14-15	広井良典『コミュニティを問い直す』を読む	まとめとして、個人社会的孤立とコミュニティの再生とはなにか、を考えたい。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	授業で議論した論点から、自分の関心のあるものを選び、レポートにまとめてもらう。このレポートを評価の対象とする。
平常点評価	70 %	授業への出席、議論への積極性を評価する。

取り上げるテキストについては、授業スケジュールに記入したとおり。各授業時間で取り上げるのは、著作全体ではなく、その1章とし、事前配布する。受講生は、できるだけ、その他の章にも目を通してほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

議論を常識の交換に終わらせないため、基礎的かつ読みやすいものを読み、共通理解をつくりながら議論することにした。事前に対象部分をコピーして配布するので、読んできてほしい。

教科書 / Textbooks

1冊のテキストを進めることはしない。授業の内容は、1現状・2政策・3生活共同の3つのパートに分かれている。2, 3については、中心となる文献を参考文献として準備する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

生活の共同

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大沢真理編著 / 日本評論社 / 4 - 535 - 58503978 - - 4 /

参考文献は授業の際に紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に指示する

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

下記のアドレスに連絡:

jkn-aka@r5.dion.ne.jp

その他 / Others

上記のアドレスを活用し、文献、レポートの書き方など、積極的に質問してほしい。

授業の概要 / Course Outline

テーマ:地域社会の活性化をめぐる 持続可能な社会を実現するには？

このところ「地域活性化」「地域再生」、地域づくりなど、(地域)への注目が高まってきています。でも、それらはそもそもどんなことなのでしょう。これらの言葉で、何がイメージされているのでしょうか。また、望ましい地域のあり方とはどのようなものなのでしょうか。実に地域社会は、現在、さまざまな問題に直面しています。少子化、高齢化、定住人口減少と人口流出、中心市街地の衰退、地方分権、市町村合併、自治体の財政難など。これら地域社会の現状と問題について(たぶんに中山間地を取り上げることが多くなるでしょうが)、その背景にある人口減少や高齢化、財政問題などの諸要因を分析し、交流人口拡大をめざす国策の流れ(都市・農山漁村交流・対流など)や、地域おこし、グリーンツーリズムなど各地で取り組まれている活性化事例について見ていきます。このゼミナールでは、こうした問題意識から、各地で取り組まれている地域活性化の事例を、自分たちで、あるいはゲスト講師の話などから学びつつ、地域社会の現状と課題、そして持続可能な社会のあり方について知識を深め、考えたいと思います。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

持続可能な地域のあり方、地域社会の活性化について多分野的なアプローチから学びつつ、個々の専門や関心を広げるような視野や考え方、態度を涵養すること、また、ワークショップなどの授業参加を通じて、自ら積極的に働きかけつつ、他の相違する見解からも学ぶこと、そして、そうして学んだことをゼミ論としてまとめること、これらを主たる到達目標とします！

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「地域」とは何か？ 地域の問題とは何か？ みんなで話し合ってみよう。	担当教員および受講生の自己紹介の後、自分なりの「地域」イメージや、何が地域の問題・課題であると考えるか、などについて話し合ってみよう。
2	地域活性化の背景にはどのようなものがあるのだろうか？ なぜ各地で、地域活性化や地域再生、地域づくりなどが求められているのだろうか？	地域社会はどのような諸問題に直面しているのだろうか？ 地域づくりや地域活性化、地域再生は、具体的には何を、どのような手段で取り組もうというのだろうか？
3	宮本論文「日本の中央と地方」を手がかりに、地域社会のあり方について学び、考えてみよう。	「中央と地方」という関係が日本社会において成立することで、地方はそもそもどのような変化を遂げてきたのだろうか？ 日本社会の近代化とは何だったのだろうか？
4	先進取り組み事例の研究から、地域活性化について考えてみよう	交流人口の拡大はなぜ重要とされているのだろうか？ 行政だけではなく、市民や企業などが地域にかかわる事の必要性や意義とは何だろうか？
5	先進取り組み事例の研究から、地域活性化について考えてみよう	社会的企業やコミュニティ・ビジネスは、なぜ求められているのか、また、それらはどのようにして地域を活性化しようとするのだろうか？
6	先進取り組み事例の研究から、地域活性化について考えてみよう	地域活性化を支援する政策や枠組みには、どのようなものがあり、どのような工夫がされているのだろうか？
7	先進取り組み事例の研究から、地域活性化について考えてみよう	中小地方都市の商工業の活性化について、それは実際にはどのように取り組まれているのだろうか？
8	先進取り組み事例の研究から、地域活性化について考えてみよう	農山村の現状はどのようなものだろうか？ グリーンツーリズムや有機農業、CSA(地域支援型農業)はどのような展望を切り開きうるのだろうか？
9	先進取り組み事例の研究から、地域活性化について考えてみよう	限界集落とは何か？ それはどのような集落を指すのだろうか？ それは果たして本当に「限界」なのだろうか？
10	先進取り組み事例の研究から、地域活性化について考えてみよう	商店街の重要性とはなんだろうか？ なぜ商店街が寂れてしまうのだろうか？ 環境に配慮した、新しい「商店街」づくりの取り組みにはどのようなものがあるのだろうか？
11	受講生による事例研究発表とワークショップ	観光を手がかりとした地域活性化の展望をいかに切り開きうるのだろうか？ 観光まちづくりの先進事例から考えてみよう。
12	受講生による事例研究発表とワークショップ	中山間地域の活性化への展望をいかに切り開きうるのだろうか？ (その1)。農商工連携事業の先進事例から考えてみよう。

13	受講生による事例研究発表とワークショップ	中山間地域の活性化への展望をいかに切り開きうるのだろうか？(その2)。都市農山村交流の先進事例から考えてみよう。
14	受講生による事例研究発表とワークショップ	地方への移住は果たして促進しうるのだろうか？U・I・Jターン誘致の先進事例から考えてみよう。
15	持続可能なかたちで地域の未来を切り開くには？	全体のまとめとワークショップによる振りかえり。このゼミを通じて、地域およびその持続的な活性化についてどのように考えるようになったのか、話し合ってみよう。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

上記のスケジュールは、主として2009年度の内容をベースとしています。受講生の関心にあわせて若干変更することもあります。ゲスト講師による講話が複数回あります。フィールドワーク先として、向日市(京都府)や、丹波市(兵庫県)、京北町(京都市右京区)などを予定しています(フィールドワークを行う場合、平日午後6時以降、あるいは週末の活動になるかと思えます)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	うち20%は、グループでの成果レポートの作成。うち20%は、ゼミを通じて自分なりに学んだことについてのレポートの作成。
平常点評価	60 %	平常点評価としては、出席および授業への参加、新聞記事や文献紹介、グループでの調査や発表が含まれます。

平常点に関連して、無断欠席や不発表、あるいはグループワークの円滑な運営・作業に協力しないといったモラルハザードなど、ゼミでの学びや運営に支障をきたすような態度不良は減点の対象とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業は、社会学、産業論、経済学、公共政策論、地域文化論、市民活動論などの多分野のアプローチを意識しながら、少人数のメリットを活かして、なるべく参加型のスタイルで運営していきたいと考えています。とはいえ、適宜、必要であれば講義や説明を行います。いずれにしても、単に出席するのみならず、グループワークやワークショップ、発表、その他、ゼミへの積極的な参加が望まれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境首都コンテスト 地域から日本を変える7つの提案	環境首都コンテスト全国ネットワーク、財団法人ハイライフ研究所 / 学芸出版社 / 9784761524531 / 2009年の収穫ベスト3な1冊。

資料などは講義時に適宜指示し、配布可能なものは配布するようにします。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
農村の幸せ、都会の幸せ 家族・食・暮らし	徳野真雄 / NHK出版 / 9784140882115 / 農村社会学の手引き。
地域の力 食・農・まちづくり	大江正章 / 岩波書店 / 9784004311157 / 岩波新書。これぐらいは読んでおかないと話が始まらないかも、の1冊。
変革は、弱いところ、小さいところ、遠いところから	清水義晴、小山直 / 太田次郎社エディタス / 9784811806686 / 2009年の収穫ベスト3な1冊。読めば何か必ず得るはず。
宮本常一著作集2 日本の中央と地方	宮本常一 / 未来社 / 4624924029 / 「日本の中央と地方」論文を収録。
国民生活白書	内閣府 / / 各年版、内閣府国民生活局のHPよりPDFファイルで閲覧、ダウンロード可能
観光と環境の社会学	古川彰、松田素二(編) / 新曜社 / 4788508672 / シリーズ環境社会学 第4巻。このシリーズはどれも面白いです。
入門 文化政策 地域の文化を創るということ	井口貢(編) / ミネルヴァ書房 / 9784623051342 /
公民連携白書	東洋大学大学院経済学研究科(編著) / 時事通信 / 9784788708686 / 各年版。
人口流動の地域再生学	松谷明彦(編) / 日本経済新聞出版社 / 9784532353698 /
まちづくりNPOの理論と課題	澤村明 / 溪水社 / 4874408478 /
スローな未来へ 「小さなまちづくり」が暮らしを変える	島村菜津 / 小学館 / 9784093798082 / 2009年の収穫ベスト5な1冊。
地元学のすすめ 地域再生の王道は足元にある	下平尾勲 / 新評論 / 4794807074 /
CSA 地域支援農業の可能性 アメリカ版地産地消の成果	E・ヘンダーソン、R・エン / 家の光協会 / 9784259518127 / 海外の事例が多い。
集落支援ハンドブック(現代農業増刊号)	現代農業編集部 / 農山漁村文化協会 / / 2008年11月増刊号。集落問題の現状と支援策がわかる。
「村」が地域ブランドになる時代	関満博、足利亮太郎(編) / 新評論 / 9784794807526 /

地域の味がまちをつくる 米国ファーマーズマーケットの挑戦	佐藤亮子 / 岩波書店 / 4000238361 / ファーマーズマーケットと、いわゆる「産直」は違います！
グリーン・ツーリズム実践の社会学	青木辰治 / 丸善 / 4621073923 /
農商工連携の地域ブランド戦略	関満博・松永桂子(編) / 新評論 / 9784794808158 /
地産地消 豊かで活力のある地域経済への道標	下平尾勲、伊藤維年、柳井雅也 / 日本評論社 / 9784535555761 /
半農半Xという生き方	塩見直樹 / ソニーマガジズ / / 新書版。単なる兼業農家論でもなければ、自己啓発論でもありません！まさしくその射程は野心的な本です。
シビックプライド 都市のコミュニケーションをデザインする	シビックプライド研究会 / 宣伝会議 / 9784883352081 /
世界のSSD100 都市持続再生のツボ	東京大学cSUR - SSD研究会 / 彰国社 / 9784395008599 / 分厚い、重い！
商店街 エコロジー まちづくり 商店街の活性化とエコロジー調査研究報告書	NPO環境市民エコシティー研究会 / 環境市民 / /
地域通貨	嵯峨生馬 / NHK出版 / 414088102X / 生活人新書。コンパクトながら、事例は豊富。
祭りイベントのつくり方	鶴見俊輔、小林和夫(編) / 晶文社 / 4794959931 / 単なる人寄せに終わらない祭り、イベントをどのように考えるか。

上記のなかから少なくとも1冊ないし2冊をゼミの中で紹介してもらうことを考えています。これ以外の文献については、適宜、紹介するようにします。大いに勉強しましょう！

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP
<http://www.ritsumeit.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

電子メール

その他 / Others

- 1) 事前登録の際の志望理由を記入する際に、自身の出身地、関心のある地域活性化の分野を明記するようにしてください。
- 2) 持続可能な地域のあり方、地域社会の活性化について、上述のような多分野的なアプローチを活かした学びの中で、それぞれの受講生の専門をふまえつつもそれをも越境しうような学際的・多分野的な視野や考え方を身につけられるようになってほしいと思っています。また、単なるディスカッションだけでなく、ワークショップ方式をも併用・活用することにより、受講生諸君の多種多様な見解に互いに触れ合う絶好の機会となれば、とも願っています。
- 3) 先進的取り組みをしている地域への視察(ゼミ旅行)やゼミ合宿などもぜひ実現したいと思います。

教養ゼミナール (25)

54978

担当者名 / Instructor 清水 凱夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本文化に強い影響を与えた中国の漢語で書かれた一般常識な故事述語の語源を取り上げ、その意義を考察しつつ、講読してゆくようにする。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

一般常識としての有名な故事述語となっている、漢文による詩文を読解できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

漢語・漢文法をとっておくのが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
一回目	尾生の信・漱石枕流	史記・晉書
二回目	一字千金・顰に倣う	史記・莊子
三回目	狡兎死して良狗煮らる・肯綮に中る	史記・莊子
四回目	遠交近攻・燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや	戦国策・史記・
五回目	蝸牛角上の争い・臥薪嘗胆	莊子・史記
六回目	苛政は虎よりも猛し・合従連衡	礼記・史記
七回目	鼎の軽重を問う・五十歩百歩	春秋左氏伝・孟子
八回目	宋襄の仁・匹夫の勇	春秋左氏伝・孟子
九回目	風馬牛・蛇足	春秋左氏伝・史記
十回目	竹馬の好・朝三暮四	世説新語・列子
十一回目	韃靼の急・先ず隗より始めよ	莊子・戦国策
十二回目	桃源郷・虎の威を借る狐	桃花源記・戦国策
十三回目	寧ろ鶏口と為るも牛後と為るなかれ・木に縁りて魚を求む	史記・孟子
十四回目	漁夫の利・奇貨居くべし	戦国策・史記
十五回目	管鮑の交り・舟に刻して剣を求む まとめの試験	史記・韓非子

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

故事述語の意味を多く調べてみてほしい。講義の進度や難易の具合を見て、場合によっては故事述語の項目を変えることがある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	予習状況や出席など、受講態度により、総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義時に漢文を読んでもらうので、予習してきてもらいたい。

教科書 / Textbooks

プリントしたものを使用。

参考書 / Reference Books

講義時に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>
 izy00075@nifty.com

その他 / Others

教養ゼミナール (27)

60388

担当者名 / Instructor 中川 正之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

外から見た日本語・関西弁:例えば、「おはよう」と「こんにちは」の使い分けを外国人に教えるとする。朝は「おはよう」、昼は「こんにちは」といった時間に関するものだけでは不十分である。家族同士で「こんにちは」とは言わないからである。身近すぎて見逃してしまう事柄は、他者の目を通して初めて気付くことが多い。本授業では日本語や関西弁の「おかしな点」を他者の目から指摘を受けることから議論を始める。必要に応じて言語学の分析の手順などの紹介も行うが、出席者が自ら問題を見つけ、それについて理解を深めるため、討論を中心に授業を進める。一定の結論を得た場合、その当否を検証する方法も考える。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

単なる思いつきや感想に終わらず、問題点の所在を明確にし、他者に言葉で説明できるように問題点の明確化を常に心がける態度を養う。その前提として、自らの考え・意見を簡潔に述べる姿勢は欠くべからざるものであることを体感する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

言語学や日本語学、あるいは心理学を履修することが望まれるが必須ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	カルチャーショックの体験	ステレオタイプ
2	文化と言語	民族性・県民性
3	エスニックジョーク	ステレオタイプとプロトタイプ
4	関西弁と関東弁	逆転表現
5	中国語的「日本語」と日本語的「日本語」	呼気、子音と母音、アクセント、格助詞、文末助詞
6	詞と辞	モダリティ、プロポジション
7	感動詞	キャラ、パーソナリティー
8	挨拶と名前	言語の恣意性、言語のアイコン性
9	感情表現	パラ言語的表現
10	罵倒と謝罪	偽装
11	日本語の細やかさ	枕詞、釈明
12	関西弁の問題	キャラ、ステレオタイプ
13	「世間」と「世界」(1)	知識、体験
14	言語をとおしてみる「世間」	体感、錯覚
15	まとめと反省	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

いくつかグループに別れ、問題の発掘と事前の議論を義務とする。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	3回目の授業で取り組むべき問題を簡単にレポートの形で提出する。期末のレポートでそれをどのように深めたのかを評価に基準にする。
平常点評価	50 %	出席と授業時の発言回数と発言内容を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

身近すぎて見過ごしている日本語に内在する規則性に気付くことを通して考えることの面白さを実感してほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
漢語からみえる世界と世間	中川正之 / 岩波書店 / ISBN4-00-006833-0 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Eメール: masnakag@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

教養ゼミナール (28)

60389

担当者名 / Instructor 吉田 慶子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本にとって、中国は近くて遠い国とよく言われる。それは同じアジアに位置し、同じ儒教文化の国でありながら、考え方と文化がまるっきり違うと感じることがあるからである。

本講義はメディアとカメラマンの友人が提供してくれた、長年中国各地で撮影してきた写真を通じて、建国60年の歩みを振り返り、現代中国のこれまでの歩みと今後の展望について教員の解説、受講生による討論を重ね、学んでいく。

中国の様々な側面を下記テーマに沿って、写真を見ながら、解説していく。

中国に60年の間に起こってきた、さまざまな問題とその問題の社会背景について討論する。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeit.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

- ・中国建国後の生活、歴史、文化等について概略的な知識を習得する。
- ・現代中国の社会構造を理解する。
- ・中国現在の発展状況を知る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	中華人民共和国の建国	
2	女性解放と平等な社会	
3	平等・平均・共産のユートピア的な理想社会	
4	文化大革命	
5	ゆとりのある社会へ	
6	改革開放と日中経済交流	
7	天安門事件	
8	高度成長期と出稼ぎの人々	
9	一人っ子政策と80後と90後と呼ばれる新青年たち	
10	全国人民代表大会と選挙	
11	伝統の家族と都市の家族	
12	漢族と少数民族	
13	中国の教育	
14	中国の裁判	
15	全体の概観と到達目標の確認	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
平常点評価	70 %	ゼミへの積極的参加度(発表やディスカッションへの参加)を総合的に評価します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ゼミ形式なので、積極的な授業参加を望む

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
写真集 中国1988年～1997年	小原輝三著 橋本紘二編集 / 文理閣 / ISBN978-4-89259-610-0 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

教養ゼミナール(3)

52999

担当者名 / Instructor 江原 武一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【今日の教育改革について考える】

日本の教育はいま危機的な状況にあるといわれ、さまざまな改革が実施されている。しかしその改革は時代や社会の変化に適切に対応し、教育の本質に適ったものなのだろうか。この演習では、私たちの身近なところに横たわっている教育の生きた現実や具体的な事例から出発して、転換期にある日本の教育改革の現状を検証し、そのゆくえを探ることをめざしている。

私たちは小さいときから現在まで、さまざまな教育を受けたり、学んだりしているが、教職志望の学生や教育学を専攻する学生を除けば、教育の問題を正面からとりあげたり、考えたりする機会はありません。この演習では、全学部全回生に開かれた「教養ゼミナール」の特徴を生かして、受講生が自分自身の専門や問題関心をふまえて、さまざまな立場から、現代の教育の諸問題について理解を深めるとともに、自分の過去と現在をふりかえり、さらに大学で学ぶことの意義や自分の今後を考える機会を提供してみたい。

受講生の興味と関心を生かした演習にするため、演習の前半では、教科書の『基礎教育学』を読みながら教養としての教育学の概要を理解するとともに、具体的な研究テーマを受講生と相談しながら柔軟に決めていきたい。また演習の運営方法は、グループで調べた研究テーマについての報告、参加者全員の討議を基本とし、各自が幅広い観点から教育をめぐる諸問題の理解を深め、自分にふさわしい教育観をいっそう充実していくことをめざしている。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

現代の教育の諸問題を考えるのに必要な基本的知識や用語を理解し、活用することができる(知識)。

プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーション、調査・分析・考察・報告・レポート作成などの技術を身につける(技能・表現)。

教育や学校に関する諸問題を、幅広い観点から主体的に考えたり、判断したりすることができる(価値観・思考)。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回目)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	オリエンテーション、自己紹介と関心のある教育改革の研究テーマ	
第2回目	『基礎教育学』の概要紹介(江原)と発表分担の決定(仮)、グループ別ブレインストーミングと発表	
第3回目	今日の教育改革の背景と課題(江原)、新編成のグループ別ブレインストーミングと今後の研究計画	
第4回目	文献検索の方法	
第5～8回目	グループ別『基礎教育学』の発表と討論、研究実施状況報告の提出	
第9～10回目	グループ別研究の中間まとめ報告の発表、コメントペーパーの提出	
第11～12回目	グループ別研究実施作業、研究実施状況報告の提出	
第13～14回目	グループ別最終報告の発表、コメントペーパーの提出	
第15回目	グループ別最終報告レポート作成のための作業	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業の進め方:基本方針

自分が関心のある研究テーマに主体的にとりくむ。

グループ作業を行う。グループの規模は2～3名から5～6名の範囲にする。

演習の時間内の作業を活用する。ただし2単位の計算では授業時間の他、同時間の予習と復習を含めるので、実際には授業時間以外の研究が必要になる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	次の2つの平常点評価により総合的に成績評価を行う。 出席状況や発表・討論への参加状況、授業内レポートなどにより、日常的な授業に対する取組状況の一端を評価する。 グループ別最終報告レポート(執筆分担箇所を明記する)の水準や内容などにより、学習到達度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に質問や意見などを積極的に発信することを希望する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎教育学	江原武一・山崎高哉編著 / 放送大学教育振興会 / 4595307041 / 2007年刊

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会と教育改革	荻谷剛彦・山口二郎 / 岩波書店 / 4000094262 / 2008年刊
「格差」の戦後史 階級社会日本の履歴書	橋本健二 / 河出書房新社 / 4309624030 / 2009年刊
教育の職業的意義 若者、学校、社会をつなぐ	本田由紀 / 筑摩書房 / 4480065237 / 2009年刊

上記の他、必要に応じて授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本学図書館 <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/mr/lib/index.html> (論文・記事検索(データベース) CiNiiにアクセスすると、国内で発行された人文社会系の雑誌記事、学術雑誌などの記事検索を行うことができる。)

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

電話: 075-466-3479 または内線:(511-)3826

E-mail: ehara@fc.ritsumeai.ac.jp

個人研究室: 尚学館2階826室

個人研究室での面談を希望する場合は、上記のE-mailまたは内線電話により面談の日時を調整する。

その他 / Others

教養ゼミナール (5)

53001

担当者名 / Instructor 安岡 高志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【発見・発明ワークショップ】

発見や発明は全ての人に平等にチャンスが与えられています。しかし、そのチャンスを活かすためには多少の訓練が必要です。今までに何かに気づいたり、工夫したことのある方は小さい発見や発明をしたのです。これを発見や発明と自覚することにより本人の持っている発見・発明能力は増強されます。

大切なことは、人から教わったり、書物から知識を得ることではなく、自分自身で発見したり、気づくことです。発見したことを調べてみると既に誰かが、発見してあっても問題はありません。自分自身の発見・発明を繰り返すことにより、確実に発見・発明能力は身に付きます。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

履修者が発見・発明の習慣(考える習慣)が身に付いたと実感する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス 今までの発見の経験を含めた各自の自己紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
2	各自見つけた疑問の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
3	各自見つけた疑問の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
4	各自見つけた疑問の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
5	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
6	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
7	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
8	中間まとめの発表	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
9	中間まとめの発表	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
10	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介、法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
11	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介、法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
12	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介、法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
13	各自見つけた疑問の紹介と発見した法則の紹介、法則の証明とディスカッション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
14	疑問に対する回答、発見した法則についてのプレゼンテーション	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用
15	疑問に対する回答、発見した法則についてのプレゼンテーションとレポート提出	発見 発明 疑問 考える習慣 知識の活用

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業でのディスカッションも大切ですが、それ以上に教室外で考える習慣を身につけることが重要です。したがって、何時もなぜだろうと考える習慣を身につけ、人の気がつかないことに気がついたり、発見をしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	オリジナルな発見・発想・発明などが含まれていることが必要です。
平常点評価	60 %	最後のプレゼンテーションを聞いて、気づき、発想の展開、工夫などのよさを評価します。評価には受講生の相互評価の結果も含めます。 授業外の取り組み状況、授業への積極的な参加の状況を評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

何かを教わろうと思ってきても何もありません。あなたの持っている能力を活用する訓練をするのみです。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books**書名 / Title**

文化の法則を探ろう

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

中川正 / 三重大学出版会 / 4-944068-42-5 / 定価=本体価格1200円 + 消費税

< 三重大学出版会 >

〒514-8799 津中央郵便局 私書箱 88

電話:059-232-1211 内線3711 or 2699

Fax:059-231-9199

電話 & Fax:059-232-1356

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumei.ac.jp/liberal/semi.htm>**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>**その他 / Others**

教養ゼミナール(6)

53007

担当者名 / Instructor 鳥居 朋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、青年期にあたる大学生の発達に関する基本的な理論や具体的な事例の検討を通じて、受講生自身が大学生活を設計するための視点を育むことを目的としています。

具体的には、青年期の発達課題や、映画等に見る現代の青年・大学生像、大学の諸機能についての解説を通して、受講生が自らの存在を発達の「可能態」として捉え、主体的に学習に取り組むための視点を培っていきます。また、ミニ演習や小レポートの作成によって、大学で求められる能動的な学びのスタイルや思考様式の獲得を促します。

個人およびグループでの作業に取り組むなかで、大学における学習・研究活動に必要な基本的な方法と態度を身につけ、知的探求プロセスの面白さを追求します。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

- 1.人間の発達に関する基本的な理論や現代の大学生を取り巻く状況を理解し、青年期に固有な発達課題について説明できる。
- 2.大学生の学習・研究の基本的な方法や大学の特性を理解し、自分なりの知的探求の課題を提示できる。
- 3.大学生の発達にかかわるテーマについて、調べる・考える・書く・発表する・議論する・ITを活用する等の基礎的学習スキルを身につける。
- 4.大学での学びのルールを尊重し、多様(他分野・異年齢)な学生で構成される集団のなかで他者を理解し、共に学びあう雰囲気醸成に貢献する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション 重要事項を説明するため、必ず出席すること	自己紹介、授業の到達目標、毎回の授業概要、授業内外の学習課題、成績評価の基準と方法
2	青年期の発達課題(1) / 人間の発達段階と課題	発達の可能態、適時性、結晶性知能、流動性知能
3	青年期の発達課題(2) / アイデンティティの形成	意欲、感情、無気力、自尊感情
4	青年期の発達課題(3) / ミニ演習の発表と議論	発達過程の振り返り、影響を与えた要因分析、自己理解、他者理解
5	現代の青年・大学生像(1) / 映画で描かれる青年像	人間理解、トラウマ、恋愛、メンター、自己表現
6	現代の青年・大学生像(2) / グループ演習	自分と他者、進路決定、友人関係、「自分探し」
7	現代の青年・大学生像(3) / グループ演習の発表と議論	青年像の類型、発達課題、学習共同体、自己有用感
8	大学生を取り巻く環境(1) / オンキャンパス	カリキュラムと単位、学習支援機能、コーチング、正課外活動
9	大学生を取り巻く環境(2) / オフキャンパス	地域社会での経験、アルバイト、ボランティア、インターンシップ
10	学生の変容を促す大学(1) / 学習の理論と方法	教授・学習過程、Surface Learning / Deep Learning、「一人思考」、リフレクション(内省)
11	学生の変容を促す大学(2) / 学習デザインの発想	SWOT分析、成果体系図、学習ポートフォリオ、キャリア開発
12	学生の変容を促す大学(3) / おとなの学びへの移行	成人教育学(アンドラゴジー)、自己決定型学習、応用の即時性、経験の学習資源化
13	学生の変容を促す大学(4) / 研究への参画	アカデミックコミュニティ、学問的誠実性・倫理、研究者という専門職、地域社会への貢献
14	学生の変容を促す大学(5) / ミニ演習の発表と議論	大学の諸機能と学生、多様性の尊重、自己の相対化
15	まとめ / 大学生の発達と学びの探究をめぐる今日的課題	コミュニケーション、他者理解、共感、想像力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

毎回の授業を自分の問題関心に照らしながら聴くとともに、積極的な質問や文献検討、新聞記事や各種メディアからの情報収集等に努めてください。とくに、関心あるテーマについて自主的に調べ、十分な授業外学習によって学習成果を高めてください。なお、授業後の学習課題(ミニ演習やレポート作成)を課し、それに基づき次週の授業を進める方式をとる回があります。積極的に取り組んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

レポート試験	55 %	大学生の発達と学びの探究に関するレポート試験課題を出します。人間の発達に関する基本的な理論や現代の大学生を取り巻く状況を理解し、青年期に固有な発達課題について自分の言葉で説明されている、大学生の学習・研究の方法や大学の特性を理解し、自分なりの知的探求の課題を設定できている、大学生の発達にかかわるテーマについて、調べる・考える・書く・発表する・議論する・ITを活用等の基礎的学習スキルを身につけている、を基準とし評価を行います。
平常点評価	45 %	毎回の授業の終わりにその日のテーマに関してミニペーパーを提出する(400～500字程度、3点×15回)。教育に関して興味関心を持ち主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示していることが基準となります。なお、ミニペーパーへのQRコードの貼り忘れは1点減点としますので注意してください。

3分の2以上の授業に出席しレポート試験を提出した者のみを成績評価の対象とします。自己の責任において出席管理をすること。ただし、いわゆる「出席点」の加点は行いません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この教養ゼミナールは、異年齢の受講生自身が協力して形づくっていく内容になっています。受動的な学びではなく、少人数クラスの利点を活かした応答の機会が多い双方向的な授業を行います。講義を聴いて内容を理解するだけではなく、グループでの議論や発表、ミニ演習に積極的にかわり、主体的に授業に参加してください。また、各自が興味関心を持った個々のテーマについて、自分自身で掘り下げて考えてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
キャンパスは変わる: シリーズ「現代の高等教育」2	苅谷剛彦編 / 玉川大学出版部 / 978-4-472-04075-7 /
他人を見下す若者たち	速水敏彦 / 講談社 / 4-06-149827-4 / 講談社現代新書
大学生論: 戦後大学生論の系譜をふまえて	溝上慎一編 / ナカニシヤ出版 / 4-88848-735-9 /
日本のニート・世界のフリーター	白川一郎 / 中央公論社 / 4-12-150197-7 /
若者の法則	香山リカ / 岩波書店 / 4-00-430781-3 /
よくわかる青年心理学	白井利明編 / ミネルヴァ書房 / 978-4-623-04473-3 /
よくわかる学びの技法	田中共子編 / ミネルヴァ書房 / 978-4-623-03775-9 /

この他、授業中に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>
審議会報告・白書・最新情報などが提供されています。

(財)日本青少年研究所 <http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>
児童・生徒に関する各種調査結果や研究の成果などが提供されています。

国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/>
教育施策の判断・立案のもととなる研究を行っている機関です。研究活動の発表のほか、教育情報データ、刊行物、シンポジウムの案内などが掲載されています。

教養ゼミナールHP
<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

e-mailでアポイントメントを取ってください。
torii@fc.ritsumeai.ac.jp
研究室は衣笠・尚学館2階825号室です。
授業前後の休み時間にも簡単な質問を受け付けます。

その他 / Others

・障がいをもった学生の学習支援: 障がいをもった学生は、すみやかに担当教員に連絡してください。学習を支援できるようなクラス環境や授業方法について検討します。
・不正行為: 大学での不正行為とは、カンニング行為によって自分の能力を不正確に伝えたり、他人の論文などを剽窃したりすることで他人の権利を侵害することなどがあたります。万が一、不正行為があった場合は、大学の規則にそって対応します。
・受講のルール: 他の受講者の学習環境を阻害するような行動をとる者に対しては、履修を取り消すように求めることがあります。授業への遅刻、途中退出、私語や携帯電話・メールの使用など、他者の迷惑になるような行動をとらず、マナーを守ってください。皆が気持ちよく学べる環境づくりをしましょう。

教養ゼミナール(7)

53008

担当者名 / Instructor 松野 周治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

グローバリズムの負の側面が明確になる中、リージョナリズム(地域主義)の重要性が再認識されている。ヨーロッパ連合(EU)など、他地域と比べて、アジアでは、地域主義や地域協力の制度化が遅れているが、2005年12月から始まった東アジアサミットや、「東アジア共同体」形成を掲げた政権が日本で成立するなど、新たな動きが生れている。ただし、東アジアでは「共同体」が不可能、日本にとって利益がない、などという見解も存在する。今後の日本、ならびに東アジアの政治、経済、文化、社会の考察において、共同体形成の可能性について自らの見解を持つことが重要になっているが、そのためには、多様な専門や問題関心に基づく検討と、その総合が不可欠である。そもそも「共同体」形成がなぜ必要と言われているのか。ヨーロッパではなぜ、共同体形成が進み、アジアでは遅れているのか。東アジアは現在どのような課題に直面しており、共同体によってその課題はどこまで解決できるのか。共同体はどのような新たな利益を東アジアにもたらしうるか。あるいは不利益はないのか。こうした問題への回答は、東アジアだけでなく、ヨーロッパなど他地域の歴史や現状も視野に入れた、検討が必要であり、人文・社会科学と自然科学、人文科学と社会科学など異なる専門からの考察を総合することが重要である。異なる専門分野、問題関心をもつゼミ参加者の共同によって、テーマを考察する。

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/semi.htm>

到達目標 / Attainment Objectives

「東アジア共同体」についてなされている議論を理解すること。それをふまえて、共同体形成の利益と不利益、形成の可能性とプロセスなどについて自らの考えをまとめ、発表すること(ゼミナールでのプレゼンテーションならびに5,000字程度の最終レポート)。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前履修必要科目を特に設定しないが、2010年4月の立命館大学土曜講座「『東アジア共同体』を考える」(4月3日より毎週土曜14:00 - 16:00、衣笠キャンパス末川記念会館講義室、4回シリーズ)は、ゼミナールの内容と深くかかわっており、受講が望ましい。なお、条件が許せば、夏季休暇期間などを利用して全学、ならびに各学部で実施される海外フィールド科目、国際交流科目などを受講し、日本以外の東アジアなどに足を踏み入れ、自らの学習内容を確認するとともに、「共同体」について現地で考えることも有益である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「東アジア共同体」をめぐる最近の議論、ゼミナールの進め方	鳩山新政権の「東アジア共同体」構想、日中韓3国首脳会談、東アジアサミット、開かれた地域主義、重層する地域主義、東アジアとアジア、東北アジアと東南アジア
2	なぜ、いま東アジアに地域統合が必要か	グローバリゼーションとリージョナリゼーション、GATT/WTOの現状、東アジアと他地域、2008-09年リーマンショックと世界不況
3	東アジア地域統合・地域協力のこれまでの歩み	ASEANの役割、1997 - 98年アジア通貨経済危機、中国・韓国の動き、日本の対応
4	東アジア地域統合への障害は何か	「共同体意識」の醸成方法、新しい日中関係・日韓関係、対アジア外交と日米関係
5	「東アジア経済共同体」の可能性とメリット・デメリット	東アジア経済の潜在力、協調的分業体制確立の条件、日本経済活性化方法、日本への期待
6	「東アジア経済共同体」へのプロセス	環境・エネルギー協力(「環境エネルギー共同体」、農業分野における地域協力(「東アジア共通農業政策」、通貨金融協力(アジア共通通貨単位、アジア債券市場、「東北アジア開発銀行」))
7	「東アジア共同体」の意義と共同設計	東アジア経済共同体から東アジア共同体への道、国際連合から「重層的地域共同体連合」、共同設計の舞台
8	「東アジア共同体」を共同設計する(1):各国の地域共同体戦略	ヨーロッパ地域統合から何を学ぶか、韓国の東アジア戦略、中国外交の展開、ASEAN方式、米国の地域統合戦略とアジア
9	「東アジア共同体」を共同設計する(2):アジア・アイデンティティへの道	人間の移動とヒューマンキャパシティの構築、自治体交流、民族の越境と東アジア統合、「歴史和解」への道と歴史共通教材
10	「東アジア共同体」を共同設計する(3):地域公共政策の構築	イノベーション・アジア構想、アジア型福祉政策とセーフティネット構築、非伝統的安全保障、アジア共通安全保障体制・非核アジア
11	「東アジア共同体」を共同設計する(4):開発協力	環境問題と環境協力、エネルギー協力体制の構築、漁業資源の共同管理、メコン地域協力、東北アジア地域統合
12	「東アジア共同体」を共同設計する(5):経済通商のフェーズ	東アジア自由貿易体制、共通FTA、アジア共通通貨、経済法制の共同構築、技術標準の共通化

13	「東アジア共同体」は可能か(1): 全体討論(1)
14	「東アジア共同体」は可能か(2): 全体討論(2)
15	「東アジア共同体」は可能か(3): 全体討論(3)

(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終レポート(5,000字程度)に基づき、評価(論述の根拠の明示度・説得性、参考文献・資料の利用度、構成、形式などの項目)する。
平常点評価	50 %	ディスカッションその他授業への参画、プレゼンの内容、最終レポートの作成過程(概要や中間稿)などを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

検討課題や方法はさまざまでありうるし、対象も東アジア全体だけではなく、日本と中国、日本と韓国、あるいは東南アジアにおける日中韓の対立と協調、ASEAN共同体の考察など個別テーマからの接近がありうるし、また望ましい。また、EU統合から何を学ぶことができるかなど、他地域(北米、南米、アフリカなど)の事例からの接近もありうる。ただ、経済発展、貿易、金融、社会保障、国境問題、資源エネルギー、文化摩擦、歴史認識、環境、生態系、などなど、できるだけ論点を絞り、具体的に考察することが望ましい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
東アジア共同体 経済統合の行方と日本	谷口 誠 / 岩波書店 / 4004309190 / OECD事務局次長など、日本外交の最前線での経験を基礎にテーマを提起した話題書
東アジア共同体を設計する	進藤栄一 平川均 / 日本経済評論社 / 9784818818750 / 34のテーマについてそれぞれの専門家が論点を整理

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
東北アジア共同の家をめざして	姜尚中 / 平凡社 / 4582702341 / 国会での参考人質疑を中心に最も困難といわれる東北アジアにおける共同体形成について自らの考えを提示
東北アジア共同体への道：現状と課題	松野周治・徐勝・夏剛 / 文眞堂 / 4830945435 / 東北アジア共同体形成に向けての現状と歴史に関する国際共同研究の成果
東アジアで生きよう！：経済構想・共生社会・歴史認識	金子勝・藤原帰一・山口二郎 / 岩波書店 / 4000019309 / 21人の研究者による実現可能な構想
東アジア地域協力への共同設計	平川均・小林尚朗・森元晶文 / 西田書店 / 9784888665186 / 東アジア各国から見た国境の壁を越える地域協力などを展開
欧州統合の半世紀と東アジア共同体	廣田功 / 日本経済評論社 / 9784818820531 / 欧州統合の歴史的展開から東アジアの統合を考える
ASEAN経済共同体：東アジア統合の核となりうるか	石川幸一・清水一史・助川成也 / ジェトロ / 9784824410766 / ASEANにおける経済統合の進展過程と東アジア統合
東アジア共同体の構築	西口清勝・夏剛 / ミネルヴァ書房 / 4623046515X / 東アジア各国の戦略、基盤構築の現状と交流の諸相、課題と展望を12名の研究者が論述
東アジアに「共同体」はできるか	東海大学平和戦略国際研究所 / 社会評論社 / 4784513191 / 国際シンポジウムの成果をもとに国内外15名が執筆
東アジア地域秩序と共同体構想	小此木政夫・文正仁 / 慶應義塾大学出版会 / 9784766413441 / 日韓共同研究の成果
東アジア地中海経済圏	小川雄平 / 九州大学出版会 / 4873789184 / 環黄海経済交流に対する地域自治体の取り組みなどを紹介
EUの地域政策	辻 悟一 / 世界思想社 / 479070971X / 経済統合の進展と地域開発政策の発展を総括的に論じている

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.mofa.go.jp> (外務省)、<http://www.ide.go.jp> (ジェトロ・アジア経済研究所)、<http://www.erina.or.jp> (環日本海経済研究所)、<http://www.soc.nii.ac.jp/isac/> (国際アジア共同体学会)、<http://www.ceac.jp> (東アジア共同体評議会) など

教養ゼミナールHP

<http://www.ritsumeit.ac.jp/liberal/semi.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コースツールを利用して行う。

その他 / Others

学部・専門、回生を越え、多様なバックグラウンドをもつ学生(留学生を含む)の積極的参加を歓迎する。

現代の人権 (S)

12755

担当者名 / Instructor 徐 勝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

21世紀は「人権の世紀」と期待されたが、冷戦の崩壊後アメリカの一国覇権主義の欲望が新たな「戦争の時代」をもたらした。しかし、オバマ政府の登場により、世界では、人権、環境、平和、ジェンダーなどがキーワードとして再び注目を浴びている。これらの課題のすべてが、人間が人間らしく生きることのできる世界、の創造を目指しているが、各地で戦争や紛争が多発し、重大な人権侵害が行われている。今日、人権ほど広く用いられている言葉は少ないが、明確に説明できる人は少ない。本講義では、人権の基本的な概念と歴史を概観し、人権の前提としての戦争と平和の問題に注目しながら、人権の実際を理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

人権は国家権力からの自由という本質的な性格を持っていること、そこから人権がどのように発展してきたかという歴史的過程を理解する。

戦争と人権の関係について考える。

世界人権宣言、国際人権規約、国連憲章、ジェノサイド条約など、重要な国際人権条約や国際人権文書を読み、それを理解する。日本国憲法を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

一回生配当なので、履修科目を要求するのは難しいが、人権や平和の概説書、世界人権宣言、国際人権規約、国連憲章、日本国憲法などを読んでおいてほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
3	国連憲章、世界人権憲章(世界人権宣言、国際人権規約)を読む	国連、世界人権宣言
1	人権とはなにか?	人権
4	人権概念の成立と自由権的人権	近代国家の成立、産業革命、社会契約説、市民社会、自由放任主義、夜警国家、フランス人権宣言、アメリカ独立宣言
2	人権論の展開(社会権的人権)	福祉国家、社会権、労働権、教育権、労働者の人権宣言
1	発展権的人権	集団的人権、資源に対する主権、発展権、環境権、平和権
3	主権国家と国境を越える人権	集団虐殺(ジェノサイド)、戦争犯罪、人道に対する罪、人道介入、国家安全保障と国家保安法、開発独裁、国際刑事裁判所(ICC)条約、国際司法裁判所
1	日本国憲法	象徴天皇制と憲法9条、日本の人権

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

人権の歴史と世界人権宣言について、幅広く本を読んでほしい

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	講義の内容をよく理解し、概念の理解を的確にしているのか。配布資料をよく読み、把握しているのか。
平常点評価	40 %	中間レポートを課す。出席点数(3分の2以上の出席を要す)。
講義中静粛を守り、講義開始後、30分以後の出席は認めません。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人権宣言集』	高木八尺訳 / 岩波書店 / /
『人権の歴史』	杉原泰雄 / 岩波書店 / /
『国際法から世界を見る』	松井芳郎 / 東信堂 / /
『憲法 1 人権』	渋谷 秀樹 赤坂 正浩 / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国連ホームページ <http://www.unic.or.jp/>

財団法人アジア・太平洋人権情報センター http://www.hurights.or.jp/index_j.html

Yahoo!カテゴリ人権: http://dir.yahoo.co.jp/Society_and_Culture/Issues_and_Causes/Human_Rights/

[教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff](#)

[その他 / Others](#)

日本の近現代と立命館 (GA) § 特殊講義(日本の近現代と立命館) (GA) § ヴィジョン形成特殊講義(日本の近現代と立命館) (GA)

13371

担当者名 / Instructor 岡本 直輝、小関 素明、川口 清史、倉田 玲、坂本 和一、松野 周治、柳ヶ瀬 孝三、山崎 有 恒、吉田 美喜夫 単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『立命館百年史』の編纂、立命館学園の運営に深くかかわってきた複数の担当者によるリレー式の講義である。学園の創設からほぼ今日までの立命館学園の歩みと直面する課題が歴史的・問題視的に語られる。

到達目標 / Attainment Objectives

立命館大学の歩みを通して、日本近代史、日本の高等教育が抱える問題点についての理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	序論 講義の全体的概観と前史	自校史教育 西園寺公望 京都法政学校 中川小十郎
第2回	立命館の黎明と発展 明治後期～大正期	産業革命 実学教育 立身出世 大学令
第3回	立命館の黎明と発展 大学の拡充と自立化の模索	大学自治 禁衛隊 沢柳事件 滝川事件 学問の自由
第4回	戦争の影と教育・思想の危機 京大事件と立命館	大学自治 沢柳事件 滝川事件
第5回	戦時下の立命館 日本型軍国主義の進行・転落と学園の曲折	国防学 戦時体制
第6回	敗戦後の混乱と学園の再建	戦後改革 末川博
第7回	「立命館民主主義」の創成	学園復興 逆コース 平和運動 安保闘争
第8回	高度経済成長と大学の大衆化(1960年代) マス・プロ教育に抗する「小集団教育」	高度経済成長 大学改革
第9回	「大学紛争」と立命館教学(60年代末～70年代) 「大学解体」を否定してさらなる「大学改革」へ	学園紛争 学生運動 全共闘
第10回	転換期の高等教育政策 「学園創造」時代の始まり	公費助成運動 学園規模問題 総合大学化
第11回	学びのシステムの新展開 洞察力と創造力	個性と創造性 大学審議会
第12回	立命館大学における課外スポーツ活動の歩み	体育会 立命館スポーツ
第13回	BKCはいかにしてつくれたか	第3～第5次長期計画 文理融合・産官学連携キャンパス
第14回	立命館創立100周年と立命館アジア太平洋大学(APU)	多文化・多国籍キャンパス
第15回	総長講演	高等教育 私立大学

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	定期試験が評価の中心となるが、必ず全講義に出席していないと解答できない論述式の問題を出す。
平常点評価	20 %	アンケート感想文の提出を求め、出席を確認することがあり得る。

歴史に対して興味がないと授業内容について行くことは困難である。

さらに、授業内容の要点をはずさずに理解し、それを的確に文章表現する文章能力が求められる。安易な気持ちで選択しないように。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
立命館百年史 通史1・2	立命館百年史編纂委員会 / / /
西園寺公望	岩井忠熊 / 岩波書店 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

教室で対応する。

授業の概要 / Course Outline

この科目は受講生に対する知識の注入をおよそ目的としていない。教育とは知識の注入ではない。教育とは自らの生き方・世界観を絶えず吟味し変革していくプロセスであり、教師はその産婆である。この講義は学生諸君が自ら化学反応を起こすための触媒である。この講義が学生諸君の世界認識・自己変革の手助けとなることを切に願っている。また、学問とは常識批判である。学生諸君の「先入観を裏切る」講義をめざしている。

この科目は立命館大学に入学した1回生を対象とする平和学入門である。平和に関する思想は古くからあり、また哲学、政治学、法学などの諸学問が平和について考察することも古くからあるが、他の学問から区別される固有の学問として平和学が始まったのは1950年代の冷戦期である。平和学とは戦争の原因と平和の条件を探究する学問であるといわれる。平和学は米ソ核戦争による世界の破滅を防ぐための知的営為として始まった。1950年代に他の学問から区別される固有の学問として始まったとはいえ、平和学はさまざまな学問的方法を使う学際性を特徴としている。

平和学の対象は膨大であり、2単位15回の授業でカバーできる範囲には限度がある。この科目はどうしても選択的にならざるをえない。最後の授業で「さらなる学びのために」方向性を示唆することで受講生のさらなる学びを期待したいと思う。

平和学は知識を獲得して終わる学問ではない。平和学とは、自分自身の生き方を変革し、世界を平和的に変革するプロジェクトである。この科目の履修を終えた学生諸君が、このプロジェクトに参加することを切望している。平和学が発展するばかりで、世界が平和にならないのでは意味がない。世界の暴力を少しずつ克服するために、この科目が何らかの役に立つならば、担当者としてうれしく思う。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・平和学の誕生、平和学の方法、平和学の学際性について理解している。
- ・戦後日本社会の前提である「戦争体験と戦死者の記憶」について理解している。
- ・憲法9条の思想と行動について理解している。
- ・平和な世界秩序をめざす理論と実践について理解している。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回 4月7日	はじめに、科目の紹介。 戦争体験と戦死者の記憶(1)	戦没学生記念像<きけ わだつみのこえ>、本郷新、日本戦没学生記念会編『きけ わだつみのこえ』、映画<きけ わだつみの声>、わだつみのこえをいかに聴くか
第2回 4月14日	戦争体験と戦死者の記憶(2)	15年戦争のトータルな把握、大日本帝国の崩壊、ファシズムの否定、日本の軍隊の研究、天皇制国家、総力戦体制(1940年体制)と戦後改革、覇権戦争としての第2次世界大戦、パックス・アメリカナに組み込まれた戦後日本、大日本帝国とパックス・アメリカナと平和主義の相互緊張関係
第3回 4月21日	平和学の誕生、平和学の方法	国際平和研究学会(International Peace Research Association, IPRA)、スガタ・ダスグプタ、ヨハン・ガルトゥング、暴力の克服としての平和(直接的暴力/消極的平和、構造的暴力/積極的平和、文化的暴力/文化的平和)、平和学の学際性
第4回 4月28日	平和博物館の役割	立命館大学国際平和ミュージアム、広島平和記念資料館、長崎原爆資料館、岡まさはる記念長崎平和資料館、沖縄県平和祈念資料館、ひめゆり平和祈念資料館、原爆の図 丸木美術館、都立第五福竜丸展示館
第5回 5月12日	戦争と平和の考古学・心理学	戦争の起源、佐原真、フロイト・アインシュタイン往復書簡、暴力に関するセベリア声明、ユネスコ
第6回 5月19日	芸術と平和(1)	芸術と戦争(第2次世界大戦の経験)、日本文学報国会、音楽挺身隊、山田耕筰、芸術と冷戦、ポリショイ・バレエ、プリセツカヤ、亡命したダンサーたち(ヌレエフ、パリシニコフ)、芸術の中の戦争と平和
第7回 5月26日	芸術と平和(2)	美術と戦争/平和、音楽と戦争/平和、パブロ・カザルス、芸術の表現力・訴求力と平和創造、クルト・ヨースの「グリーン・テーブル」
第8回 6月2日	憲法9条の思想と行動(1)	多面体としての憲法9条、大日本帝国とパックス・アメリカナと憲法9条
第9回 6月9日	憲法9条の思想と行動(2)	大日本帝国の軍隊、軍隊の正統性喪失、兵士はどのようにつくられるか、「非暴力的な戦後日本社会」(ピーター・カツェンスタイン)、日米軍事同盟(米軍と自衛隊)の歴史と現状、軍隊/武装組織をどうコントロールするか

第10回 6月16日	憲法9条の思想と行動(3)		防衛と国際平和協力において漸進的にミリタリーをシビルで置き換えること、ガンディー、ジーン・シャープ、非暴力防衛、非武装の平和維持活動、非暴力的介入
第11回 6月23日	修復的正義(Restorative Justice)とは何か 和解はいかにして可能か	紛争後の	近代刑事法の特徴と失敗(被害者の無視)、被害者ルネサンス、被害者学の成立、北米におけるメノナイト(平和教会の1つ)の実践、戦争犯罪処罰の進展、国際刑事法の発達、真実和解委員会の試み
第12回 6月30日	グローバルな立憲主義(1)		世界秩序論(ホッブズのリアリズムから世界政府論まで)、グローバルな立憲主義の歴史、グローバルな立憲主義論の現在(国連改革論を含む)、グローバル・ガバナンスの立憲民主化、マルチトラック外交、NGOの役割
第13回 7月7日	グローバルな立憲主義(2)		東アジアの平和をどのようにするか、グローバルな米軍基地網の研究
第14回 7月14日	ノーベル平和賞の研究		アルフレッド・ノーベルの遺言、ノルウェー・ノーベル委員会、過去100年間の授賞の歴史、ノーベル平和賞の現在(バラック・オバマ氏への授賞をどう評価するか)
第15回 7月21日	さらなる学びのために	進学・留学にも触れて	平和学のさらなる学びへ、上回生における学び、学部での留学、大学院進学、大学院修士課程の留学

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

授業に関連する資料は原則としてWebCTにアップロードするので、受講生各自がダウンロードして印刷してほしい。原則として授業時間中に資料を配布することはない。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	定期試験期間中に、15回の授業全体の理解の到達度をはかる試験を行なう。4問ないし5問の問題の中から1問を選択して解答する論述式の試験である。 ただし、希望する受講生は定期試験に代えて、コミュニティ・サービス・ラーニングのオプションを選択することができる。サービス・ラーニング選択者は、20名程度を上限として、授業開始後、4月末までに決定する。コミュニティ・サービス・ラーニングについては、第1回目の授業のときに詳しく説明する。
レポート試験	0 %	
平常点評価	30 %	学期の途中で、教科書の1つの章を選んで考察を深めるレポート課題を提出してもらう。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
平和学を学ぶ人のために	君島東彦編 / 世界思想社 / 978-4-7907-1420-0 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新訂 平和事典	広島平和文化センター編 / 勁草書房 / /
キリスト教平和学事典	関西学院大学キリスト教と文化研究センター編 / 教文館 / /
岩波小辞典 現代の戦争	前田哲男編 / 岩波書店 / /
The Oxford International Encyclopedia of Peace	Nigel J. Young (ed.) / Oxford University Press / /
新版 きけ わだつみのこえ	日本戦没学生記念会編 / 岩波文庫 / /
新版 第二集 きけ わだつみのこえ	日本戦没学生記念会編 / 岩波文庫 / /
「わだつみのこえ」を聴く 戦争責任と人間の罪との間	五十嵐顕 / 青木書店 / /
日本戦没学生の思想 わだつみのこえを聴く	岡田裕之 / 法政大学出版局 / /
「戦争体験」の戦後史	福岡良明 / 中公新書 / /
< 民主 > と < 愛国 >	小熊英二 / 新曜社 / /
敗北を抱きしめて(上・下)	ジョン・ダワー / 岩波書店 / /
パクス・アメリカーナの50年 世界システムの中の現代アメリカ外交	トマス・J・マコーミック / 東京創元社 / /
< 戦後日本国家 > という問題	武藤一羊 / れんが書房新社 / /
構造的暴力と平和	ヨハン・ガルトゥング / 中央大学出版部 / /

ガルトゥングの平和理論 平和創造	グローバル化と平和創造	ヨハン・ガルトゥング / 法律文化社 / /
芸術と平和(平和研究29号)		日本平和学会編 / 早稲田大学出版部 / /
パブロ・カザルス 鳥の歌		ジュリアン・ロイド・ウェッバー編 / ちくま文庫 / /
パブロ・カザルス 喜びと悲しみ		アルバート・E・カーン編 / 朝日新聞社 / /
第三帝国と音楽家たち		マイケル・H・ケイター / アルファベータ / /
戦争の考古学		佐原真 / 岩波書店 / /
人はなぜ戦うのか 考古学からみた戦争		松木武彦 / 講談社 / /
人はなぜ戦争をするのか		フロイト / 光文社古典新訳文庫 / /
戦争と平和の心理学		チャールズ・オスグッド / 岩波書店 / /
暴力についてのセベリア声明 戦争は人間の本能か	戦争は人間の	デービッド・アダムズ編 / 平和文化 / /
戦争を学ぶミュージアム / メモリアル		[記憶と表現]研究会 / 岩波ジュニア新書 / /
日本国憲法の誕生		古関彰一 / 岩波現代文庫 / /
文化と国防 戦後日本の警察と軍隊		ピーター・J・カツウェンスタイン / 日本経済評論社 / /
文民統制 自衛隊はどこへ行くのか		瀧藤厚 / 岩波書店 / /
平和基本法		フォーラム平和・人権・環境編 / 高文研 / /
武器なき民衆の抵抗		ジーン・シャープ / れんが書房新社 / /
非武装国民抵抗の思想		宮田光雄 / 岩波新書 / /
平和思想史研究		宮田光雄 / 創文社 / /
市民的不服従		寺島俊穂 / 風行社 / /
非武装のPKO NGO非暴力平和隊の理念と活動	NGO非暴力平和隊の理念と	君島東彦編 / 明石書店 / /
人道的介入		最上敏樹 / 岩波新書 / /
戦争における「人殺し」の心理学		デーヴ・グロスマン / ちくま学芸文庫 / /
「戦争」の心理学 人間における戦闘のメカニズム	人間における戦闘のメカニ	デーヴ・グロスマン / 二見書房 / /
責任と癒し 修復的正義の実践ガイド	修復的正義の実践ガイド	ハワード・ゼア / 築地書館 / /
修復的司法とは何か 応報から関係修復へ	応報から関係修復へ	ハワード・ゼア / 新泉社 / /
紛争後社会と向き合う 委員会	南アフリカ真実和解	阿部利洋 / 京都大学学術出版会 / /
永遠平和のために		イマヌエル・カント著 / 池内紀訳 / 綜合社 / /
国際社会論 アナーキカル・ソサエティ		ヘドリー・ブル / 岩波書店 / /
国際社会論 国内類推と世界秩序構想		ヒデミ・スガナミ / 信山社 / /
ガンジーの危険な平和憲法案		C・ダグラス・ラミス / 集英社新書 / /
世界政府の展望(平和研究28号)		日本平和学会編 / 早稲田大学出版部 / /
CSCE人権レジームの研究 「ヘルシンキ宣言」は冷戦を終わらせた	「ヘルシンキ宣	宮脇昇 / 国際書院 / /
国際レジームとガバナンス		山本吉宣 / 有斐閣 / /
米軍再編の政治学 ゆくえ	駐留米軍と海外基地の	ケント・E・カルダー / 日本経済新聞出版社 / /
憲法九条の戦後史		田中伸尚 / 岩波新書 / /
平和憲法の確保と新生		深瀬忠一ほか編 / 北海道大学出版会 / /
「未完の革命」としての平和憲法		千葉真 / 岩波書店 / /
平成21年版 日本の防衛 防衛白書		防衛省編 / ぎょうせい / /
平成21年版 防衛ハンドブック		朝雲新聞社編著 / 朝雲新聞社 / /
Peace and Conflict Studies 2nd Edition		David P. Barash and Charles P. Webel / SAGE / /
「平和国家」日本の再検討		古関彰一 / 岩波書店 / /
国際立憲主義の時代		最上敏樹 / 岩波書店 / /

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

「平和と民主主義」を教学理念と掲げる立命館大学で、なぜ、「平和学」を学ぶ必要があるのだろうか。

「平和学」は、現在の国際社会の状況を踏まえて、「平和」とは、どのような状況や、社会のありようをいうのか、また、どうすれば、紛争を解決して、「平和」の状況を導くのか、といった、科学的研究を行う「平和研究」、その研究成果を教育の現場で実践する「平和教育」、そして、教育を受けた人たちが、実際に、自分に何ができるだろうか、一人では無理でも、同じ気持ちや志を持つ人たちと連帯すれば、ひょっとしたら、自分にもなにがしかの貢献ができるのではないかという「平和運動」の、3つの柱からなっている。

立命館大学には、世界の中でも唯一、大学立の「平和博物館」を有しているが、「平和博物館」を、大学が平和教育の場として、あるいは、平和研究の推進拠点として活用できているのだろうか。

また、平和運動も、最近では、例えば、環境問題や開発問題、人権問題など、これまで別々に行動してきたNGOが、「連帯」して運動を展開するようになってきた。そのため、立命館大学の「平和博物館」には、そうしたNGOどうしを結ぶ結節点としての役割を担うことが期待されるのだが、これが果たして成功しているのだろうか。

これらの点を、是非、自分の目を見て、人の話をよく聞いて、そして、率先して、平和の「担い手」として実践できるようになる礎を築くことが、この講義のねらいである。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 現在の日本社会や国際社会の構造や問題点が、新聞やテレビのニュースを見ていて、「なるほど」と理解できるようになること。
- 2) かつての先達が築き上げてきた「平和学」の歴史の上に、21世紀の課題を重ね合わせてみたとき、何が喫緊の課題かを、自分の頭で整理し、理解できるようになること。
- 3) 立命館大学で学ぶことの意義を改めて確認すること。
- 4) 外部との交流を深めて、立命館から世界に「平和」の尊さを発信できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「戦争の歴史と現在」をこの講義を履修後または前期に履修しておくこと。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	平和学とは何か	国際関係論と平和学、学際的、被抑圧者の視点
2	直接的暴力の事例(1):太平洋戦争に至る道	軍部の政治的台頭
3	直接的暴力の事例(2):核軍拡競争	ネオリアリズム、核抑止力
4	戦争の違法化	国際平和ミュージアム、戦争の違法化、核抑止力批判
5	構造的暴力の事例(1):南北問題	富の不平等分配
6	構造的暴力の事例(2):国際的相互依存の進展	パワーと国際的相互依存
7	構造的暴力の事例(3):地球環境問題	気候変動の事例
8	国際レジームという考え方(1):相対的利得と絶対的利得	ネオリアリズムとネオリベラル・インスティテューショナルリズム
9	国際レジームという考え方(2):核不拡散レジーム	核廃絶に向けたプロセス
10	国際レジームという考え方(3):地球温暖化防止レジーム	気候変動枠組み条約
11	文化的暴力の事例(1):宗教対立	コソボ紛争
12	文化的暴力の事例(2):ジェンダー	女性の社会進出はなぜ阻まれるのか
13	グローバル化の時代(1):上からのグローバル化	世界経済フォーラム
14	グローバル化の時代(2):下からのグローバル化	世界社会フォーラム、シアトルでのWTO閣僚会議
15	国連の役割	平和維持活動
16	期末試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	2問論述。持ち込み自由
平常点評価	20 %	WebCTに、授業の理解度をみたり、授業をもとに考えたこと、調べたことをまとめるレポートを3回課す。そのうち2回以上提出すること。2000字程度。(字数オーバーはかまわないが、字数が満たない場合は原点)。参考文献を明記すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

国際情勢の変化に合わせて講義内容を入れ替えることがあるので、注意すること。

この講義用のノートを用意すること。(レジュメは最低限度の事柄しか載せていないので、話した内容をメモすること)

教科書 / Textbooks

書名 / Title

平和学をつくる

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

池尾靖志編 / 晃洋書房 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者のホームページ <http://www.yikeo.com>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

WebCTを使用すること。

その他 / Others

スポーツ方法実習I(A) (A1)

11259

担当者名 / Instructor 藪 耕太郎

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(A) (A2)

11784

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第 1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第 2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第 3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第 4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第 5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第 6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第 7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第 8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第 9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(A) (A3)

11886

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(A) (A4)

12158

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(A) (A5)

12234

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(B) (B1)

10124

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第 1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第 2回	教材種目の概要 (ルール、プレイなどの解説)	
第 3回	グループ編成 (教材種目の基本動作の説明と実習)	
第 4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1 (基本練習)	
第 5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2 (グループワークを取り入れた基本練習)	
第 6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3 (グループワークを取り入れた応用練習)	
第 7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1 (個人のスポーツ技術分析)	
第 8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2 (対人関係のスポーツ技術分析)	
第 9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3 (ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4 (ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1 (個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2 (対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3 (運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4 (運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ (ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(B) (B2)

12235

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(C) (C2)

10821

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(C) (C3)

11799

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(C) (C4)

11918

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(D) (D1)

10125

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(D) (D2)

10126

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(D) (D3)

10806

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習I(D) (D4)

11242

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習I」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習I」は、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として個人技能に学習の重点を置き、スポーツ技能の習得方法、スポーツ技術の分析方法を理解します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析4(ゲーム/パフォーマンス分析・記録の整理)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習II(A) (A1)

10746

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習II」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第 1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第 2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第 3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第 4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第 5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第 6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第 7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習II(A) (A2)

11330

担当者名 / Instructor 藪 耕太郎

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習II」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第 1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第 2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第 3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第 4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第 5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第 6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第 7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習II(A) (A3)

11845

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習II」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第 1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第 2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第 3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第 4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第 5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第 6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第 7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習II(A) (A4)

12274

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習II」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第 1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第 2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第 3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第 4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第 5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第 6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第 7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習II(B) (B1)

10193

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習II」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第 1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第 2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第 3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第 4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第 5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第 6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第 7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習II(B) (B2)

12275

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習II」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第 1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第 2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第 3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第 4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第 5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第 6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第 7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習II(C) (C1)

10916

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習II」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習II(C) (C2)

11856

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習II」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習II(C) (C3)

12391

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習II」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習II(D) (D1)

10194

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習II」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第 1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第 2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第 3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第 4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第 5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第 6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第 7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習II(D) (D2)

10362

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習II」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第 1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第 2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第 3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第 4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第 5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第 6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第 7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習II(D) (D3)

10747

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習II」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第 1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第 2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第 3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第 4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第 5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第 6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第 7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法実習II(D) (D4)

16829

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法実習II」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、生涯を通してスポーツ実践を組織的・継続的な活動に高めるために必要な身体やスポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらにはスポーツの科学的な知識・視点を総合的に適応した実践、実習を重視し、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開する。継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、継続的な生涯スポーツ実践のための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法実習」では、具体的なスポーツ種目を教材として取りあげながら、主として集団や組織のプロセスを学ぶことに重点を置きながら、スポーツ技能向上のためのトレーニング方法ならびに組織的な運営手法などを理解することを目的としています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第 1回	ガイダンス 授業のねらいや進め方	
第 2回	教材種目の概要(ルール、プレイなどの解説)	
第 3回	グループ編成(教材種目の基本動作の説明と実習)	
第 4回	基本的な身体技能の構造の理解と実習1(基本練習と練習方法の理解)	
第 5回	基本的な身体技能の構造の理解と実習2(グループワークを取り入れた基本練習と練習方法の理解)	
第 6回	基本的な身体技能の構造の理解と実習3(グループワークを取り入れた応用練習と練習方法の理解)	
第 7回	教材種目によるスポーツ技術の分析1(個人のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 8回	教材種目によるスポーツ技術の分析2(対人関係のスポーツ技術分析とトレーニング課題)	
第 9回	教材種目によるスポーツ技術の分析3(ゲーム/パフォーマンス分析・動作の記述法)	
第10回	教材種目によるスポーツ技術の分析5(ゲーム/パフォーマンス分析・分析結果の評価とプランの提案)	
第11回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営1(個人トレーニングの提案とまとめ)	
第12回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営2(対人トレーニングの提案とまとめ)	
第13回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営3(運営のための役割の提案とまとめ)	
第14回	教材種目を利用した総合的なスポーツ運営4(運営の総合的提案とまとめ)	
第15回	まとめ(ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法の整理)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教材種目に関連するHPは授業中必要に応じて紹介する。

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (1)

10249

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (10)

12311

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (11)

12312

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (12)

12685

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (2)

10250

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (3)

10652

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (4)

10653

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (5)

10654

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (6)

11393

担当者名 / Instructor 藪 耕太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (7)

11683

担当者名 / Instructor 金 尚憲

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (8)

11783

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff****その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I (9)

12233

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (1)

10359

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (10)

12216

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (11)

12273

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (12)

12389

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (13)

16828

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (2)

10360

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (3)

10732

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (4)

10903

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (5)

11315

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (6)

11467

担当者名 / Instructor 藪 耕太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (7)

11732

担当者名 / Instructor 金 尚憲

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (8)

11976

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II (9)

11977

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

ビジョン形成特殊講義(国の行政組織)(P) § 特殊講義(国の行政組織)(GA) § 特殊講義(基礎)I(国の行政組織)(GA) § 特殊講義(基礎)1(国の行政組織)(GA) § 特殊講義(基礎)(国の行政組織)(GA)

12039

担当者名 / Instructor 今仲 康之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、日本の行政について、一般的に常識として備えておくことが望ましい「国の仕組み」、それぞれそれぞれの組織の最近の政策課題につき、基礎的な知識・知見を養うものとして開講する。

各回のテーマに沿って中央省庁から、中堅幹部行政官の方々をゲストスピーカーとして招き、各府省庁がどのような役割を果たし、また、現在ではどのような行政課題があり、どのような政策を考えているのかを、実際に仕事に就いている人たちから語ってもらう。また、その中で、仕事に携わる人が備えていることが望ましい力とその力が要請される所以を、日常の業務体験を通じて語ってもらう。各回の具体的語り手は各府省庁の中堅幹部行政官であり、日本の行政組織の在り方と政策課題を常に念頭に置きながら各自の職務を考えている人たちである。従って、この講義全体を通じて、受講生が総合的に日本の行政組織全般を見渡して正確な国の行政についての認識と問題意識を構築することを目指している。

これらを通して、大学生として身につけることが相応しい教養を養う科目として開講する。

この講義は、必ずしも公務員・公務従事者といった具体的な進路選択との直接的な関わりを念頭においたものではないが、今の時点で考える将来進路において国家ないし地方の公務員関係を念頭に置いている者は奮って受講してくれることが望ましい。

なお、この授業は1・2回生のみを対象としています(ただし、経済学部のみは、3回生以上も受講できます)。

この授業は、京都衣笠の教室と、BKCの教室の2地点を結んだリアルタイムの遠隔授業です(衣笠で実施しBKCへ配信)。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・国の行政組織全体に関する高い見識が養える。
- ・各府省庁の政策課題と今後の展望について理解できる。
- ・大学で「何をどのような問題意識から学ぶことが重要であるか」を考えるための見識を養える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前の予備知識は特に必要はないが、受講の過程において、高校卒業までに既に身に付けている社会や理科の領域についての総合的知識の意味をもう一度よく確認することが望ましい。そして受講後は、広く公共政策を論じるために必要な知見がどんなものであるのかを主体的に関連づけて他の教養科目や学部専門科目を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	本講義をうけるにあたって、この授業の目的と到達目標について、説明する。	国の行政組織について
2	外務省	外交政策の目的と外交官が果たす役割
3	環境省	家電エコポイント制度について
4 休講	祝日(4月29日)のため休講	
5	厚生労働省	社会保障行政の現状と課題
6	経済産業省	経済産業省 - 「日本を開く」制度改革、国際戦略
7	公正取引委員会	競争政策
8	文部科学省	人づくり、国づくり
9	国土交通省	日本の空を世界へ、アジアへ開く(オープンスカイ)
10	農林水産省	「食」と「地域」の再生 ~ 農林水産業の現状と課題 ~
11	警察庁	少年非行防止総合対策
12	法務省	日本の出入国管理行政と今後の外国人受入れ政策について
13	防衛省	日本の防衛政策
14	財務省	国際開発金融について
15	総務省	総務省の政策と組織 ~ 地域主権改革を中心に ~
補講(7月22日)	人事院	今後の国家公務員制度の在り方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・日々、新聞に目を通す習慣をつけておくこと。
- ・毎回、インターネットのホームページなどで、事前に関係する各府省庁について調べておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	定期試験により、講義全体の理解度を、評価する。
平常点評価	40 %	それぞれの講義について、小レポートの提出により、その理解度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・受講生自身の問題関心・意欲が重要であり、授業においては質疑応答の時間を設けるので、受講生の積極的な参加を求めたい。
- ・いままでもなく授業に際して、私語・飲食等は、禁止です。

教科書 / Textbooks

- ・特にありませんが、各府省庁から出ている白書などが、参考になります。

参考書 / Reference Books

- ・適宜、授業において紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ・<http://www.e-gov.go.jp/link/link.html>
各府省庁・独立行政法人等(府省別)等のホームページに案内してくれるリンクサイトです。
授業の前に関連する各機関のサイトをチェックすること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

- ・授業スケジュールについて、都合により、招聘府省庁やテーマを変更する場合があります。
- ・この授業は、京都衣笠の教室と、BKCの教室の2地点を結んだりアルタイムの遠隔授業です(衣笠で実施しBKCへ配信)。

人文科学総合講座特殊講義Ⅰ(LD) § 特殊講義(基礎)Ⅰ(TA) § 特殊講義(総合)(GA) § 特殊講義(基礎)Ⅰ(C) § ヴィジョン形成特殊講義(日本文化の奔流)(GA)

13657

担当者名 / Instructor 佐古 愛己, 杉橋 隆夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

タイトル: 日本文化の奔流—立命館京都学の前進—

本講義は、読売新聞社の協力を得て、過去5年間実施してきたリレー講義「現代社会と宗教」次いで「日本文化の源流を求めて」を継承し、さらに展開する試みである。本年度は、これまでの成果と潮流を承け、京都を核としつつもいっそう洞察を深め、力強くほとばしり流れる日本文化の特質を究めようと企図する。しかしてこれらを包摂する概念は「京都学」である。当然のことながら、この場合の「京都学」は、たんなる地域学ではない。今日の日本文化の本質を探り、広く世界に接するための学問なのである。

本講義は、従前からの京都歴史回廊協議会の活動や、近年あい次いで設置された現代GP(京都歴史回廊プログラム)とその後継講座、グローバルCOE、京都文化講座(東京・大阪キャンパス)、そして昨年度文学部に開設された京都学プログラム、などと有機的に結合するものとして、その役割が期待されている。

これらを総合して、われわれが目指す「立命館京都学」は、総合性、学際性、国際性、地域連携、現在性、の5要素を具有、実現する内容になるであろう。もって「立命館京都学」は、京都という都市格の形成に貢献する学問でなければならない。

到達目標 / Attainment Objectives

日本文化にまつわる精神的営みと文物の概要を客観的に理解できるよう努める。また、「京都学」が目指すところとその意義を精確に認識し、できれば「立命館京都学」の創成にみずから参加する意欲と具体的手段とを見出したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

激動の現今、日本の伝統的文化や精神世界を改めて回顧し、自省の念を深めることは、重要な意義を持つ。他の文化・思想・宗教関係科目の履修は有意義だし、とりわけ「京都学」関係では、「授業の概要」に閑説した諸活動に注意を向け、文学部においてこれからますます拡大・充実していくであろう「京都学」関連科目(特に「京都プログラム」)の並行履修も、大いに推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	杉橋隆夫(文学部教授) / 佐古愛己(文学部准教授)	導入講義(以下、テーマには一部に仮題を含む)
2	中村紘子(ピアニスト)	ピアニストから見た日本文化
3	松浦晃一郎(ユネスコ前事務局長)	人類と文化の多様性
4	内藤國雄(将棋九段)	幸せについて—努力と運と才能と—
5	山根基世(LLPことばの杜代表、元NHKアナウンサー)	もう一度考えたい ことばの力
6	辻原登(作家)	歴史と冒険のシンクロニシティ—「天の原」歌をめぐる—
7	中村梅玉(歌舞伎俳優)	役者と芸と歌舞伎座
8	豊竹咲大夫(文楽義太夫語り、大夫)	楽しい文楽入門
9	崔洋一(映画監督)	60年代 日本のヌーベルバーグ
10	片山清司(観世流能楽師)	芸の継承—継ぐこと、伝えること—
11	山村若(山村流六世宗家)	上方浮世絵に遺る山村流
12	杉本節子((財)奈良屋記念杉本家保存会事務局長/料理研究家)	京町屋の食のならわし—祇園祭ハレの食—
13	白幡洋三郎(国際日本文化研究センター教授)	庭と日本人の自然観
14	宮本亜門(演出家)	違うから面白い、違わないから素晴らしい
15	佐古愛己(文学部准教授)	まとめと確認テスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本講義内容だけでなく、日本文化と精神世界、京都の歴史と文化への関心を常に温めながら、見聞を深めたい。本講義の内容は、読売新聞の紙面や社のHPに要約掲載されるので、要旨の確認・復習の糧となる。また、授業の翌週にも、TAによる前回講義のまとめとコミュニケーション・ペーパーの集約が配られるので、これを踏まえて次の授業に臨むことができる。さらに授業の最後には、時間中に回収した質問用紙の内容を踏まえた(読売新聞編集委員による「代表質問」)も行われる。自分の興味・疑問を講演者に問う機会として、活用してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終講義日に実施する「検証テスト」50%、その他、出席・質問用紙の提出状況等を含め総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のものを使用しない。資料等は必要に応じて配付する。

参考書 / Reference Books

各招聘講師の著作等を事前に一読しておきたい。プロフィールを含め、インターネットなどで容易に検索可能である。また、『いま、宗教を問う!、現代社会と宗教』、『宗教者に聞く!、日本編上・下 現代社会と宗教』(いずれも法蔵館)は、前述、本講義の前身企画の記録・成果であって、参考に資すべきところが多い。『源流』以降に関しても、今春『日本文化の源流を求めて1』(文理閣)を出版。以後、続刊予定。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff****その他 / Others**

人文科学総合講座特殊講義I (LE) § 特殊講義(基礎)II (TA) § 特殊講義(総合) (GB) § 特殊講義(基礎) 2 (C) § ヴィジョン形成特殊講義(日本文化の奔流) (GB)

16341

担当者名 / Instructor 佐古 愛己, 杉橋 隆夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

タイトル: 日本文化の奔流—立命館京都学の前進—

本講義は、読売新聞社の協力を得て、過去5年間実施してきたリレー講義「現代社会と宗教」次いで「日本文化の源流を求めて」を継承し、さらに展開する試みである。本年度は、これまでの成果と潮流を承け、京都を核としつつもいっそう洞察を深め、力強くほとばしり流れる日本文化の特質を究めようと企図する。しかしてこれらを包摂する概念は「京都学」である。当然のことながら、この場合の「京都学」は、たんなる地域学ではない。今日の日本文化の本質を探り、広く世界に接するための学問なのである。

本講義は、従前からの京都歴史回廊協議会の活動や、近年あい次いで設置された現代GP(京都歴史回廊プログラム)とその後継講座、グローバルCOE、京都文化講座(東京・大阪キャンパス)、そして昨年度文学部に開設された京都学プログラム、などと有機的に結合するものとして、その役割が期待されている。

これらを総合して、われわれが目指す「立命館京都学」は、総合性、学際性、国際性、地域連携、現在性、の5要素を具有、実現する内容になるであろう。もって「立命館京都学」は、京都という都市格の形成に貢献する学問でなければならない。

到達目標 / Attainment Objectives

日本文化にまつわる精神的営みと文物の概要を客観的に理解できるよう努める。また、「京都学」が目指すところとその意義を精確に認識し、できれば「立命館京都学」の創成にみずから参加する意欲と具体的手段とを見出したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

激動の現今、日本の伝統的文化や精神世界を改めて回顧し、自省の念を深めることは、重要な意義を持つ。他の文化・思想・宗教関係科目の履修は有意義だし、とりわけ「京都学」関係では、「授業の概要」に關説した諸活動に注意を向け、文学部においてこれからますます拡大・充実していくであろう「京都学」関連科目(特に「京都プログラム」)の並行履修も、大いに推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	杉橋隆夫/本郷真紹(文学部教授)	導入講義/神と仏の道(以下、一部に仮題を含む)
2	納屋幸喜(第四十八代横綱 大鵬)	裸で学んだ人生観
3	森口邦彦(染色家 重要無形文化財「友禅」保持者)	友禅について
4	岡興造((社)国宝修理装演師連盟理事長)	守り伝えること—文化財修理の現場から—
5	三浦佑之(立正大学文学部教授)	青人草—人はいかにして生まれたか—
6	平野啓一郎(小説家)	個人主義から分人主義へ
7	井上満郎(京都市歴史資料館館長/京都産業大学教授)	平安京の虚像と実像
8	桂文珍(落語家)	落語的学問のすすめ
9	武田佐知子(大阪大学大学院文学研究科教授)	古代の衣服と社会
10	浅野秀剛(大和文華館館長)	浮世絵研究の現状
11	山村紅葉(俳優)	母・山村美紗が愛した京都で"演じる"難しさ
12	小笠原清忠(弓馬術礼法小笠原教場三十一世)	弓馬の礼法について
13	福島貞道((財)京都市景観・まちづくりセンター専務理事 事務局長)	京都の景観とまちづくり
14	名和修(陽明文庫文庫長)	宮廷・公家文化の粋 近衛家の名宝
15	佐古愛己(文学部准教授)	まとめと確認テスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本講義内容だけでなく、日本文化と精神世界、京都の歴史と文化への関心を常に温めながら、見聞を深めたい。本講義の内容は、読売新聞の紙面や社のHPに要約掲載されるので、要旨の確認・復習の糧となる。また、授業の翌週にも、TAによる前回講義のまとめとコミュニケーション・ペーパーの集約が配られるので、これを踏まえて次の授業に臨むことができる。さらに授業の最後には、時間中に回収した質問用紙の内容を踏まえた(読売新聞編集委員による「代表質問」)も行われる。自分の興味・疑問を講演者に問う機会として、活用してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終講義日に実施する「検証テスト」50%、その他、出席・質問用紙の提出状況等を含め総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のものを使用しない。資料等は必要に応じて配付する。

参考書 / Reference Books

各招聘講師の著作等を事前に一読しておきたい。プロフィールを含め、インターネットなどで容易に検索可能である。また、『いま、宗教を問う!、現代社会と宗教』、『宗教者に聞く!、日本編上・下 現代社会と宗教』(いずれも法蔵館)は、前述、本講義の前身企画の記録・成果であって、参考に資すべきところが多い。『源流』以降に関しても、今春『日本文化の源流を求めて1』(文理閣)として出版。以下、続刊予定。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff****その他 / Others**

特殊講義(オンデマンド)(ZC) § ヴィジョン形成特殊講義(オンデマンド)(ZC) § 特殊講義(基礎)I(オンデマンド)(ZC) § 特殊講義(基礎)1(オンデマンド)(ZC)

54965

担当者名 / Instructor 赤間 亮

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

世界には多くの演劇がありますが、日本を代表する古典演劇である能楽(能・狂言)と歌舞伎は、その伝統の長さにおいて、類を見ないものがあります。もちろん能や歌舞伎よりも古くからあると自称する演劇は少なくありませんが、それが現代まで途切れなく続いているという証拠を、文献資料(台本・上演記録その他)によって示すことの出来る分野は、そう多くはないのです。また日本の能楽や歌舞伎は、世界で高く評価されており、それは伝統的な演劇の中でもきわめて洗練度の高い演技を持っているためです。世界の伝統演劇の中には、きわめて古い文学的古典作品を劇化したものも少なからずあります。しかしながら演技の奥深さと美しさが、その詞章の言語芸術的レベルの高さとあいまって、演劇的な完成を遂げているのは、やはり日本の古典演劇においてはいいのです。このようなすぐれた文化遺産を世界の人々に紹介し、共有してもらおうという志から、この授業を構想しました。能・狂言7回、歌舞伎7回の授業で、早稲田大学と立命館大学との協力により実現したものです。

またこの授業は2003年度文部科学省21世紀COE事業の研究拠点に選ばれた、早稲田大学演劇博物館演劇研究センターと立命館大学アート・リサーチセンターの、それぞれの研究成果の社会的還元という意味も持っています。

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式で実施されます。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができますが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めてください。なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な意見の書込みが求められます。また他の学生の意見にも積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待します。

授業は早稲田大学から配信されます。受講登録完了後、早稲田大学オンデマンド事務局より、みなさんのRainbowMail宛に受講のページ案内、ID / PWなどの連絡があります。連絡後、受講を始めてください。

到達目標 / Attainment Objectives

毎回の授業を通じて、日本の古典演劇の歴史を正しく認識し、その魅力をより深く理解することを目指しています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	能楽の源流と現代の能・狂言	
第2回	狂言の魅力	
第3回	観阿弥時代の能	
第4回	世阿弥の時代	
第5回	世阿弥の能・世阿弥時代の能	
第6回	ポスト世阿弥時代	
第7回	室町後期の能	中間到達度テスト
第8回	お国歌舞伎から野郎歌舞伎前夜	
第9回	元禄歌舞伎の華	
第10回	音曲の発達と歌舞伎舞踊	
第11回	人形浄瑠璃と歌舞伎	
第12回	歌舞伎の完成と爛熟期	
第13回	三大名作の世界	
第14回	歌舞伎の舞台と演技	
第15回	最終到達度テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

映像として見られる舞台は非常に限られているので、受講期間中に実際に劇場や能楽堂等に行き生の舞台を鑑賞して頂くことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	テスト(前半能1回、後半歌舞伎1回の計2回)とする。 講義前半7回、後半7回のうち、いずれか3回以上の欠席で受験資格を失う。前半分は1回のうち2章以上の未視聴がある場合は欠席扱いとする。(後半歌舞伎に関しては各回1章のみのため、未視聴は欠席扱いとなる)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アート・リサーチセンター <http://www.arc.ritsumeai.ac.jp/>

赤間研究室 <http://www.arc.ritsumeai.ac.jp/lib/geino/>

演劇博物館 <http://www.waseda.jp/enpaku/index.html>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

特殊講義(ドキュメンタリー・環境と生命) (GA) § ヴィジョン形成特殊講義(ドキュメンタリー・環境と生命) (GA)

15164

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

いま、環境と生命に関わる問題は人々から大きな関心をもたれているテーマである。
この授業では環境と生命に関するテレビ・ドキュメンタリーの中から選んだ9本を教材にして、全員で感想・意見を交換する。これにより、自分の考えをまとめる力と自分の意見を人に伝える力をつける。
さらに、ドキュメンタリーに関連する課題研究を設定してグループ研究を行い、その成果を教室で発表し、クラスメイトとQ&Aを行うことにより、グループ研究の仕方を身につけ、プレゼンテーションとディスカッションの力をつける。
また、学部・回生の異なるクラスメイトと一緒に受講することにより、異なる視点からのものの見方・考え方を理解できるようになる。
この授業では、受講生の自主的・能動的な学習と授業への参加を歓迎し、自ら学んだという実感を得てもらいたい。
授業内容・授業計画の概要
第1回～第9回の授業では毎回1本(30分～50分程度)の環境と生命に関連するテレビ・ドキュメンタリーを教材として鑑賞する。ドキュメンタリーの作品は最近数年間に放映されたものが中心で、多岐に渡っている。毎年一部を入れ替えるが、昨年取り上げた作品は、猟師が教える命の食べ方、耐震偽装事件、松枯れ対策、ホームレス支援、誕生の風景、黒人差別と授業、ハンセン病患者、世界各国の家族、中村哲さんなどである。今回の確定版は第1回の授業で発表する。
なお、途中で1回だけ、ドキュメンタリーに登場する金正美さんをゲストに迎え、本人の話をあわせて聞く機会を設ける。
第1回から第9回のドキュメンタリーについては、各自感想や意見を400字程度にまとめ、授業後、コースツールに書き込む。皆の書き込みを読んで最も良かったと思うものを翌週教室で投票する。(最多得票者を称えるアトラクションもあり。)
また、第9回までの授業と並行して、ドキュメンタリーに関連した課題研究をグループで行う。グループは各自の関心を尊重しながら5～6人程度になるように調整する。第2回から第9回の授業の後半では、グループワークも行う。教員は各グループを順次回り、グループ研究の指導と相談を行う。
第10回からは、グループ研究の発表を中心に授業を進める。発表はグループの全員で行い、司会・進行も学生が行う。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ドキュメンタリーを観て、何が問題かを理解できるようになる。
- ・ドキュメンタリーに関連した情報を自分で調べることができるようになる。
- ・ドキュメンタリー-に対する自分の意見を持つことができるようになる。
- ・自分の意見を所定の字数にまとめ、人に伝えることができるようになる。
- ・他の人とディスカッションをし、人の意見を理解することができるようになる。
- ・グループ研究ができるようになる。
- ・所定の時間で発表ができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ドキュメンタリー1、授業の進め方、グループ分け	
第2回	ドキュメンタリー2、グループ・ミーティング	
第3回	ドキュメンタリー3、グループ・ミーティング	
第4回	ドキュメンタリー4、グループ・ミーティング	
第5回	ドキュメンタリー5、グループ・ミーティング	
第6回	ドキュメンタリー6、ゲスト:ドキュメンタリーに出た金正美さんのお話を聞く	
第7回	ドキュメンタリー7、グループ・ミーティング	
第8回	ドキュメンタリー8、グループ・ミーティング	
第9回	ドキュメンタリー9、グループ・ミーティング	
第10回	第1班と第2班のグループ研究発表とQ & A	
第11回	第3班と第4班のグループ研究発表とQ & A	
第12回	第5班と第6班のグループ研究発表とQ & A	
第13回	第7班と第8班のグループ研究発表とQ & A	
第14回	第9班と第10班のグループ研究発表とQ & A	
第15回	授業の振り返りとまとめ(グループ・ミーティングと全員スピーチ)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

- ・授業後、ドキュメンタリーに関連する情報をインターネットや図書館を利用して調べる。

- ・グループ研究に関する情報や資料をグループのメンバーで分担協力して調べる。
- ・授業終了までに下記の課題レポートをコースツールに提出する。
授業期間中にTVで放送されるドキュメンタリーの中から環境と生命に関する1本を選び、その要旨(400字程度)と自分の意見(400~600字)をまとめる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコースツールへの投稿とその評価を50%、ドキュメンタリーの要約(各自1回)の評価を10%、グループ研究の評価を10%、グループ研究への貢献度を10%、課題レポートの評価を20%とし、グループ研究発表に対するQ&Aへの参加度はプラスアルファとして評価に加える。

*原則として2/3以上の出席を成績評価の要件とし、欠席回数に応じて日常点を減点する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講にあたっては、コースツールの読み書きができること、インターネットで情報検索ができることが必要である。これらは受講の条件なので、開講までにできるようにしておくこと。

教科書 / Textbooks

ドキュメンタリーの参考資料は当日プリントにして配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

「生命環境系の週間テレビ予報 on the Web」 <http://homepage2.nifty.com/yukidon/>
その他、必要に応じて授業で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

skino@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

受講生の定員は80人とする。

特殊講義(ピア・サポート論)(GA)

13656

担当者名 / Instructor 鳥居 朋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

アメリカのピア・リーダーシップ・プログラムは、多くの大学で一年次支援プログラムの一環として機能し、一般学生の転換期教育に欠かせないものとなっています。また、ピア・サポートを育成する訓練や研修には、基盤となるコミュニケーション能力の育成の他、大学の歴史、理念、目的を初めとした知識と、基本的な青年期発達理論への理解が欠かせません。

本授業では、具体的に、本学における学生相互の学び合いの仕組みの目的、オリター制度やTA、ES制度の歴史などに関する基本的知識の習得、指導・支援を行う学生の要求と特徴をつかむための基本的な青年期発達理論の学習、学修指導に関する教員との分担の方法やチーム・ティーチング、ファシリテーションなどの教育方法の習得、さらにコミュニケーション能力を育成するさまざまなトレーニングなどを行い、講義だけでなく、グループワークを中心とした演習を盛り込みます。

なお、授業は、演習も行うことから最大50名を限度とします。また、過去オリターやESを体験した学生の経験談や成果なども併せて紹介し、ピア・サポート志望者の不安を払拭し、意欲を向上させるものになります。

到達目標 / Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 本学の理念・目的やオリター制度、ES、TA制度の歴史、目的、仕組みを説明することができる。
2. 前後期青年期の特徴や最近の生徒・学生の思考・行動様式について説明することができる。
3. 授業を行う際に利用できる指導方術についてその要点を説明することができる。

(関心・意欲・態度)

1. ピア・サポートに意欲を持ち、自ら学ぶ態度を持つ。
2. ピア・サポートを通して得た経験を、インターンシップやボランティアを初め他のピア・サポートやサービス・ラーニングに生かそうとする意欲を持つ。

(技能・表現)

1. 適切なコミュニケーションをとるための技術を持ち、必要な場面で活用することができる。
2. 集団を指導する際に有効な指導方略、指導方術を修得し、適切かつ効果的に利用することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション 重要事項を説明するため、必ず出席すること	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等、各回の授業の概要
2	立命館学	立命館大学の教育と歴史
3	立命館大学のピア・サポート	ピア・サポートの理念と役割
4	現代の若者像	自分たちの世代を知る
5	思春期と青年期	思春期・青年期の発達と大学生活
6	ピア・サポートで活用できる教育の方法と技術	人を動かすコミュニケーションの秘訣
7	コミュニケーションの手法を学ぶ1	聴き手に求められる力 - オーディエンス教育 -
8	コミュニケーションの手法を学ぶ2	妥協点を見つけるために受容的に聴く力 - 犬バラ法 -
9	コミュニケーションの手法を学ぶ3	相手の気持ちに立って話をする力 - アサーション -
10	コミュニケーションの手法を学ぶ4	表現力とアイコンタクト - 無言面接 -
11	コミュニケーションの手法を学ぶ5	議論に負けない力 - 少女とハゲワシ -
12	コミュニケーションの手法を学ぶ6	自分の情報を整理する力 - 強制連結法 -
13	コミュニケーションの手法を学ぶ7	情報を構造化する力 - フォトランゲージ -
14	コミュニケーションの手法を学ぶ8	主張し、提案する力 - 目的分析 -
15	コミュニケーションの手法を学ぶ9	道徳的に判断する力 - コールバーグ -

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日頃から新聞等で教育問題に関心を持ち、主体的に考える姿勢を求めます。また、演習においてはグループワークが中心となり、各自の責任感や協調性が求められます。さらに、本授業の受講後もしくは並行してピア・サポートに従事することが望まれます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	本授業において学習したピア・サポートに関する理論やワークを通じて、自分自身が何を学んだか、自分がどう変わったかについて、A4二枚程度のレポートを課します。

平常点評価 60 % 毎回の授業の終わりにその日のテーマに関してミニペーパー(400~500字程度、4点×15回)を課します。授業で検討したテーマに関して興味関心を持ち、学んだことがらを客観的に見つめる態度を示していることが評価の基準となります。なお、ミニペーパーへのQRコードの貼り忘れは1点減点としますので注意してください。

3分の2以上の授業に出席しレポート試験を提出した者のみを成績評価の対象とします。自己の責任において出席管理をすること。ただし、いわゆる「出席点」の加点は行いません。

毎回のミニペーパーの書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とします。この点については第1回目の授業で詳しく説明します。なお、ミニペーパーにはQRコードを必ず添付してください。授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにしますので、授業時間外に確認して自習してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「コミュニケーションの手法を学ぶ」では、毎回異なるグループごとに演習を行います。初めて出会う人たちとさまざまなコミュニケーション・トレーニングを行います。恥ずかしがらず、積極的、主体的に取り組んでください。これらは、ピア・サポーターのみならず、教職やボランティア等多くの役割や仕事に共通して求められる技術であり、自分を知り、自分を変えるために必要なトレーニングです。グループ演習では他の受講生に迷惑がかからないよう、遅刻をしないようにしてください。

本授業を受講する学生には、ES志願者はもちろん、教職志望者やオリター等学内でさまざまなピア・サポートを志望する学生を想定するほか、西園寺育英奨学生も積極的に参加してください。ただし、本授業は、ESやオリター等の任用の条件とはしません。

なお、受講者が超過した場合には事務局において受講者調整を行う予定です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

必携！相互理解を深めるコミュニケーション実践 林徳治・沖裕貴編著 / ぎょうせい / 978-4-324-09005-3 / 学

テキストがない場合、トレーニングに参加することが困難となるので、第7週までに必ず購入してください。その他必要な資料は適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

階層化日本と教育危機 荻谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /

他人を見下す若者たち 速水敏彦 / 講談社現代新書 / 4-06-149827-4 C0211 /

「学び」から逃走する子どもたち 佐藤学 / 岩波ブックレットNo.524 / 4-00-009224-3 C0336 /

教育と平等 荻谷剛彦 / 中公新書 / 4-12-102006-5 /

二十歳の原点 高野悦子 / 新潮社 / /

上記以外にも必要な参考図書は、授業中に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)

各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)

学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

e-mailでアポイントメントを取ってください。

torii@fc.ritsumeit.ac.jp

研究室は衣笠・尚学館2階825号室です。

授業前後の休み時間にも簡単な質問を受け付けます。

その他 / Others

遅刻はやめてください。トレーニングが始まると、グループ分けをしていますので、途中参加ができません。

また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

特殊講義(ピア・サポート論)(GB)

13691

担当者名 / Instructor 岡田 有司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

アメリカのピア・リーダーシップ・プログラムは、多くの大学で一年次支援プログラムの一環として機能し、一般学生の転換期教育に欠かせないものとなっている。また、ピア・サポータを育成する訓練や研修には、基盤となるコミュニケーション能力の育成の他、大学の歴史、理念・目的を初めとした知識と、基本的な青年期発達理論への理解が欠かせない。

本授業では、具体的に、本学における学生相互の学び合いの仕組みの目的、オリター制度やTA、ES制度の歴史などに関する基本的知識の習得、指導・支援を行う学生の要求と特徴をつかむための基本的な青年期発達理論の学習、学修指導に関する教員との分担の方法やチーム・ティーチング、ファシリテーションなどの教育方法の習得、さらにコミュニケーション能力を育成するさまざまなトレーニングなどを行い、講義だけでなく、グループワークを中心とした演習を盛り込む。

なお、授業は、演習も行うことから最大50名を限度とする。また、過去オリターやESを体験した学生の経験談や成果なども併せて紹介し、ピア・サポータ志望者の不安を払拭し、意欲を向上させるものにしていく。

到達目標 / Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 本学の理念・目的やオリター制度、ES、TA制度の歴史、目的、仕組みを説明することができる。
2. 前後期青年期の特徴や最近の生徒・学生の思考・行動様式について説明することができる。
3. 授業を行う際に利用できる指導方術についてその要点を説明することができる。

(関心・意欲・態度)

1. ピア・サポートに意欲を持ち、自ら学ぶ態度を持つ。
2. ピア・サポートを通して得た経験を、インターンシップやボランティアを初め他のピア・サポートやサービス・ラーニングに生かそうとする意欲を持つ。

(技能・表現)

1. 適切なコミュニケーションをとるための技術を持ち、必要な場面で活用することができる。
2. 集団を指導する際に有効な指導方略、指導方術を修得し、適切かつ効果的に利用することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等、各回の授業の概要
第2回	立命館学	立命館大学の教育と歴史
第3回	立命館大学のピア・サポート	ピア・サポートの理念と役割
第4回	現代の若者像	自分たちの世代を知る
第5回	思春期と青年期	思春期・青年期の発達と大学生活
第6回	ピア・サポートで活用できる教育の方法と技術	人を動かすコミュニケーションの秘訣
第7回	コミュニケーションの手法を学ぶ1	聴き手に求められる力 - オーディエンス教育 -
第8回	コミュニケーションの手法を学ぶ2	妥協点を見つけるために受容的に聴く力 - 犬バラ法 -
第9回	コミュニケーションの手法を学ぶ3	相手の気持ちに立って話をする力 - アサーション -
第10回	コミュニケーションの手法を学ぶ4	表現力とアイコンタクト - 無言面接 -
第11回	コミュニケーションの手法を学ぶ5	議論に負けない力 - 少女とハゲワシ -
第12回	コミュニケーションの手法を学ぶ6	自分の情報を整理する力 - 強制連結法 -
第13回	コミュニケーションの手法を学ぶ7	情報を構造化する力 - フォトランゲージ -
第14回	コミュニケーションの手法を学ぶ8	主張し、提案する力 - 目的分析 -
第15回	コミュニケーションの手法を学ぶ9	道徳的に判断する力 - コールバーグ -

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日頃から新聞等で教育問題に関心を持ち、主体的に考える姿勢が望まれる。また、演習においてはグループワークが中心となり、各自の責任感や協調性が求められる。さらに本授業の受講後もしくは並行してピア・サポートに従事することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	A4 二枚程度
平常点評価	60 %	各回の授業内容について的小レポートやその他の課題を課し、適切なフィードバックを行う。

小レポートの書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とする。この点については第1回目の授業で詳しく説明する。なお、小レポートにはQRコードを必ず添付すること。添付していない小レポートは1点減点とする。小レポートの結果はコースツールで確認できるようにする。また、授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにするので、毎時確

認していただきたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「コミュニケーションの手法を学ぶ」では、毎回異なるグループごとに演習を行う。初めて出会う人たちとさまざまなコミュニケーション・トレーニングを行うが、恥ずかしがらず、積極的、主体的に取り組んでほしい。これらは、ピア・サポーターのみならず、教職やボランティア等多くの役割や仕事に共通して求められる技術であり、自分を知り、自分を変えるために必要なトレーニングである。

本授業を受講する学生には、ES志願者はもちろん、教職志望者やオリター等学内でさまざまなピア・サポートを志望する学生を想定するほか、西園寺育英奨学生も積極的に参加してほしい。ただし、本授業は、ESやオリター等の任用の条件とはしない。

なお、受講者が超過した場合には事務局において受講者調整を行う予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携！相互理解を深めるコミュニケーション実践学	林徳治・沖裕貴編著 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9C3036 / 生協で必ず購入すること

テキストがない場合、トレーニングに参加することが困難となるので、第7週までに必ず購入すること。その他必要な資料は適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術	林徳治編著 / ぎょうせい / 4-324-06243-9 C3036 /
階層化日本と教育危機	荻谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /
大衆教育社会のゆくえ	荻谷剛彦 / 中公新書 / 4-12-101249-6 C1237 /
不平等社会日本	佐藤俊樹 / 中公新書 / 4-12-101537-1 C1236 /
下流社会	三浦展 / 光文社新書 / 4-334-03321-0 C0236 /
就職がこわい	香山リカ / 講談社 / 4-06-212269 C0095 /
他人を見下す若者たち	速水敏彦 / 講談社現代新書 / 4-06-149827-4 C0211 /
「学び」から逃走する子どもたち	佐藤学 / 岩波ブックレットNo.524 / 4-00-009224-3 C0336 /
格差時代を生き抜く教育	寺脇研 / KTC中央出版 / 4-87758-506-0 C0037 /
格差社会 何が問題なのか	橋本俊昭 / 岩波新書 / 4-00-431033-4 C0233 /
学力を育てる	志水宏吉 / 岩波新書 / 4-00-430978-6 C0237 /
「学力低下」の実態	荻谷剛彦・志水宏吉他 / 岩波ブックレットNo.578 / 4-00-009278-2 C0336 /
二十歳の原点	高野悦子 / 新潮社 / /

上記以外にも必要な参考図書は、授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)

各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)

学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

必ず学部・学年・名前を明記し、Email:yokada@fc.ritsumei.ac.jpに連絡してください。個別な相談が必要な場合なども、メールでアポイントメントをとってください。簡単な質問などは授業後の休み時間にも受け付けます。

その他 / Others

遅刻はやめてください。トレーニングが始まると、グループ分けをしていますので、途中参加ができません。

また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。

授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

特殊講義(ピア・サポート論)(GC)

16369

担当者名 / Instructor 岡田 有司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

アメリカのピア・リーダーシップ・プログラムは、多くの大学で一年次支援プログラムの一環として機能し、一般学生の転換期教育に欠かせないものとなっている。また、ピア・サポータを育成する訓練や研修には、基盤となるコミュニケーション能力の育成の他、大学の歴史、理念・目的を初めとした知識と、基本的な青年期発達理論への理解が欠かせない。

本授業では、具体的に、本学における学生相互の学び合いの仕組みの目的、オリター制度やTA、ES制度の歴史などに関する基本的知識の習得、指導・支援を行う学生の要求と特徴をつかむための基本的な青年期発達理論の学習、学修指導に関する教員との分担の方法やチーム・ティーチング、ファシリテーションなどの教育方法の習得、さらにコミュニケーション能力を育成するさまざまなトレーニングなどを行い、講義だけでなく、グループワークを中心とした演習を盛り込む。

なお、授業は、演習も行うことから最大50名を限度とする。また、過去オリターやESを体験した学生の経験談や成果なども併せて紹介し、ピア・サポータ志望者の不安を払拭し、意欲を向上させるものにしていく。

到達目標 / Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 本学の理念・目的やオリター制度、ES、TA制度の歴史、目的、仕組みを説明することができる。
2. 前後期青年期の特徴や最近の生徒・学生の思考・行動様式について説明することができる。
3. 授業を行う際に利用できる指導方術についてその要点を説明することができる。

(関心・意欲・態度)

1. ピア・サポートに意欲を持ち、自ら学ぶ態度を持つ。
2. ピア・サポートを通して得た経験を、インターンシップやボランティアを初め他のピア・サポートやサービス・ラーニングに生かそうとする意欲を持つ。

(技能・表現)

1. 適切なコミュニケーションをとるための技術を持ち、必要な場面で活用することができる。
2. 集団を指導する際に有効な指導方略、指導方術を修得し、適切かつ効果的に利用することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等、各回の授業の概要
第2回	立命館学	立命館大学の教育と歴史
第3回	立命館大学のピア・サポート	ピア・サポートの理念と役割
第4回	現代の若者像	自分たちの世代を知る
第5回	思春期と青年期	思春期・青年期の発達と大学生活
第6回	ピア・サポートで活用できる教育の方法と技術	人を動かすコミュニケーションの秘訣
第7回	コミュニケーションの手法を学ぶ1	聴き手に求められる力 - オーディエンス教育 -
第8回	コミュニケーションの手法を学ぶ2	妥協点を見つけるために受容的に聴く力 - 犬バラ法 -
第9回	コミュニケーションの手法を学ぶ3	相手の気持ちに立って話をする力 - アサーション -
第10回	コミュニケーションの手法を学ぶ4	表現力とアイコンタクト - 無言面接 -
第11回	コミュニケーションの手法を学ぶ5	議論に負けない力 - 少女とハゲワシ -
第12回	コミュニケーションの手法を学ぶ6	自分の情報を整理する力 - 強制連結法 -
第13回	コミュニケーションの手法を学ぶ7	情報を構造化する力 - フォトランゲージ -
第14回	コミュニケーションの手法を学ぶ8	主張し、提案する力 - 目的分析 -
第15回	コミュニケーションの手法を学ぶ9	道徳的に判断する力 - コールバーグ -

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

日頃から新聞等で教育問題に関心を持ち、主体的に考える姿勢が望まれる。また、演習においてはグループワークが中心となり、各自の責任感や協調性が求められる。さらに本授業の受講後もしくは並行してピア・サポートに従事することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	A4 二枚程度
平常点評価	60 %	各回の授業内容について的小レポートやその他の課題を課し、適切なフィードバックを行う。

小レポートの書き方については、単なる授業の感想ではなく、授業に主体的に参加していなければ答えられない内容とする。この点については第1回目の授業で詳しく説明する。なお、小レポートにはQRコードを必ず添付すること。添付していない小レポートは1点減点とする。小レポートの結果はコースツールで確認できるようにする。また、授業で配付した資料もコースツールから取得できるようにするので、毎時確

認していただきたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「コミュニケーションの手法を学ぶ」では、毎回異なるグループごとに演習を行う。初めて出会う人たちとさまざまなコミュニケーション・トレーニングを行うが、恥ずかしがらず、積極的、主体的に取り組んでほしい。これらは、ピア・サポーターのみならず、教職やボランティア等多くの役割や仕事に共通して求められる技術であり、自分を知り、自分を変えるために必要なトレーニングである。

本授業を受講する学生には、ES志願者はもちろん、教職志望者やオリター等学内でさまざまなピア・サポートを志望する学生を想定するほか、西園寺育英奨学生も積極的に参加してほしい。ただし、本授業は、ESやオリター等の任用の条件とはしない。

なお、受講者が超過した場合には事務局において受講者調整を行う予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携！相互理解を深めるコミュニケーション実践学	林徳治・沖裕貴編著 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9C3036 / 生協で必ず購入すること

テキストがない場合、トレーニングに参加することが困難となるので、第7週までに必ず購入すること。その他必要な資料は適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術	林徳治編著 / ぎょうせい / 4-324-06243-9 C3036 /
階層化日本と教育危機	苅谷剛彦 / 有心堂 / 4-8420-8525 C3037 /
大衆教育社会のゆくえ	苅谷剛彦 / 中公新書 / 4-12-101249-6 C1237 /
不平等社会日本	佐藤俊樹 / 中公新書 / 4-12-101537-1 C1236 /
下流社会	三浦展 / 光文社新書 / 4-334-03321-0 C0236 /
就職がこわい	香山リカ / 講談社 / 4-06-212269 C0095 /
他人を見下す若者たち	速水敏彦 / 講談社現代新書 / 4-06-149827-4 C0211 /
「学び」から逃走する子どもたち	佐藤学 / 岩波ブックレットNo.524 / 4-00-009224-3 C0336 /
格差時代を生き抜く教育	寺脇研 / KTC中央出版 / 4-87758-506-0 C0037 /
格差社会 何が問題なのか	橘木俊詔 / 岩波新書 / 4-00-431033-4 C0233 /
学力を育てる	志水宏吉 / 岩波新書 / 4-00-430978-6 C0237 /
「学力低下」の実態	苅谷剛彦・志水宏吉他 / 岩波ブックレットNo.578 / 4-00-009278-2 C0336 /
二十歳の原点	高野悦子 / 新潮社 / /

上記以外にも必要な参考図書は、授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各種統計資料や指導、評価方法に関して、国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/homepage/kyoutsuu/index.html>)

各種教育統計に関して(財)日本青少年研究所 (<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm>)

学習指導要領等は文部科学省 (<http://www.mext.go.jp/>) を参照すること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

必ず学部・学年・名前を明記し、Email:yokada@fc.ritsumei.ac.jpに連絡してください。個別な相談が必要な場合なども、メールでアポイントメントをとってください。簡単な質問などは授業後の休み時間にも受け付けます。

その他 / Others

遅刻はやめてください。トレーニングが始まると、グループ分けをしていますので、途中参加ができません。

また、私語は慎んでください。これは言うまでもなく、最低限のマナーです。また、私も、出来る限り分かりやすく、興味を引く授業を心がけます。

授業に対する要望があれば、小レポートに書いてください。できることであれば、必ず次回から配慮します。

特殊講義(ユニバーサルコミュニケーション入門)(G) § ヴィジョン形成特殊講義(ユニバーサルコミュニケーション入門)(G) § 特殊講義(基礎)I(ユニバーサルコミュニケーション入門)(G) § 特殊講義(基礎)1(ユニバーサルコミュニケーション入門)(G) § 特殊講義(基礎)1(ユニバーサルコミュニケーション入門)(G) § 特殊講義(基礎)(ユニバーサルコミュニケーション入門)(G)

担当者名 / Instructor 近藤 幸一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、障害者を取りまく社会的問題を学ぶとともに、手話によるコミュニケーション技術を学び、実際の聴覚障害者支援施設での実習を行う。

前段では、感覚器系障害とコミュニケーションについて学ぶ。実際に障害を持つ方をゲストスピーカーとして迎え、実態を学習してもらう。後段ではこれまでの学習の成果を元に、実際の障害者支援施設にて実習を行う。最後に、実習で学んだことの振り返りとワークショップを行い、報告発表にまとめとする。受講生をグループに分けて、ティーチングアシスタント等の協力を得て運営する。

なお、授業の各回にて手話学習を取り入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

授業の到達目標は次の2点である。

多様な人の存在を前提としたユニバーサル社会・共生社会の理解と、障害者の視点から社会を見ることを通じて、新たな問題意識を身に付けてもらうこと。

学習活動にとどまらず、ボランティア活動などの社会的活動や学生相互の学びあいへ自主的に取り組んでいけるような動機付けとなること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教養ゼミナール(ユニバーサル社会へのいざない)」

また上記科目以外にも、普段から新聞記事を読みこなし、障害者を取りまく社会状況やユニバーサル社会に関する動向を把握するなどの情報収集に心がけること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	感覚器系障害の特徴とコミュニケーション1	授業の進め方・感覚器障害におけるコミュニケーションについての概観を把握する。
2	感覚器系障害の特徴とコミュニケーション2	ホワイトノイズを使った聴覚障害体験と聴覚障害者のコミュニケーションを学習する。
3	感覚器系障害の特徴とコミュニケーション3	ろう者のコミュニティにおけるコミュニケーション文化について学習する。
4	聴覚障害論1	聴覚障害学生とのディスカッションを通して、コミュニケーションについて実感する。
5	聴覚障害論2	映画「ゆずり葉」の鑑賞を通して、聴覚障害者の生活実態を学習する。
6	中間まとめ	これまでの学習の振り返りと、今後の手話などを使ったコミュニケーション学習についての目標設定
7・8	事前学習	実習内容の選択、実習に当たっての心構え等の学習、実習計画、目標設定、準備
9～11	聴覚障害者が利用する社会資源(実習)	京都市聴覚言語障害センターをカウンターパートとし、受講生の問題関心に応じて、授業時間外に聴覚障害者施設におけるフィールドワーク・ボランティア活動などの実習を行う。授業時間内では聴覚障害の方をゲストスピーカーに招き、聴覚障害者の生活ニーズを学習し、活動へ役立てる。また合わせて実習中の課題解決を行う。
12・13	事後学習	実習の振り返りと報告会の準備
14・15	活動報告会	手話を取り入れた活動報告を行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本学には「障害学生支援室」があり、日常的に障害を持つ学生への学習支援を行っている。支援室は、障害学生支援の書籍や機器も充実しており、各種研修会なども開催している。また、本学には障害を持つ学生を支援する学生組織「さぼーとnet」もある。ぜひ一度、障害学生支援室を訪問し、身近な支援の実態にふれてもらいたい。また、授業以外のボランティア活動にも参加してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義への出席状況や受講態度、実習への参加状況・態度や積極性、課題の提出状況などを総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学外の実習では、時間や礼節を守ること。短期間とはいえ地域社会の一員となるので、自覚をもって臨む必要がある。
実習は、土・日や平日の夕方に行われることが多いので、課外活動やアルバイトなどの調整が必要となる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

「ボランティア保険」への加入

学外でのフィールドワークを行いますので、(福)京都市社会福祉協議会の「ボランティア保険」への加入が必要です。手続きについては受講決定後連絡します。(保険料300円 自己負担)

「メーリングリスト」への参加

受講生への連絡はメーリングリストを活用します。大学のメールアドレスをチェックするようにしてください。

特殊講義(海外留学英語演習)(PA)

12131

担当者名 / Instructor 西山 淳子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得してもらいます。留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明晰かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明晰かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示します。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/2cols_read.cgi?key=2col200744175913
 2007年度前期の授業より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/f1_read.cgi?key=1col2007528163927

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講時に指示します。

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

特殊講義(海外留学英語演習)(PB)

12132

担当者名 / Instructor 飯田 未希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得し、留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明晰かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明晰かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示します。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

2007年度前期の授業より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/f1_read.cgi?key=1col2007528163927
 PA・PCクラスの担当者より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/2cols_read.cgi?key=2col200744175913

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講時に指示します。

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

特殊講義(海外留学英語演習)(PC)

12146

担当者名 / Instructor 西山 淳子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得してもらいます。留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明晰かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明晰かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示します。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/2cols_read.cgi?key=2col200744175913
 2007年度前期の授業より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/f1_read.cgi?key=1col2007528163927

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講時に指示します。

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

特殊講義(海外留学英語演習)(PD)

12147

担当者名 / Instructor 飯田 未希

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

英語圏で、高等教育機関への留学、語学留学、調査を希望する学生に、そこでの生活・学習・研究に必要な基礎知識と実践的な英語運用能力を修得させることを目的とします。海外留学・海外調査を希望・計画する学部学生が、現地で円滑な学習・研究を行うために必要とされる、英語圏の大学・大学生活に関する総合的な知識を修得し、留学先での、社会研究やクラスでの学習課題を明晰かつ論理的な英語で表現し、伝えることができる実践的な英語能力の育成をはかります。

到達目標 / Attainment Objectives

英語圏での生活・文化や高等教育機関に関する総合的な知識を修得し、英語圏で通用する自己表現力を身につけてもらうことを目標とします。さらに、社会研究の課題を明晰かつ論理的な英語で表現できる研究のための実践的な英語能力の育成をはかります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コース予定と概要の説明	さまざまな留学のスタイル(学内、学外)についての概略、受講者の留学希望調査
2-4	英語圏の高等教育機関での学習・研究	海外の大学制度・教育・研究・クラスルーム、生活・文化の違い、目標の明確化、自分にふさわしい留学、留学手続き
5-8	留学先への出願、留学準備	Proposal/statement/recommendation: 研究計画書と出願エッセイ(志望書)の書き方、推薦状等の準備の仕方など
9-11	留学先での学習・研究準備	Study/research design and methods, Interview/questionnaire design and writing: 学習・社会研究の技法
12-14	学習・研究成果をまとめる技法	Research and Presentation
15	総括ワークショップ	Oral presentation, 留学にむけて

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

各自の研究計画、留学目標に沿ったリサーチや課題作成

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	クラスにおけるパフォーマンス(到達度評価)

学会やセミナーでの報告を想定したoral presentationなどの課題を含む日常的なクラスにおけるパフォーマンスを総合的に評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者数に制限があるため、事前登録科目となります。前期セメスターにPAとPBクラスを、後期セメスターにPCとPDクラスを開講します。研究入門フォーラムの海外プロジェクトや、UBC、DUDP、交換留学、その他の留学に出発予定の学生、上述した各種留学プログラムへの応募や、その他の海外調査・留学を希望し、出願を予定している学生を対象とします。受講者の計画や能力に応じた教科内容にしますが、できるだけ具体的な計画・展望を持って受講してください。

教科書 / Textbooks

開講時に指示します。

参考書 / Reference Books

必要に応じて指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

2007年度前期の授業より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/f1_read.cgi?key=1col2007528163927
 PA・PCクラスの担当者より:
http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/college/2cols_read.cgi?key=2col200744175913

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講時に指示します。

その他 / Others

PA/PB/PC/PDクラスの重複履修はできません。

特殊講義(学びのとびら・演習) (2) § ヴィジョン形成特殊講義(学びのとびら・演習) (2)

54948

担当者名 / Instructor 秋田 典昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、アカデミックライティングの導入篇と位置づけられるものである。アカデミックライティングとは、文章作成の方法である。だが、単なる論文の書き方のテクニックを学んだとしても、アカデミックライティングが直ちに可能となるわけではない。それは、テーマに深く切り込むための様々な思考法や分析方法、データ・資料の収集方法などの能動の核となるものがあることによつて、初めて可能となるからである。

本演習では、このような立場から、高校までの作文や感想文の類とは明らかな違いがある大学でのレポートや小論文の書き方における基本構造を学ぶことをねらいとするものである。

また、本演習ではTAの活用を図り、グループによるワークショップも取り入れながらアカデミックライティングの一層の効果的な学びを図る。

到達目標 / Attainment Objectives

- アカデミックライティングの基本構造について理解できる。(知識・理解)
- 様々な思考のスキルを用いながらデータや資料を読み取ることができる。(技能)
- 集めた資料やデータを基に小論文を書く喜びを味わうことができる。(表現)
- 自身の関心に即して文献や資料の収集を行うことができる。(関心・意欲)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	データや資料読み取りのスキルとその演習(その1)	図や表、グラフ、文章から何を読み取るか、何が読み取れるか
第2回目	データや資料読み取りのスキルとその演習(その2)	文章を図解し、分かりやすく説明
第3回目	課題分析のための思考とスキルの演習(その1)	多面的思考と二面的思考 因果関係と結果分析 演繹法と帰納法
第4回目	課題分析のための思考とスキルの演習(その2)	フィンランドメソッドのカルタ思考法 カード型ブレンストリーミング法 KJ法 フィッシュボーン思考法
第5回目	課題分析のための思考とスキルの演習(その3)	NM法 MECE法 創造的思考法
第6回目	文献を読むスキルとその演習(その1)	読みの第1ステップ-文献の選択 読みの第2ステップ-スキミング&スキニング
第7回目	文献を読むスキルとその演習(その2)	読みの第3ステップ-内容の要点をつかむ 読みの第4ステップ-精読 クリティカル・リーディング
第8回目	資料・情報収集のスキルとその演習	百科事典・辞書類の活用 図書館の活用 インターネットによる文献検索
第9回目	小論文執筆のスキルとその方法(その1)	小論文とは何か 文体 構成 注のつけ方 引用の仕方 参考文献リストの書き方 著作権とモラル
第10回目	小論文執筆のスキルとその方法(その2)	テーマの選択・決定 先行論文の読破 資料・データの収集と分析 第1次小論文執筆
第11回目	小論文執筆のスキルとその方法(その3)	第1次小論文執筆(前回の続き)と相互批評
第12回目	小論文執筆のスキルとその方法(その4)	小論文推敲 小論文完成
第13回目	発表のスキルとプレゼンテーション	プレゼンテーションとは パワーポイントの作成
第14回目	小論文提示とプレゼンテーション	グループ別プレゼンテーション 質疑応答 小論文及びプレゼンテーションの評価
第15回目	講評	各自の到達点と課題のフィードバック

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点評価(15回の授業中に実施するテスト・課題提出物・レポートを含む) ・三分の二以上の出席を有効評価の基礎条件とする。 ・課題の提出はメール、紙媒体による提出等の方法で行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

ロジカル・シンキング - 論理的な思考と構成のスキル 照屋華子・岡田恵子 / 東洋経済新報社 / 978-4-492-53112-9 /

実践ロジカル・シンキング入門 - 日本語論理トレーニング 野内良三 / 大修館書店 / 4-469-21276-8 /

図説・現代哲学で考える<表現・テキスト・解釈> (京大人気講義シリーズ) 宮原勇 / 丸善株式会社 / 4-621-07403-2 /

情報のみかた 山田奨治 / 弘文堂 / 4-335-55102-9 /

問題解決手法の知識(日経文庫) 高橋誠 / 日本経済新聞出版社 / 978-4-532-01341-7 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

研究室:衣笠修学館4F423

メール:nat21151@fc.ritsumeai.ac.jp

その他 / Others

特殊講義(学びのとびら・入門) (1) § ヴィジョン形成特殊講義(学びのとびら・入門) (1)

52995

担当者名 / Instructor 吉田 明弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、大学で学ぶために必要な「受信・思考・発信の力」、すなわち「文章や資料等を読み解く力」や「思考力」「論証能力」「発想力」、そして「文章表現力」「文章作成力」の基礎を身につけることを目標とする。そのために、さまざまな文章等を教材にして、読解の方法や思考の型、文章作成の技法等を段階的・体系的に学習する。また、書き込みプリント等を使った基礎的な演習もおこなう。

さらに、「問いの立て方」と、「問いの解決の仕方」についても学ぶ。すなわち、「課題を設定し、解決していく」基礎を身につけ、主体的に学ぶ作法を知る。「自ら学ぶ」という主体的な営みは「問う」ことから始まり、未知なる世界は「問う」ことなしに扉が開かれることはないからである。

なお、毎回、受講生は授業の最後に授業の理解度・疑問点・授業評価とともに授業内容に関して100～200字程度の文章を書いて提出する。

到達目標 / Attainment Objectives

「読むこと」「考えること」「書くこと」について理解し、そのアプローチの方法を身につける。(知識・理解)

身につけた読解のスキルや思考の型、表現の技法や「問い」の方法を駆使して、自らの主張を効果的に表現できる。(技能・表現)

自らテーマを見つけ、意欲的に読み・考え、書くことができる。(意欲・態度)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	学びの基礎	講座の目標や内容を概説 / 大学での学びについて / 講義の聴き方 / 視写・聴写・メモ作成・ノートテイキング
2	読みの基本 / パラグラフ・リーディング(「論理」を読む)	論理的文章の読み方(6つのポイント) / 主題文と支援文 / 論理展開の基本4パターン
3	読みの基本 / パラグラフ・リーディング(「論理」を読む)	論理的文章の構成 / トピックセンテンス / 指示語と具体例 / 二項対立 / 要約の仕方
4	「問い」の立て方・発見の方法	問うこと・疑問を持つこと / 疑問形をテーマに(基本形3種) / 「発見」「発明」の方法
5	「問い」の立て方・発見の方法	クリティカル・シンキング / 反論・ツッコミ / 反論の意義
6	「問い」から「答え」へ・構造化の方法	「問い」と「答え」 / アウトラインの立て方 / 仮説・提案
7	「問い」から「答え」へ・構造化の方法	ツールミン・モデル / 根拠 / 発想法 / 論証の構造化
8	「調べる」ことと「判断する」こと	剽窃と引用 / 1次データ / 資料や文献の探し方 / データ収集 / 情報の選択
9	データや図・表・グラフの読み方	文字・数値データ / 図・表・グラフ / モードチェンジ
10	中間まとめの作成	アウトラインの作成 / ポスターセッションの意義
11	チェック・点検	方法と意義 / 反論・つっこみ / 批評
12	発表の方法	レポート / 論文 / 小論文 / プレゼンテーション / コミュニケーション
13	わかりやすい文章とは・文章の作法	わかりやすい文章の作法 / うまい文章の条件
14	わかりやすい文章とは・文章の作法	説明の方法 / パラグラフの構造・作り方
15	レポートの実際と推敲	実際の文章作成 / 推敲のポイント

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	2/3以上の出席で評価の対象とする。 欠席は減点対象。 毎回の授業の提出課題を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

大学での主体的学びを身につけ、普段の学習の中から課題を見つけて、学びを深めていきかけとする講義です。よって、特別な知識やスキルは必要としませんが、大学での学びを充実したものにしたいという意欲を求めます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
留学生と日本人学生のためのレポート・論文表	二通信子他 / 東京大学出版会 / 978 - 4 - 13 - 082016 - 5 / レポート・論文作成のため

現ハンドブック	めの辞書と参考書の役割を果たす本。実例も豊富で、レポート・論文を書くときの「座右の書」。
論文の教室	戸田山和久 / 日本放送出版協会 / 978 - 4 - 14 - 001954 - 2 / 論文のアウトラインの作り方が丁寧に紹介させている。
新版大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康 / 講談社 / 978 - 4 - 06 - 288021 - 3 / レポート・論文の基本ルールや文献・資料の集め方が分かりやすく書かれている。
・レポートの組み立て方	木下是雄 / 筑摩書房 / 4 - 480 - 08121 - 6 / 目標規定文・構成・パラグラフ等、論理的な文章を書くための重要な要素が満載されている。
自己表現力の教室	荒木晶子他 / 情報センター出版局 / 4 - 7958 - 3132 - 7 / 話し方・書き方の具体的なコツが読み物で分かる好著。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

特殊講義(国際平和交流セミナー)(GA) § 特殊講義(基礎)Ⅰ(国際平和交流セミナー)(GA) §
 ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー)(GA) § 特殊講義(基礎)Ⅰ(国際平和交流セ
 ミナー)(GA) § 特殊講義(自由選択)Ⅰ(国際平和交流セミナー)(GA)

60271

担当者名 / Instructor 藤岡 惇

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

国際平和交流セミナーは、教員の指導のもとでの旅行と実地体験を通して、平和な世界づくりに貢献する「地球市民」を育てようとする正課の教
 学プログラムです。夏期休暇を利用して担当教員のガイドのもとで様々な地域を旅し、現場に身をさす国際的な体験学習を通して、世界平和の
 構築、国際理解と協力の道を探ります。

広島・長崎への原爆投下、これにともなう「核の時代」の幕開けが何を意味するかについて、米国民とアジアの人々、日本人、そして被爆者の
 間には、大きな認識ギャップがあります。本プログラム「被爆地で世界の若者とともに、「核の時代」の意味と平和創造の方策を考える」は、この
 ギャップを埋めようと、ワシントンにあるアメリカン大学と本学とが共同で企画・実施してきたものです。1995年にスミソニアン航空宇宙博物館にお
 いて原爆展が中止されるという事件が起こりました。これをうけてアメリカン大学が被爆遺品をひきとり、独自に原爆展を開き、広島市長はじめ、
 多数の被爆者を招いたことが、このプログラムを始めるきっかけとなり、今年で16回目の開催となります。米国から10名余り、カナダのバンクー
 ーバーから数名、立命館アジア太平洋大学から数名の国際学生が参加します。立命関係の受講生数は15名程度とします。旅行期間は8月1日か
 ら10日です。

到達目標 / Attainment Objectives

調査と討論の柱としては、(1)原爆雲の下で何が起こったのか、(2)原爆投下は「必要悪」だったのか、それとも「悪質な戦争犯罪」だったのか、
 (3)核兵器の廃絶は可能か、安全保障上望ましいのか、(4)憎悪と戦争の悪循環を克服し、国際理解と協力を促進するには何をすればよいの
 か、などが考えられます。教員の指導と支援のもとで、戦争遺跡やミュージアムを訪ね、外国の若者との交流を通じて、戦争の歴史と平和づくり
 の課題についての知見を深め、平和な世界づくりに貢献する「国際人」になっていただきたいと願っています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「立命館で平和を学ぶ」、「戦争の歴史と現在」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
6月中旬	京都での事前研修1	
7月上旬	京都での事前研修2	
7月下旬	京都での事前研修3	
8月1日	京都での研修セミナー1	
8月2日	京都での研修セミナー2	
8月3日	京都での研修セミナー3	
8月4日	広島でのセミナー1	
8月5日	広島でのセミナー2	
8月6日	広島でのセミナー3	
8月7日	長崎でのセミナー1	
8月8日	長崎でのセミナー2	
8月9日	長崎でのセミナー3	
8月10日	長崎での最終セミナー	
10月上旬	京都での事後セミナー1	
10月上旬	京都での事後セミナー2	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho**

2回のレポート作成、あるいは旅行準備のために、国際平和ミュージアムの
 1階にあるメディア資料室を活用してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	事前の予習レポートと事後の最終レポートを作成してもらいます。
平常点評価	50 %	国際的な交流と討論にどの程度積極的に参加し、貢献できたか、ホスト側として、各プロ グラムを実りあるものにし、参加者を幸せにするために、どのような役割を果たしたかを自己評価 してもらいます

定期試験は行いませんから、着実にレポートを作成し、蓄積しておく必要があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

20世紀において米国人にもっとも深刻な影響を与えた本のトップとして米国のジャーナリストたちが選んだ本がジョン・ハーシのルポルタージュ
 「ヒロシマ」。この本を日米全員の共通テキストにします。このテキストに登場する最年少の赤ん坊が近藤紘子さん。24名の原爆乙女の渡米治療

運動リーダー谷本清牧師の長女でアメリカン大学の卒業生でもあります。彼女に全行程同行してもらう予定です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ヒロシマ	ジョン・ハーシ / 法政大学出版局 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ヒロシマ 60年の記憶	近藤 紘子 / リオン社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

過去4年間の旅行のスナップ集は
http://www.american.edu/academic.depts/cas/hist/nsi/nsi_photos2004.cfm

このプログラムを共催しているアメリカン大学核問題研究所のHPは
http://www.american.edu/academic.depts/cas/hist/nsi/nsi_prog_abroad.cfm

過去3年間、通訳とカナダ側コーディネータを務めていただいた乗松聡子さん(ブリティッシュ・コロンビア大学講師)のHP
<http://peacephilosophy.blogspot.com/> に昨年度の参加者の感想が掲載されています。

<http://peacephilosophy.blogspot.com/2008/05/invitation-to-ubc-students-to.html>
 昨年度のプログラムが英文で掲載されています。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

藤岡 惇のメールアドレスは、
fujioaka@ec.ritsumei.ac.jp
 です。

その他 / Others

熟達の通訳がつかますが、英語を軸とする交流となりますので、ある程度は英会話のできる学生、平和の問題や体験型の学習に関心のある皆さんの応募を期待します。

特殊講義(国際平和交流セミナー)(GB) § 特殊講義(基礎)Ⅰ(国際平和交流セミナー)(GB) §
 ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー)(GB) § 特殊講義(基礎)Ⅰ(国際平和交流セミナー)(GB) § 特殊講義(自由選択)Ⅰ(国際平和交流セミナー)(GB)

60272

担当者名 / Instructor 庵邊 由香

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

国際平和交流セミナーは、教員の指導のもとで現地におけるフィールドワーク・講演・討論などを通して、平和な世界づくりに貢献する「地球市民」を育てようとする正課の教学プログラムです。戦後50周年を記念して1995年度より開始し、今年で15回目になります。毎年、夏期休暇の期間を利用して担当教員のガイドのもとで様々な地域を訪れ、現場に身をさらし、五感で感じ取ってもらう国際的な体験学習を通して、世界平和の構築、国際理解と協力の道を探ります。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業は、1週間ほどの韓国フィールドワーク(9月中旬予定)への参加を中心に組み立てられています。日本が朝鮮を植民地として「併合」してから、今年で100年目にあたります。本年度はこの「日韓併合100年」をテーマにしたソウル・釜山でのフィールドワークや講演、韓国人学生との交流や討論、韓国文化体験などを通して、平和と人権について考えることを目的とします。
 またフィールドワークのための事前学習を行い、日本と歴史的にも地理的にも深い関わりを持つ韓国・朝鮮についてや日韓関係の歴史を学び、今後の日韓関係の平和的なあり方について考えます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日本と北東アジア地域の近現代史に関する諸科目、朝鮮半島の歴史・文化・政治経済等に関する諸科目、平和学関連諸科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回事前研修: 国際平和交流セミナーで何を獲得するか、日韓関係の歴史についての講義	
2	第2回事前研修: 現代韓国社会についての講義、セミナーでの個人テーマ、グループテーマの発見	
3	第3回事前研修: 個人テーマ、グループテーマの事前学習結果の発表	
4	現地学習(第一日目): 出発、目的地到着、オリエンテーション	
5	現地学習(第二日目午前中): ソウルのフィールドワーク	
6	現地学習(第二日目午後): ソウルのフィールドワーク	
7	現地学習(第三日目午前): 釜山のフィールドワーク	
8	現地学習(第三日目午後): 釜山のフィールドワーク	
9	現地学習(第四日目午前): 釜山のフィールドワーク	
10	現地学習(第四日目午後): 釜山のフィールドワーク	
11	現地学習(第五日目午前): ソウルのフィールドワーク	
12	現地学習(第五日目午後): ソウルのフィールドワーク	
13	まとめのワークショップ	
14	事後研修第1回: レポート中間発表とメモ・写真等の記録物の提出	
15	事後研修第2回: レポートの完成に向けた指導	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目の登録は一般の受講登録とは別に行い、受講登録制限外の扱いになります。
 詳しくは下記ホームページを参照してください。
<http://www.ritsumeai.ac.jp/liberal/kokusaiheiwa.htm>

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books**

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

特殊講義(国際平和交流セミナー)(GC) § 特殊講義(基礎)I(国際平和交流セミナー)(GC) §
 ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー)(GC) § 特殊講義(基礎)I(国際平和交流セミナー)(GC) § 特殊講義(自由選択)I(国際平和交流セミナー)(GC)

担当者名 / Instructor 松野 周治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ: 中朝露国境地域で考える東北アジアのナショナリズムと平和構築

東北アジアの歴史において戦争と対立の最前線となってきた中朝露国境地域(吉林省延辺朝鮮族自治州、黒龍江省東部)において、国境地帯の現況、諸国民や戦争の史跡(「満州国」、対ソ連要塞など)、また、現在の発展状況等を確認し、東北アジアにおけるナショナリズムの克服と平和構築について考える。また、中国を代表する総合大学のひとつである吉林大学において講義を聞くとともに、テーマについて、意見交換する。事前研修(4授業時間)、現地講義と見学(10日程度)、事後研修(2授業時間)を通じて科目目標を達成する。

到達目標 / Attainment Objectives

日中韓露の諸国・民族が交流し対立した土地に足を踏み入れ、歴史を思い起こすとともに、現状を確かめ、偏狭なナショナリズムを克服し、平和を構築するための方策を考察する。現地での講義、見学・訪問等の記録をグループで協力、分担しながら作成するとともに、最終個人レポートにおいて、学習の成果をまとめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回事前研修: 国際平和交流セミナーで何を獲得するか	
2	第2回事前研修: 東北アジア近現代史	
3	第3回事前研修: セミナーでの個人テーマ、グループテーマの発見	
4	第4回事前研修: 個人テーマ、グループテーマの事前学習結果の発表	
5	現地学習1日目: 出国、長春(中国吉林省)到着	
6	同2日目: 講義「日中関係の歴史と東北アジアの平和構築」とディスカッション、長春市内見学(「満州国」関連史跡など)	
7	同3日目: 吉林(「満州国」期建設の豊満ダム見学)経由、延吉へ移動(朝鮮族文化地域等見学)	
8	同4日目: 図們(中朝国境)、琿春(中朝露国境、日本企業)、張鼓峰事件記念館など見学	
9	同5日目: 延吉から綏芬河(黒龍江省)へ移動、中朝国境地域の経済、貿易状況見学	
10	同6日目: 東寧の対口要塞跡など中朝国境地域見学	
11	同7日目: 綏芬河から旧満蒙開拓団の所在地など通ってハルビンへ移動	
12	同8日目: ハルビン市内、「731部隊」跡地など見学	
13	同9日目: ハルビンから長春へ移動、現地見学まとめ	
14	事後研修第1回: 行動記録、訪問記録提出、個人レポート構想発表	
15	事後研修第2回: 個人レポート指導	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

各自ならびにグループで設定、分担したテーマについて、図書館等に関連文献、資料等を収集し、これまでの研究成果を吸収する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	現地訪問や見学等がどこまで反映されているか、多くの参考文献・資料をもとに、どこまで自分の言葉で、書かれているか。
平常点評価	50 %	事前、事後研修への出席と事前準備の内容、現地学習での記録作成などの内容などを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日中朝韓口関係およびアジアの歴史と現状について、自らの現実体験を踏まえて考えることを重視します。

現地でのヒアリングや見学の際の記録メモ作成についても、習熟して下さい(普段の講義での自筆ノート作成やその整理なども役立ちます)。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
東北アジア共同体への道：課題と現状	松野周治・徐勝・夏剛 / 文眞堂 / 4830945435 /
中口経済論 国境地域からみる北東アジアの新展開	大津定美・松野周治・堀江典生 / ミネルヴァ書房 / / 2010年3月刊
キメラ：満洲国の肖像	山室信一 / 中央公論新社 / 4121911385 / 中公新書1138
中国農民が証す「満洲開拓」の実相	西田勝, 孫継武, 鄭敏 / 小学館 / 9784096260807 /
七三一部隊：生物兵器犯罪の真実	常石敬一 / 講談社 / 4061492659 / 講談社現代新書 ; 1265)

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コースツールを利用する。

その他 / Others

特殊講義(総合)(ZA)

20279

担当者名 / Instructor 伊坂 忠夫、後藤 一成、塩澤 成弘、橋本 健志、藤田 聡

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
 キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

スポーツパフォーマンスの向上に必要なトレーニング、食事、睡眠、用具・装具の開発において、スポーツ科学の研究成果が活かされていることはよく知られている。また、健康な身体を維持するためには、運動・栄養・休養を意識した生活が重要であることは言うまでもない。この科目では、一般人の健康からトップアスリートの競技力向上に役立つ運動・トレーニング・栄養について科学的なデータに基づいて講義する。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツ科学の分野で明らかにされた、スポーツと筋力、持久力、ならびにトレーニングとスポーツパフォーマンスの向上、健康科学の分野で明らかにされた運動と健康の関係、加齢と健康・体力についての最新の知見を理解することが授業の目標である。さらには、これらの科学的根拠を実践へ応用できる力量をみにつけることが最終目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回(第1日め)	はじめに 全体の進め方, 担当者の紹介	
第2回(第1日め)	スポーツにおける力を生み出す仕組み	
第3回(第1日め)	持久力と呼吸・循環機能	
第4回(第2日め)	スポーツと加齢 エイジング	
第5回(第2日め)	運動・肥満・生活習慣病 将来の健康対策	
第6回(第2日め)	スポーツと形態	
第7回(第3日め)	持久力と高地トレーニング	
第8回(第3日め)	宇宙環境と体力 無重力とからだの適応	
第9回(第3日め)	スポーツと栄養	
第10回(第4日め)	筋力とは何	
第11回(第4日め)	火事場の馬鹿力の生理	
第12回(第4日め)	筋力トレーニングの実際	
第13回(第5日め)	スポーツパフォーマンスを計測する	
第14回(第5日め)	スキルの科学	
第15回(第5日め)	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

テキストをよく読んでおくこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

立命館大学スポーツ健康科学部の複数の教員(オムニバス形式)による最先端の知識によって、スポーツ科学、健康科学の研究に触れて欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツサイエンス入門	/ 丸善 / / 2010年2月刊行

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
若い時に知っておきたい運動・健康とからだの秘密	/ 近代科学社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業内容については、授業期間中の質問の時間を設けます。

その他 / Others

特殊講義(総合)(ZB)

16741

担当者名 / Instructor 岡 毅

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学での開講ではありません。
 キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なるので、必ず確認するようにしてください。
 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。
 文系学部学生を対象に、高校まで学習した数学と大学で用いる数学の懸橋となるような内容を講義・演習する。高校で数学・A・までしか学習をしていない学生もいることを考慮して、高校数学の内容も含め、その理解の深化も図る。
 これからの知識基盤社会においては、どのような分野の仕事に就くにせよ数学の基本的概念の理解・活用は不可欠である。そのためには、数学は問題を解く教科であるという認識から自然・社会現象を分析する一つの手段であるという認識への変換が必要であり、そのことを少しでも理解することを期待する。

到達目標 / Attainment Objectives

「集合論」、「ベクトル」、「行列」、「微分法・積分法」、「場合の数と確率・統計」の各分野について、基本的概念を理解し、活用できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション 集合論の基礎	数学知識及び活用能力の確認 物を数えるとは? 有限集合 無限集合
2	集合論の基礎	写像 濃度
3	ベクトル	ベクトルの基礎概念 平面ベクトル 空間ベクトル
4	ベクトル	ベクトルの活用 n次元ベクトル
5	行列	行列の定義 演算
6	行列	2次正方行列の行列式・逆行列 一次変換
7	行列	行列の応用(2次及び3次正方行列を中心に)
8	数列	等差数列 等比数列 漸化式
9	極限	数列の極限 関数の極限
10	微分法(1変数関数)	微分係数 導関数 微分法の公式
11	微分法の応用 積分法(1変数関数)	関数の増減 曲線の接線 定積分 不定積分 積分法の公式
12	積分法の応用	面積 体積
13	場合の数	順列 組み合わせ
14	確率	試行 事象 条件付確率 期待値
15	分布と統計	確率分布 正規分布

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

高校の教科書或いは参考書の該当部分を読んでおくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	基本的な問題により、授業内容の理解と定着状況を測る。
平常点評価	60 %	・毎授業毎に実施する簡単な小テスト ・出席状況 等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を単に聞くだけでなく、自ら手を動かして計算や証明をすることにより理解を深めること。

教科書 / Textbooks

プリントを配布。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

高校数学+ : 基礎と論理の物語

宮腰忠 / 共立出版 / 4320017684 /

高校の教科書或いは参考書。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

特殊講義(総合)(ZC)

20380

担当者名 / Instructor 飯田 洋治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するよう注意してください。

[いきいき物理わくわく実験 - 市民の科学 -]

アマチュアはもちろん、専門を目指す人にとっても必要な科学とは何なのか、数式・計算とは一味違った科学の魅力を追求したい。討論や身近な実験などを通して、自然の不思議さ・奥深さを追求し、科学の真の面白さ、誰でもが心から楽しめる科学に迫りたい。

- (1) だまされない市民になるために - いくら科学・技術が発展していても、現代のような情報化社会においては情報操作に惑わされる傾向を生きやすい。超能力実験、科学マジックなど、だましあいを楽しむことによって、だましに対する免疫をつけながら、「科学的に考えるとはどういうことか」を考える。
- (2) 科学はどこにでもあり、誰でもができる。 - ちょっと見方を変えただけで新しい世界が広がる。新発見・発明につながる。身近な材料、テーマから、興味ある問題を取りだし科学・技術の発想法を学ぶ。
- (3) 21世紀の科学・技術のあり方を問う。 - R・カーソン、S・コルボンの警告。20世紀の大量生産・大量消費・大量廃棄の文明は人類のみならず生物そのものの生存を脅かし始めた。21世紀はこのような問題を解決するために必要な科学とは何か、人類の知恵と能力が問われる時代である。環境問題と化学物質の関わりを中心に問題を明らかにしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

身近なものを通して、科学・技術やそのあり方に興味と関心を持ち、ものごとに対する批判的、多角的見方・分析力をつける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	だましあいを楽しむ	- 「超能力実験」「ひのえうま」「虫の知らせ」など
2	科学マジックを通して考える	- 「空中浮揚」「さらし首」など
3	「ごまかし勉強」から本物の学びを	- 「国際数学・理科教育調査」から
4	強い形、弱い形の秘密に迫る	- 「卵の上に人は乗れるか」「一枚の紙から、ストローの形から」
5	科学はどこにでもあり、誰でもができる	- 「遊びの中の科学」「おもちゃの科学」「スポーツの科学」「キッチンの中の科学」
6	音と楽器の秘密を探る	- 「音階ができれば何でも楽器」
7	光とものの色の不思議を探る	- 「3原色の影の色」
8	生活の中の電気・磁気	- 「感電する？しない？」「何でもマイクスピーカー」「ハイテクも原理は簡単」
9	自然の階層性、押しつぶしの科学	- 「大きさを比べるだけでここまでわかる」「原子から宇宙へ」
10	高校生・大学生の力学的概念調査から	- 「経験をたよりにすれば間違えるのは当たり前」
11	地動説	- 「動いていてもそれを感じない世界の発見」
12	エアコンの秘密、フェーン現象	- 「押すだけで燃える？」「振るだけで水の温度は？」
13	「水飲み鳥」で考える地球環境とエントロピー	- 地球上の水や空気や資源の有限性、エネルギー開放系と物質閉鎖系
14	化学物質と生態系。カーソンやコルボンの警告	- 化学物質の毒性、生体濃縮、発ガン、奇形、環境ホルモン、原子エネルギーなど
15	一市民として、これからどうすればいいのか	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

ほぼ毎回、討論や身近な実験を通して授業を展開する。
授業中に意見を出し合い、毎回授業内容に対するコメントを求める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況は成績に加味する。 毎回提出するコメント及び小レポートの内容 及び最終レポートなどで評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回授業に出席し、興味ある分野を調べたり、関連する書籍を読み、授業以外でも友人と議論するように心がけてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	/ / /

授業では適宜、資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
いきいき物理わくわく実験1	愛知・岐阜物理サークル / 日本評論社 / 4-535-78337-3 /
いきいき物理わくわく実験2	愛知・岐阜・三重物理サークル / 日本評論社 / 4-535-78338-1 /

その他、必要に応じて授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

特殊講義(総合)(ZD)

16856

担当者名 / Instructor 江原 武一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、キャンパスプラザ京都(京都駅近く)にて開講し、立命館大学では開講しません。
 キャンパスプラザ京都の時間割は立命館大学の時間割と異なりますので、必ず確認するようにしてください。
 履修の際には、キャンパスプラザ京都までの移動時間も考慮するように注意してください。

この科目の開講期間は、4月14日(水)～7月21日(水)となりますが、授業回数が不足するため7月10日(土)にも授業をおこないます。

[比較教育入門]

今日のさまざまな教育問題について、日本の実態を諸外国と比較しながら考察する。主にとりあげるテーマは国際比較の意義、日本の教育・世界の教育、教育の国際化、宗教と学校、ニューカマーと学校教育、多文化教育と公教育などである。これらの考察を通して、国際的な視点から日本の教育の特徴や課題を理解するとともに、国際化時代における教育のあり方を考える。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・国際的な視点から教育の諸問題を考えるための基本的な方法や用語を理解し、活用することができる(知識)。
- ・自分自身の個人的な教育経験を相対化し、日本の教育のあり方を幅広い視点から論じることができる(価値観・思考)。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	イントロダクション:国際比較の意義	ガイダンス、授業の到達目標・進め方・成績評価方法など、各回の授業概要
第2回目	世界の子ども教育	親の期待、バイリンガル教育、学習到達度調査(PISA)、公立校と私立校、教育機会の格差
第3回目	大学生の基礎学力	大学生の学力低下、高学歴化と少子化、大学教育の改革、高大連携
第4回目	世界の教育改革の動向	社会のグローバル化、「小さな政府」、情報技術革新、アカウンタビリティ(説明責任)、学校評価
第5回目	日本の教育のゆくえ	教育改革、中央教育審議会、教育、子育て、学力観、生涯学習社会
第6回目	アメリカ 地方分権制・多様性・学校選択	地方分権制、多様性、学校選択、チャータースクール、学校の自律性
第7回目	イギリス 多元的社会・参加・アカウンタビリティ	多元的社会、公費維持学校、全国共通教育課程、参加、アカウンタビリティ
第8回目	中国 高学歴化・科教興国・素質教育	高学歴化、科教興国、資源の重点配分、受益者負担、素質教育
第9回目	中間的考察:まとめと討論	教育の国際比較、教育改革、国民国家、学校教育、多文化主義
第10回目	国際化と教育	教育の国際化、国際人、国際理解教育、日本語教育、在日外国人教育
第11回目	宗教と学校	公教育、多文化社会、価値教育、宗教教育、宗教学習
第12回目	ニューカマーと学校教育	ニューカマー、日本社会、学校文化、「違い」への対処、「見る」アプローチ
第13～14回目	多文化教育と公教育	多文化教育、エスニシティ(民族性)、公教育、多文化主義、公民権運動
第15回目	確認テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

- ・各回の授業は特定の論文等の紹介を中心に行うので、事前に読んでおくことが望ましい。第1回目の授業時に論文名等を記載したシラバスを配布する。
- ・第9回目の授業時に、日本の教育課題に関する小レポート(約40分)の作成を課するので、自分の目からみて最も重要と思われる日本の教育改革の課題について執筆できるように、事前に準備しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価	100 %	<p>次の2つの平常点評価により成績評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な授業に対する取組状況等の評価 20% <p>第9回目の授業時に、自分の目からみて最も重要と思われる日本の教育改革の課題に関する小レポートの作成を「小テスト」(約40分)として課すことにより、日常的な授業に対する取組状況の一端を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習到達度の最終的な「確認テスト」 80% <p>国際的な視点から教育の諸問題を考えるための基本的な考え方や用語を理解できるかどうか、および 出題する特定のテーマについて幅広い視点から論じることができるかどうかを、第15回目の授業時に実施する「確認テスト」(60分)の結果により評価する。</p>
-------	-------	--

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に質問や意見などを積極的に発信することを希望する。

教科書 / Textbooks

とくに指定しないが、各回の授業で紹介する論文等は主に下記の参考書から採用する。第15回目の確認テスト(60分)では授業で講義した内容にもとづいて出題する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎教育学	江原武一・山崎高哉編著 / 放送大学教育振興会 / 4-595-30704-1 / 2007年刊
新訂 学校臨床社会学	酒井朗編著 / 放送大学教育振興会 / 4-595-13512-5 / 2007年刊
教育の比較社会学	原清治・山内乾史・杉本均編 / 学文社 / 4-7620-1287-4 / 2004年刊

各回の授業で紹介する論文等は主に上記の参考書から採用する。参考書所収の他の章や引用文献、参考文献を参考にして、自分が関心のあるテーマについて必要な情報を入手することができる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- ・日本比較教育学会HP <http://www.soc.nii.ac.jp/jces/index.html> (『比較・国際教育情報データベース(略称:RICE)』にアクセスすると、日本における比較教育学および国際機関・世界各国の教育に関する文献・資料の概要を含む教育情報を入手することができる。)
- ・立命館大学図書館 <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/mr/lib/index.html> (論文・記事検索「データベース」 CiNiiにアクセスすると、国内で刊行された人文社会系の雑誌記事、学術雑誌などの記事検索を行うことができる。)

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mail: ehara@fc.ritsumeai.ac.jp または内線:(511-)3826
 個人研究室: 尚学館2階826室
 個人研究室での面談を希望する場合は、上記のE-メールまたは内線電話により面談の日時を調整する。

その他 / Others

特殊講義(地域参加活動入門)(G) § ヴィジョン形成特殊講義(地域参加活動入門)(P)

56917

担当者名 / Instructor 山口 洋典

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

大学生の学びの場はキャンパス内にとどまるものではない。ボランティア活動などの、地域へ参加する活動を通じて、かけがえのない学びを得ることができる。人間的な成長や、専門知識への関心を高めることが出来る。地域参加の活動は、地域に貢献するだけでなく、参加する学生にとっても、得るものが大きいのである。

しかし、地域参加活動の魅力や、そこで得られる学びは、活動を行っていない者にはなかなか理解しがたい。また、社会的な活動であるため、事前に諸々の注意事項を理解しておく必要がある。本講義では、地域参加活動へ誘う動機づけをおこなう。そして、活動に参加するための心構えを身につけることも目的としている。

本講義では多くのゲストスピーカーが登場する。いずれも日常の学生生活では出会えない人ばかりなので、臆せずに質問等を行ってほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

地域参加活動の意義・現状・課題を整理し、方法を学び、活動するための準備となることを目指している。本講義を終え、地域に参加する受講者が一人でも多く現れてほしいと望んでいる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	本授業の目的とスケジュール、地域参加活動とは何か
2~3	若者と地域参加	歴史的な文脈における若者と地域参加の有り様と変化。若者の地域参加の現在的な意義。ボランティア活動の可能性。大学生のボランティアの現状
4~8	地域問題と大学生の地域参加	環境保全の活動、青少年育成の活動、在日外国人支援の活動、情報発信の活動、文化伝統の活動など
9~13	大学生の地域参加の課題	大学ボランティアセンター、地域の青少年社会参加支援団体、サービスマネジメント、海外の大学生ボランティア活動支援、リスクマネジメント
14-15	これまでの振り返りと到達度の確認、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	中間まとめのときに、レポート課題を課す。 与えられた設題について十分に論じられているか。文章は論理的か。誤字脱字やインターネット丸写しはないか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・本講義では基本的にレクチャーを中心とした授業スタイルとなるが、できるだけ学生の授業参加があるよう、工夫していきたい(質問用紙の配布、演習形式の取り入れ、Twitterの活用など)。それらに対する積極的な姿勢を望みたい。
- ・当然のマナーであるが、講義中は携帯電話・PHSの電源は切ること。私語も禁止。受講マナーが悪い場合は注意の上、退席を願う場合もある。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
コミュニティを問いなおす つながり・都市・日本 社会の未来	広井良典 / 筑摩書房(ちくま新書) / 4480065016 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageInns.dowebct>

その他 / Others

講義担当者の若者とボランティアに対する基本的な捉え方は、国際ボランティア学会の学会誌「ボランティア学研究」の第9号に「自分探しの時代に承認欲求を満たす若者のボランティア活動: 先駆的活動における社会参加と社会変革の相即を図る「半返し縫い」モデルの提案」としてまとめている。必要に応じて講義内で紹介する。

特殊講義(茶道文化史)(GA) § 特殊講義(基礎)I(茶道文化史)(GA) § ヴィジョン形成特殊講義(茶道文化史)(GA)

20264

担当者名 / Instructor 千 玄室

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

茶道は現在、日本を代表する伝統文化として世界中に知られるようになった。しかし、一般的には未だ、礼儀作法のための稽古事という感覚でとらえる人が多い。それは茶の湯の本質と全く違った見方と言える。茶道に礼儀作法の要素が全くないとは言わないが、その本質は日本を代表する総合的な文化体系であると言える。その総合性とは、哲学的な要素などを含む点にある。

茶が日本に伝来して以来1000年以上も経過しているが、伝来した当初から文化性を備えていたわけではない。本講では、照葉樹文化を代表する嗜好飲料である茶を通して、その文化性の特色を探るとともに、わが国の飲料として伝来した茶が、日本独自の文化性を備えた茶道へと変遷していく過程を明らかにしていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

茶道を通じて日本文化を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回(9/13)	講義	総論～茶の精神
第2回(9/13)	講義	総論～茶の精神
第3回(9/13)	実技	割稽古・薄茶運点前 模範点前
第4回(9/13)	実技	薄茶の頂き方
第5回(9/14)	講義	茶の伝来～団茶、抹茶、煎茶～
第6回(9/14)	講義	鎌倉時代の喫茶文化
第7回(9/14)	実技	割稽古・薄茶を点てる
第8回(9/14)	実技	露地を歩く蹲(つくばい)を使用し躰口(にじりぐち)より席入り
第9回(9/15)	講義	書院飾りと喫茶
第10回(9/15)	講義	わび茶の誕生
第11回(9/15)	実技	裏千家内お茶室見学
第12回(9/15)	実技	濃茶を頂く
第13回(9/16)	講義	利休の美意識
第14回(9/16)	講義	茶道の展開
第15回(9/16)	実技	菓子作り・香と座禅
第16回(9/16)	実技	茶花の入れ方・自分達で作った菓子で呈茶
第17回(9/17)	講義	喫茶と茶道具
第18回(9/17)	講義	喫茶と茶道具
第19回(9/17)	実技	総復習
第20回(9/17)	実技	茶会形式の体験
第21回(9/25)	千玄室客員教授 特別講義	「茶の文化」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	レポート 最終講義日に課題提示します。提出されたレポート内容を評価します。 講義と実技への参加態度をもとに評価します。

第21回目(9/25)にも必ず出席してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学外での授業となりますので、社会人としての一般的なマナーや儀礼を身につけること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
裏千家茶道	/// 第1回目授業で配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

* 授業は裏千家学園で行います。

集合場所等の詳細については、7月上旬に各掲示掲示板で改めて案内しますので、必ず確認してください。

特殊講義(白川学の世界)(GA)

13727

担当者名 / Instructor 石井 真美子、今場 正美、阪谷 昭弘、高島 敏夫、谷口 義介、張 莉、萩原 正樹、真下 厚、
芳村 弘道 単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

白川静博士(1910-2006)の学問の概要について講義する。白川博士は2004年に本学出身者としては初めての文化勲章を受章され、「白川文字学」の存在が内外にも広く知られるようになった。しかし博士の学問は文字学だけが独立してあるのではなく、文字学を包み込むようにして文学・歴史・思想の研究が深くつながっている総合的な学問である。それでその全体を「白川学」と呼ぶこともある。国際的に現実的なテーマとなりつつある 東アジア共同体 の問題は、そもそも古代における共通の文化圏に根源をもつ問題である。こうした問題を考えていく上で、「白川学」の示した知見が重要な鍵を握ってくるであろう。

本講義では、壮大なスケールの「白川学」を各分野の専門家が、様々な角度から講義する。この授業を通じて白川静の学問する方法や生き方、大きなテーマに立ち向かっては解決の道を見出していく情熱など、必ずや啓発されるところがあるものと思われる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・「白川学」の概要について理解する。
- ・「白川学」の独創性や意義について、報告することができる。
- ・「白川学」の理解を通して、発想の転換や批判的精神など、学問研究の基礎を身につける。
- ・白川静の生涯について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	コーディネーターによるオリエンテーション(白川静の生涯と立命館大学)(萩原正樹)	
第2回	白川静と古典研究(芳村弘道)	
第3回	詩経と西周時代1(谷口義介)	
第4回	詩経と西周時代2(谷口義介)	
第5回	古代歌謡の世界、詩経と万葉集(真下厚)	
第6回	詩経研究から文字学へ(高島敏夫)	
第7回	殷代社会と日本古代社会(高島敏夫)	
第8回	白川文字学の体系(高島敏夫)	
第9回	中国からみた白川文字学(張莉)	
第10回	中国の神話(阪谷昭弘)	
第11回	屈原と楚辞(今場正美)	
第12回	白川静の古代文学論(今場正美)	
第13回	孔子と古代思想1(石井真美子)	
第14回	孔子と古代思想2(石井真美子)	
第15回	コーディネーターによるまとめの授業(白川静と東洋の理想)(萩原正樹)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

白川静出演のテレビ番組や特集番組、講演会のビデオなどを見ると、さらに理解が深まる。また、難解ではあっても、白川静の著作そのものにもぜひ挑戦して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	出席点・授業中の小レポートなど

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業で取り上げる白川静の著作はもちろん、その他の論著についてもぜひ実際に手に取って自分で読み進めて欲しい。難解な書物との格闘が、理解と成長につながるであろう。

教科書 / Textbooks

特定のものは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
白川静著作集	白川静 / 平凡社 / /
回思九十年	白川静 / 平凡社 / /
桂東雑記 ~	白川静 / 平凡社 / /
白川静 漢字の世界観	松岡正剛 / 平凡社 / /
學林第46・47号白川静先生追悼記念論集	中国藝文研究会 / 中国藝文研究会 / /
大航海第63号白川静と知の考古学	/ 新書館 / /
その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

中国文学専攻ホームページ
<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/cl/index.htm>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mail hagiwara@lt.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

特殊講義(映像学)(GB) § ヴィジョン形成特殊講義(映像学)(GB) § 特殊講義(基礎)I(映像学)(GB) § 特殊講義(基礎)1(映像学)(GB) § 特殊講義(映像学)(GB)

16595

担当者名 / Instructor 宿南 達志郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「情報産業論(Information and Communications & Industry)」です。(映画鑑賞の授業ではありません。)

急激に進化する情報機器や伝送技術により、情報産業の市場が大きく拡大するとともに、情報産業相互間の融合や他の産業分野における情報技術の活用が進んでいる。このような現状を定量的に把握するとともに、技術のトレンドやニーズの変化を分析することによって、情報産業の将来を見通すための議論を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

情報産業の全体像を理解する。
更に、それぞれの分野別の産業構造や今後の融合の可能性についても理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報社会論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	
第2回	コンピュータ産業1	コンピュータ発展の歴史
第3回	コンピュータ産業2	ユビキタスコンピューティングへの発展
第4回	通信産業1	電話サービスの発展と限界
第5回	通信産業2	携帯電話サービスの歴史と将来
第6回	通信産業3	ブロードバンドサービスの歴史と将来
第7回	放送産業1	民間放送の歴史と課題
第8回	放送産業2	公共放送の歴史と課題
第9回	コンテンツ産業1	アナログ分野
第10回	コンテンツ産業2	デジタル分野
第11回	インターネットビジネス1	インターネットビジネスの特徴
第12回	インターネットビジネス2	製造業の変化
第13回	インターネットビジネス3	サービス業の変化
第14回	インターネットビジネス4	コミュニティの変化
第15回	講義全体の整理とアップデート。	まとめ、質疑、レポート提出等。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

テレビ、新聞、雑誌等で情報産業の動向を常に把握すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	課題の理解、分析力、論理性により評価する。
平常点評価	40 %	各講義でのミニレポート(30%) 出席率(10%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

QRコードを持参していない場合は欠席とする。

授業後にアップする講義資料や関連資料をチェックして復習に活用すること。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~shuku/>

教科書 / Textbooks

特に定めない。
参考書籍、論文、記事等を授業時に提示する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

メディア産業論	宿南 達志郎 他 / 有斐閣 / 9784641173117 /
クラウド・コンピューティング ウェブ2.0の先にくるもの	西田 宗千佳 / 朝日新聞社出版 / 9784022732545 /
iPhoneの本質 Androidの真価	日経コミュニケーション編集 / 日経BP社 / 9784822210816 /
誰も教えてくれない地デジTVの裏側	保岡 裕之 / 実業之日本社 / /
情報通信白書 平成22年版 (2007)	総務省 (編さん) / ぎょうせい / / 平成22年版は2010年7月に発行。
情報通信データブック2010	情報通信総合研究所 (編集) / NTT出版 / /
コンテンツ学	長谷川 文雄 (編集), 福富 忠和 (編集) / 世界思想社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

shuku@im.ritsumeai.ac.jp ヘメールを下さい。

その他 / Others

特殊講義(映像学)(GC) § 特殊講義(基礎)II(映像学)(GC) § 特殊講義(基礎)2(映像学)(GC) § 特殊講義(映像学)(GC)

13927

担当者名 / Instructor 宿南 達志郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『情報社会論(Information Technolgy & Society)』です。(映画鑑賞の授業ではありません。)

現代は情報化社会と呼ばれているが、そのような社会の中で生活、経済、経営、政治、法律、犯罪などが大きく変化してきている。そのような変化について認識を深めるとともに、変化が起きる原因やマイナス面を最小化しプラス面を最大化する可能性を探る。情報化社会の進展に大きな影響を与えている政府の政策についても詳細に分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

情報化社会の光と陰について理解し、リスクを回避しながら利便性を最大限享受するための課題等について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

『情報産業論』

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要と講義の進め方	講義内容のポイント、および到達目標の提示など
第2回	情報化社会と生活	ネットショッピング、電子マネー、住基ネット、Web新聞
第3回	情報化社会と安全・安心	災害情報、位置情報、警備システム、トレーサビリティ
第4回	情報化社会と経済・経営	ムーアの法則、ロングテールの法則、バーチャルカンパニー、ICタグ
第5回	情報化といじめ	学校裏サイト、メール攻撃、ホットライン
第6回	情報化と犯罪	闇サイト、違法取引、ネットギャンブル、出会い系
第7回	情報化と高齢者・障害者	情報バリアフリー、遠隔診療、ひとナビ
第8回	情報化と環境問題	省エネ機器、リサイクル、センサー
第9回	情報化と政治・選挙	ブログ、動画投稿、公職選挙法、
第10回	情報化と教育	eラーニング、ゲーム機利用、遠隔授業、電子図書館
第11回	情報セキュリティと個人情報保護	P2P、情報漏洩、ウィルス、迷惑メール、個人情報保護法
第12回	テレワークと雇用機会の変化	ブロードバンド、VPN、フレックスタイム
第13回	海外各国における情報化と社会(1)	欧米、コミュニティ、電子政府
第14回	海外各国における情報化と社会(2)	アジア、選挙、電子マネー
第15回	講義全体の整理とアップデート。	講義のまとめとレポート提出等

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビ、雑誌、新聞等で話題となっている 이슈 をフォローすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	知識、分析力、論理性などにより評価する。
平常点評価	40 %	各講義ごとのミニ・レポート(30%) 出席率(10%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

QRコードを持参していない場合は欠席とする。

授業後にアップする講義資料や関連資料をチェックして復習に活用すること。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~shuku/>

教科書 / Textbooks

特に定めない。
授業中に、最新の書籍、論文、資料、記事等を紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ネット君臨	毎日新聞取材班 (著) / 毎日新聞社 / 4620318361 /
ケータイ世界の子どもたち	藤川 大祐 (著) / 講談社 / 9784062879446 /
学校裏サイト 進化するネットいじめ	渋井 哲也 (著) / 晋遊舎 / 9784883807482 /
個人情報保護法の解説 新訂版	中島成総合法律事務所 (著) / 一橋出版 / 9784834836271 /
NHKスペシャル グーグル革命の衝撃	NHK取材班 (著) / 日本放送出版協会 / 9784140811924 /
倫理と法 情報社会のリテラシー	矢野 直明 (著), 林 紘一郎 (著) / 産業図書 / 9784782851524 /
ウェブ時代をゆく	梅田望夫 / 筑摩書房 / 9784480063878 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

shuku@im.ritsume.ac.jp ヘメールを下さい。

その他 / Others

特殊講義(映像学)(GD) § 特殊講義(基礎)I(映像学)(GD) § 特殊講義(基礎)1(映像学)(GD) § 特殊講義(映像学)(GD) § ヴィジョン形成特殊講義(映像学)(GD)

20269

担当者名 / Instructor 新 清士

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

インターネットの発達と開発ツールの一般化によって「イノベーションの民主化」ともいべき状況が発生している。これまで企業だけがイノベーションの主体となり、製品とすることができ、ユーザーはその商品を選択し消費するという行為を通じる以外の方法で、開発に関わることができなかった。しかし、企業のイノベーション活動に、ユーザーも実際に様々な形で関わることができるようになりつつある。アルビン・トフラーのいう「生産消費活動」の領域がますます拡大しているのだ。ユーザーは、消費者であると同時に生産者にもなりうる。

ゲームの分野は、このイノベーションの民主化が、顕著に進んでいる分野の一つである。PCゲームを中心に、発売された製品のための開発環境と同等の環境をユーザーに積極的に公開し、自由にデータを改変する「Mod(モッド)」と呼ばれる活動を通じて、実際にイノベーションが発生している。

この講座では、そのユーザーが引き起こしたイノベーションの代表例ともいえるシューティングゲームの「カウンターストライクソース」のMod環境を利用して、実際にゲーム内のマップを開発する活動(レベルデザイン)を通じて、現代のゲーム開発環境の仕組みの理解と、ユーザーが関わることができる生産消費活動を実際に体験する。そして、どのようなレベルデザインが優れたインタラクティブ体験を生み出すのかを開発プロセスを通じて、実践的に理解する。

なお、講義で使用する「カウンターストライクソース」の環境は、学校側で用意する。

到達目標 / Attainment Objectives

「カウンターストライクソース」のMod活動を通じて、実際にユーザーでも十分にプロに通用するようなゲームが開発できることを実感できるようにすること。また、Modツールの利用を通じて、使用方法を習得し、特に現在のゲームデザイン分野の実践的ノウハウを体感的に習得する。

集中講義期間中に、マップを一つ以上完成させることを目標とする。可能であれば、インターネット上のユーザーの評価サイトにまで投稿するまでを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、前提条件として、ゲームそのもののプレイ経験を持っていることが望ましい。また、「カウンターストライクソース」を事前に購入してプレイしておくことが望ましいが必須ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション～全体の講義概要の理解	
第2回	「カウンターストライクソース」の基礎	
第3回	「カウンターストライクソース」のModツールの環境構築	
第4回	ハンマーエディターの使い方1 最初の部屋	
第5回	ハンマーエディターの使い方2 武器の設置、ライティングなど	
第6回	ハンマーエディターの使い方2 AIパス計算・実際のプレイ	
第7回	レベルデザインの概念の解説	
第8回	紙面マップ作成	
第9回	作成実習	
第10回	現在のゲーム機での開発手法の理解	
第11回	ライティングの理解	
第12回	作成実習(2)	
第13回	評価(1)	
第14回	評価(2)	
第15回	評価(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義は、毎日講義時間外に行われるレポート作成、もしくは、実際のマップ制作の作業データやスクリーンショットの提出を義務づける。講義時間外に、講義で求められる製作の時間を取ることを前提とする。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
平常点評価	70 %	日常点30%、ゲームデータ40%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『富の未来』	アルビン・トフラー、ハイジ・トフラー / 講談社 / /
『ウィキノミクス』	ドン・タブスコット、アンソニー・ウィリアムズ / 日経BP / /
『民主化するイノベーションの時代』	エリック・フォン・ヒッペル / ファーストプレス / /
『ダンジョンズ&ドリーマーズ』	ブラッド・キング、ジョン・ポーランド / ソフトバンク / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本経済新聞Web IT Plus「新清土のゲームスクランブル」
<http://it.nikkei.co.jp/digital/column/gamescramble.aspx>

ユーザーが勝手に作ってしまった「ガンダム」新作ゲームタイトル
<http://it.nikkei.co.jp/digital/column/gamescramble.aspx?ichiran=True&n=MMITew000013042007&Page=1>

ゲーム業界のユーザー参加型コンテンツ「Mod」が流行る理由
<http://it.nikkei.co.jp/digital/column/gamescramble.aspx?ichiran=True&n=MMITew000019042007&Page=1>

CSEC Mod Communities
<http://www.c-sec.net/phpBB/>

Source SDK Docs 日本語版
<http://developer.valvesoftware.com/wiki/Category:Japanese>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

特殊講義(映像学)(GE) § ヴィジョン形成特殊講義(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)I(映像学)(GE) § 特殊講義(基礎)1(映像学)(GE) § 特殊講義(映像学)(GE)

13956

担当者名 / Instructor 富田 美香

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「映像文化のアーカイブ」

映像文化とは一体なにか。そして映像文化はどのように保存され、次世代へと適正に継承されるべきか。

本講義は、映像文化のアーカイブをテーマに、記録媒体としてのフィルムおよび他媒体の特性、映画・映像文化の特質、その保存から普及までの諸問題、映像・映像の復元等、映像アーカイブの活動に関する知見を通して、上記の問いかけに対する回答を各人が見出すことを目的とする。

講義は、映像アーカイブの第一線で活躍する方々をゲスト講師にお迎えし、さまざまな映像文化のアーカイブ活動とその諸問題について、実践知を学ぶ講義形式をとる。

ゲスト講義のため、事前に説明の上でやむを得ず授業スケジュールを変更する場合がある。

初回ガイダンス時にゲスト回のスケジュール・詳細を配布する。

到達目標 / Attainment Objectives

映画文化の保存・復元・活用のあり方を通して、文化遺産・歴史資料としての映像の価値についての理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画史

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回 4/8	ガイダンス 映像文化、映像文化のアーカイブについて、記録媒体	
第2回 4/15	フィルム・アーカイブの活動、フィルム、映像・映像文化の真正性について	
第3回 4/22	フィルム・アーカイブの活動について1 国立アーカイブ 東京国立近代美術館フィルムセンター 入江良郎氏(東京国立近代美術館フィルムセンター主任 研究員)	
第4回 4/29	フィルム・アーカイブの活動について2 地域アーカイブ 京都府京都文化博物館 森脇清隆氏(京都府京都文化博物館学芸員)	
第5回 5/6	フィルム・アーカイブの活動について3 地域アーカイブ 福岡市総合図書館映像資料課 八尋義幸氏(福岡市総合図書館学芸員)	
第6回 5/13	フィルム・アーカイブの活動について4 私立の映像アーカイブ ブラネット映画資料図書館、神戸映画資料館 安井喜雄氏(ブラネット映画資料図書館代表)	
第7回 5/20	映像アーカイブの活動について1 私立の映像アーカイブ NHKライツ・アーカイブセンター 小納谷雅明氏(NHKライツ・アーカイブセンター 川口 アーカイブ館長)	
第8回 5/27	映像アーカイブの活動について2 大学での映像アーカイブ	
第9回 6/3	映像アーカイブの活動について3 大学での映像アーカイブ	
第10回 6/10	映像アーカイブの活動について4 NPOのアーカイブ 特定非営利活動法人映画保存協会 石原香絵氏(特定非営利活動法人映画保存協会代表)	
第11回 6/17	個人映画・小型映画文化(9.5mm)について1 松本夏樹氏(映像史研究家、大阪芸術大学、武蔵野美術 大学非常勤講師)	
第12回 6/24	個人映画・小型映画文化(9.5mm)について2	
第13回 7/1	アーカイブとラボ1:フィルム復元について 銀残し、シル バー・プリント IMAGICAウエスト 山本毅氏(IMAGICAウエスト フィルムプロセスグル - プ係 長)	

第14回 7/8 アーカイブとラボ2:テレビ映像のアーカイブについて
株式会社東京光音

第15回 7/15 映像文化のアーカイブ まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

平日頃から、映画・映像を媒体の特質も含めて考えながら鑑賞してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

2009年度講義「特殊講義 映像学 映像文化の創造と倫理」採録テキストを配布する。

参考書 / Reference Books

授業内で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内で適宜指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コースツールを用いる。

その他 / Others

数学入門 (S)

12875

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

数学は理性の音楽であり、知者の武器であり、人類の文化そのものと言える。本授業は、数学を必ずしも得意としない受講者を対象に、そのリメディアル教育の一環として、数学的な内容・方法を講ずるものである。時間数の制約上、内容知すなわち知識・技能よりも、方法知すなわち数学を探究し構成する手法に焦点を当てた上で、数学上の幾つかの重要なトピックを楽しみながら振り返る。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1 数学を人類の社会文化的な所産と捉え、その学習に深い関心・意欲をもつことができる。
- 2 数学的なリテラシーの基礎を身につけ、必要に応じて高等学校以前に学んだ数学的内容を再構成できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前履修が必要な科目は特にありません。日頃から、物事を数学的に考える習慣をつけていきましょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	人はなぜ数学を学ぶか？	数学の文化史, 民主主義, 黄金比, 懸賞金問題
第02回	数学的な方略	ストラテジーとタクティクス, 発見法, 単純化, 特殊化, カプレカル操作
第03回	数学的な推論 蓋然・必然と命題操作	帰納・演繹・類比, 仮説推論(abduction), 合接・離接, 含意, 逆・裏・対偶
第04回	数学的な推論 誤った推論と論駁	反例・反証, 過般化, ラカトシュモデル
第05回	“必勝法”の数理	ゲーム理論, スプラウト, Win-Win, 勝率と期待値
第06回	統計的リテラシー 説得する	分散, 分布, 偏差, 統計的仮説, 検定・推定
第07回	統計的リテラシー 虚偽を見抜く	比較の論理, 平均の嘘, グラフ選定と錯視
第08回	数学の実験とは? 数学に触れる	模型・実験, 正多面体, 多面体, オイラー標数
第09回	数学の実験とは? 別次元をみる	拡張・一般化, 平面の分割, 立体の分割, フラクタル
第10回	折り紙の数理 平面	オリガミクス, 平行・対称・回転移動, 正多角形の構成, 二次曲線
第11回	折り紙の数理 空間	オリガミクス, 正多面体の構成, 非ユークリッド操作
第12回	数学と文化 芸術に潜む数理	ピタゴラス音階, 黄金比, フィボナッチ数列
第13回	数学と文化 和算の世界	九章算術, 塵劫記, 算木, 算額, 油分け算, 薬師算
第14回	数学と文化 異文化の計算法	計算法の文脈依存, 比と関数の思想
第15回	市民の数学: Numeracy とは?	数理思想, バーコードの数学, 多様な税計算

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

本授業では、小学校から高等学校までに習ってきた数学的知識を学び直す事例が多くあります。授業でも基礎から分かりやすく解説しますが、教科書等を用いて必要に応じて自主的に復習することを勧めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終講義の際に数学の簡潔な作問レポートを課す。
平常点評価	50 %	出席を重視する。また平常点(学習・発表態度, 質問内容, 討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り、開講回数 $2/3$ 以上を出席することを単位認定の基本条件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業は、日常感覚と切り離された数学的教養を身につけるのではなく、各トピックを通じて適切な数学的着想と手法を学び直していきます。数学に王道無し。楽な近道はありませんが、知る喜びを軸に主体的に学ぶことで必ず数学的なリテラシーが身につきます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
いかにして問題をとくか	G. ポリア / 丸善 / 4-621-04593-8 / 未知の問題にアプローチする上での古典的名著
世界は数理でできている	L. A. スティーン / 丸善 / 4-621-04742-6 / 次元, 量, 不確実性, 形, 変化という着想から数学を省みる

その他、参考となる資料は随時紹介し、必要に応じて抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

数学のリメディアル学習につながるsiteを授業時に随時紹介していきます。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

その他 / Others

授業において不明な点、疑問に感じた点を大切に、まずは自らその解消に努めて下さい。またPCを利用した授業を行う場合もあります。

理科入門I (S)

12876

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校、中学校理科(物理、地学)で扱うテーマを中心に、基礎知識、またその方法(科学の方法)の修得をめざす。また、単に学校理科にとどまらず、科学リテラシーの涵養という観点から、社会現象を科学の目で捉えるための様々な手法、またそのための基礎知識について学習を深める。現代を生きる者の理科という観点を強調したい。講義形式が主になるが、実験、観察、討論等様々な手法を駆使して、学習者の「科学する心」をもう一度目覚めさせたい。

到達目標 / Attainment Objectives

小学校、中学校理科の内容、方法が理解できる。
 日ごろ感じている疑問を、身近な素材で確かめられる。
 科学リテラシーの観点から、理科の内容が再構成できる。
 科学の方法を駆使して、テーマに即した討論に参加、発表ができる。
 「人の関わりとしての理科」という観点から、学校理科のあるべき姿を模索できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、今後展開される教職科目「初等理科教育法」、「初等理科」の基礎科目という位置づけも担っています。「教職に関する科目」、また「教科に関する科目」については計画的に履修するよう心がけてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回～3回	理科とは何か - 身近な素材を使って自然に親しむ -	小学校理科(第1回)、中学校理科(第2回)、高等学校理科(第3回)で学んできたものは何かを知る
第4回～6回	理科の内容と方法(その1) - 小学校の理科の素材から -	小学校理科をテーマにして(振り子(第4、5回)や電気・磁石(第6回)等を題材にして)科学の方法について学ぶ
第7回～9回	理科の内容と方法(その2) - 中学校の理科の素材から -	中学校理科をテーマにして(地球の自転・公転(第7、8回)や溶ける不思議(第9回)を題材にして)学ぶ
第10回～12回	理科の内容と方法(その3) - 地球の環境(科学のリテラシー)を題材にして[ゲストスピーカーの授業] -	地球環境をテーマに、科学的なものの見方・考え方と「理科の教材」の役割について学ぶ
第13回	科学リテラシーとしての理科(その1) - 生きる力と理科 - 【レポート課題の提示】	テーマごとの演習、討論(ゲストスピーカーの話から小学校・中学校の理科の実態を知る)
第14回	科学リテラシーとしての理科(その2) - 理科の知識と方法 - 【レポート課題についての質疑】	テーマごとの演習、討論(与えられた課題から理科の実験をデザインする)
第15回	課題レポートの発表(各班10分)とその講評(30分)	理科としてのまとめ方、レポート作成の仕方、発表の仕方について学ぶ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

「各家庭の電気の配線は並列ですか、直列ですか、など、毎授業後、理科の内容に関連した面白クイズを出します。各個人の質問・指導、また解答はメール等で行いますが、それを導入として授業を進めていきます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で扱ったいくつかのテーマを元にして各自が興味関心を引いたテーマについて、理科(科学)の方法の運用、また知識の定着を見ます。実験で得られた結果からどのようなことが引き出せるか、そのまとめ方についても評価します。
平常点評価	40 %	講義時に出す課題、またクイズに対する解答内容、また応答回数等を評価します。討論会での発表、調べ学習、また態度等を評価します。特に、第13～15回での発表会での積極性を評価します。

特に、第14、15回で行う模擬実験での取り組み(発表、またそれまでの活動)については、平常点として高く評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小学校、中学校、また高等学校の理科の教科書を持参することが望ましい。
 (毎回プリント等で資料は提供します。)
 理科が嫌いな学生ほど受講する価値があります。なぜ嫌いなのかを明確にしておくことが受講の際の大切な条件です。
 日ごろ感じている疑問を身近な素材で追求していきます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
理科は理科系のための科目ですか	山下芳樹 / 森北出版 / 4 - 627 - 16121 - 2 / 教科書、資料集として活用

参考書 / Reference Books

書名 / Title

Q & Aでわかる物理科学(1, 2, 3)

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

/ 丸善 / 4 - 621 - 07237 - 4 / 知識の宝庫(クイズ形式で楽しく学べます)

理数オンチも科学にめざめる 高校物理検定外
教科書

山下芳樹 / 宝島社 / 4-7966-6026-6 / 理数オンチの人には最適

種々の参考書(資料)については, 授業時に伝えます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて伝えます。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義時にメールアドレスを伝えます。

その他 / Others

理科入門 では私だけの理科の参考書をつくってもらいます。そのための資料(作り方など)は授業時に連絡します。また、授業は理科実験室も使います。実験室は人数によっては使えないこともあります。

理科入門II (S)

15510

担当者名 / Instructor 武田 富美子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校・中学校の理科で扱う課題について、基礎になる知識と科学概念の修得をめざす。単に学校理科にとどまらず、科学リテラシーの涵養という観点から、身近な生活や社会現象を科学の目で捉えるための様々な手法、またそのための基礎知識について学習を深める。また、身近な生活から理科に関するテーマを選び、そのテーマについて調べ、実験や実習をまじえて、科学概念を分かりやすく説明できるようにする。

到達目標 / Attainment Objectives

小学校・中学校の理科の基礎的な科学概念(エネルギーの保存、粒子概念、物質の階層性、生命)を身につける。
科学的概念を使って、現象や反応を説明できる。
身近な生活や社会の中からテーマを選び、選んだテーマについて調べ、小学校・中学校の理科の基礎的な科学概念について分かりやすく納得ができるように説明する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理科入門 を学んでおくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	現代社会と理科教育	学校理科、環境、生活、意外性、認知的葛藤
第2回～3回	理科の内容と方法(その1)	化学(原子論)、物理(エネルギー)、生物(生命)、地学(地球・宇宙)
第4回～6回	課題研究(その1)	調べる、話し合う、実験する
第7回～10回	理科の内容と方法(その2)	水をテーマに
第11回～13回	課題研究(その2)	疑問の発見、目に見えないことを見えるようにするには
第14回	プレゼンテーション	評価、相互評価、自己評価
第15回	理科教育の重要性	ESD、到達度テスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

講義を聴くだけの授業ではありません。もの、体、ことば、あらゆる形で授業への参加を求めます。また身近なものから理科教材をつくってもらいます。授業時間だけ参加しておれば良いというわけではありません。時間外に取り組むことが多いでしょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	教材作成の作品を含めた課題研究の発表(30%)、課題のレポート(40%)、到達度テスト(30%)で評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日ごろから生活の中で、理科に関する現象を意識してみつけてください。

教科書 / Textbooks

資料を配布します

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
授業に活かす！理科教育法小学校編	左巻健男・小田切真・小谷卓也 / 東京書籍 / 4-487-80334-7 /
授業に活かす！理科教育法中学・高等学校編	左巻健男・内村浩 / 東京書籍 / 4-487-80335-4 /

上記だけでなく、理科もしくは理科教育に関する本を読むこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mail: takeda-f@fc.ritsumei.ac.jp

メールで問い合わせる場合は、件名に「理科入門 + 氏名」を必ず入れて下さい。

その他 / Others